増泉寺付近遺跡

土地改良総合整備事業に先立つ
埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書

— 本文・遺構編 —

1996.3
長野県飯田市教育委員会

増泉寺付近遺跡
（ぞうせんじふきんいせき）

土地改良総合整備事業に先立つ
埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書

— 本文・遺構編 —

1996.3
長野県飯田市教育委員会

増泉寺付近遺跡土坑200出土石匙

序

飯田市は、自然的条件に恵まれ、また、古来交通の要衝に位置しており、埋蔵文化財をはじめ多くの文化財を遺しています。これらは私たちの地域社会や文化を形作ってきたさまざまな証しであり、できるかぎり現状の姿のままで後世に残し伝えることが私たちの責務でありましょう。けれども、同時に、私たちはより良い社会や生活を求めていく権利を持っています。ですから、日常生活のさまざまな場面で、文化財の保護と開発という相い容れぬ事態に直面することが多くなっています。こうした場合、発掘調査をして記録としてとどめることも止むを得ないものといえましょう。

平成3年度から、飯田市では伊賀良大瀬木地籍で土地改良総合整備事業を実施することになりました。圃場整備を行ない、農業生産の高度化・機械化を図り、これによって生産性の向上を目指すもので、昨今の農業を取り巻く情勢を考慮するとき、地区の農業振興のため是非とも必要な事業といえましょう。けれども、事業予定地内には埋蔵文化財包蔵地三尋石遺跡・増泉寺付近遺跡・富士塚遺跡・富の平遺跡がかかり、圃場整備事業によって壊されてしまうことになりました。そこで、次善の策ではありますが、事業実施に先立って緊急発掘調査を実施して、記録保存を図ることになりました。

調査結果は本書のとおりでありまして、調査で得られましたさまざまな知見はこれからの地域史研究の上で貴重なものばかりであると確信いたします。特に、縄文時代中期のおびただしい遺構・遺物が調査されました増泉寺付近遺跡では、一つのムラのかなりの部分を掘り上げたわけで、ムラの姿がどう変わっていったか、明らかになったそうですし、また、各遺跡で貴重な資料が提供され、他地域との交流の様子が窺えると聞き及んでいます。

最後になりましたが、現地および遺構・遺物についてご指導をいただきました諸機関・個人各位、調査にあたり多大なご理解とご協力をいただいた地権者ならびに隣接地の方々、現地作業および整理作業に従事された作業員の方々ほか関係各位に、深甚なる謝意を申し述べつつ刊行の辞とする次第であります。

平成8年3月

飯田市教育委員会

教育長　小林恭之助

例　言

1．　本書は土地改良総合整備事業（大瀬木東地区）に伴い実施された、飯田市伊賀良所在の埋蔵文化財包蔵地増泉寺付近遺跡の緊急発掘調査報告書である。

2．調査は、飯田市農林部からの委託を受け、飯田市教育委員会が実施した。なお、事業のうち農家負担分については、重要遺跡の記録保存を図るため、市内遺跡緊急調査事業として国・県の補助を受けて飯田市教育委員会が直営実施した。

3．調査は、平成３年度現地調査を、４年～７年度整理作業および報告書作成作業を行なった。

4．現地での調査実施にあたり、調査区設定・航空測量・航空写真撮影を株式会社ジャステックに委託実施した。

5．発掘作業・整理作業にあたり、遺跡略号としてＺＳＪを一貫して用いた。なお、調査地区の中心地番を略号に続けて付し、ＺＳＪ3636とした。

6．本報告書の記載順は住居址を優先した。遺構図は観察表と併せ挿図とし、遺物および写真図版は本文末に一括した。

7．本書は、［Ⅳ　まとめ　１．縄文中期の土器について］は吉川金利が、その他は馬場保之が執筆し、本文の一部について小林正春が加筆・訂正を行なった。

8．本書に掲載された図面類の整理は馬場が、遺物実測の一部を吉川（金）・福沢好晃・下平博行・馬場および整理作業員があたった。また、遺物実測の一部および写真撮影は株式会社ジャステックに委託実施した。遺物実測用写真撮影については、株式会社シン技術コンサルに委託した。なお、作業実施について、佐々木嘉和・山下誠一・佐合英治・吉川　豊・吉川（金）・渋谷恵美子・福沢・伊藤尚志・下平が補佐した。

9．本書の編集は、飯田市教育委員会の責任のもとに、馬場が行なった。

10．本書に掲載した遺構図の中に記した数字は、検出面からそれぞれの穴の深さ（単位cm）を表している。また、スクリーントーン貼付部分はロームマウンドを示す。

11．本書に掲載した石器実測図の表現は『恒川遺跡群』（飯田市教育委員会　1986）に準拠し、それ以外の表現として、節理面を斜線で表現した。

12．遺構・遺物の時期については、『長野県史　考古資料編　遺構・遺物』（長野県史刊行会　1988）に拠る。遺構表中の時期については、例えば中期後葉Ⅰ期を中後Ⅰと省略してある。

13．本書に関連する出土遺物および記録された図面・写真類は飯田市教育委員会が管理し、飯田市考古資料館で保管している。

本 文 目 次

序
例　　言
目　　次
Ⅰ　経　過 …… 1
　1．調査に至るまでの経過 …… 1
　2．調査の経過 …… 1
　3．調査組織 …… 5
Ⅱ　遺跡の環境 …… 7
　1．自然環境 …… 7
　2．歴史環境 …… 7
Ⅲ　調査結果 …… 12
　1．試掘調査 …… 12
　2．調査区の設定 …… 12
　3．遺構と遺物 …… 12
Ⅳ　まとめ …… 123
　1．縄文中期の土器について …… 123
　2．中期後葉の集落について …… 124
　引用参考文献 …… 137
Ⅴ　付編　　長野県飯田市増泉寺付近遺跡出土石匙の使用痕分析　御堂島　正 …… 141
抄　　録 …… 147

付 図 目 次

付図1　　増泉寺付近遺跡遺構全体図
付図2　　溝址1～4

挿 図 目 次

挿図1　　事業実施予定範囲 …… 2

挿図２　調査遺跡および周辺遺跡位置図 …… 8
挿図３　試掘・本調査位置 …… 11
挿図４　１号住居址 …… 13
挿図５　２号住居址 …… 14
挿図６　３号住居址 …… 15
挿図７　４号住居址 …… 16
挿図８　５号住居址 …… 17
挿図９　６号住居址 …… 18
挿図10　７号住居址 …… 19
挿図11　８号住居址 …… 21
挿図12　９号住居址 …… 22
挿図13　11号住居址 …… 23
挿図14　12号住居址 …… 24
挿図15　13号住居址 …… 25
挿図16　14号住居址 …… 26
挿図17　15号住居址 …… 28
挿図18　16号住居址 …… 29
挿図19　17号住居址 …… 30
挿図20　18号住居址 …… 31
挿図21　19号住居址 …… 33
挿図22　20号住居址 …… 34
挿図23　21号住居址 …… 35
挿図24　22号住居址 …… 36
挿図25　23号住居址 …… 37
挿図26　24号住居址 …… 39
挿図27　25号住居址 …… 40
挿図28　26号住居址 …… 41
挿図29　27号住居址 …… 43
挿図30　28号住居址 …… 44
挿図31　29号住居址 …… 45
挿図32　方形柱穴列１ …… 47
挿図33　方形柱穴列２ …… 48
挿図34　集石土坑１～４ …… 49
挿図35　集石土坑５～８ …… 50

挿図36　集石土坑９～11 …… 51
挿図37　溝状址１～５ …… 52
挿図38　竪穴１～４ …… 53
挿図39　竪穴５、埋設土器１～３ …… 54
挿図40　土坑・周辺柱穴平面図（１） …… 55
挿図41　土坑・周辺柱穴平面図（２） …… 56
挿図42　土坑・周辺柱穴平面図（３） …… 57
挿図43　土坑・周辺柱穴平面図（４） …… 58
挿図44　土坑・周辺柱穴平面図（５） …… 59
挿図45　土坑・周辺柱穴平面図（６） …… 60
挿図46　土坑・周辺柱穴平面図（７） …… 61
挿図47　土坑・周辺柱穴平面図（８） …… 62
挿図48　土坑・周辺柱穴平面図（９） …… 63
挿図49　土坑・周辺柱穴平面図（10） …… 64
挿図50　土坑・周辺柱穴平面図（11） …… 65
挿図51　土坑・周辺柱穴平面図（12） …… 66
挿図52　土坑・周辺柱穴平面図（13） …… 67
挿図53　土坑・周辺柱穴平面図（14） …… 68
挿図54　土坑・周辺柱穴平面図（15） …… 69
挿図55　土坑・周辺柱穴平面図（16） …… 70
挿図56　土坑・周辺柱穴平面図（17） …… 71
挿図57　土坑・周辺柱穴平面図（18） …… 72
挿図58　土坑・周辺柱穴平面図（19） …… 73
挿図59　土坑・周辺柱穴平面図（20） …… 74
挿図60　土坑・周辺柱穴平面図（21） …… 75
挿図61　土坑・周辺柱穴平面図（22） …… 76
挿図62　土坑・周辺柱穴平面図（23） …… 77
挿図63　土坑・周辺柱穴平面図（24） …… 78
挿図64　土坑・周辺柱穴平面図（25） …… 79
挿図65　土坑・周辺柱穴平面図（26） …… 80
挿図66　土坑・周辺柱穴平面図（27） …… 81
挿図67　土坑・周辺柱穴平面図（28） …… 82
挿図68　土坑・周辺柱穴平面図（29） …… 83
挿図69　土坑・周辺柱穴平面図（30） …… 84

挿図70　土坑・周辺柱穴平面図（31）…… 85
挿図71　土坑・周辺柱穴平面図（32）…… 86
挿図72　土坑・周辺柱穴平面図（33）…… 87
挿図73　土坑・周辺柱穴平面図（34）…… 88
挿図74　土坑・周辺柱穴平面図（35）…… 89
挿図75　土坑・周辺柱穴平面図（36）…… 90
挿図76　土坑・周辺柱穴平面図（37）…… 91
挿図77　土坑・周辺柱穴平面図（38）…… 92
挿図78　土坑・周辺柱穴平面図（39）…… 93
挿図79　土坑・周辺柱穴平面図（40）…… 94
挿図80　土坑・周辺柱穴平面図（41）…… 95
挿図81　土坑エレベーション図（1）…… 110
挿図82　土坑エレベーション図（2）…… 111
挿図83　土坑エレベーション図（3）…… 112
挿図84　土坑エレベーション図（4）…… 113
挿図85　土坑エレベーション図（5）…… 114
挿図86　土坑エレベーション図（6）…… 115
挿図87　土坑エレベーション図（7）…… 116
挿図88　増泉寺付近遺跡他出土の縄文中期中葉末～後葉初頭の土器群 …… 125・126
挿図89　遺構変遷図（中期後葉Ⅰ期）…… 133
挿図90　遺構変遷図（中期後葉Ⅱ期）…… 134
挿図91　遺構変遷図（中期後葉Ⅳ期）…… 135
挿図92　竪穴住居址占地位置図 …… 136

表　目　次

表1　1号住居址 …… 13
表2　2号住居址 …… 14
表3　3号住居址 …… 15
表4　4号住居址 …… 16
表5　5号住居址 …… 17
表6　6号住居址 …… 18
表7　7号住居址 …… 20

表８　８号住居址 …… 20
表９　９号住居址 …… 20
表10　10号住居址 …… 22
表11　11号住居址 …… 23
表12　12号住居址 …… 24
表13　13号住居址 …… 24
表14　14号住居址 …… 27
表15　15号住居址 …… 27
表16　16号住居址 …… 27
表17　17号住居址 …… 32
表18　18号住居址 …… 32
表19　19号住居址 …… 32
表20　20号住居址 …… 34
表21　21号住居址 …… 35
表22　22号住居址 …… 38
表23　23号住居址 …… 38
表24　24号住居址 …… 38
表25　25号住居址 …… 42
表26　26号住居址 …… 42
表27　27号住居址 …… 42
表28　28号住居址 …… 46
表29　29号住居址 …… 46
表30　遺構観察表（１） …… 96
表31　遺構観察表（２） …… 97
表32　遺構観察表（３） …… 98
表33　遺構観察表（４） …… 99
表34　遺構観察表（５） …… 100
表35　遺構観察表（６） …… 101
表36　遺構観察表（７） …… 102
表37　遺構観察表（８） …… 103
表38　遺構観察表（９） …… 104
表39　遺構観察表（10） …… 105
表40　遺構観察表（11） …… 106
表41　遺構観察表（12） …… 107

表42　遺構観察表（13）…… 108
表43　遺構観察表（14）…… 109
表44　遺構観察表（15）…… 116
表45　遺構別石器一覧表（１）…… 117
表46　遺構別石器一覧表（２）…… 118
表47　遺構別石器一覧表（３）…… 119
表48　遺構別石器一覧表（４）…… 120
表49　遺構別石器一覧表（５）…… 121
表50　遺構別石器一覧表（６）…… 122

Ⅰ 経　過

1. 調査に至るまでの経過

飯田市長　田中秀典より飯田市伊賀良大瀬木地区における農村基盤総合整備事業の計画が提示され、平成2年8月23日、事業にかかる埋蔵文化財包蔵地について、事業主体である飯田市農林部・長野県教育委員会・飯田市教育委員会の三者が保護協議を実施した。

平成3年度になって事業計画が具体化されたのを受けて、事業地内の平成3年度施工予定地に三尋石遺跡・増泉寺付近遺跡・富士塚遺跡の3遺跡がかかるため、平成3年5月29日と9月9日の両度保護協議を実施し、とりあえず各遺跡について試掘調査を実施し、その結果に基づいて改めて協議することとなった。

2. 調査の経過

（1）平成3年度

平成3年度の事業実施予定地については、9月21日、試掘調査に着手した。まず、三尋石遺跡について重機により5本の試掘トレンチを掘削し、引き続き、増泉寺付近遺跡・富士塚遺跡についてそれぞれ3本・4本の試掘トレンチをあけた。調査の結果、三尋石遺跡の一画で縄文時代中期から後期にかけての多数の遺物が出土し、該期の土坑等が確認された。また、増泉寺付近遺跡では全面に縄文時代中期の遺構・遺物分布が認められた。富士塚遺跡については縄文時代中期の遺物が少量出土したが、広範囲に重機による造成が及んでおり、遺構・遺物の遺存状態は不良であった。

そこで、平成3年10月2日、飯田市農林部・長野県教育委員会・飯田市教育委員会の三者が改めて現地で保護協議を実施した。その結果、三尋石遺跡の一部と増泉寺付近遺跡については事業実施に先立ち次善の策として記録保存を図ることとなり、飯田市教育委員会に発掘調査を委託することとなった。

なお、農村基盤総合整備事業は国・県の補助を受けて実施されるものであり、発掘調査費用のうち農家負担分については文化財を保護する立場の教育委員会が対応すべきとして、国・県の補助を受けて飯田市教育委員会が実施する直営事業市内遺跡緊急調査で行なうこととなった。

諸協議に基づいて、10月21日本調査に着手した。まず、三尋石遺跡に、続いて増泉寺付近遺跡に重機を入れて表土剥ぎを行なった。10月23日、三尋石遺跡で、翌24日から増泉寺付近遺跡で作業員による作業を開始した。重機による荒れ土を除去し、竪穴住居址続いてその他の遺構を検出

挿図１　事業実施予定範囲

し、掘り下げて精査した。それらについて写真撮影・測量調査を実施し、12月17日一旦増泉寺付近遺跡の現地調査を中止した。12月20日、中断していた三尋石遺跡の調査を再開した。各グリッド毎遺物包含層を掘り下げ、続いて、竪穴住居址・土坑等を検出、掘り下げ作業を行なった。写真撮影・測量調査の後、平成4年1月16日三尋石遺跡の現地作業を終了した。

中断していた増泉寺付近遺跡の調査は4年2月8日から重機による排土の移動を待って、未調査部分の調査に着手した。重機を入れて表土剥ぎを行なった後、2月13日から作業員による精査を行なった。検出された遺構等について写真撮影・測量調査を実施し、2月25日いっさいの現地調査を終了した。

引き続き、飯田市考古資料館において、図面および撮影写真等についての基本的な整理作業を行なった。

（2）平成4年度

平成4年度事業実施予定地は、三尋石遺跡（Ⅱ）・富士塚遺跡の2遺跡がかかることとなった。そこで、三尋石遺跡（Ⅱ）に4月13日、重機を入れて試掘調査に着手し、4月15日、作業員により遺構の確認作業を行なった。その結果、縄文時代中期の竪穴住居址が確認され、本発掘調査の実施が必要と判断された。また、富士塚遺跡については、5月26日重機を入れて試掘調査を実施した。その結果、縄文時代後期の土坑と遺物、それに多数の小柱穴等が確認され、本調査実施が必要となった。さらに、12月になって事業予定地の変更が行なわれ、富の平遺跡の一画がかかることになり、急遽試掘調査を実施した。その結果、縄文時代前期後半～中期・弥生時代後期・中世の各時期の、竪穴住居址・建物址・土坑・溝址等が確認された。。

諸協議に基づいて、10月8日、富士塚遺跡の本調査に着手した。重機を入れて表土剥ぎを行ない、10月9日、作業員を入れて作業を開始した。重機の荒れ土を除去し、土坑・集石・小柱穴その他の遺構を検出し、順次掘り下げて精査した。そして、全体および個別の写真撮影、集石の断ち割り調査等を行ない、10月27日、現地での作業を終了した。また、航空写真撮影・航空測量調査を（株）ジャステックに委託実施した。

また、三尋石遺跡（Ⅱ）については、11月6日、本調査に着手した。重機を入れて表土剥ぎを行ない、11月11日、作業員を入れて作業を開始した。重機荒れ土を除去し、竪穴住居址続いてその他の遺構を検出し、掘り下げて精査した。全体および各遺構個別の写真撮影を行ない、航空写真撮影・航空測量調査を（株）ジャステックに委託した。最後に炉址等の断ち割り調査や補充の測量調査をして、12月16日現地での作業を終了した。

平成5年1月25日、富の平遺跡の本調査に着手した。重機を入れて表土剥ぎを行ない、2月1日、作業員を入れた。重機荒れ土の除去に続き、遺構検出を行ない、竪穴住居址その他の検出遺構について掘り下げて精査した。それぞれについて写真撮影等を行ない、航空写真撮影・航空測量調査を（株）ジャステックに委託した。最後に炉址等の断ち割り調査および測量の補充調査を

して、3月25日現地での作業を終了した。

なお、平成5年度事業予定地として、富士塚遺跡（Ⅱ）・富の平遺跡が該当することから、平成5年3月10日から18日にかけて両遺跡の試掘調査を実施し、それぞれについて本調査が必要であると判断された。

飯田市考古資料館においては、平成3年度調査を実施した三尋石遺跡・増泉寺付近遺跡についての、出土遺物・図面類の整理作業を実施した。作業内容は、出土遺物の水洗・注記および接合・復元作業の一部を行なった。図面類については、遺構全体図作成・第二原図作成・トレース等の作業を行なった。また、本年度調査を実施した三尋石遺跡（Ⅱ）・富士塚遺跡については、現地で記録された図面・写真等について基本的な整理作業を行なった。

（3）平成5年度

富の平遺跡は、平成4年度中に実施した試掘調査の結果を受けて、重機で表土剥ぎ作業を行ない、平成5年5月6日より作業員を入れて本発掘調査を開始した。まず、重機による荒れ土を除去した後、ジョレンで遺構を検出した。竪穴住居址・掘立柱建物址・土坑等が確認され、これらについて順次掘り下げて精査を行なうとともに、全体および個別の写真撮影、炉址の断ち割り調査等を実施し、6月8日までに現地での作業を終了した。その間、5月31日と6月8日に（株）ジャステックによる委託航空測量・航空写真撮影を、また、6月8日には古環境復元のための自然科学的な分析調査を（株）パリノ＝サーヴェイに委託実施するため、試料のサンプリングを行なった。

富士塚遺跡（Ⅱ）は、8月17日より8月26日まで重機で表土剥ぎ作業を行ない、8月30日、現地での発掘調査を開始した。検出された遺構は中世以降の小土坑で、出土遺物は陶器片が僅かである。調査区南側は湿地帯、西側は切り土されており、全体的に耕作による撹乱が多い。これらを確認した後、（株）ジャステックにより委託航空測量・航空写真撮影を行ない、9月2日に現地での作業を終了した。

飯田市考古資料館においては、昨年に引き続き、三尋石遺跡・増泉寺付近遺跡・三尋石遺跡（Ⅱ）・富士塚遺跡についての、出土遺物・図面類の整理作業を実施した。作業内容は、出土遺物の水洗・注記および接合・復元・実測作業の一部を行なった。図面類については、遺構全体図作成・第二原図作成・トレース等の作業を行なった。また、本年度調査を実施した富士塚遺跡（Ⅱ）・富の平遺跡については、現地で記録された図面・写真等について基本的な整理作業を行なった。

（4）平成6年度

平成6年度は、3～5年度の発掘調査分について、5年度に引き続いて飯田市考古資料館および飯田市考古博物館において整理作業を実施した。富士塚遺跡・富の平遺跡については、遺物の

水洗・注記・接合・復元作業および遺物実測の一部等を行なった。三尋石遺跡・増泉寺付近遺跡・三尋石遺跡（Ⅱ）については遺物実測作業、土器の拓本・断面実測等の作業を中心に実施した。また、各遺跡について、遺構図の第二原図作成・トレース・貼り込み、遺物実測図・土器断面図のトレース等の整理作業を実施した。

（5）平成7年度

6年度に引き続き、飯田市考古資料館において、残りの遺物実測・トレース作業、土器の拓本・断面実測、遺構図のトレース・貼り込み・版組、遺物写真撮影、原稿執筆、編集等の作業を実施し、本発掘調査報告書の作成を行なった。

3.調査組織

調査主体者　飯田市教育委員会　教育長　福島　稔　（～平成3年12月）
小林恭之助　（平成3年12月～）

調査担当者　小林正春・馬場保之

調　査　員　佐々木嘉和・山下誠一・佐合英治・吉川　豊・渋谷恵美子・吉川金利・下平博行
伊藤尚志・福澤好晃

作　業　員　新井幸子・新井幸子・新井ゆり子・池田幸子・市瀬長年・伊坪　節・伊藤さだみ
伊藤せつ子・伊藤博紀・井上恵資・今村春一・今村治子・居山ミキ子・太田沢男
大野　深・大原久和・岡島定治・岡島　亘・岡田直人・岡田紀子・奥村栄子・
小沢信治・小沢はな・加藤時友・加藤　富・金井照子・金井三佳子・金子正子・
金子裕子・唐沢古千代・唐沢さかえ・唐沢やち子・川上一子・川上みはる・
川上　玲・北川　彰・北沢直子・北原久美子・北原森作・北村重実・木下喜代恵
木下賢一・木下貞子・木下早苗・木下　傳・木下経子・木下当一・木下義男・
木下良子・木下義郎・木下玲子・桐生八千代・櫛原亜紀子・櫛原勝子・
久保田まさえ・久保田美津子・久保田やよい・熊谷義章・小池金太郎・
小池千津子・小池侑子・香山貴章・小島孝修・小平不二子・小平峯子・小平隆二
小西広司・小林千枝・小林世志・斉藤千里・斉藤徳子・坂井勇雄・榊原政夫・
坂下やすゑ・佐々木文茂・佐々木真奈美・佐々木美千枝・佐々木光江・
佐藤喜代一・佐藤知代子・塩沢澄子・塩沢　節・清水三郎・清水恒子・下井正俊
下井田衛・代田和登・菅沼庄三・菅沼和加子・鋤柄廣一・鈴木尊子・関口みさ子
関島真由美・瀬古郁保・高橋収二郎・滝上信江・滝上正一・田口久美子

竹本常子・田中　薫・田中恵子・田中百子・塚原次郎・遠山駒吉・中島佳寿子・
中島　正・中島真弓・中平隆雄・仲田昭平・鳴海紀彦・西尾茂人・西尾俊貴・
西山あい子・丹羽啓子・丹羽由美・萩原弘枝・畠山英夫・服部光男・馬場和子・
林　朝子・林勢紀子・林　年雄・原　克美・原　祐三・原田四郎八・肥後みち・
樋本宣子・平栗陽子・広井　保・福沢育子・福沢　勲・福沢五男・福沢幸子・
福沢トシ子・福沢昌子・古井純男・古根素子・古林登志子・細田七郎・牧内郁代
牧内　修・牧内喜久子・牧内とし子・牧内八代・正木実重子・増田香代子・
松沢美和子・松沢　豊・松下成司・松下直市・松下真幸・松下光利・松島　保・
松島直美・松島なみ・松村かつみ・松本恭子・松本幸子・三浦厚子・水落佳代子
溝上清見・三石久雄・南井規子・宮内真理子・宮下恵美子・宮下貞一・森　　章
森津多恵・森　信子・森藤美知子・矢澤博志・柳沢謙二・山田康夫・吉川悦子・
吉川和夫・吉川紀美子・吉川小夜子・吉川正実・吉沢佐紀子・吉沢二郎・
吉沢まつ美・芳山　幹・依田時子・渡部　誠

指　　導　　長野県教育委員会

事　務　局

飯田市教育委員会社会教育課

安野　節　（社会教育課長、～平成５年度）
横田　穆　（　〃　長、平成６年度～）
中井洋一　（　〃　文化係長、～平成３年度）
原田吉樹　（　〃　〃　長、平成４・５年度）
小林正春　（　〃　〃　、～平成５年度）
　　（　〃　〃　長、平成６年度～）
吉川　豊　（　〃　〃　）
山下誠一　（　〃　〃　、平成６年度～）
馬場保之　（　〃　〃　）
渋谷恵美子（　〃　〃　、～平成５年度）
吉川金利　（　〃　〃　、平成５年度～）
下平博行　（　〃　〃　、平成５年度～）
伊藤尚志　（　〃　〃　、平成６年度～）
福澤好晃　（　〃　〃　、平成４年度～）
岡田茂子　（　〃　社会教育係、平成５・６年度）
篠田　恵　（　〃　〃　、～平成４年度）

Ⅱ　遺跡の環境

1．自然環境

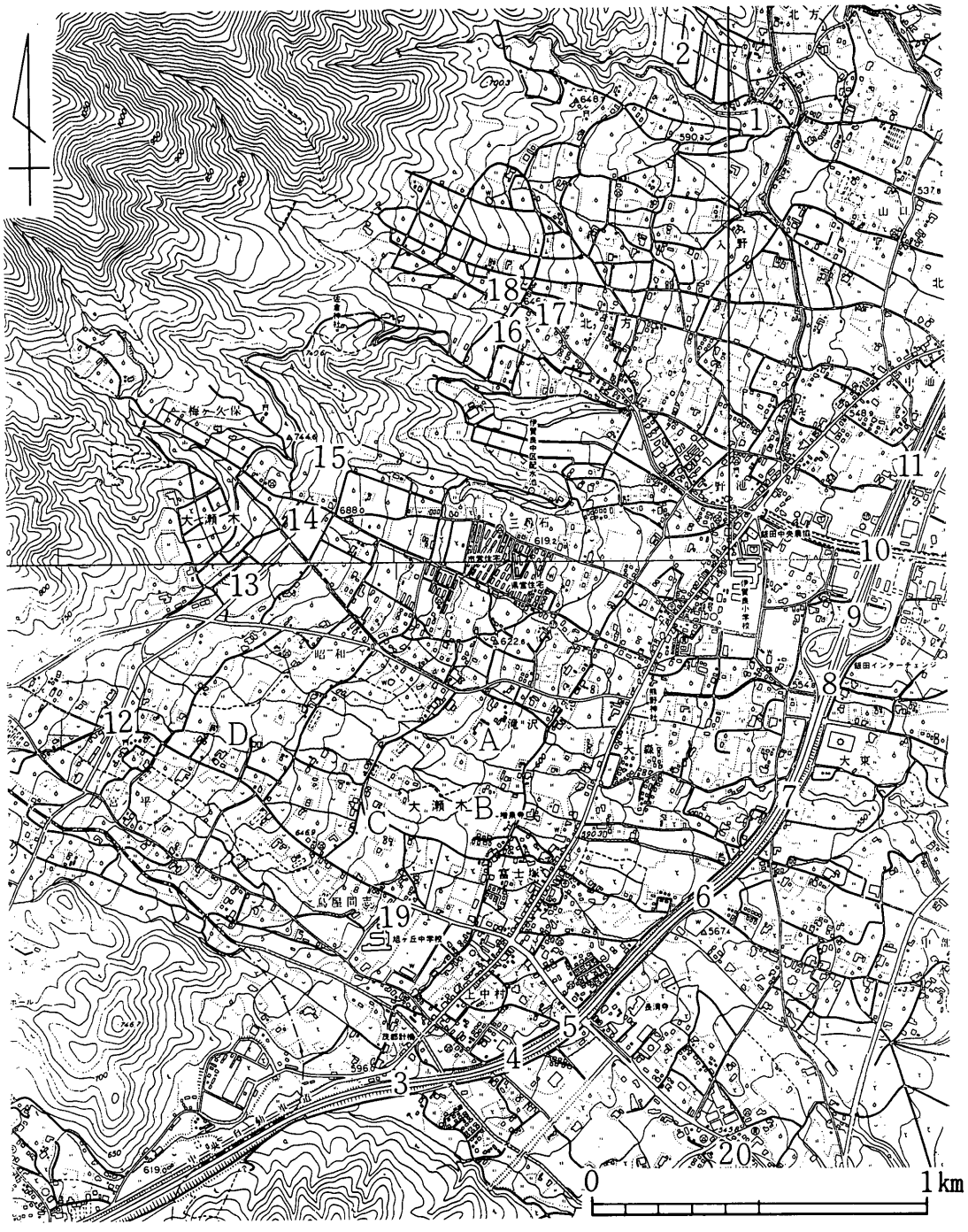
伊賀良地区は飯田市西部にあり、飯田市街地の南西に位置する。北側は鼎地区、東側は松尾・竜丘地区、南側は山本・三穂地区に接する。

飯田市は南アルプスと中央アルプスにはさまれた伊那谷の南端にあたり、両山脈の間を天竜川が南流する。天竜川に平行する河岸段丘地形を特徴とするが、両山脈の形成に関わる断層地塊運動に伴ない盆地・大きな段丘崖が形成された結果であり、複雑な段丘地形を呈している。伊賀良地区の場合、西側と東側で大きく地形が変化している。西半は中央アルプスの前山である笠松山（1271m）・高鳥屋山（1397m）東山麓にあたり、飯田松川・茂都計川をはじめ、笠松山・高鳥屋山から流れ出す入野沢川・南沢川・滝沢川・新川等の河川によって形成された広大な扇状地が広がる。扇端はおおむね北方地籍では新井付近、大瀬木で伊賀良小学校付近、中村の長清寺付近であり、これより西側は傾斜の比較的急な斜面となっている。扇端の一部は前述の線を大きく越えて東側に伸びており、下殿岡地籍まで達するものもある。扇端付近では通例の如く湧水が豊かであるが、この扇状地が小河川により幾重にも複合して形成されているため、比較的湧水に恵まれ、今日でも横井戸を利用している住宅がみられる。扇状地の形成に大きな役割を果たした小河川は現在は堆積作用より下谷作用に転じているが、浸蝕力は弱く、開析谷の規模は比較的小さい。これに対し、地区の東側は基本的には高位の段丘面を占めており、扇端から離れるほど地下水位が低くなる。古代末以来、この高燥な地帯への井水の開削が繰り返し行なわれ、大井をはじめ多くの井水が開けられているほか、地区内の大小河川には人為的な改変が加えられてきた。

三尋石遺跡は、笠松山系から東流する新川と臼井川に挟まれた島状の微高地に位置し、遺跡の北側は新川が深く谷を刻んでいる。また、南側の臼井川はかつては新川に流れ込んでいたようであり、本遺跡の北側は礫層が分布している。本遺跡は、全体的にロームが良好に遺存しており、集落を営むのに適した所といえる。

2．歴史環境　（挿図２）

伊賀良地区は埋蔵文化財包蔵地が濃密に分布しており、これまで発掘調査がなされた遺跡は、学術調査による立野・山口・西の原各遺跡、中央自動車道建設にかかる与志原・上の平東部・寺山・六反田・大東・酒屋前・滝沢井尻・小垣外（辻垣外）・三壺渕・上の金谷各遺跡、一般国道153号飯田バイパス建設にかかる殿原・八幡面・小垣外各遺跡、広域農道西部山麓線建設にかか



A．三尋石遺跡　B．増泉寺付近遺跡　C．富士塚遺跡　D．富の平遺跡
1．立野遺跡　2．山口遺跡　3．与志原遺跡　4．上の平東部遺跡
5．寺山遺跡　6．六反田遺跡　7．大東遺跡　8．酒屋前遺跡
9．滝沢井尻遺跡　10．小垣外（辻垣外）遺跡　11．三壺淵遺跡　12．飯田垣外遺跡
13．火振原遺跡　14．梅ケ久保遺跡　15．細田北遺跡　16．河原林遺跡
17．直刀原遺跡　18．大原遺跡　19．鳥屋平遺跡　20．中村中平遺跡

挿図２　調査遺跡および周辺遺跡位置図

る飯田垣外・火振原・梅ケ久保・細田北・大原・直刀原各遺跡、諸開発に伴う中島平・宮ノ先・酒屋前・鳥屋平・下原・高野・公文所前・中村中平等の各遺跡がある。こうした文化財に表われた先人達の足跡は縄文時代早期までさかのぼる。立野遺跡や山口遺跡といった縄文時代早・前期の遺跡は主に笠松山麓の比較的標高の高い所に立地している。前期終末では辻垣外・殿原遺跡等扇状地の扇端付近の遺跡で竪穴住居址が調査されている。中期の遺跡は伊賀良地区の広範に分布しており、中央自動車道・西部山麓線路線にかかる扇状地上の諸遺跡や下原・公文所前といった段丘上の遺跡がある。殊に下原遺跡では該期の中心的役割を果たしたと考えられる大集落の一画が調査されている。後期中葉から晩期にかけては、茂都計川に面した中村中平遺跡で、配石址・竪穴住居址・配石墓等の遺構や土偶・土製耳飾り・石棒・石剣を含むの多量の遺物が調査され、不明な点の多かった該期の様子が解明されると期待されている。また、酒屋前・辻垣外・殿原遺跡で断片的な資料ではあるが、遺構・遺物が確認されている。

弥生時代においても集落立地は基本的に前時代と変わらないと考えられるが、前期・中期についてはなお不明である。後期になると、遺跡数が増加するとともに調査例も増す。これまで調査された遺跡としては大東・上の金谷・酒屋前・滝沢井尻・宮ノ先・中島平・中村中平遺跡等がある。該期の集落展開としては、扇状地末端の湧水線および西方前山から東流する大小河川を利用した水田経営と高位段丘上での陸耕を基盤とするものが考えられる。殿原遺跡ではこれまで90軒にのぼる竪穴住居址が調査される等、大規模な集落が営まれていたことが判明している。また、細田北遺跡では標高700ｍを超える高所から２軒の竪穴住居址が発見されており、人口の爆発的な増加とこうした高所にまで生産基盤を拡大するまでに至る生産力の向上を看取できる。

古墳は伊賀良地区では52基が確認されているが、現存するものは９基にすぎない。隣接する竜丘・松尾地区に比べ数も少なく、いずれも規模の小さい円墳である。また、同時代の集落址の調査例は少なく、前期後半の上の金谷遺跡、後期の三壺渕・中島平遺跡、後期の中村中平遺跡が調査されているのみである。遺跡数も前時代に比べると著しく減少しており、湧水・湿地を控えた集落の展開が考えられる。中村中平遺跡では、遺跡北側の台地の縁に大名塚古墳が現存し、他に消滅したものとして中村狐塚古墳・寺畑古墳・宮原２号古墳があり、これらの築造を担った集落であろう。また、地区内北方地籍には条里が敷かれたとも指摘されており、水田経営の定着した姿を想定することができよう。

奈良時代については、具体的な遺構・遺物の調査例は中村中平遺跡のみであり、掘立柱建物址が単独で調査されたのみで、詳細は不明である。地区内には、古代東山道の経路および「育良駅」の推定地や、荘園を構成する村落の起源等に関連すると思われる箇所があり、重要な役割を果たした地区ということができる。

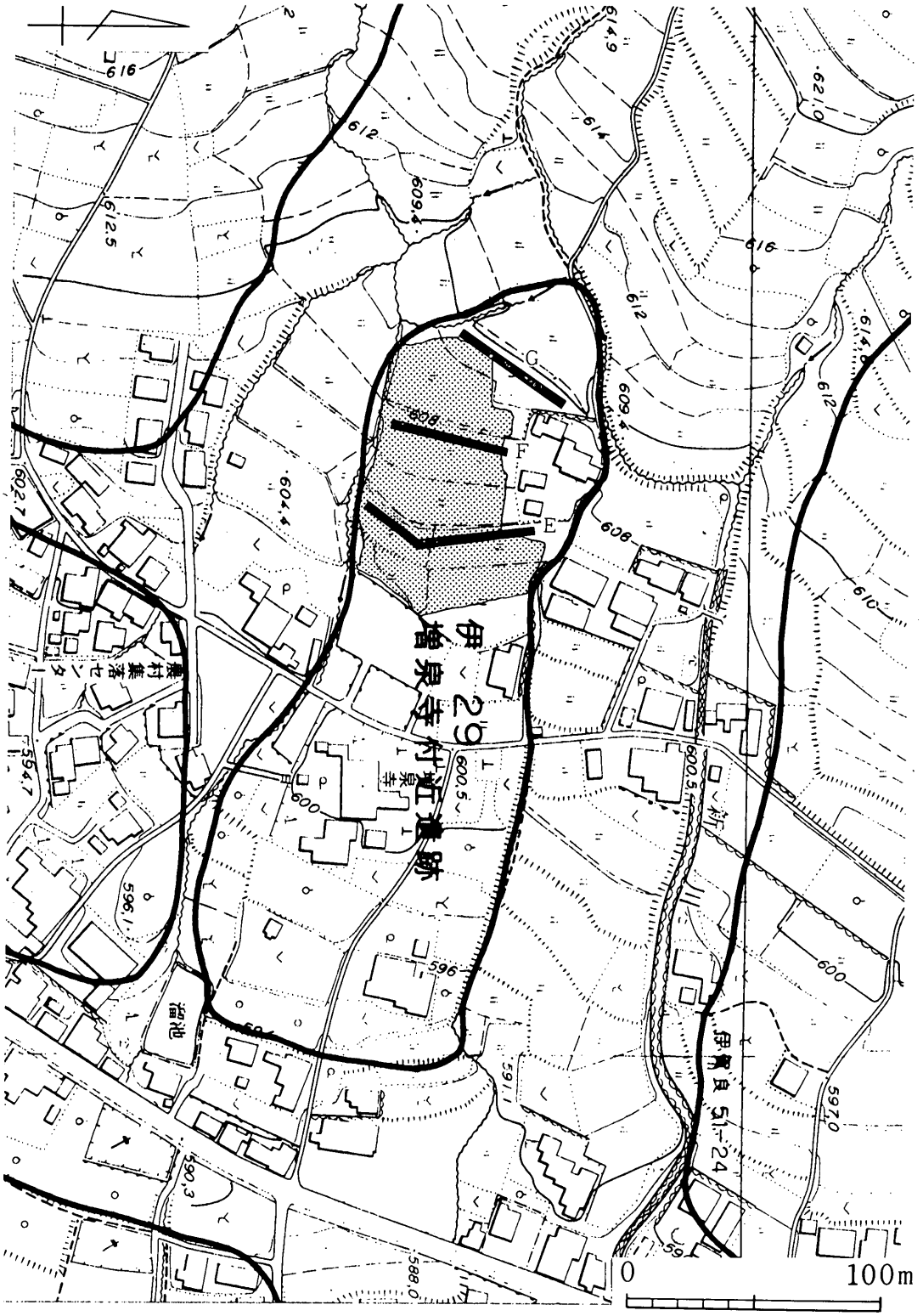
平安時代については、その末期には伊賀良庄の名が文書に登場する。そのなかには中村・久米・川路・殿岡が含まれることが文献等により明らかにされており、当地区がその中心的な位置を占めたことが考えられる。当地区における大規模な井水開発の歴史は、この時代にはじまるともい

われている。殿原遺跡の調査結果はこうした説をある程度裏付けるものといえる。一方、これまで実施された発掘調査の結果、六反田・滝沢井尻・小垣外・三壺渕・上の金谷・宮ノ先・公文所前遺跡等地区内のほぼ全域にわたり、集落址の一部が調査されている。伊賀良庄の成立がどこまで遡るかは不明であるが、この時代の集落が前時代よりも増加することは、この地区の開発が一段と進んだ証左であろう。隣接する山本久米地区には真言宗の古刹光明寺がある。胎内に「保延六年」(1140年)の銘を持つ薬師如来坐像があることから、寺の創建はこれより遡ると考えられ、伊那谷の中ではいちはやく中央の文化を取り入れた先進地域の一つであったと思われる。また、さらに、この時代には三日市場地籍に須恵器を生産した土器(かわらけ)洞窯跡があり、ここで生産された須恵器が下伊那全域に分布するなど、手工業生産の発達がみられる。

中世においては鎌倉時代には北条時政が伊賀良庄地頭であり、以後一族の江馬氏がこれを継いだ。その地頭代が地区内に居を構えたことは疑いなく、鎌倉末期には荘園を自領化していたことが三浦和田文書に窺える。この時代の文化財としては、藤原様式の流れを汲む鎌倉初期の光明寺の阿弥陀如来坐像(国指定重要文化財)がある。

北条氏の滅亡後、信濃守護職小笠原氏は伊賀良庄を与えられ、その下で伊賀良地区の開発は急速に進んだとされる。地区内の井水の大半はこの時代の開発と考えられ、小笠原氏の勢力伸長の基盤として当地区が大きな役割を果たしたといえる。室町時代中期以降、小笠原氏内訌に伴い松尾城・鈴岡城の支城が各地に築かれ、地区内には下の城跡・桜山城跡がある。

以上、各時代について概観したが、こうした歴史の脈絡の中で、今次発掘調査の成果がどのように位置づけられるかは、本書の内容により明らかにされるといえる。



挿図3　試掘・本調査位置

Ⅲ　調査結果

1．試掘調査　（挿図３）

地形に平行して、Ｅ・Ｆ・Ｇの３本のトレンチを設定した。

Ｅトレンチの大部分では、ほぼ耕土直下にローム層が検出された。一次的な堆積状況で良好に遺存しているが、北側では砂礫層がローム層に被る。開田に際して削平を受けているが、遺構の遺存状況は良好で、縄文時代中期の土坑・小柱穴等が多数検出された。

Ｆトレンチは、田の床土下約20㎝でローム層に至る。南側端に竪穴住居址、北端に縄文時代中期後半の遺物が集中出土する他、中央部分には多数の土坑が分布する。

Ｇトレンチは全体に大きく削平を受けており、ローム層は北端にごく一部遺存するのみである。その南側は中央付近まで凹地になっており、上部に客土される。南半は、耕土直下で礫層やグライ化した粘質土が分布する。検出遺構および遺物はなく、これより西側は本発掘調査不要と判断された。

2．調査区の設定（付図１）

試掘調査の結果、本調査が必要と判断された事業地について、２ｍ×２ｍの正方形小区画に分割して調査区を設定した。調査時点で、飯田市は埋蔵文化財基準メッシュを作成しておらず、任意に設定とした。事業地と用地外の境界ついては、調査時に境界立会いの杭があったが、座標はもっておらず、これを基準にしての調査区設定は行なわなかった。さらに、事業の工程に沿って全体を分割して調査する必要が生じたため、調査区の記号は任意の起点からつけられている。

最終的には調査区は、南北方向が北側からＡＧ～ＡＹ・ＢＡ～ＢＴの39小区画、東西方向は東から１～56の56小区画に分割した。南北方向の区画線は、磁北に対して23.9°東に偏する。

3．遺構と遺物

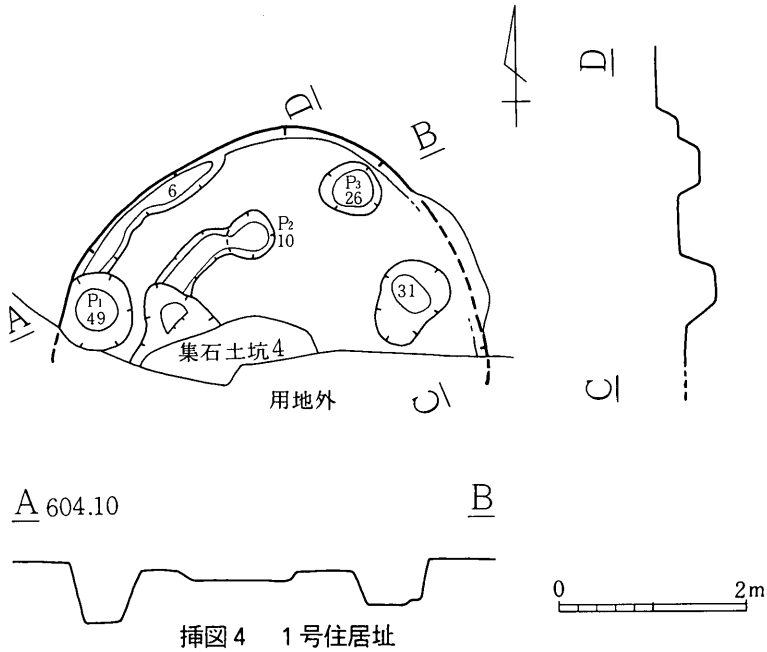
今次調査された遺構は、下記のとおりである。

竪穴住居址	29軒
方形柱穴列	２棟

土坑	429基
集石土坑	12基
溝址	4条
溝状址	5条
竪穴	5基
埋設土器	3基
小柱穴	多数

遺構番号	1号住居址	時期	中期後葉Ⅰ期	検出位置	B S 18・19	平面形	不整円形？
規　模	－× 450×25		主軸 －	埋土	褐色土		
検出状況	調査区外にかかる。						
新旧関係	集石土坑4・溝2に切られる。集石土坑4が上にのる。						
壁	上部削平を受け状態は不明であるが、下部はだらだら。東側壁確認できず。						
主柱穴	－						
周　溝	－						
炉	集石土坑4に壊され、炉確認できず。						
付属施設	－						
床	有・やや柔らかい・東側は地山の礫が出ており、貼床されたと考えられる。						
その他	－						

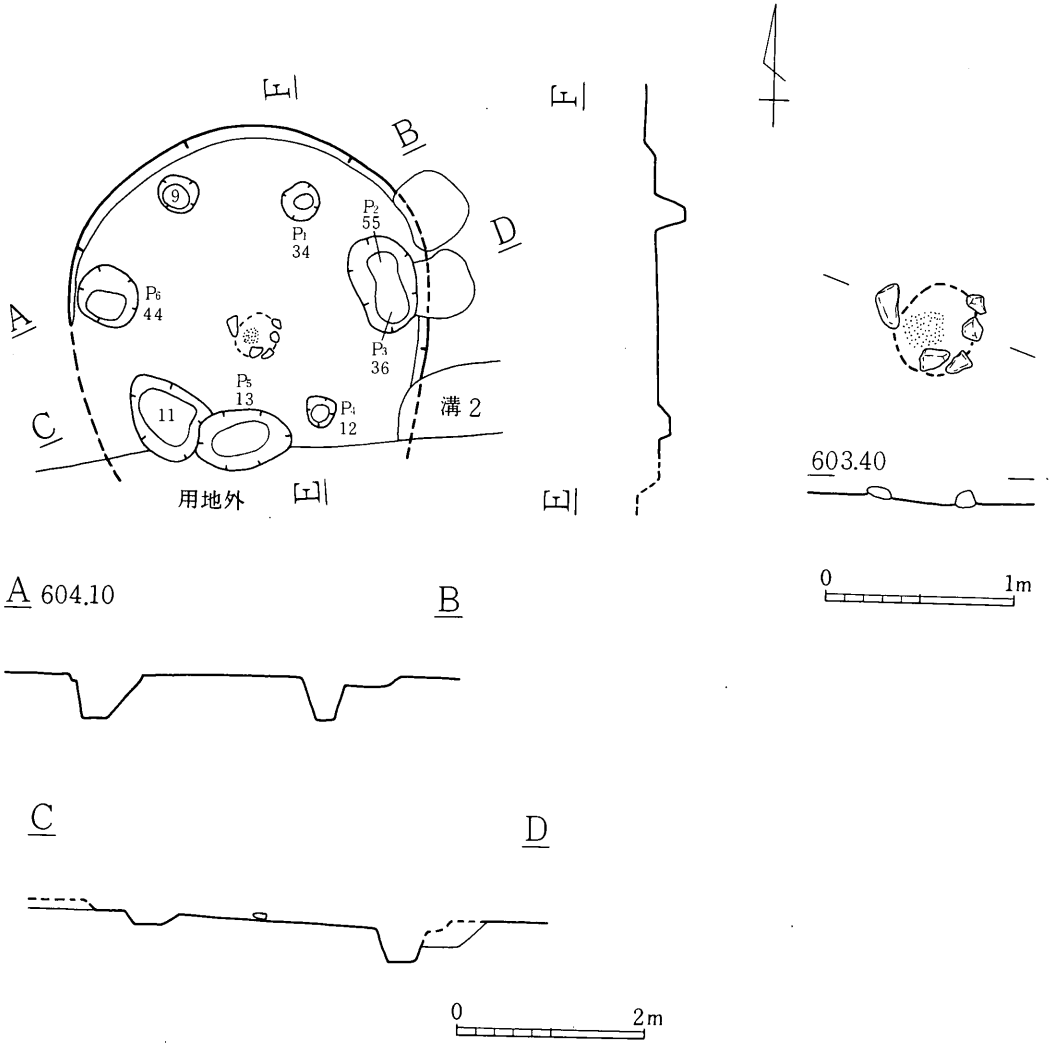
表1　1号住居址



挿図4　1号住居址

遺構番号	2号住居址	時期	中期後葉Ⅰ期	検出位置	BQ15・16	平面形	円形？
規　模	－×380×10		主軸	N0° W	埋土	褐色土	
検出状況	調査区外にかかる。						
新旧関係	溝2に切られる。溝2埋土が上にのる。						
壁	削平のため浅く壁の立ち上がりの状態不明			主柱穴	有。P1.3.6と思われるがはっきりせず		
周　溝	無			付属施設	－		
炉	石組炉、焼土全面に薄く発達			床	南側硬く締まる。南側に低くなる		
その他	－						

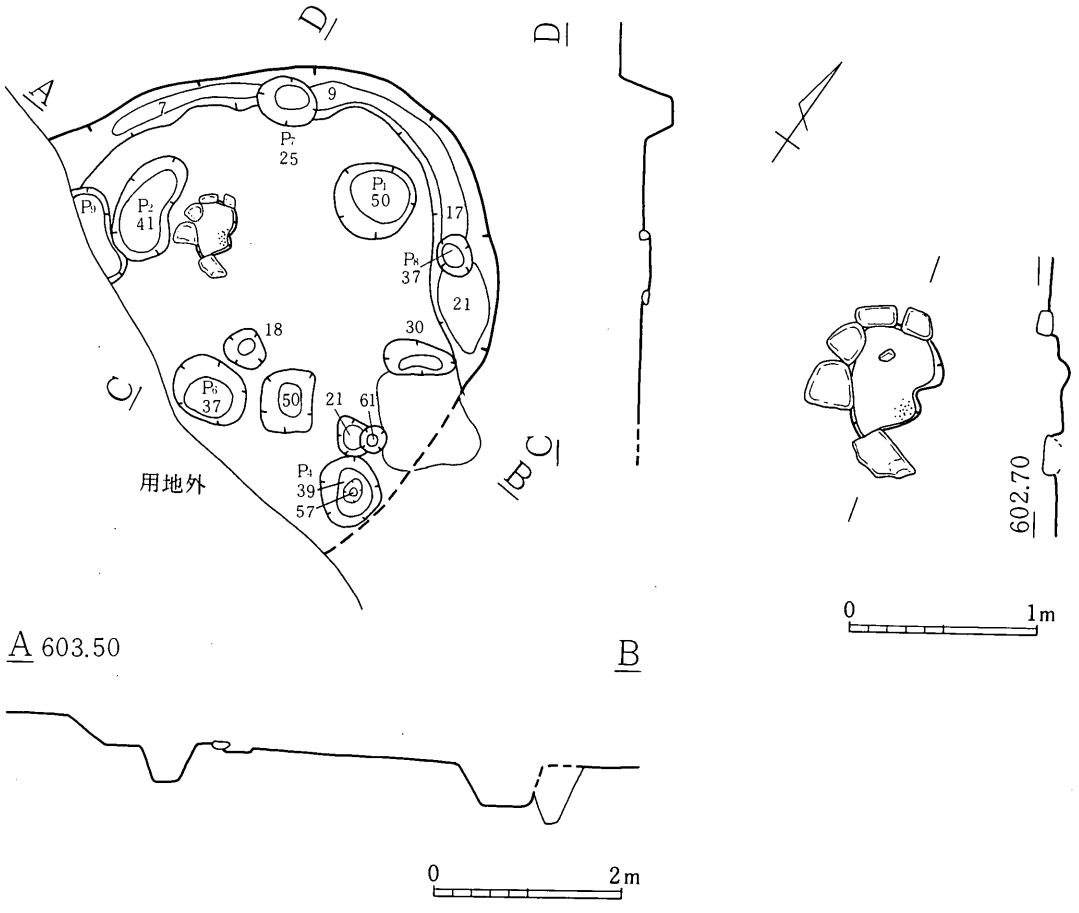
表2　2号住居址



挿図5　2号住居址

遺構番号	3号住居址	時期	中期中葉～後葉Ⅰ期	検出位置	BP10・11	平面形	不整円形?
規　模	(450)×－×30	主軸	N35° W	埋土	黒褐色土		
検出状況	調査区外にかかる。近年の造成により東南側が削平される。						
新旧関係	－						
壁	－						
主柱穴	－						
周　溝	－						
炉	花崗岩の炉石はよく焼け著しく脆い。焼土・炭少量分布。						
付属施設	－						
床	有。硬く締まる。床面に焼土・炭多量						
その他	－						

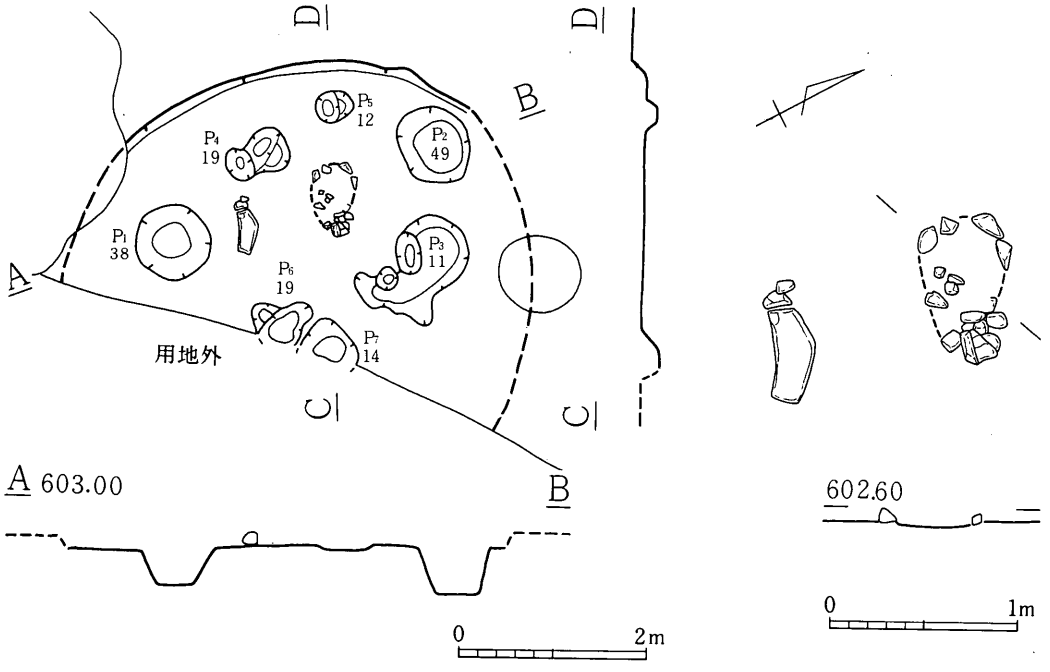
表3　3号住居址



挿図6　3号住居址

遺構番号	4号住居址	時期	中期後葉Ⅰ期	検出位置	ＢＪ７・ＢＫ７	平面形	不整円形？
規　模	(480)×－×15	主軸	N62° W	埋土	褐～黒褐色土		
検出状況	北側削平され不明瞭						
新旧関係	－						
壁	－						
主柱穴	Ｐ１.２。ほぼ垂直に掘り込まれる。						
周　溝	－						
炉	石組炉。炉の上部に土器・礫が多量に被る。焼土は中央にやや薄く分布						
付属施設	－						
床	有。やや柔らかい。床面ロームまで達せず上部漸移層でとまる						
その他	石器多い。いわゆる『吹上パターン』						

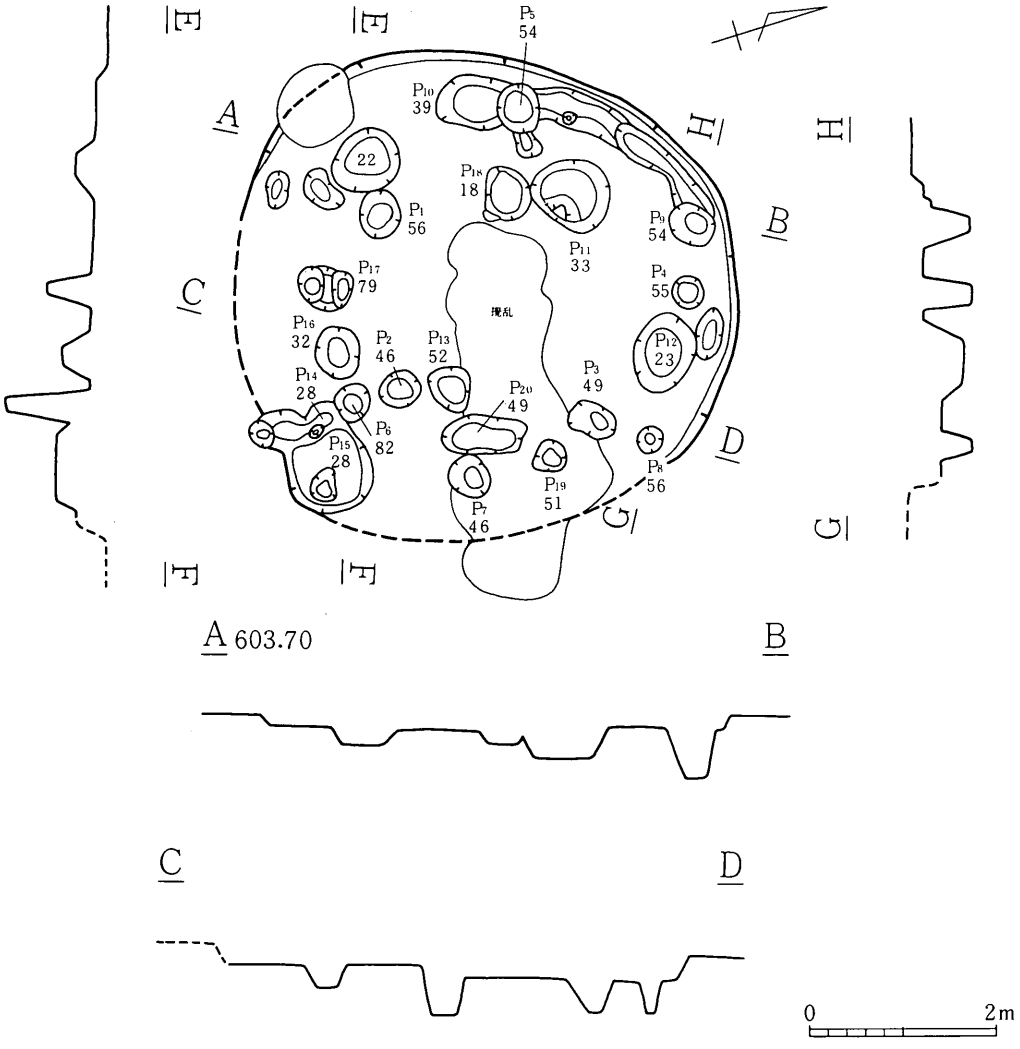
表4　4号住居址



挿図7　4号住居址

遺構番号	5号住居址	時期	中期後葉Ⅰ期	検出位置	ＢＥ６・７	平面形	円形？
規　模	550×（550）×30	主軸	N73° W	埋土	黒褐色土		
検出状況	撹乱が大きく入る。東半は田面作成時削平						
新旧関係	－						
壁	－			主柱穴	有。P1.5.9.8.7.16		
周　溝	部分的。北西壁側			付属施設			
炉	耕作による撹乱により遺存せず。焼土残る			床	南東半硬く締まる。床面は傾斜あり。		
その他	増改築有？						

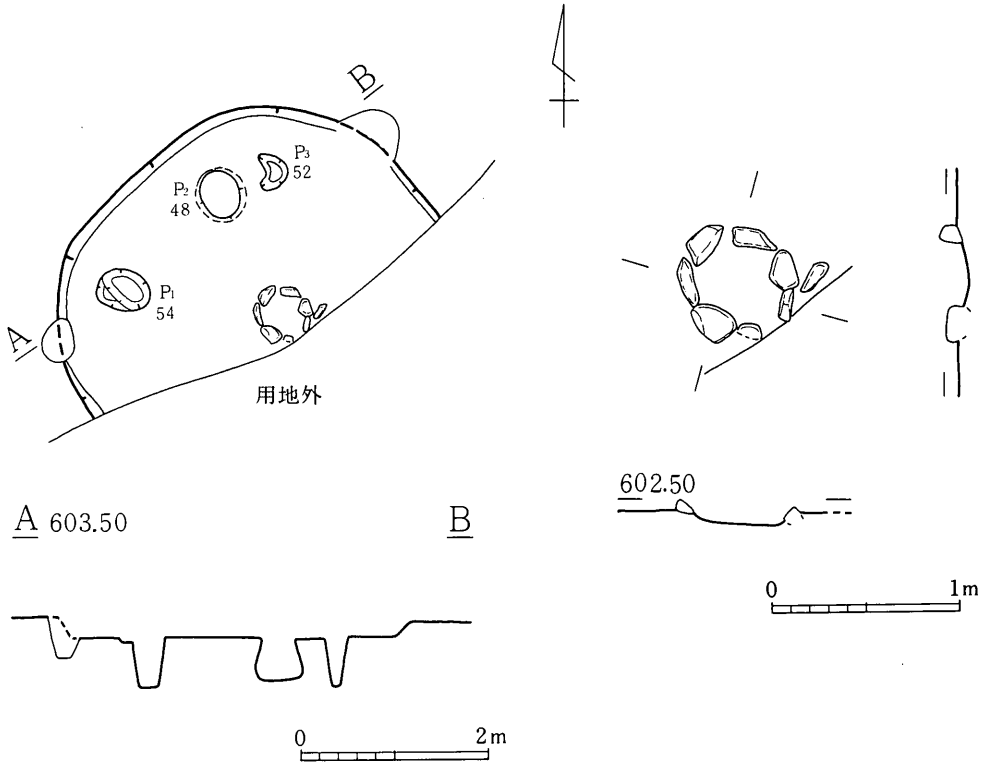
表5　5号住居址



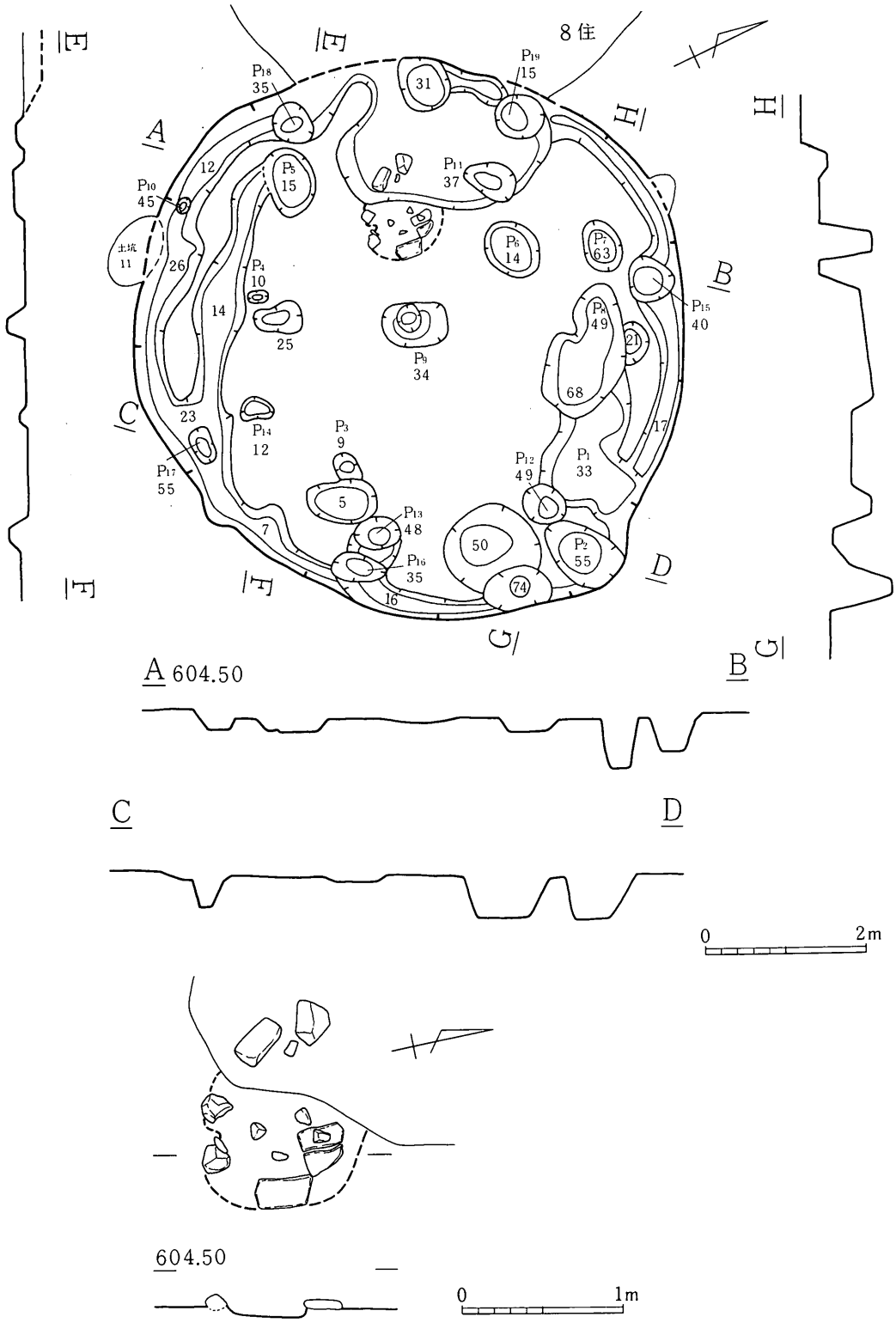
挿図8　5号住居址

遺構番号	6号住居址	時期	中期後葉Ⅰ期	検出位置	BD3	平面形	円形？
規　模	415×－×20	主軸	N0° W	埋土	黒褐色土		
検出状況	調査区外にかかる。約 1／2検出						
新旧関係	－						
壁	かなり急に立つ						
主柱穴	有。P1.P2　5本柱と思われる						
周　溝	－						
炉	石組炉。焼土ごく少量						
付属施設	有。P3袋状。底に礫あり						
床	やや凹凸あるが、ほぼ平坦。やや硬くしまった床面						
その他	－						

表6　6号住居址



挿図9　6号住居址


8住
P18 35
P19 15
31
A
12
P5 15
P11 37
P10 45
土坑 11
26
P4 10
P6 14
P7 63
B
P15 40
14
25
P8 49
21
P9 34
68
23
C
P14 12
P3 9
17
P12 49
P1 33
P17 55
5
P13 48
7
50
P2 55
P16 35
74
16
D
E
F
G
H
A 604.50
B
C
D
0
2m
604.50
0
1m

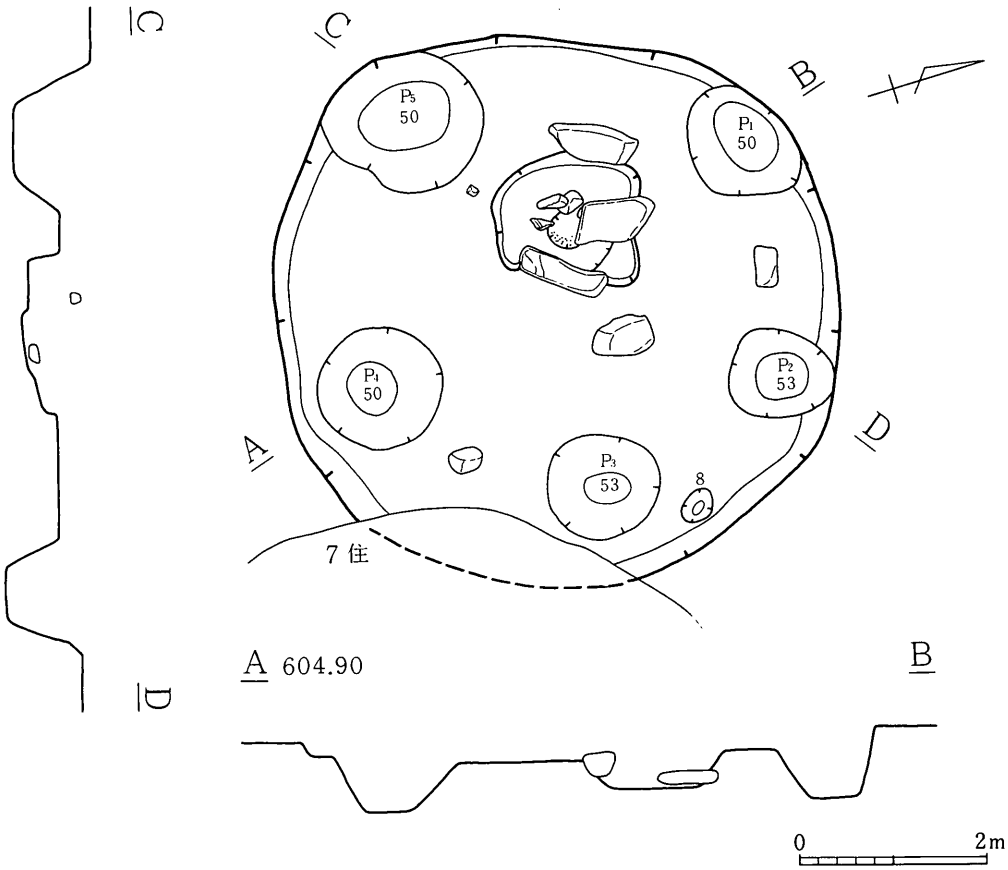
挿図10　7号住居址

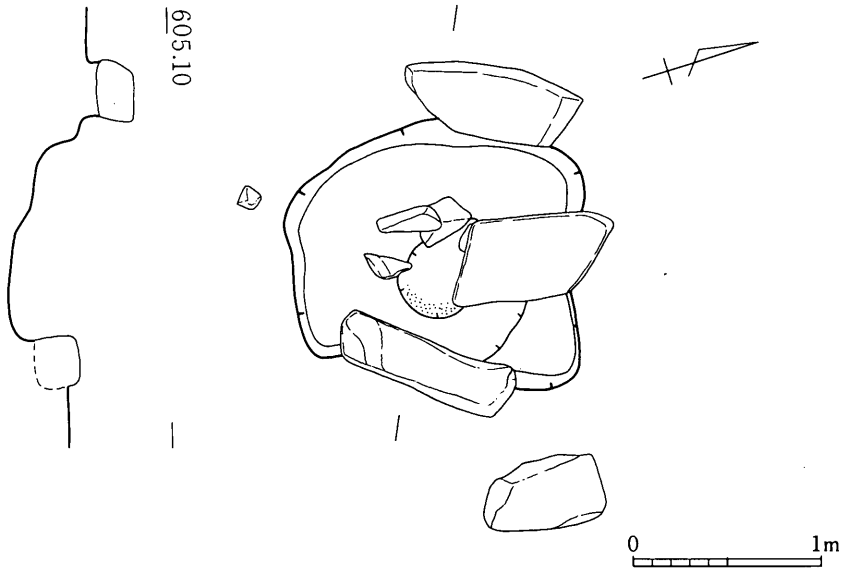
遺構番号	7号住居址	時期	中期後葉Ⅰ期	検出位置	BK19・20	平面形	円形
規　模	680×675×10	主軸	N65° W	埋土	黒褐色土		
検出状況	東側削平。ロームマウンドに壊される。						
新旧関係	8住より古いと思われる。						
壁	立ち上がり急。一部は壁とばす。						
主柱穴	有。 P5.8.11～14→P2.15 ～19						
周　溝	壁直下に全周。南壁側に壁より50～100cm内側に周溝状の施設あり。建替の可能性						
炉	ロームマウンドに一部壊される。ロームマウンド内に炉石2ケ転落						
付属施設	－						
床	硬くばんばんに締まった床面（中央部）						
その他	ロームマウンド。礫が上がり中に立つものあり。礫は床より上位　　増改築有						

遺構番号	8号住居址	時期	中期後葉Ⅰ～Ⅱ期	検出位置	BK22・23	平面形	円形
規　模	570×600×25	主軸	N73° W	埋土	黒褐色土		
検出状況	ロームマウンドに壊される。						
新旧関係	7住より新しいと思われる。						
壁	－						
主柱穴	有。P1～ 5は規模が大きく上部開く。						
周　溝	なし						
炉	石囲炉。炉石一部抜き取られ炉内に落ち込む。あるいは床面よりやや上位にある。						
付属施設	－						
床	有。中央硬く締まる。南東側がやや低くなり、床より上位に20～40cm大の礫多い。						
その他	－						

遺構番号	9号住居址	時期	中期後葉Ⅱ期	検出位置	BM18・BN18	平面形	不整円形
規　模	600×580×15	主軸	N141° E	埋土	褐色土		
検出状況	全体が田面作成時に削平される。壁検出できず。						
新旧関係	7住より新しい。						
壁	－						
主柱穴	有。P1.2.7～10？						
周　溝	ほぼ全周（北西一部なし）						
炉	炉付近は撹乱により壊される。						
付属施設	P2袋状						
床	P1付近に本来の床が一部遺存するのみ。						
その他	－						

表7　7号住居址　・　表8　8号住居址　・　表9　9号住居址

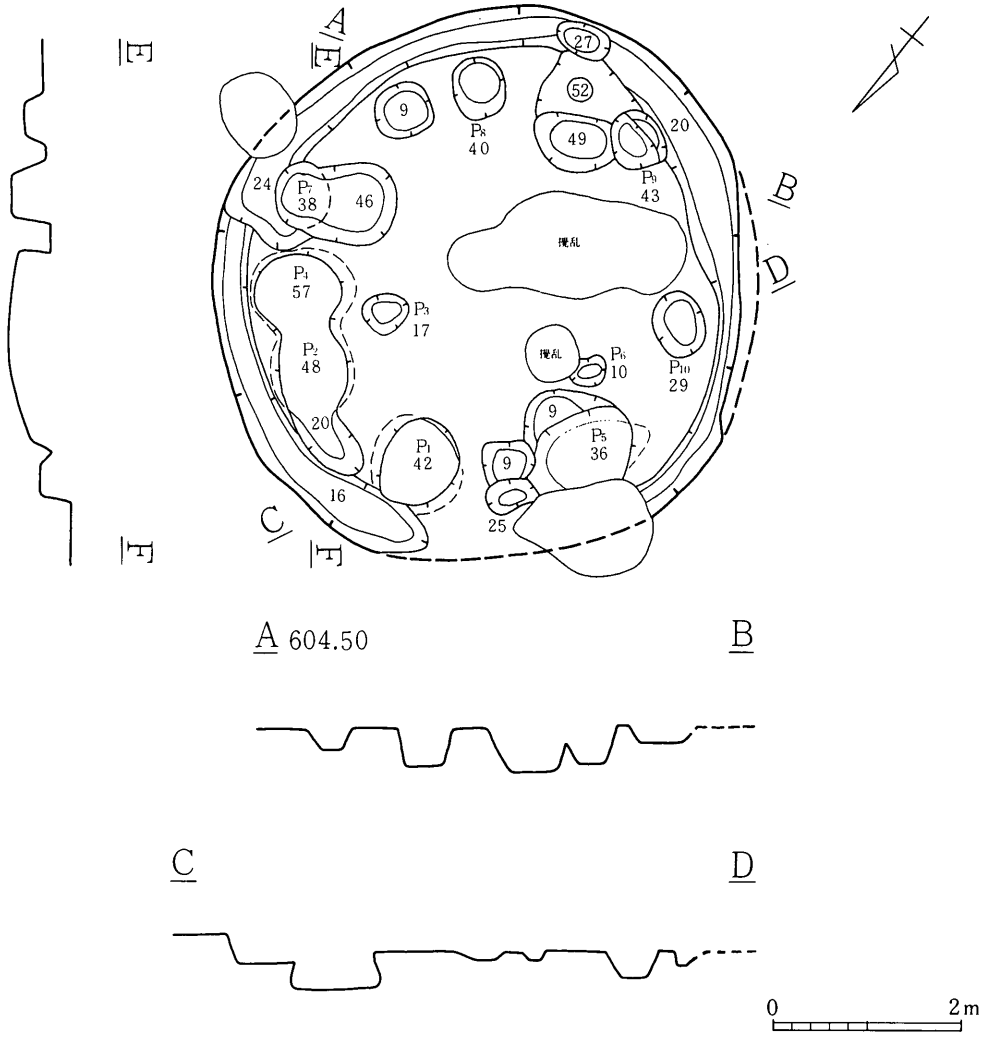




挿図11　8号住居址

遺構番号	10号住居址	時期	中期後葉Ⅰ期？	検出位置	ＡＴ6	平面形	不明
規　模	不明	主軸	不明	埋土	－		
検出状況	炉址と遺物のみ。詳細不明						
新旧関係	－						
壁	－			主柱穴	不明		
周　溝	なし			付属施設	－		
炉	炉。炉石を全部欠く。焼土あり。			床	不明		
その他	－						

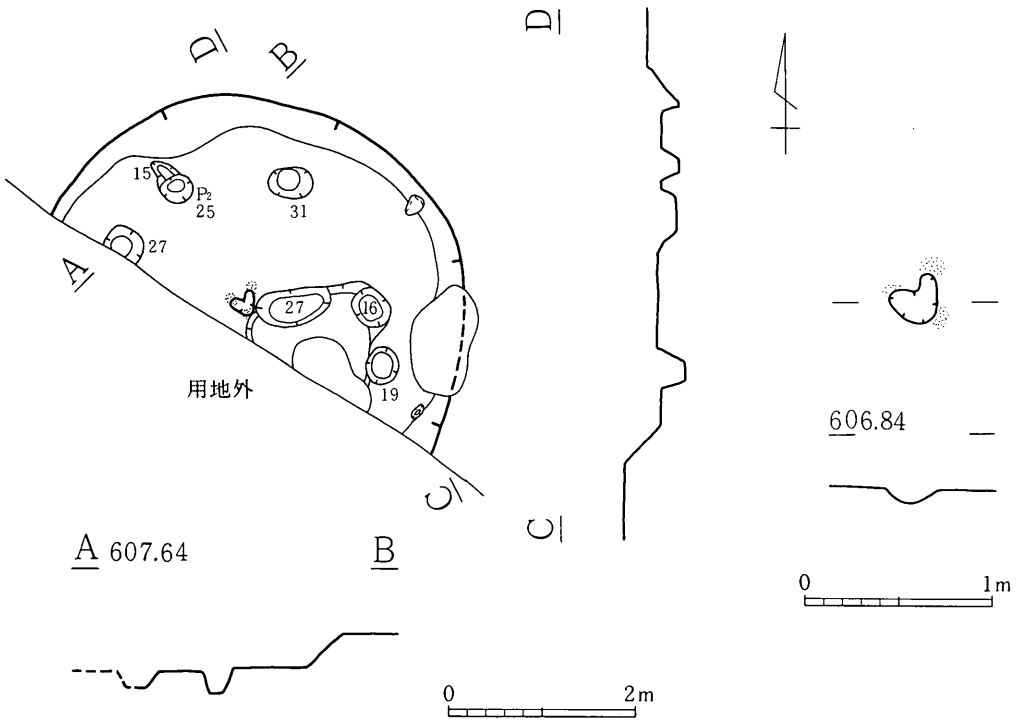
表10　10号住居址



挿図12　9号住居址

遺構番号	11号住居址	時期	中期後葉	検出位置	ＢＳ51	平面形	円形？
規　模	470×－×35	主軸	－	埋土	褐色土		
検出状況	中央付近ロームマウンドに切られる。調査区外にかかる						
新旧関係	－						
壁	－						
主柱穴	－						
周　溝	－						
炉	小凹と焼土を検出したのみ。焼土は住居掘り方とほぼ同一レベル。炉石痕跡確認できず						
付属施設	－						
床	基盤の礫層を掘り込み灰褐色土が貼床される。床直より多量の炭出土。焼失住ではない						
その他	黒曜石の石器類多い。前期・中期初・後期混入。						

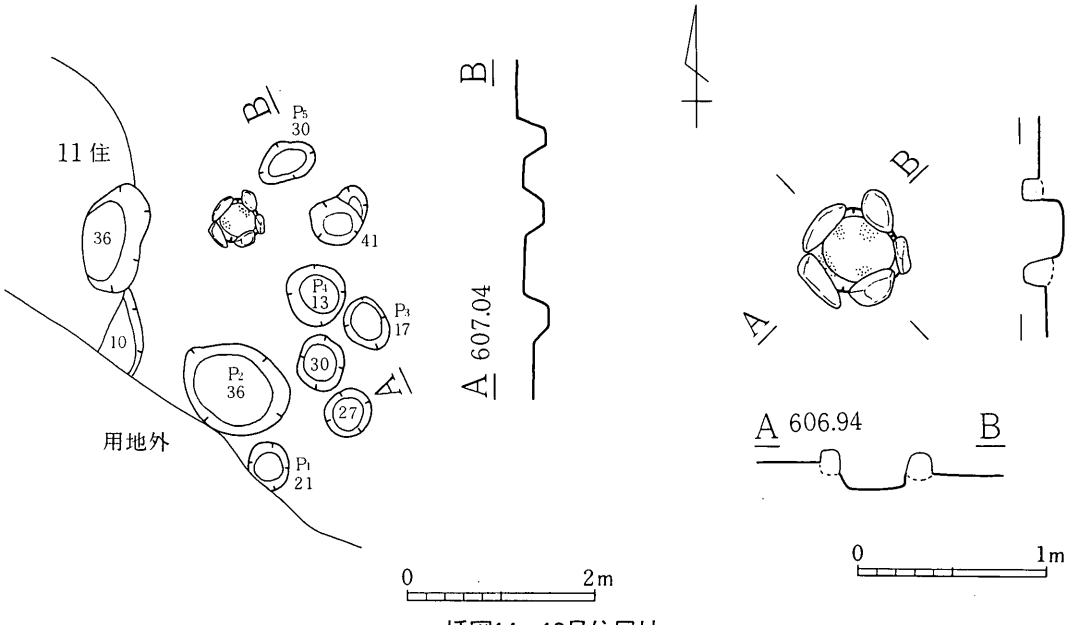
表11　11号住居址



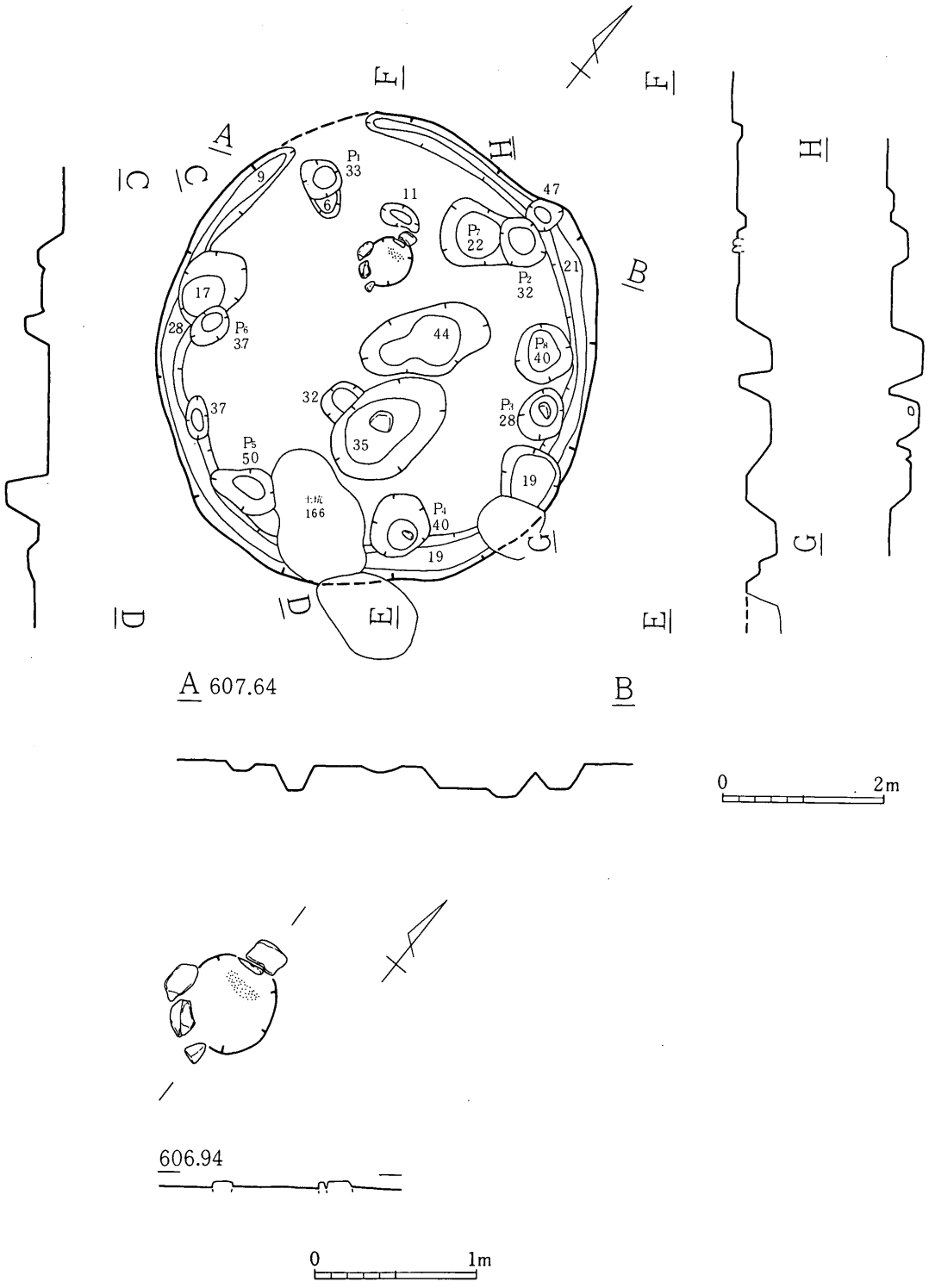
挿図13　11号住居址

遺構番号	12号住居址	時期	中期後葉	検出位置	ＢＳ49・50	平面形	不明
規　模	不明	主軸	不明	埋土	褐色土		
検出状況	－						
新旧関係	11住との新旧関係不明						
壁	－			主柱穴	－		
周　溝	－			付属施設	－		
炉	石組炉全周。炉石脆い。焼土少ない			床	炉の北側に硬く締まった床面残る		
その他	遺物少ない						
遺構番号	13号住居址	時期	－	検出位置	ＢＱ49・50	平面形	ほぼ円形
規　模	560×　540×10	主軸	Ｎ39°　Ｗ	埋土	褐色土　柱穴埋土暗褐色土		
検出状況	－						
新旧関係	－						
壁	重機で掘りとばし、詳細不明			主柱穴	有。P1～6遺物有り		
周　溝	ほぼ全周（北西一部なし）			付属施設	－		
炉	石組炉。炉石全周せず、よく焼ける			床	有。硬い		
その他	－						

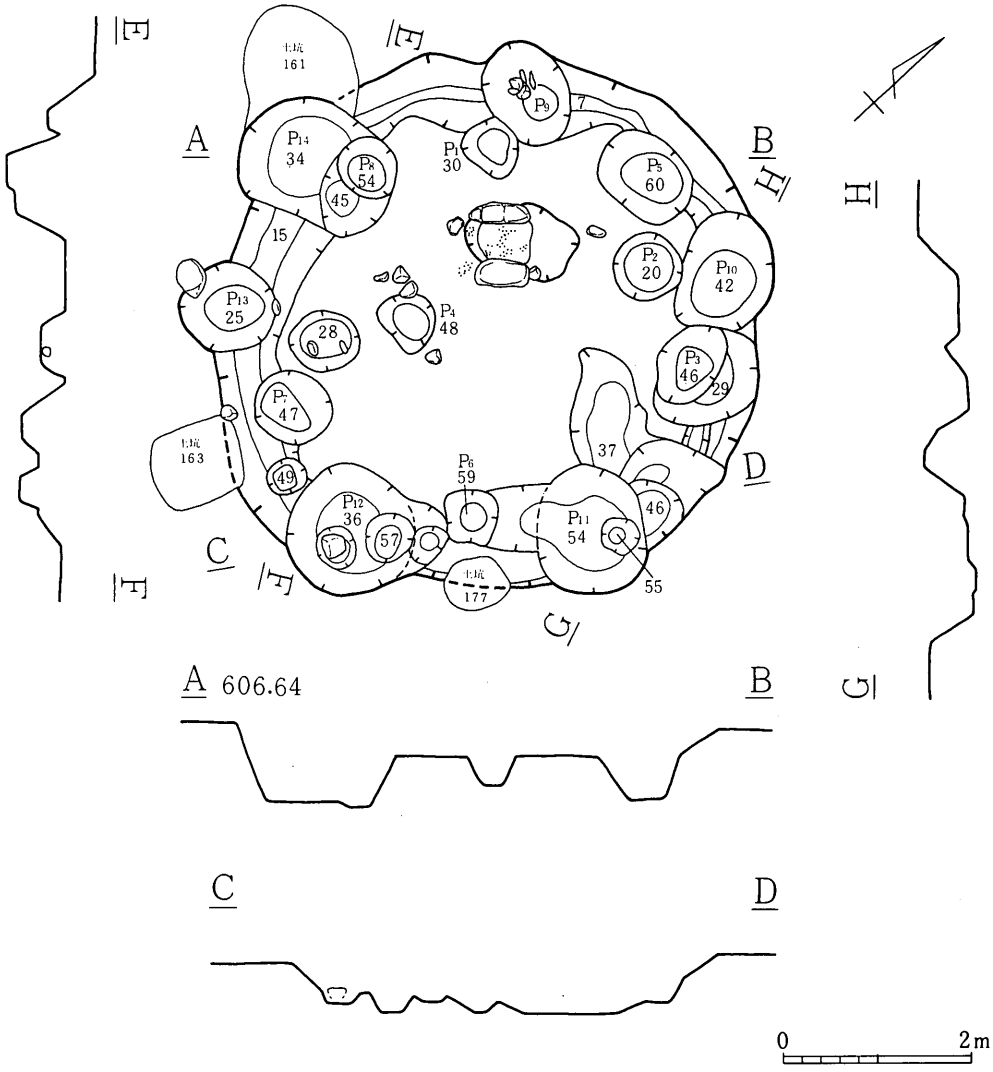
表12　12号住居址　・　表13　13号住居址

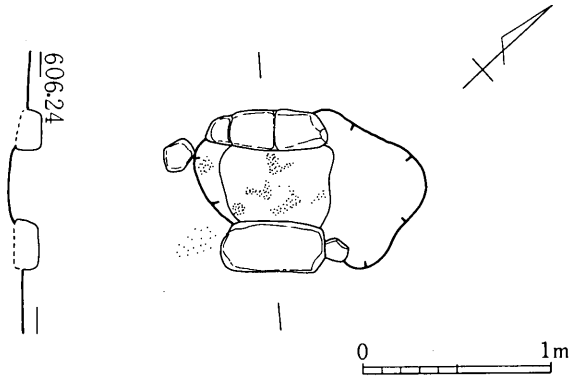


挿図14　12号住居址


A
B
C
D
E
F
G
H
P1
33
P2
32
P3
28
P4
40
P5
50
P6
37
P7
22
P8
40
9
6
11
47
21
17
28
44
32
35
37
19
19
土坑
166
A 607.64
B
0
2m
606.94
0
1m

挿図15　13号住居址


土坑161
土坑163
土坑177
P1 30
P2 20
P3 46
P4 48
P5 60
P6 59
P7 47
P8 54
P9
P10 42
P11 54
P12 36
P13 25
P14 34
A 606.64
0 2m


606.24
0 1m

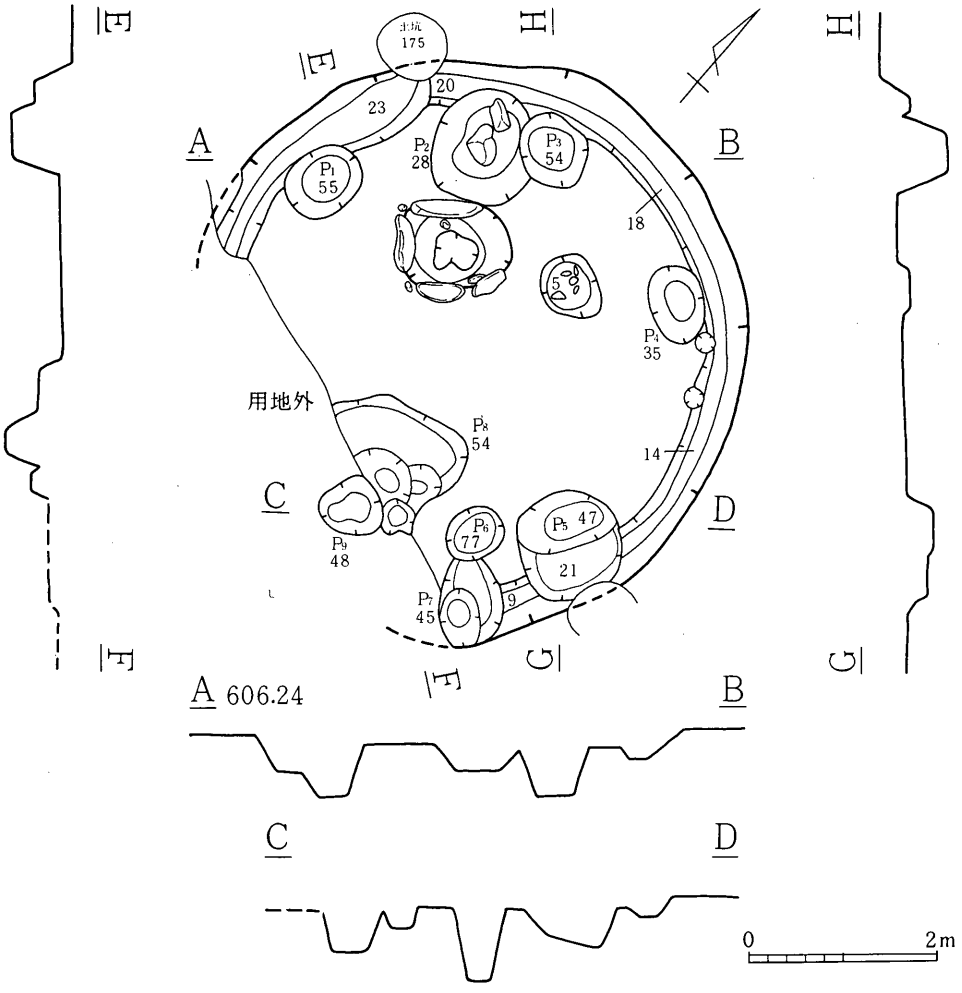
挿図16　14号住居址

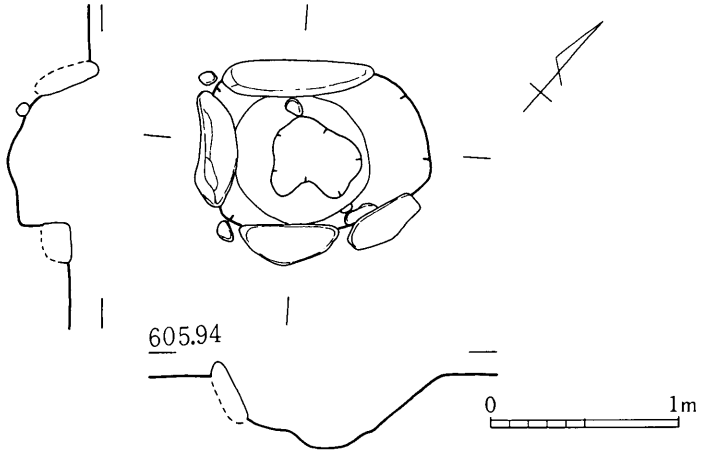
遺構番号	14号住居址	時期	中期後葉Ⅱ期	検出位置	ＢＲ42・43	平面形	不整円形
規　模	540×　570×30	主軸	N47° W	埋土	暗褐色土		
検出状況	上部のほぼ中央は田の境界の石垣を積む際に一部が壊される。						
新旧関係	ド161・163。新旧不明						
壁	－						
主柱穴	有。P3・5～8→P9～14						
周　溝	ほぼ全周						
炉	旧炉。よく焼ける。炉石の抜き取り痕あり。						
付属施設	－						
床	有。中央が硬く締まる。						
その他	増改築有り						

遺構番号	15号住居址	時期	中期後葉Ⅱ期	検出位置	ＢＲ40・ＢＳ40	平面形	円形？
規　模	610×－×20	主軸	N42° W	埋土	－		
検出状況	南側未調査						
新旧関係	－						
壁	－						
主柱穴	有・ 6本主柱？　P1.P3 ～5.P9						
周　溝	全周						
炉	石囲炉。北東側の炉石を欠く。						
付属施設	－						
床	有。軟弱。地山はこの部分で砂質が強い。						
その他							

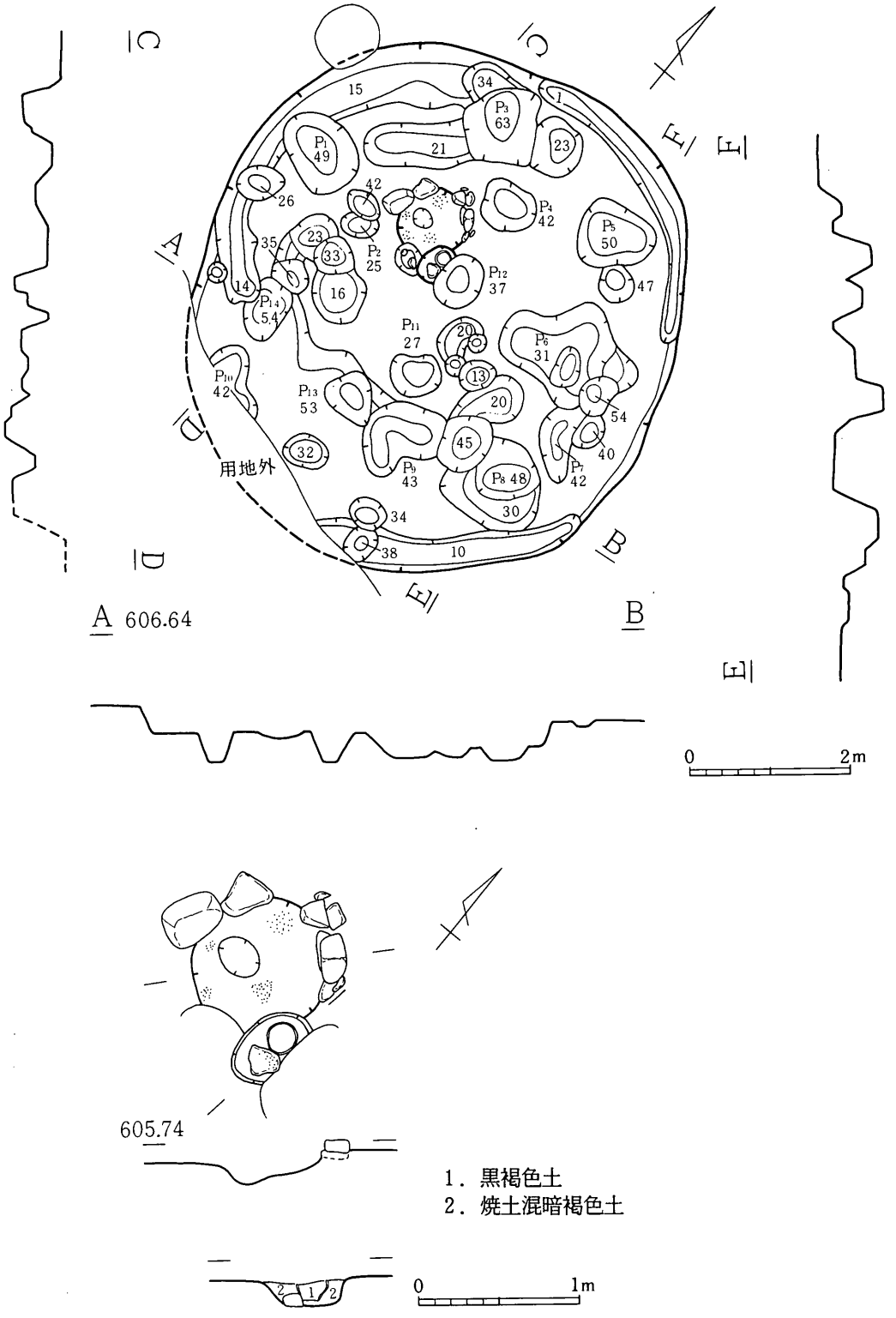
遺構番号	16号住居址	時期	中期後葉Ⅱ期	検出位置	ＢＲ36・37	平面形	不整円形
規　模	645×　600×35	主軸	N40° W	埋土	－		
検出状況	－						
新旧関係	溝２が南西側の上にのる（図なし）						
壁	－						
主柱穴	有。P1.3.5.8.11.12						
周　溝	東壁の一部なし。P1.3間に周溝状のものあり						
炉	炉とP12 の間に副炉あり。炉石は重機の削平を受け北西側に僅かに移動。						
付属施設	－						
床	柱穴が多く重複し、状態不明。						
その他	増改築有り？主柱穴とほぼ同位置に深い柱穴あり。周溝より内側に周溝状あり						

表14　14号住居址　・　表15　15号住居址　・　表16　16号住居址

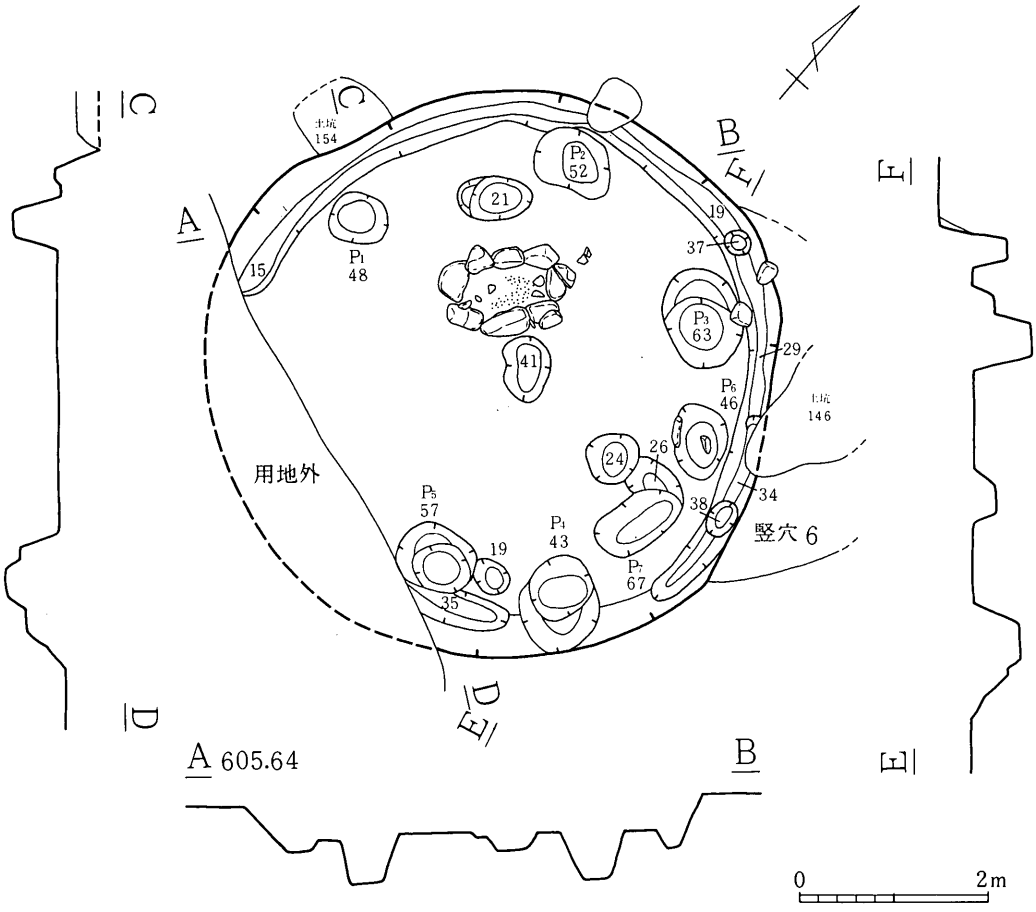

土坑
175
20
23
P1
55
P2
28
P3
54
18
5
P4
35
用地外
P8
54
14
C
D
P9
48
P6
77
P5
47
21
P7
45
9
A
B
E
F
G
H
A 606.24
B
C
D
0
2m


605.94
0
1m

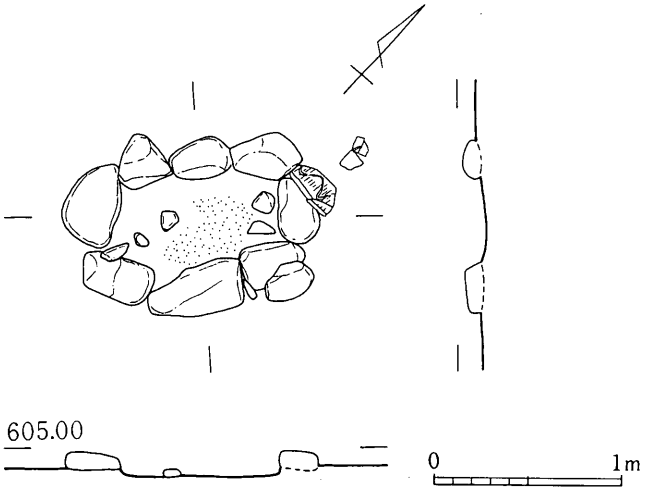
挿図17　15号住居址



挿図18　16号住居址

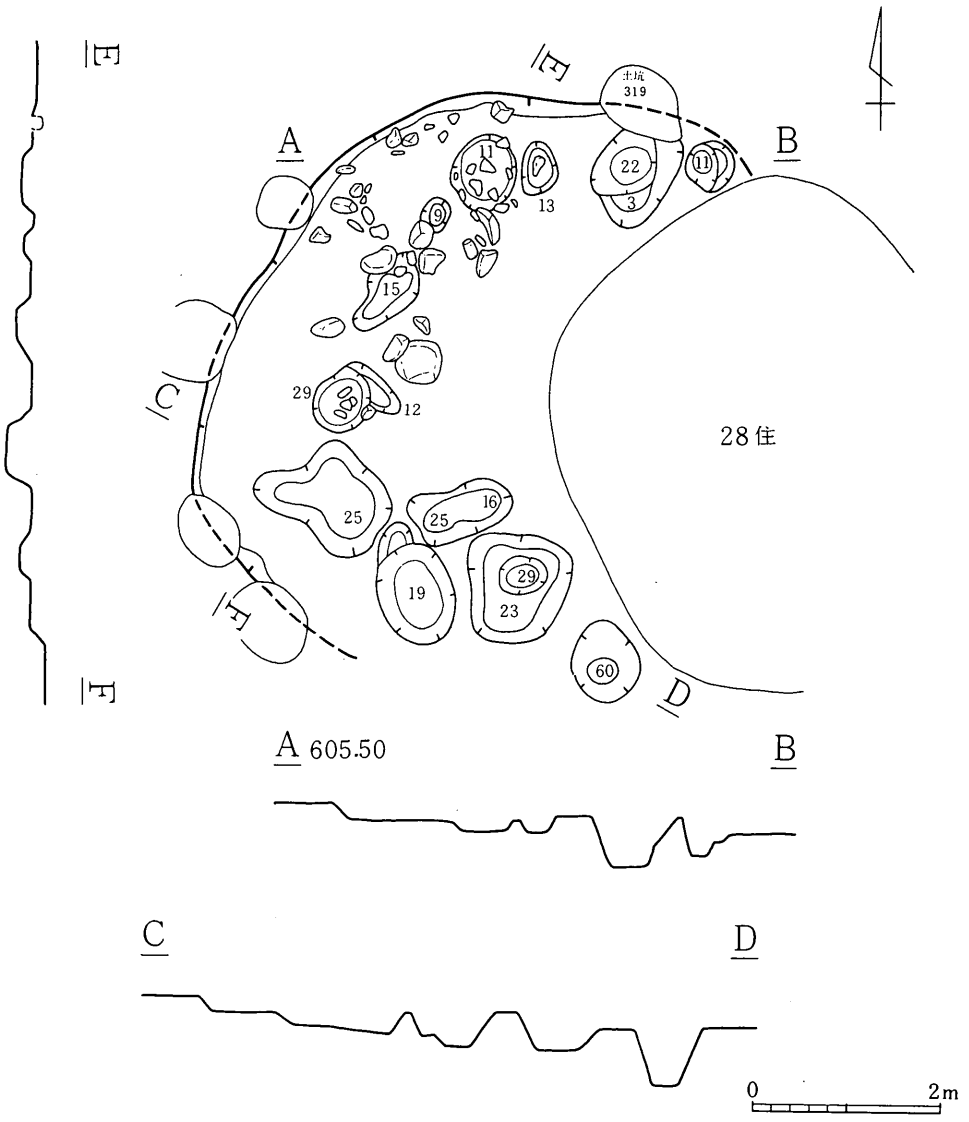


A
B
C
D
E
F
土坑
154
P2
52
21
P1
48
15
19
37
P3
63
29
41
P6
46
土坑
146
24
26
34
38
竪穴 6
用地外
P5
57
19
P4
43
P7
67
35
A 605.64
0
2m



605.00
0
1m

挿図19　17号住居址


土坑
319
A
B
C
D
E
E
F
F
11
13
22
3
11
9
15
29
12
28住
25
25
16
19
29
23
60
A 605.50
B
C
D
0
2m

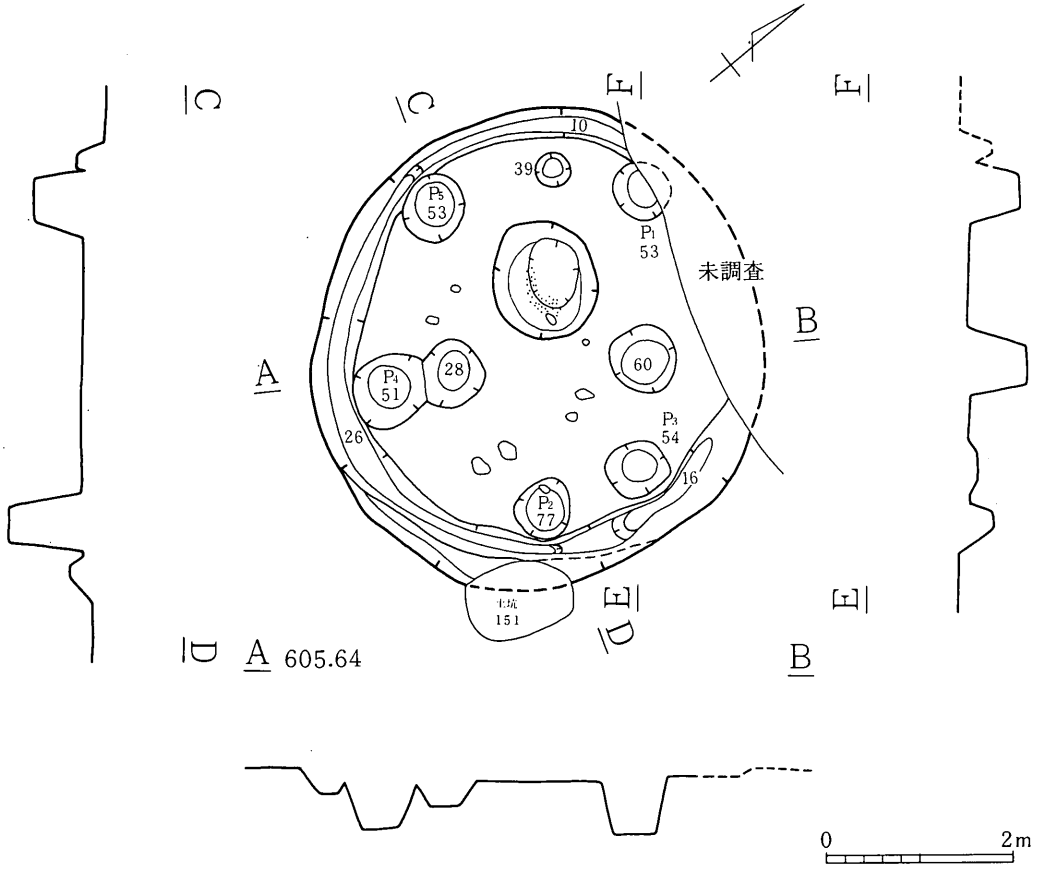
挿図20　18号住居址

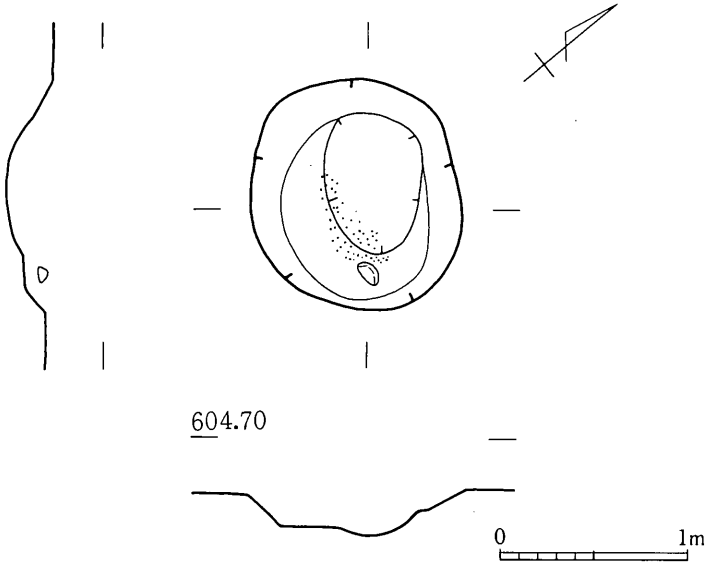
遺構番号	17号住居址	時期	中期後葉Ⅱ期	検出位置	ＢＲ31・32	平面形	円形
規　模	590×－×40	主軸	N41° W	埋土	暗褐色土		
検出状況	南側未調査						
新旧関係	ド146.154 、竪6						
壁	－						
主柱穴	有・6本主柱？　P1～3.5.7						
周　溝	－						
炉	長楕円形の石組炉。炉・主P5の間に厚く焼土がある（炉の作り替えか掻き出されたか）						
付属施設	－						
床	有。それほど硬くない。						
その他	土器有り　NO.12						

遺構番号	18号住居址	時期	中期後葉	検出位置	ＢＫ29・ＢＪ29	平面形	不明
規　模	－×－×15	主軸	不明	埋土	暗褐色土　礫あり		
検出状況	－						
新旧関係	28住。28住が新しいと思われる。						
壁	－						
主柱穴	不明						
周　溝	なし						
炉	炉址検出できず。焼土等なし						
付属施設	－						
床	有。それほど硬くない。						
その他	遺物出土ほとんどなし。						

遺構番号	19号住居址	時期	中期後葉Ⅱ期	検出位置	ＢＲ27・28	平面形	円形
規　模	490×－×15	主軸	N51° W	埋土	褐色土		
検出状況	一部未調査						
新旧関係	－						
壁	－						
主柱穴	有。P1～5(P6 未調査？)						
周　溝	－						
炉	炉石は抜き取られたと考えられる。						
付属施設	－						
床	有。ばんばんに硬く締まる。礫（炉とP2～4の間）は床より浮く。その下位床直に焼土						
その他	P5北側に石皿。遺物多量（礫間・礫下）いわゆる『吹上パターン』						

表17　17号住居址　・　表18　18号住居址　・　表19　19号住居址

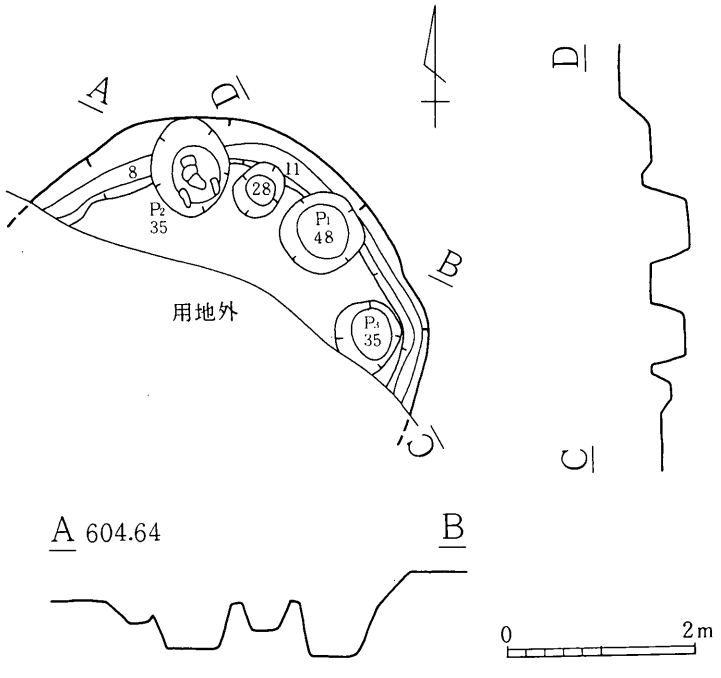

C
C
E
E
10
39
P5
53
P1
53
未調査
B
A
P4
51
28
60
P3
54
26
16
P2
77
土坑
151
E
E
D
D
A 605.64
B
0
2m


604.70
0
1m

挿図21　19号住居址

遺構番号	20号住居址	時期	中期後葉Ⅰ期	検出位置	ＢＳ24	平面形	円形？
規　模	－×－×20	主軸	不明	埋土	褐色土		
検出状況	1／2以上未調査						
新旧関係	－						
壁	東壁側は開田に際し削平を受け、壁遺存せず。						
主柱穴	有。P2.3は底部砂礫層に達す。P1.P2 深鉢片						
周　溝	ほぼ全周						
炉	－						
付属施設	－						
床	有。硬く締まる。						
その他	－						

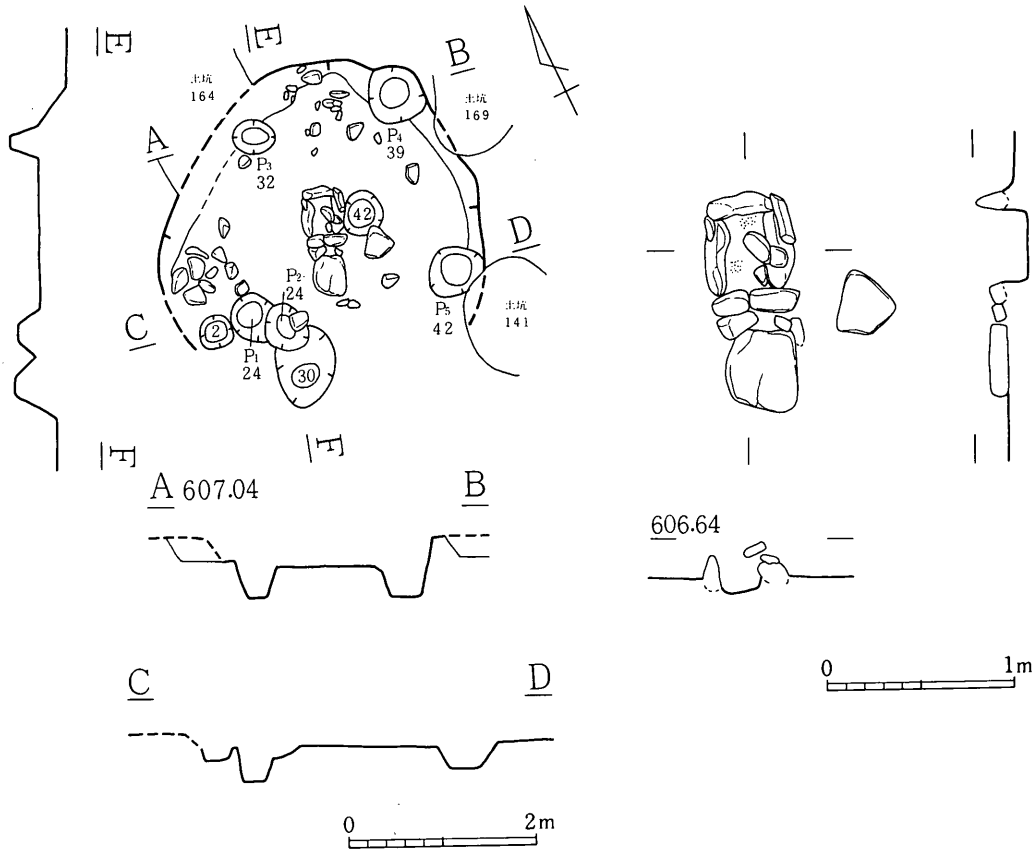
表20　20号住居址



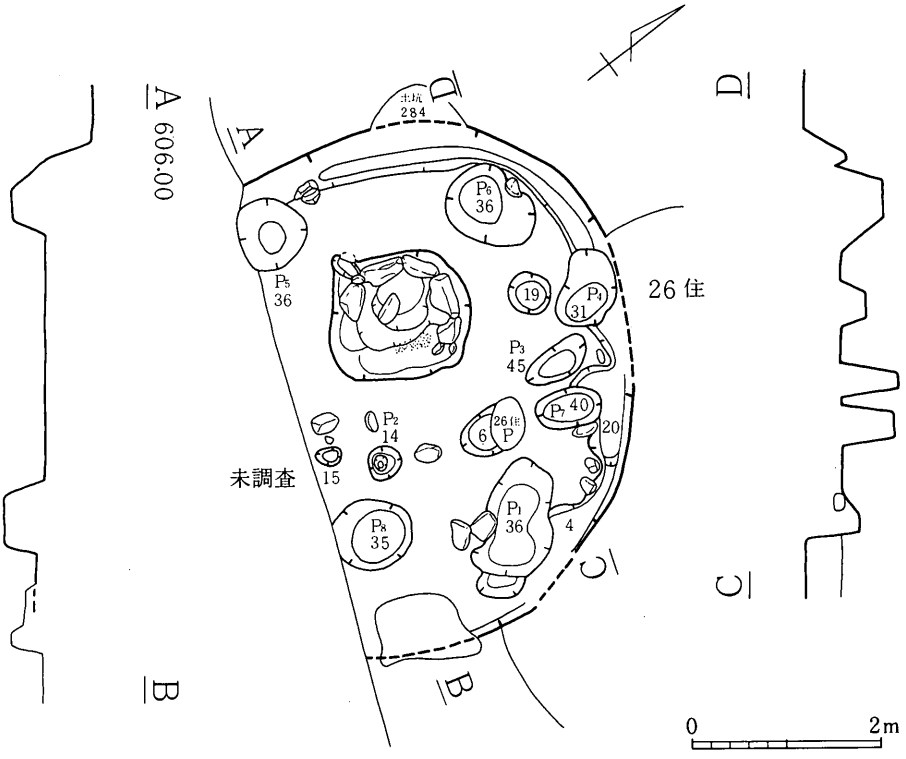
挿図22　20号住居址

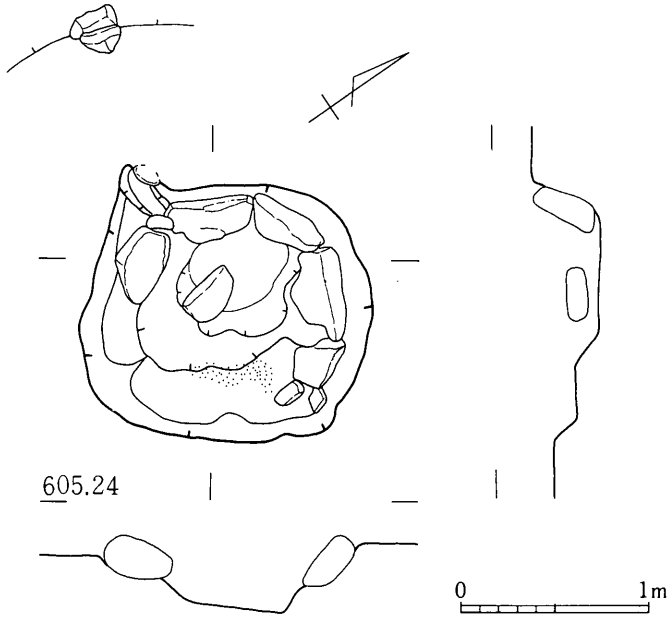
遺構番号	21号住居址	時期	後期初頭	検出位置	B Q46・47	平面形	不整円形
規　模	－×345×35	主軸	N25° E	埋土	黒褐色土		
検出状況	南側プラン検出できず不明。掘り下げたが不明。						
新旧関係	ド141.164.169 。新旧不明						
壁	－						
主柱穴	有。P1.3.4.5						
周　溝	－						
炉	石組炉						
付属施設	有。炉の南側に平石。						
床	有。それほど硬くない。礫がP1北側、P3.4の間、P2.5の間床直上に分布。						
その他	－						

表21　21号住居址

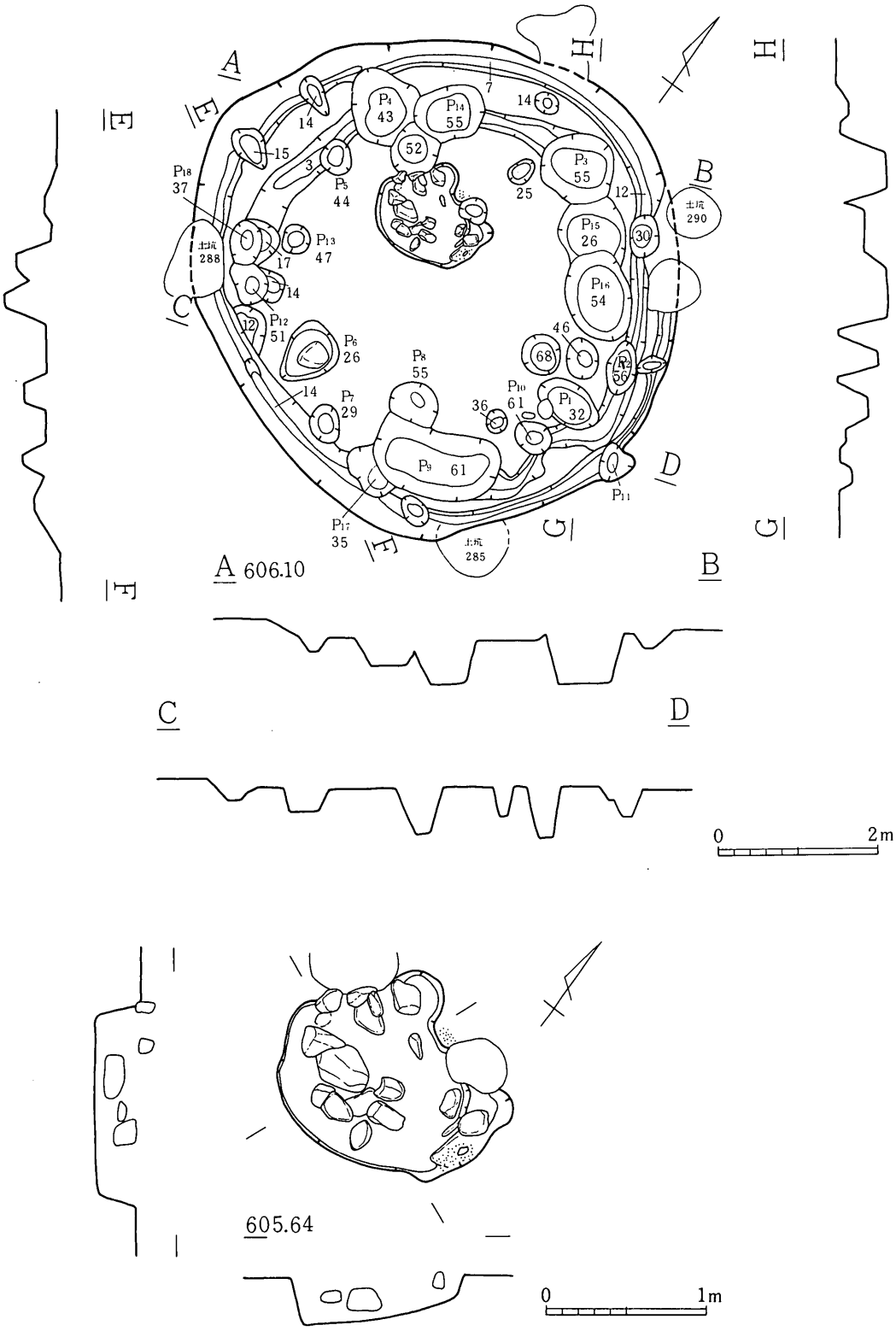


挿図23　21号住居址


A
606.00
A
土坑
284
P6
36
P5
36
19
P4
31
26 住
P3
45
P7 40
20
26住
P
6
P2
14
15
未調査
P8
35
P1
36
4
C
C
D
D
B
B
0
2m


605.24
0
1m

挿図24　22号住居址


A
B
C
D
E
F
G
H
P1 32
P2 56
P3 55
P4 43
P5 44
P6 26
P7 29
P8 55
P9 61
P10 61
P11
P12 51
P13 47
P14 55
P15 26
P16 54
P17 35
P18 37
土坑 288
土坑 285
土坑 290
A 606.10
B
C
D
605.64
0 2m
0 1m

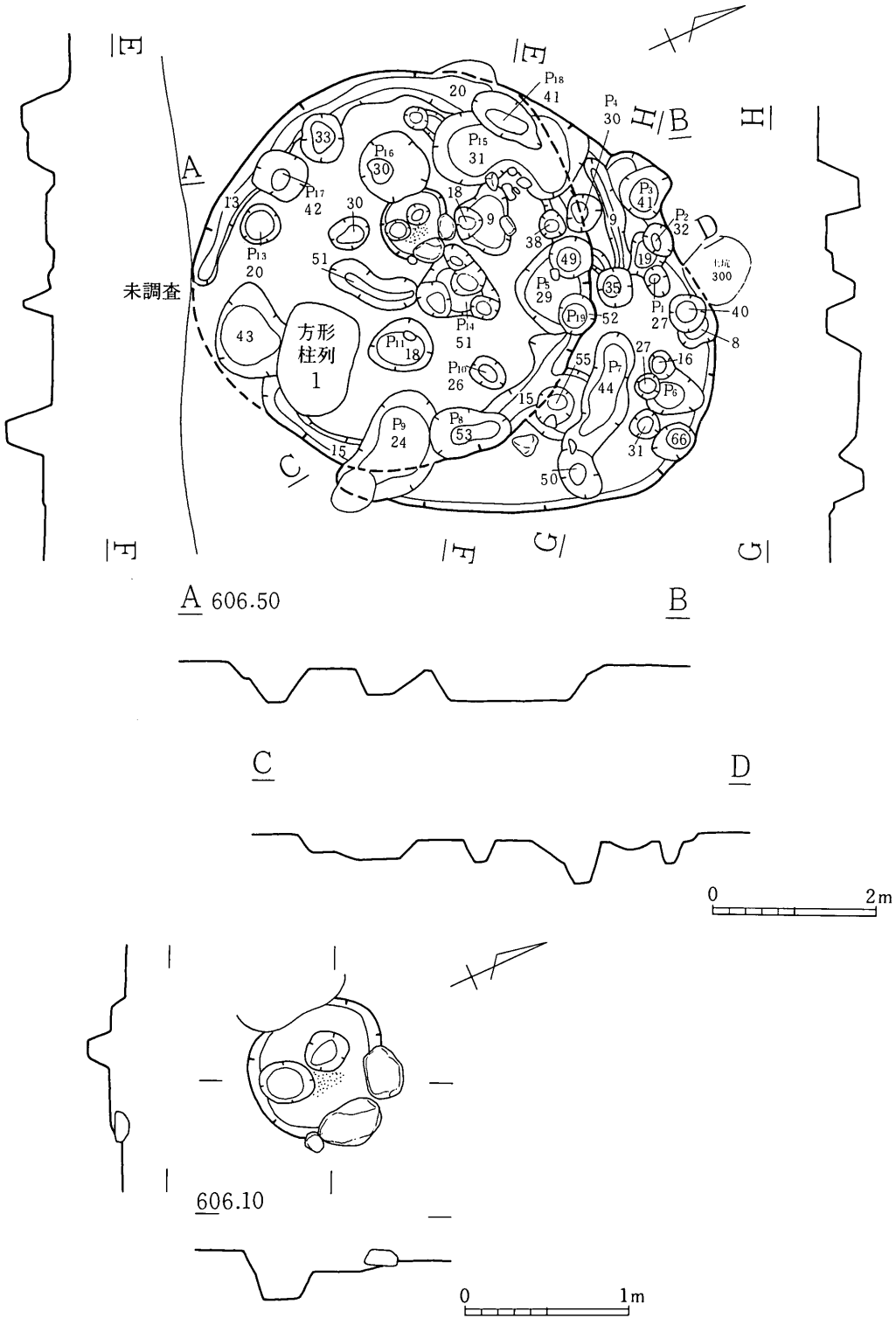
挿図25　23号住居址

遺構番号	22号住居址	時期	中期後葉Ⅱ期	検出位置	ＢＯ31	平面形	不整楕円形？
規　模	530×－×40	主軸	Ｎ52° Ｗ	埋土	褐色土		
検出状況	一部						
新旧関係	26住、ド284 と重複。26住を切る。26住柱穴上に貼床される。						
壁	北西～北壁は良好に遺存し急な立ち上がりを示す。南壁側は重複する土坑で壁状況不明						
主柱穴	有。P5～8						
周　溝	有。南東側欠						
炉	遺存状態よく炉石は斜めに据え置かれる。炉内部一段凹む。わずかに焼土有						
付属施設	－						
床	有。非常に硬く、炉周辺とP5.6の間に硬く締まった良好な床						
その他	P5北周溝状に石皿が外側を向き立位で出土						

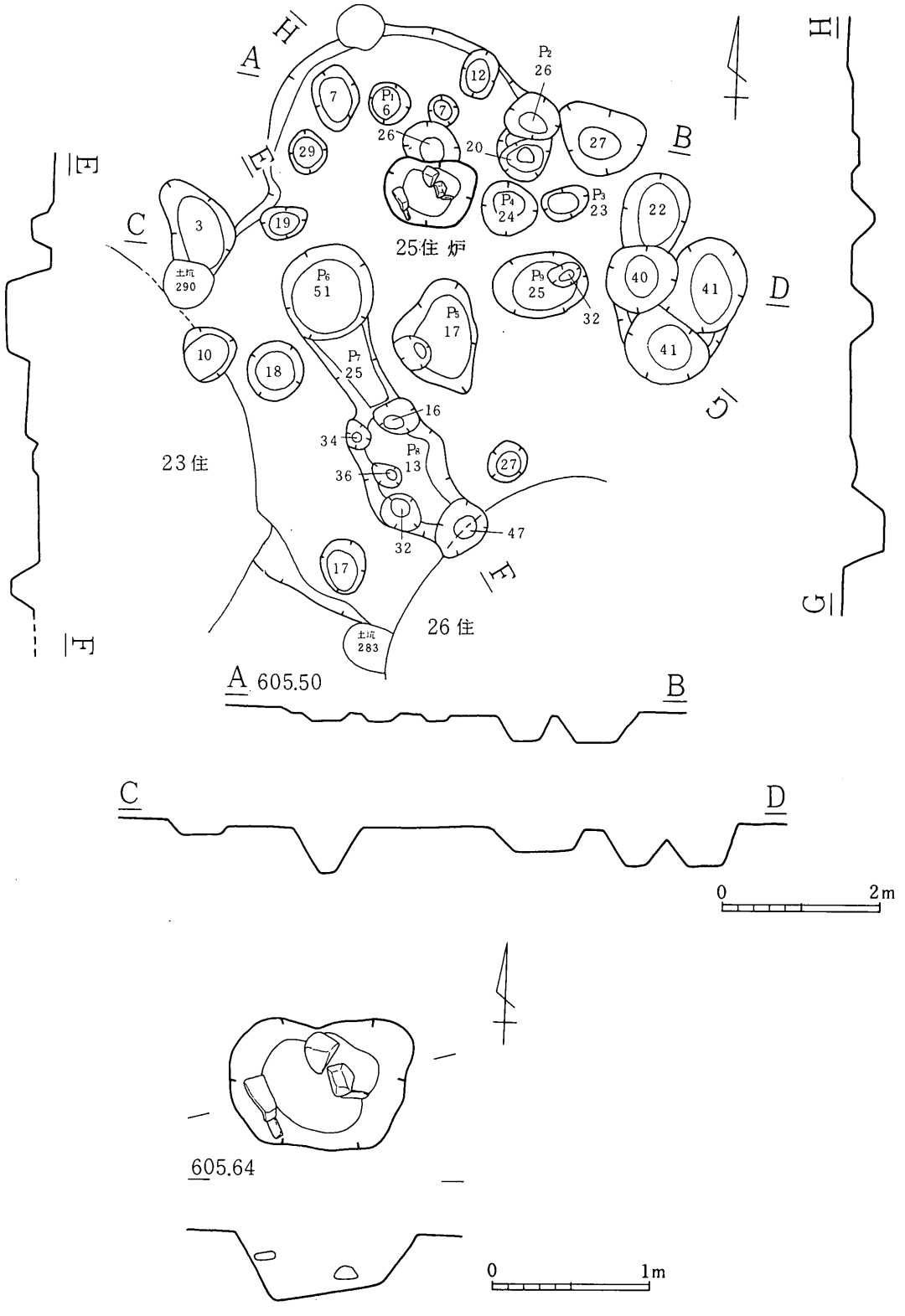
遺構番号	23号住居址	時期	中期後葉Ⅰ期	検出位置	ＢＮ34・35	平面形	不整円形
規　模	610× 595×10	主軸	Ｎ36° Ｗ	埋土	褐色土		
検出状況	－						
新旧関係	25住						
壁	ややゆるやか						
主柱穴	有。P3.8.12.14.16 、P1.4.15.17.18 。P16 袋状						
周　溝	２条。南側のみ１条						
炉	遺存状態はそれほど良くない。焼土やや発達。炉の東側部分は旧炉の痕跡と考えられる						
付属施設	－						
床	有。硬く締まる。炉の周囲床直に焼土あり。						
その他	増改築有。周溝・炉・柱穴の状況から2回（以上）の改築を考えたい。						

遺構番号	24号住居址	時期	中期後葉Ⅰ期	検出位置	ＢＮ38・39	平面形	不整円形
規　模	490×455(630)×15	主軸	Ｎ66° Ｗ	埋土	黒褐色土。検出面から床面まで浅い		
検出状況	不明瞭。重複遺構が多い。2軒の重複の可能性もあるか？						
新旧関係	方形柱穴列1に切られる。ド300 と重褐						
壁	－						
主柱穴	有。5本柱？　P8・7 ～19						
周　溝	有。P8・19付近を通るものはほぼ全周（南側一部欠）。外側P1.4間に周溝状あり礫多い						
炉	遺存状態悪い						
付属施設	－						
床	有。やや硬い。P5・P10 間に多量の焼土あり。						
その他	増改築有？周溝および多数の柱穴の重複があり。						

表22　22号住居址　・　表23　23号住居址　・　表24　24号住居址

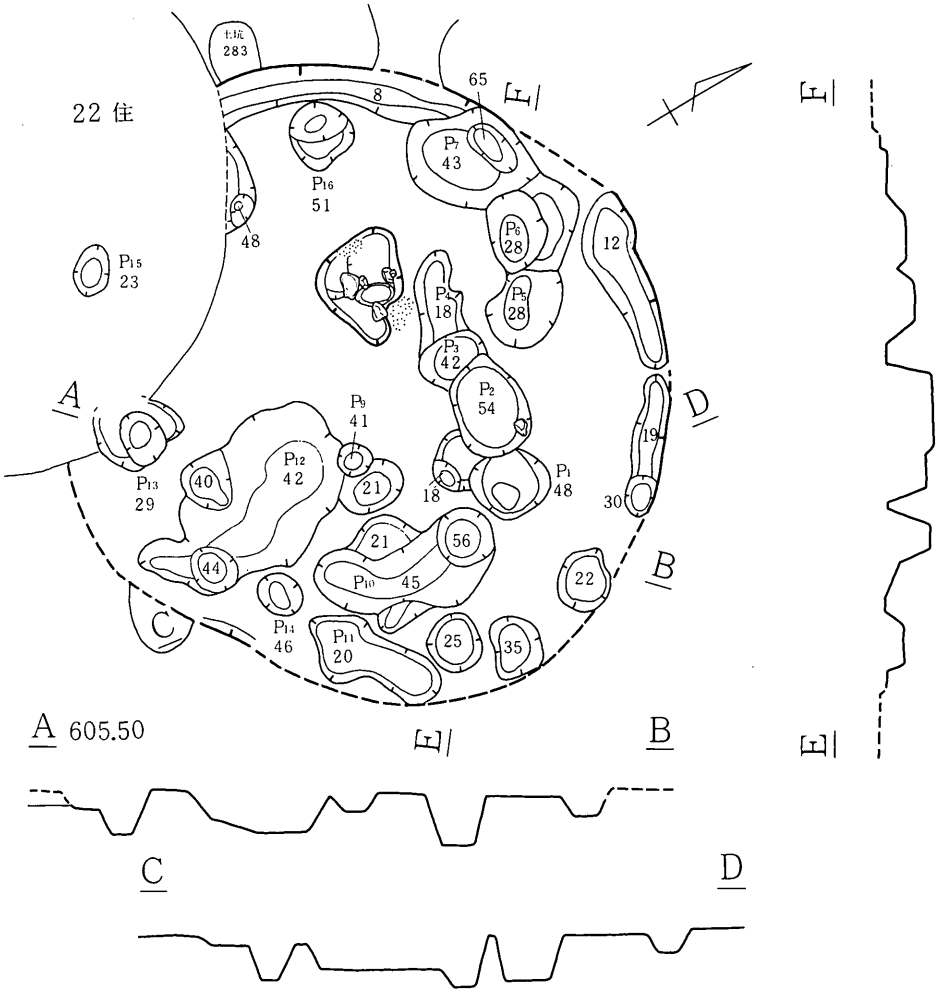


挿図26　24号住居址



A
B
C
D
E
F
G
H
P1 6
P2 26
P3 23
P4 24
P5 17
P6 51
P7 25
P8 13
P9 25
土坑 290
土坑 283
25住 炉
23住
26住
605.50
605.64
0 2m
0 1m

挿図27　25号住居址


土坑
283
22 住
8
65
P7
43
P16
51
48
P15
23
P6
28
P5
28
12
P4
18
P3
42
P2
54
A
P9
41
D
19
P12
42
P13
29
40
21
18
P1
48
30
21
56
44
P10
45
22
B
C
P14
46
P11
20
25
35
A 605.50
B
C
D
606.44
0
1m

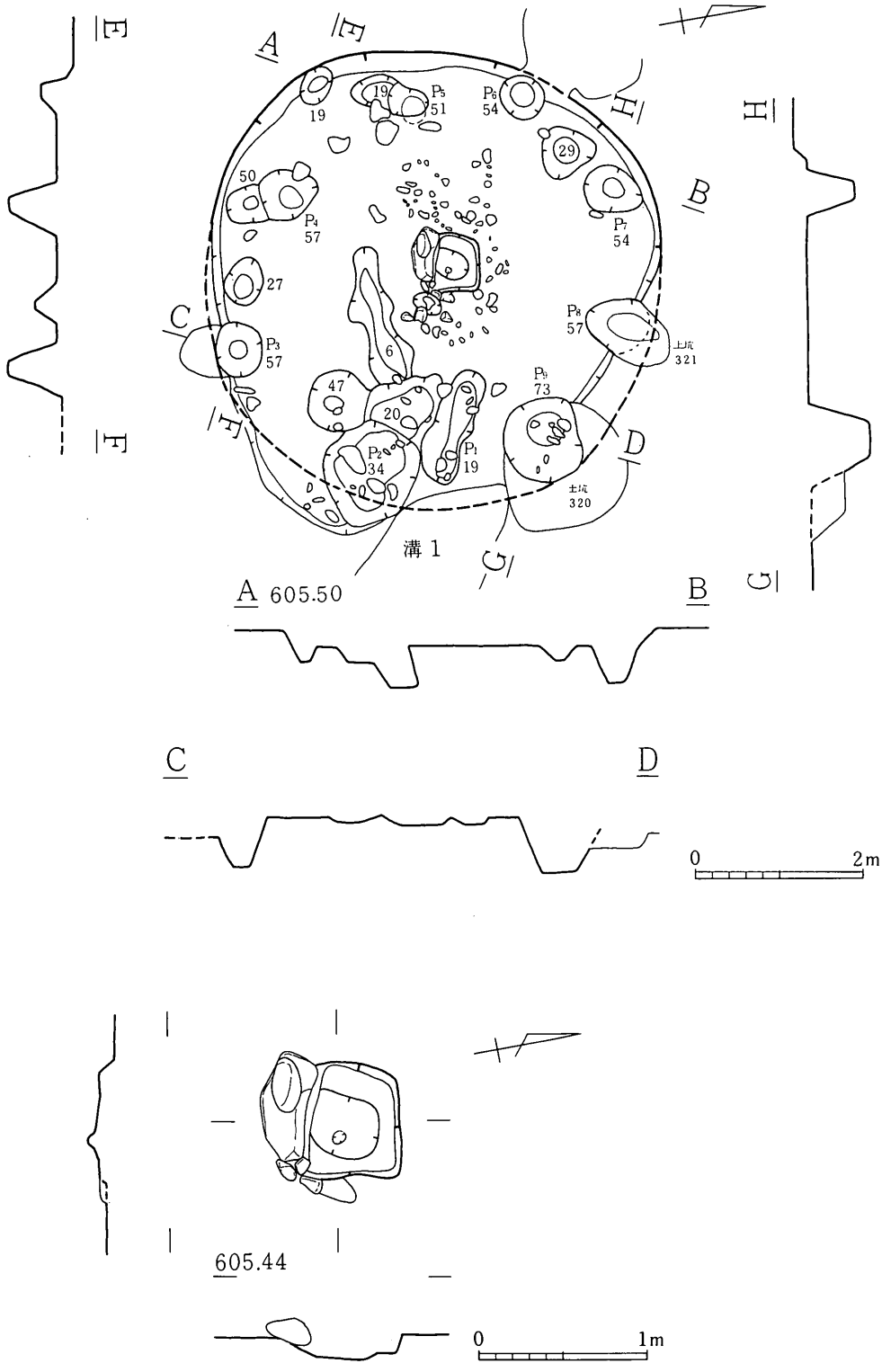
挿図28　26号住居址

遺構番号	25号住居址	時期	中期後葉	検出位置	ＢＬ33	平面形	不整形
規　模	－×－×10	主軸	不明	埋土	柱穴埋土　褐色土		
検出状況	2軒重複？床まで浅く十分に把握できず。						
新旧関係	23住・26住。26住より古い？26住上に貼床なし。						
壁	－						
主柱穴	不明						
周　溝	無						
炉	中央のピットに炉石と考えられる石転落。焼土なし。						
付属施設	－						
床	有。硬くない。						
その他	覆土・柱穴中よりの遺物出土少ない。						

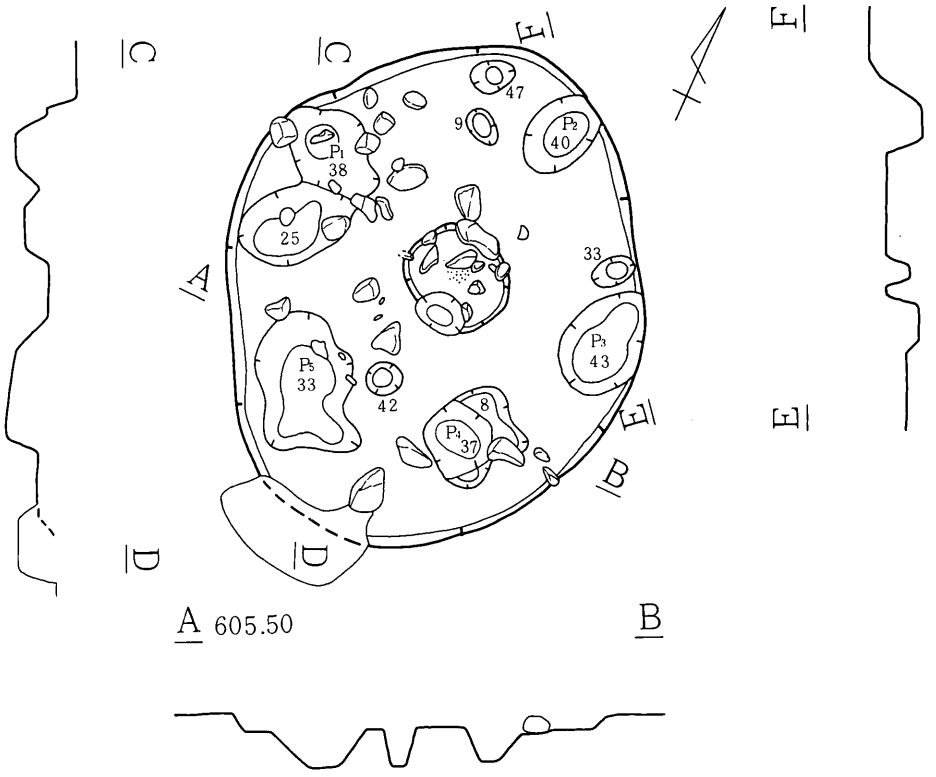
遺構番号	26号住居址	時期	中期後葉Ⅰ期	検出位置	ＢＭ29	平面形	不整円形？
規　模	695×　650×10	主軸	N60°　W	埋土	褐色土		
検出状況	西、北西壁の一部、周溝の北東側～西側の一部を検出したのみ。南側は不明。						
新旧関係	集石土坑8を切る。22住に切られる。集石土坑を炉や柱穴が切る。						
壁	一部検出。立ち上がりの状態不明						
主柱穴	－						
周　溝	－						
炉	遺存状態悪い。焼土わずかにあり。						
付属施設	－						
床	有。硬く締まる。						
その他	－						

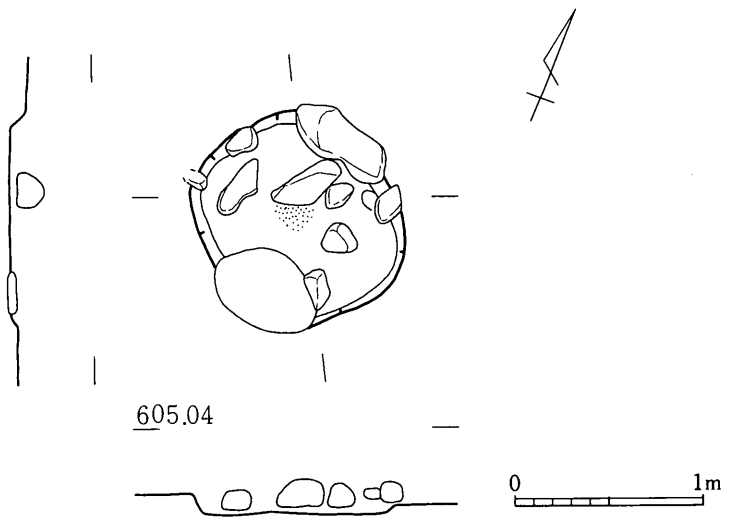
遺構番号	27号住居址	時期	中期後葉Ⅳ期	検出位置	ＢＨ30・31	平面形	不整円形
規　模	(530)×　535×20	主軸	N80°　W	埋土	黒褐色土		
検出状況	－						
新旧関係	ミ1、ド321 。ミ1が新しい。ドとの新旧関係不明						
壁	約1／2 検出。東側は掘りすぎ及び掘り足りない部分がある。検出面から浅く状態不明						
主柱穴	有。8本主柱　P2～P9						
周　溝	無						
炉	炉址は細かい礫集中部分を掘り凹む。焼土・炭検出できず						
付属施設	－						
床	有？ロームマウンドにかかる礫上部に貼床されたと考えられるが、確認できず						
その他	炉の周囲にロームマウンドで上がったと考えられる10～20cm大の多量の礫あり						

表25　25号住居址　・　表26　26号住居址　・　表27　27号住居址

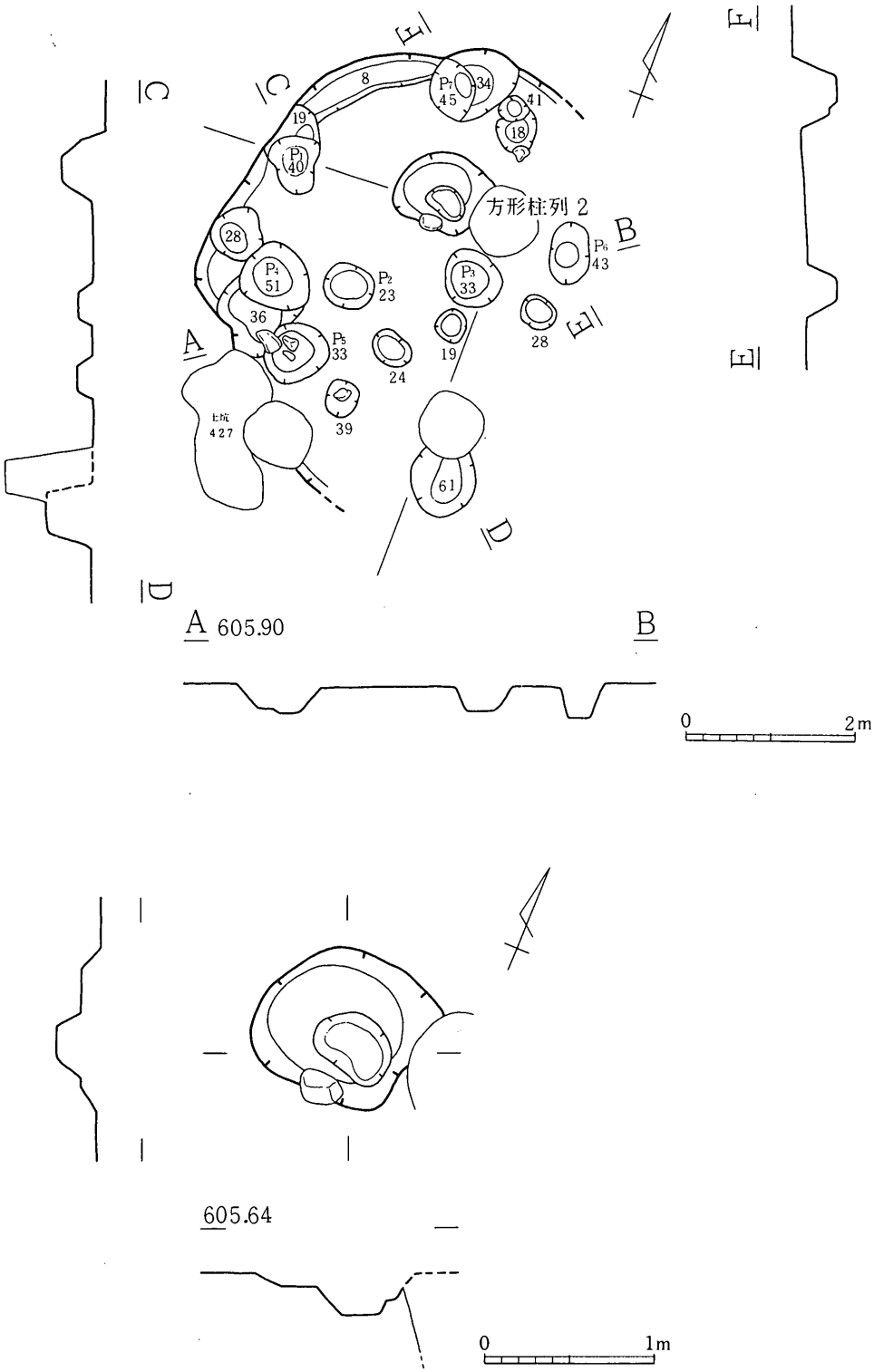

A
B
C
D
E
F
G
H
19
P5
51
P6
54
29
50
P4
57
P7
54
27
P8
57
上坑
321
P3
57
6
47
P9
73
20
P2
34
P1
19
土坑
320
溝 1
A 605.50
B
C
D
0
2m
605.44
0
1m

挿図29　27号住居址


C
C
F
F
47
9
P2
40
P1
38
25
D
33
A
P3
43
P5
33
42
8
P4
37
E
E
B
D
D
A 605.50
B


605.04
0
1m

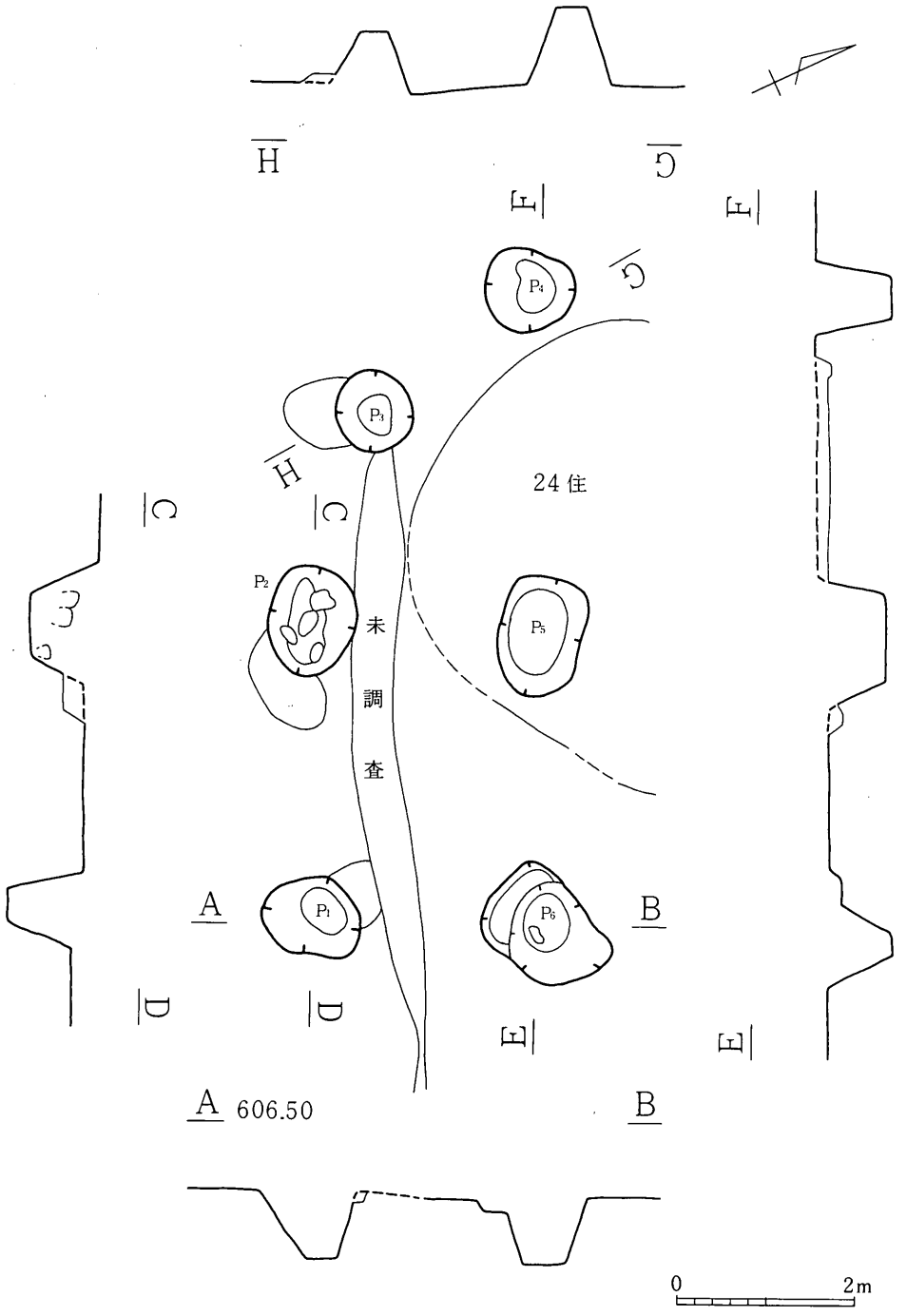
挿図30　28号住居址


方形柱列 2
P1 40
P2 23
P3 33
P4 51
P5 33
P6 43
P7 45
8
19
34
41
18
28
36
24
39
19
28
61
土坑 427
A 605.90
B
0 2m
605.64
0 1m

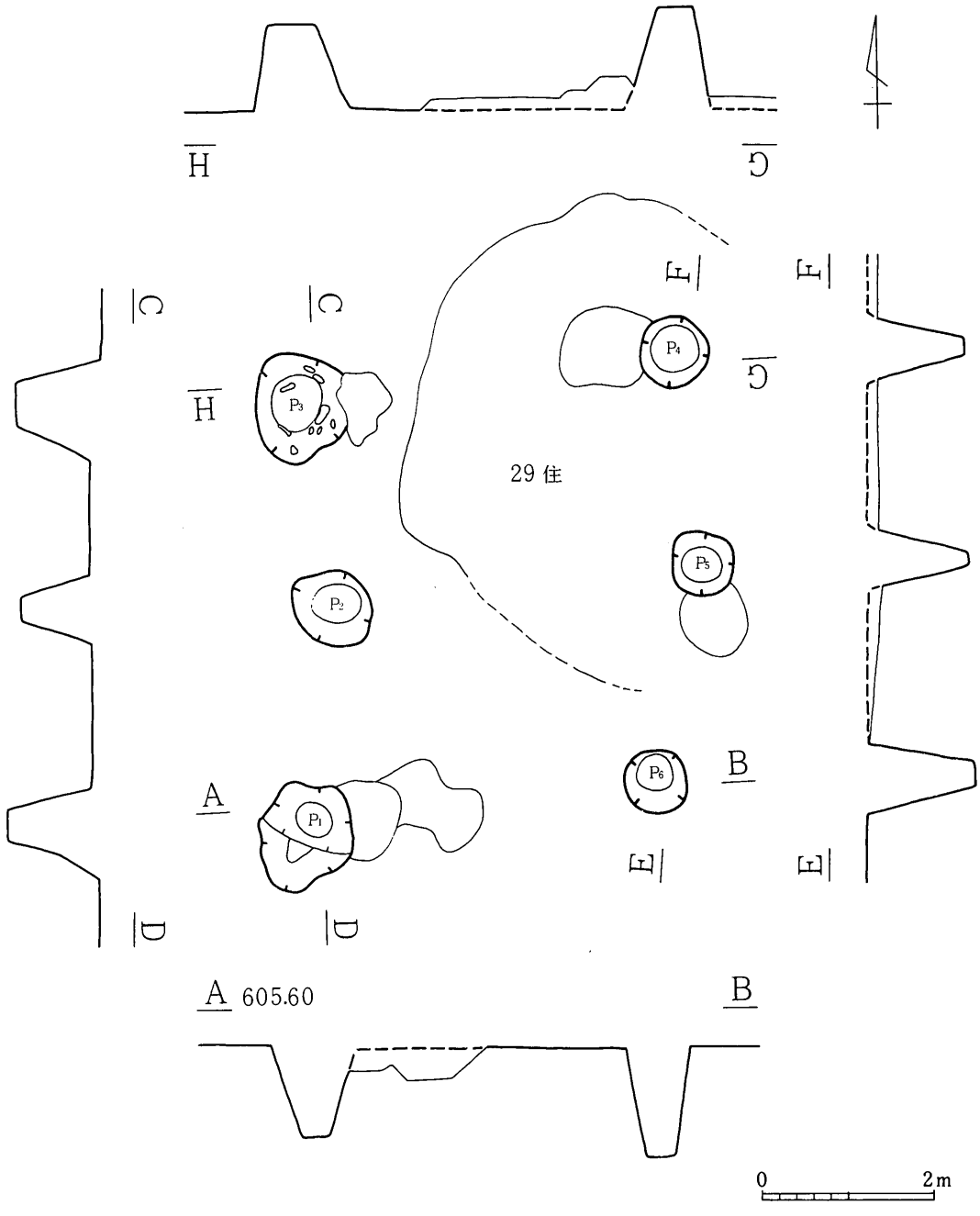
挿図31　29号住居址

遺構番号	28号住居址	時期	中期？	検出位置	ＢＪ26・27	平面形	－
規　模	510× 440×20	主軸	N24.5° W	埋土	黒褐色土		
検出状況	－						
新旧関係	18住を切ると思われる						
壁	浅いがほぼ全体を検出。立ち上がりの状態不明。						
主柱穴	有。５本主柱　Ｐ１～５						
周　溝	－						
炉	石組炉一部炉石欠如。遺存状態悪い。焼土あり						
付属施設	－						
床	掘り方が確認され、黄土混黒褐のやや軟弱な貼床がある。						
その他	遺物僅少						
遺構番号	29号住居址	時期	中期後葉Ⅱ期？	検出位置	ＡＸ33・ＡＹ33	平面形	円形？
規　模	－×－×10	主軸	不明	埋土	褐色土		
検出状況	田の造成により東半削平。耕土から浅く大半削平						
新旧関係	方形柱穴列２に切られる						
壁	大きく削平され、立ち上がりの状態不明　Ｐ１・５～７						
主柱穴	有。東半検出できず						
周　溝	－						
炉	遺存状態悪い。焼土なし						
付属施設	－						
床	有。非常に硬く締まる。						
その他	－						

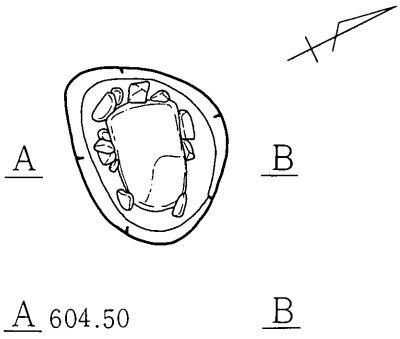
表28　28号住居址　・　表29　29号住居址



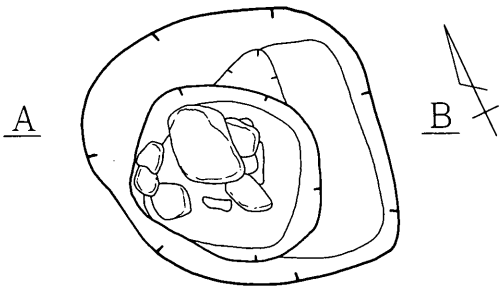
挿図32　方形柱穴列1



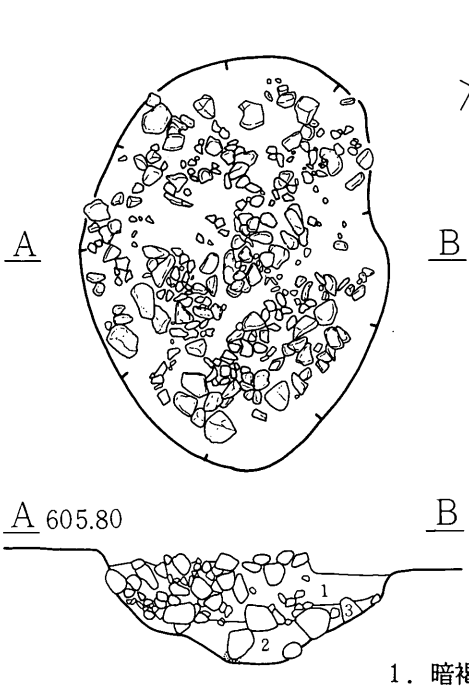
挿図33　方形柱穴列2



集石土坑 1

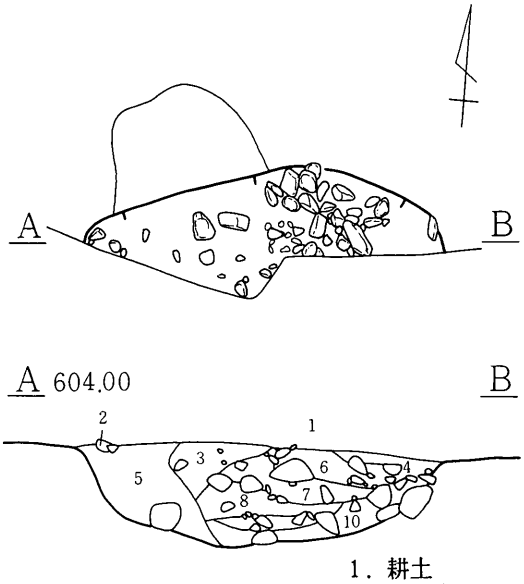


集石土坑 2



集石土坑 3

1．暗褐色土
2．炭
3．暗黄褐色土

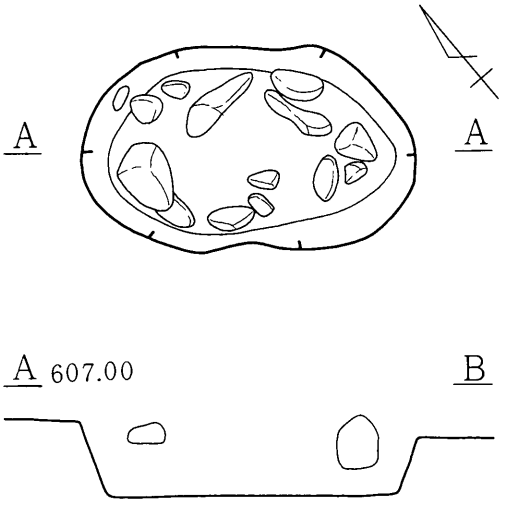


集石土坑 4

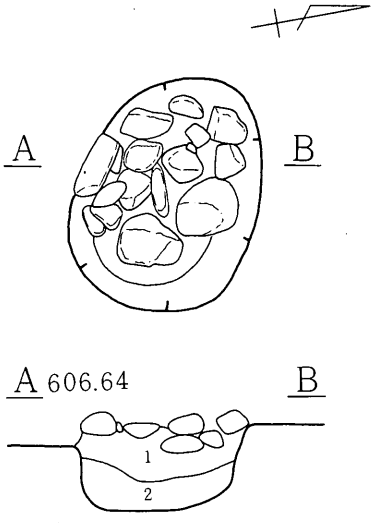
1．耕土
2．黄色土ブロック
3．黄白色砂質土
4．炭・黄土混黒色土
5．黒褐色土
6．暗黄色砂質土
7．暗黄褐色砂質土
8．暗褐色砂質土
9．漆黒土
10．黒色土

0 1m

挿図34　集石土坑1～4

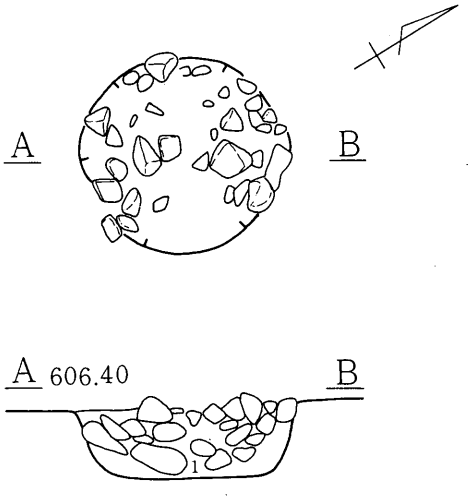


集石土坑 5



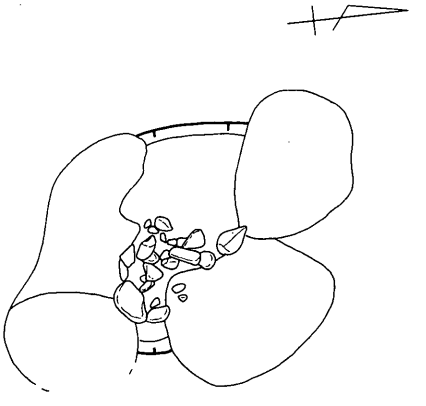
1．黒褐色土
2．黄土混黒褐色土

集石土坑 6



1．炭混漆黒土

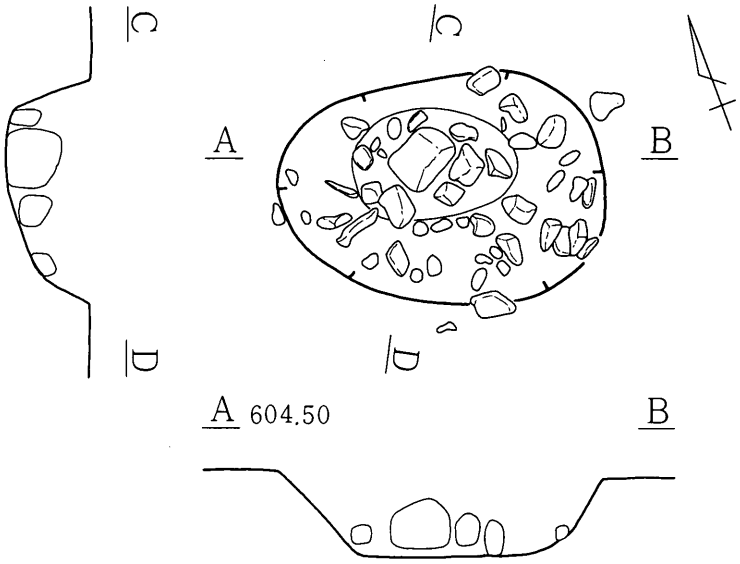
集石土坑 7



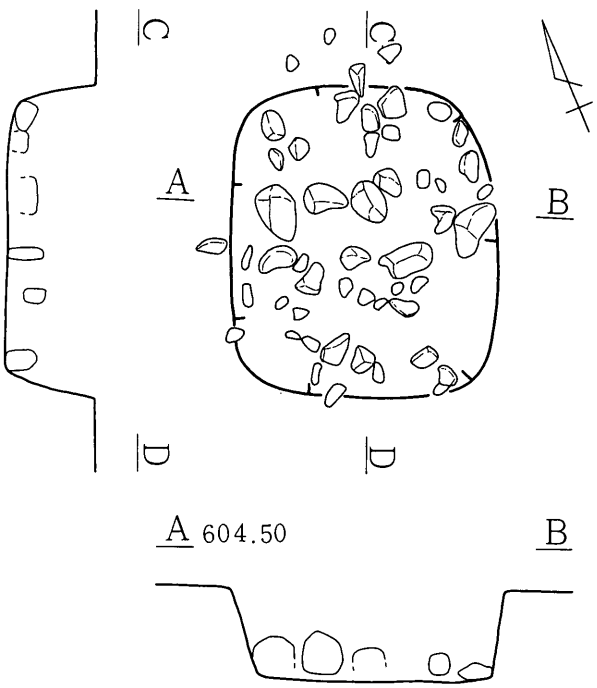
集石土坑 8

0 1m

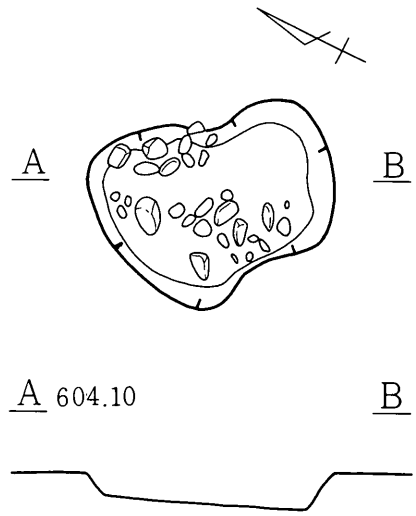
挿図35　集石土坑 5 ～ 8



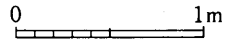
集石土坑 9



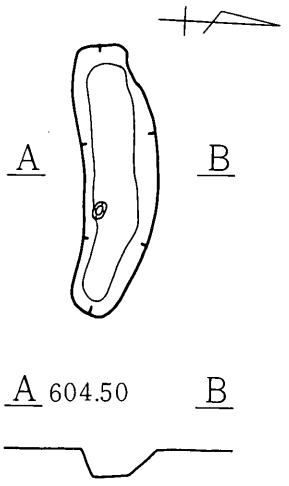
集石土坑 10



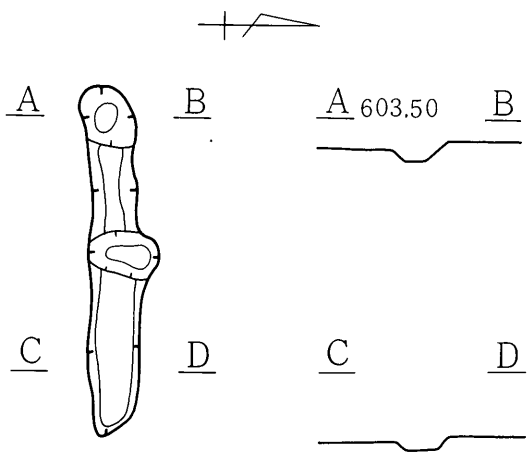
集石土坑 11



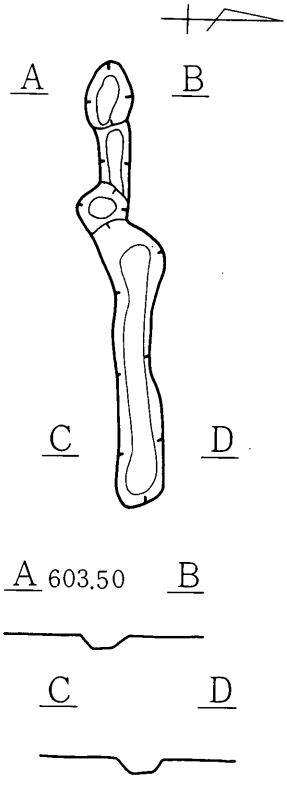
挿図36　集石土坑 9 ～11



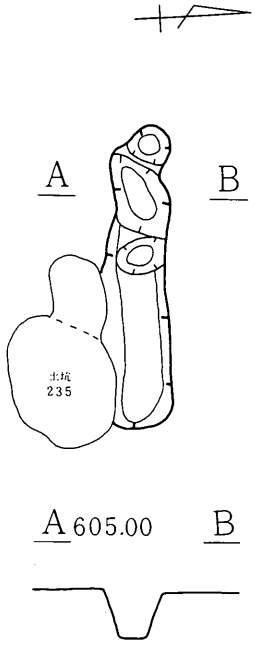
溝状 1



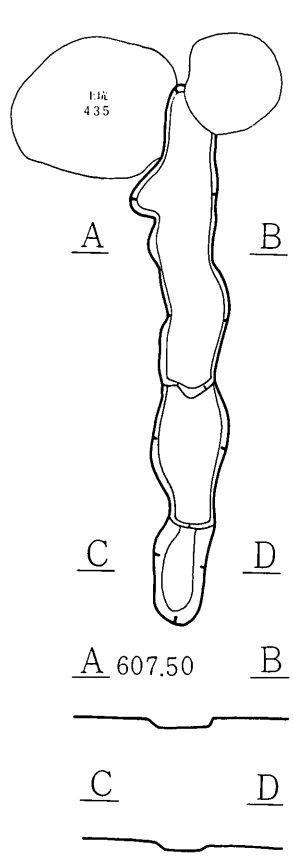
溝状 2



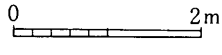
溝状 3



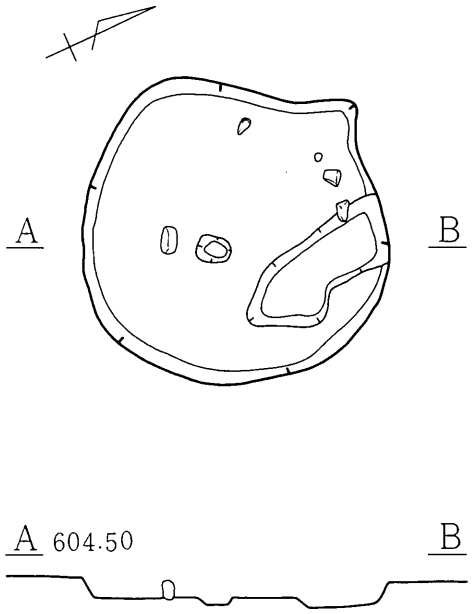
溝状 4



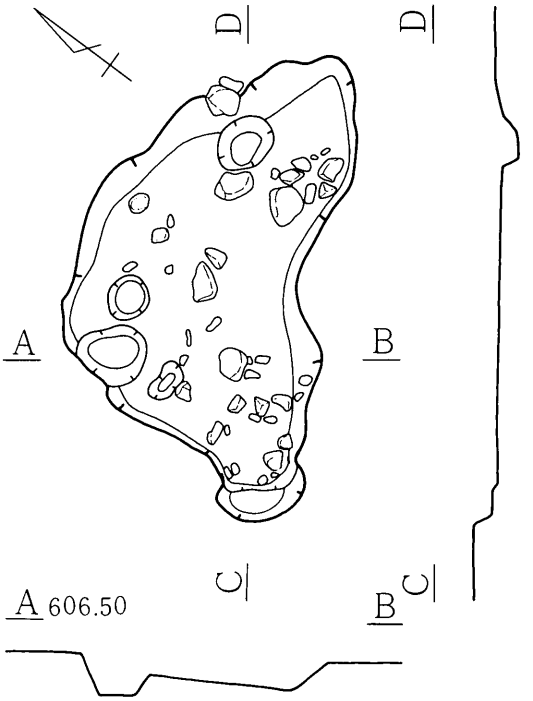
溝状 5



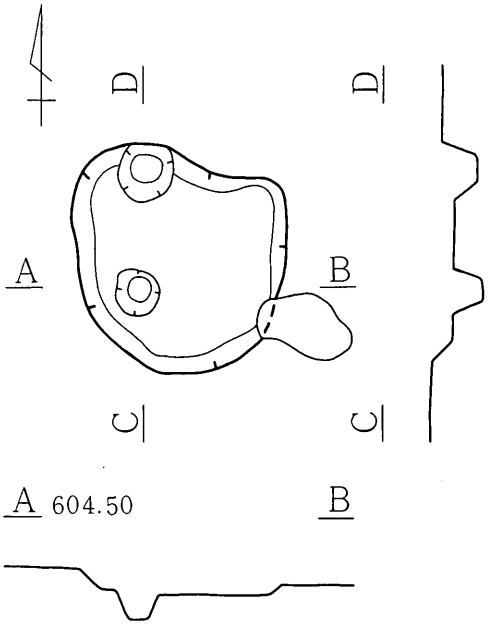
挿図37　溝状址 1 ～ 5



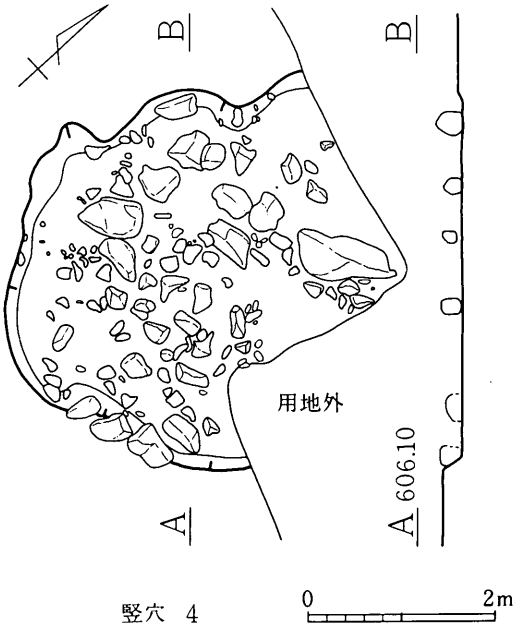
竪穴 1



竪穴 2

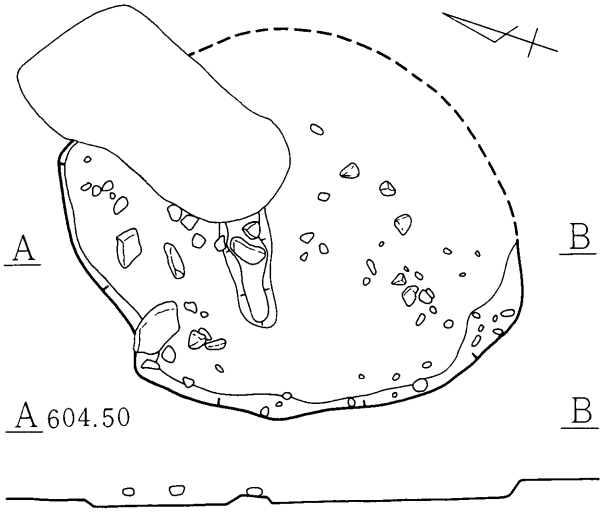


竪穴 3



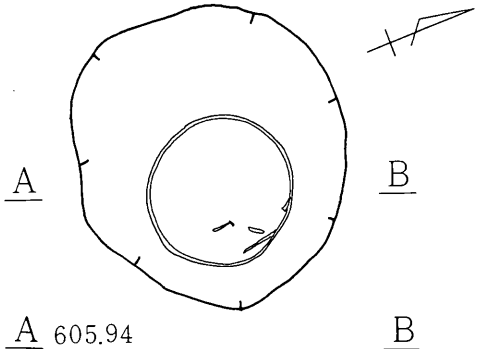
竪穴 4

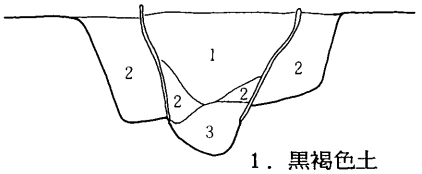
挿図38　竪穴1～4



竪穴 5

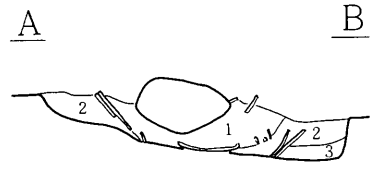
0 2m





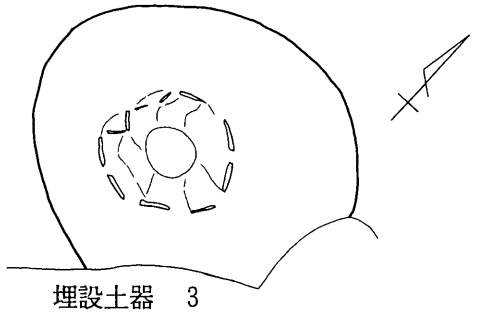
1．黒褐色土
2．黄土混褐色土
3．黒土混灰黄色砂質土

埋設土器 1



埋設土器 2

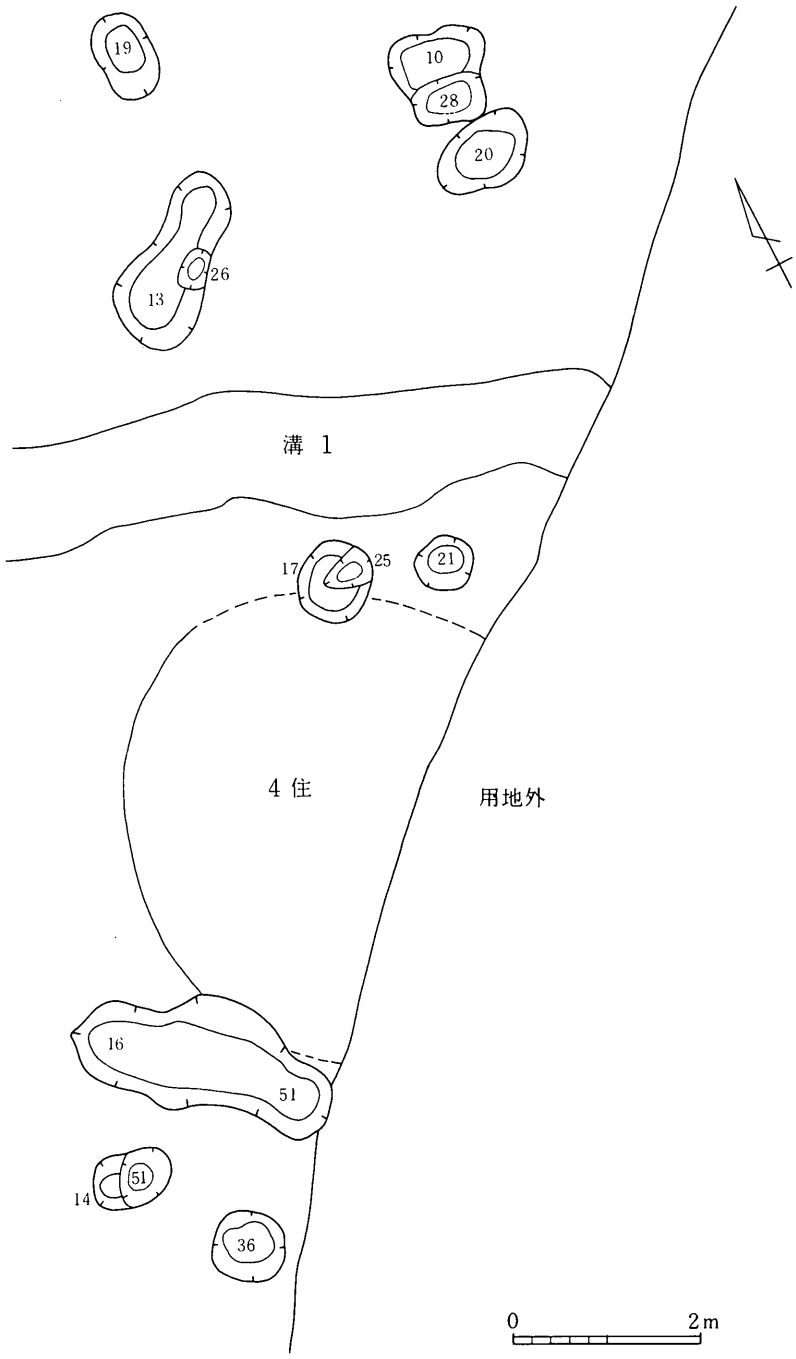
1．暗褐色土
2．暗黄褐色土
3．黄褐色土



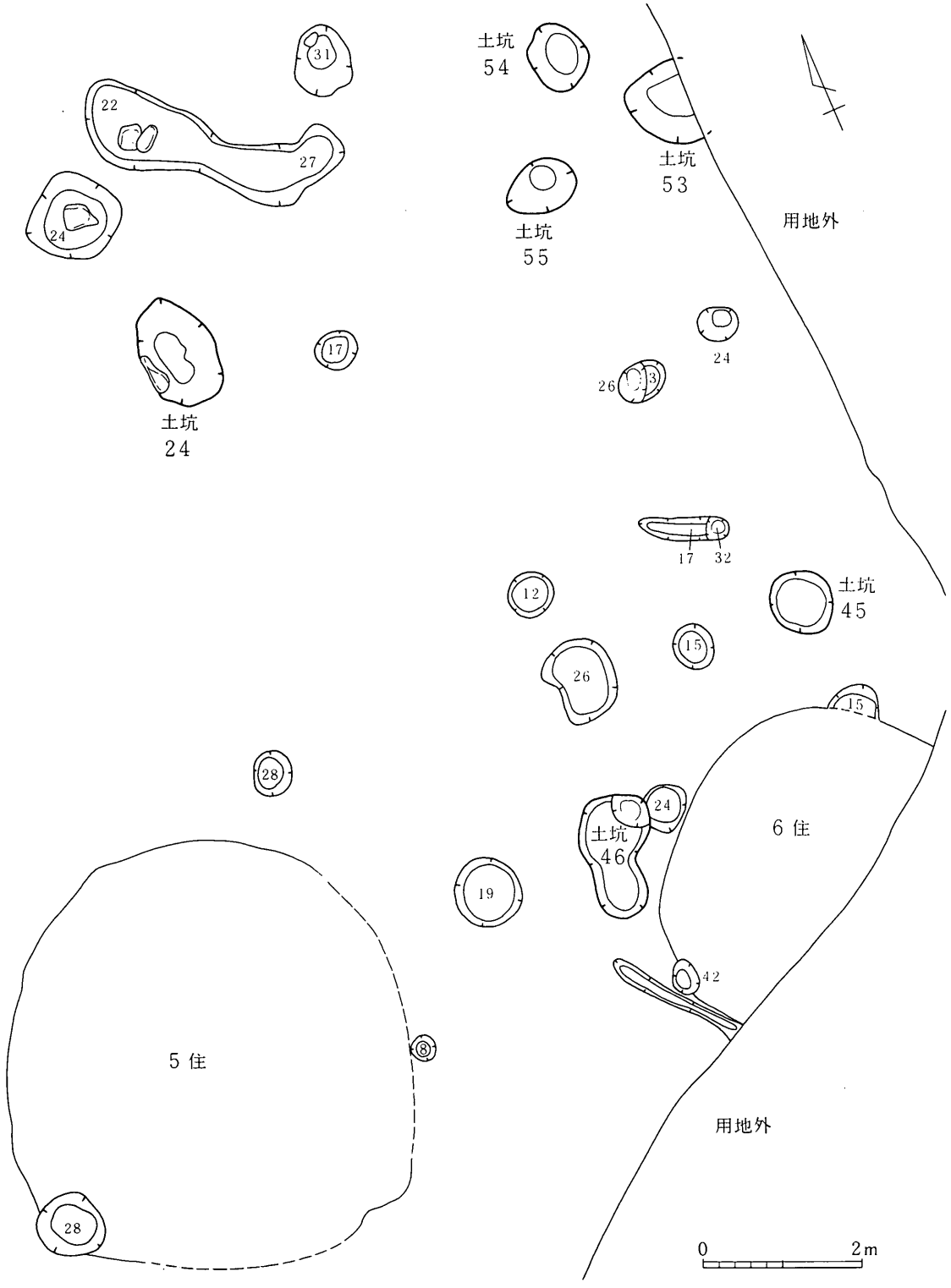
埋設土器 3

0 1m

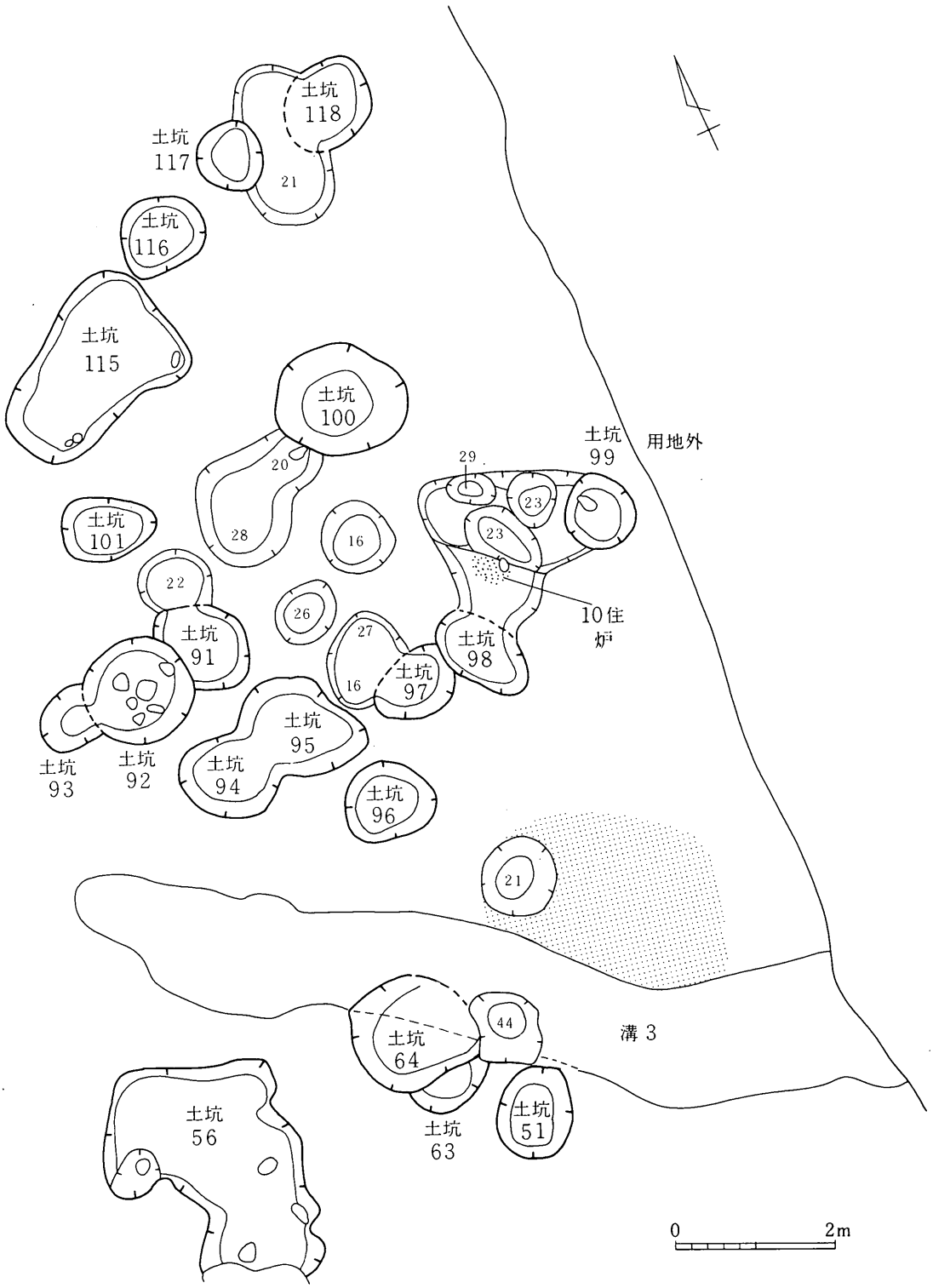
挿図39 竪穴5 埋設土器1～3



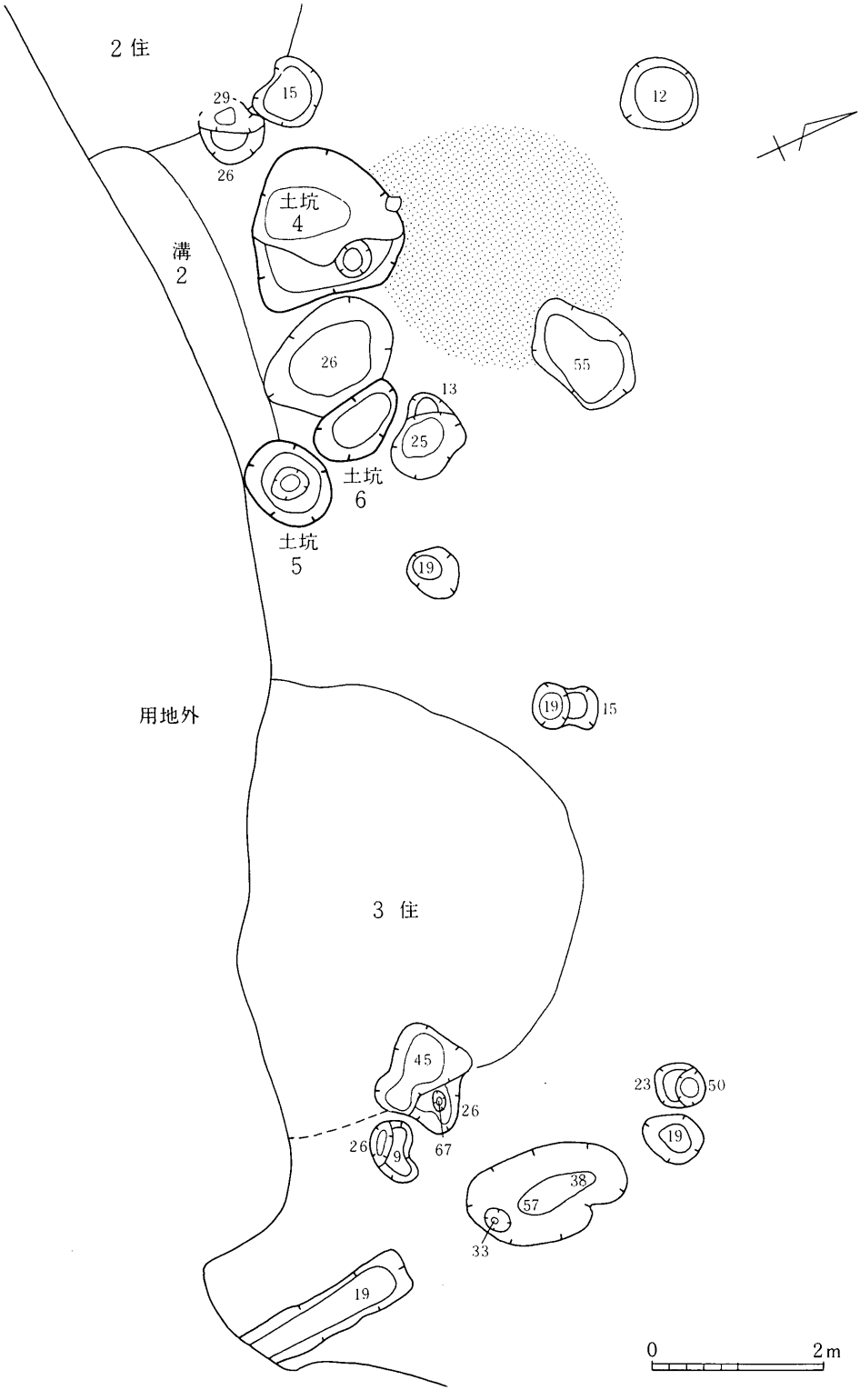
挿図40　土坑・周辺柱穴平面図（１）



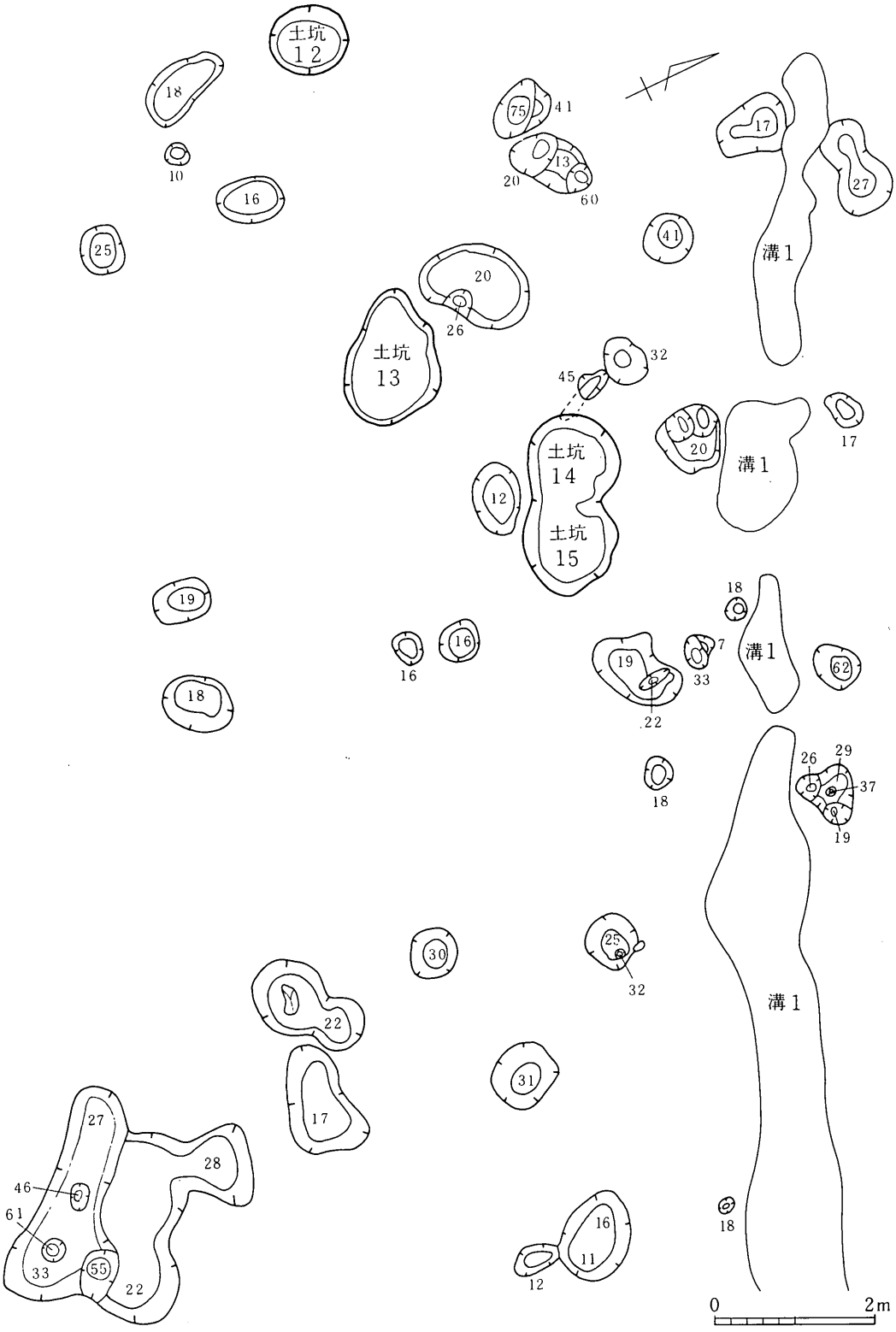
挿図41　土坑・周辺柱穴平面図（2）



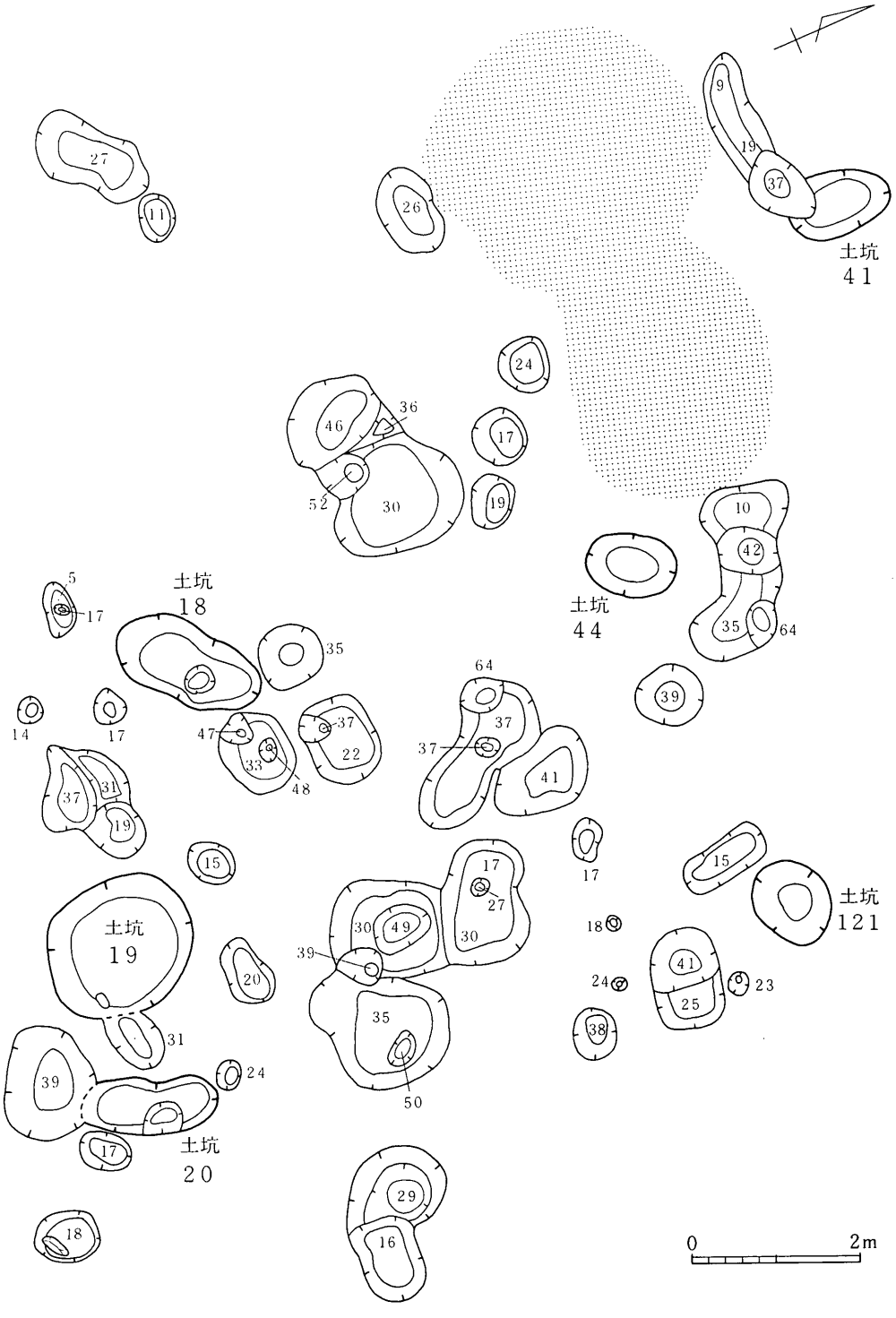
挿図42　土坑・周辺柱穴平面図（３）



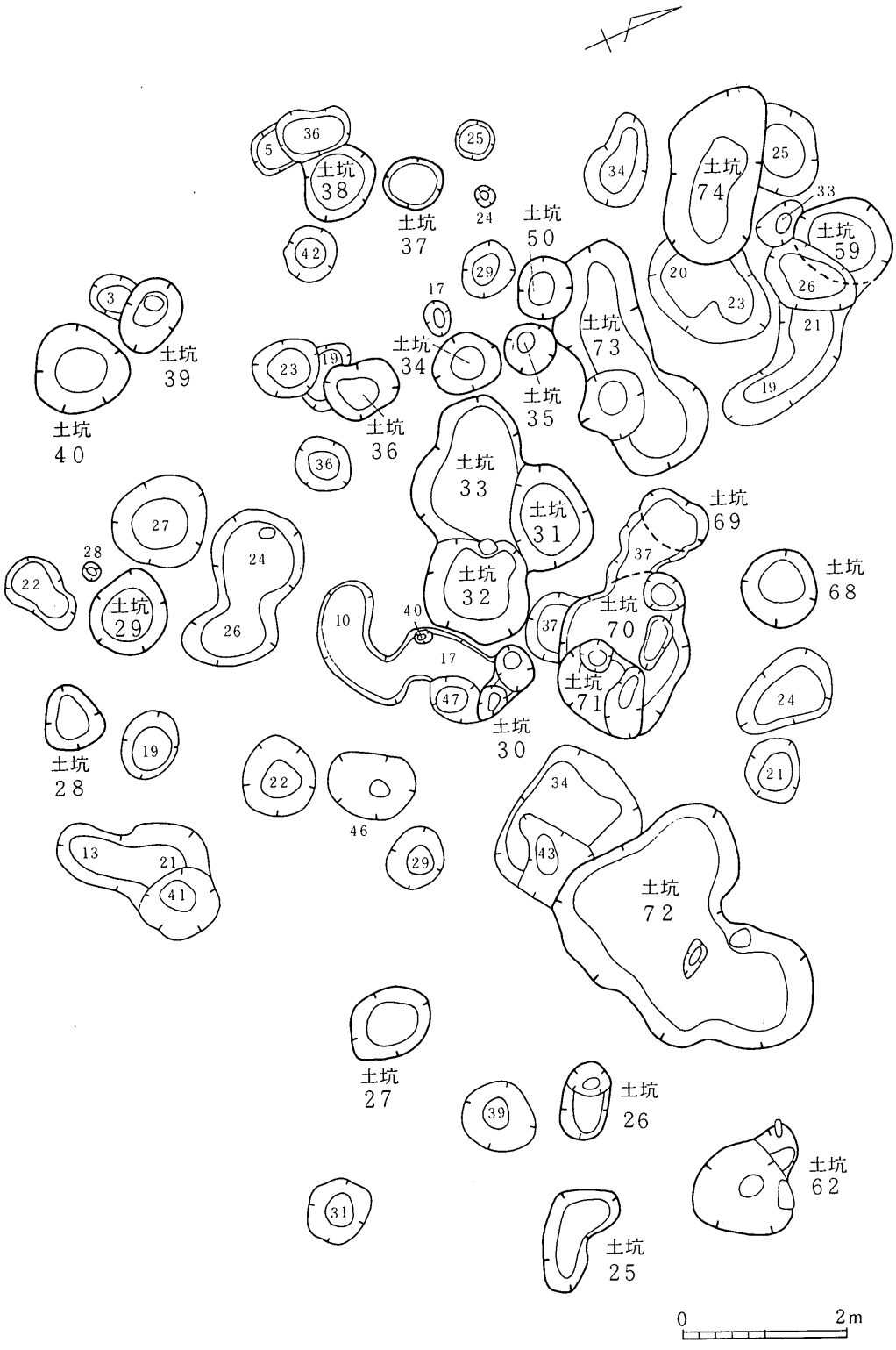
挿図43　土坑・周辺柱穴平面図（４）



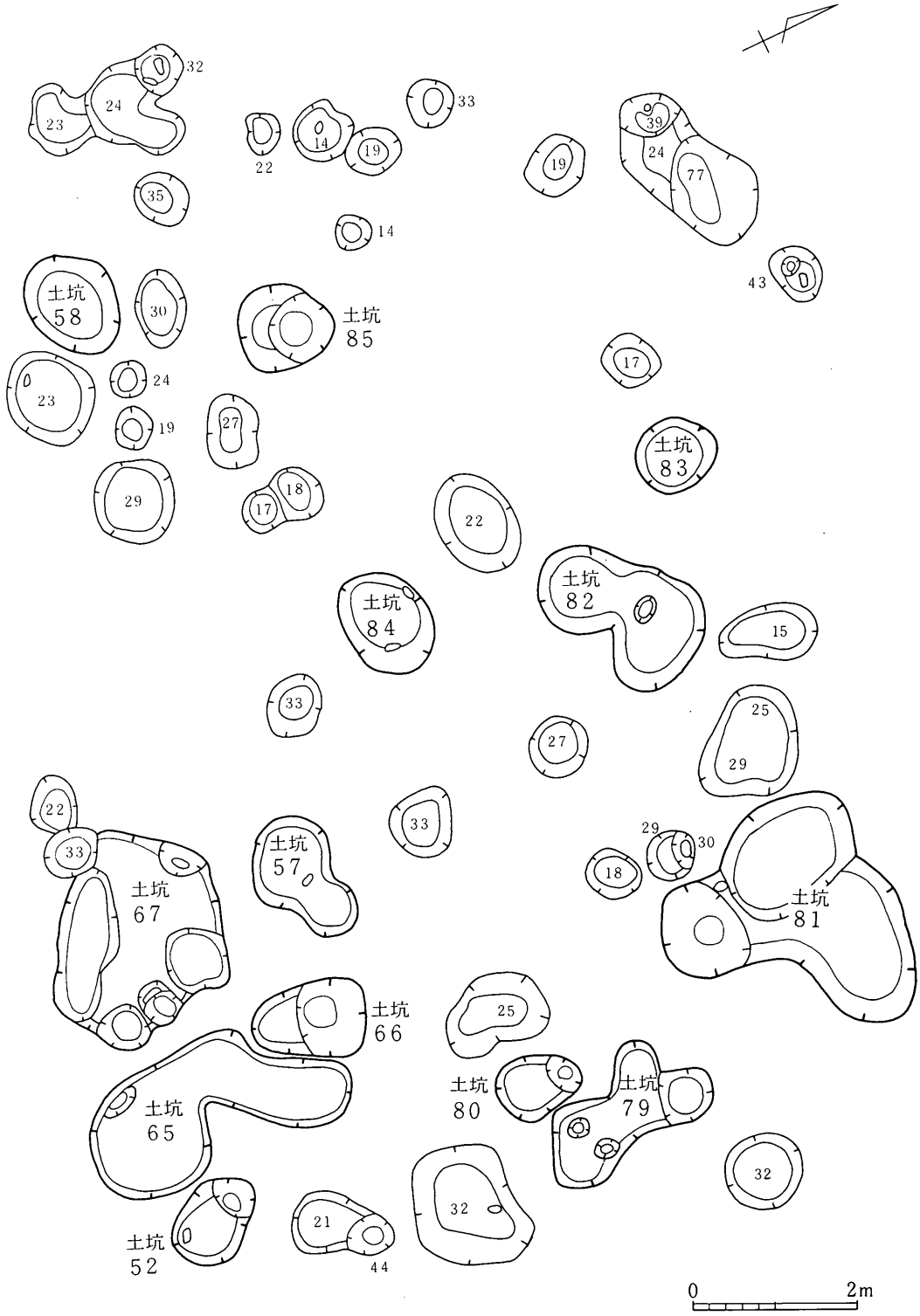
挿図44　土坑・周辺柱穴平面図（５）



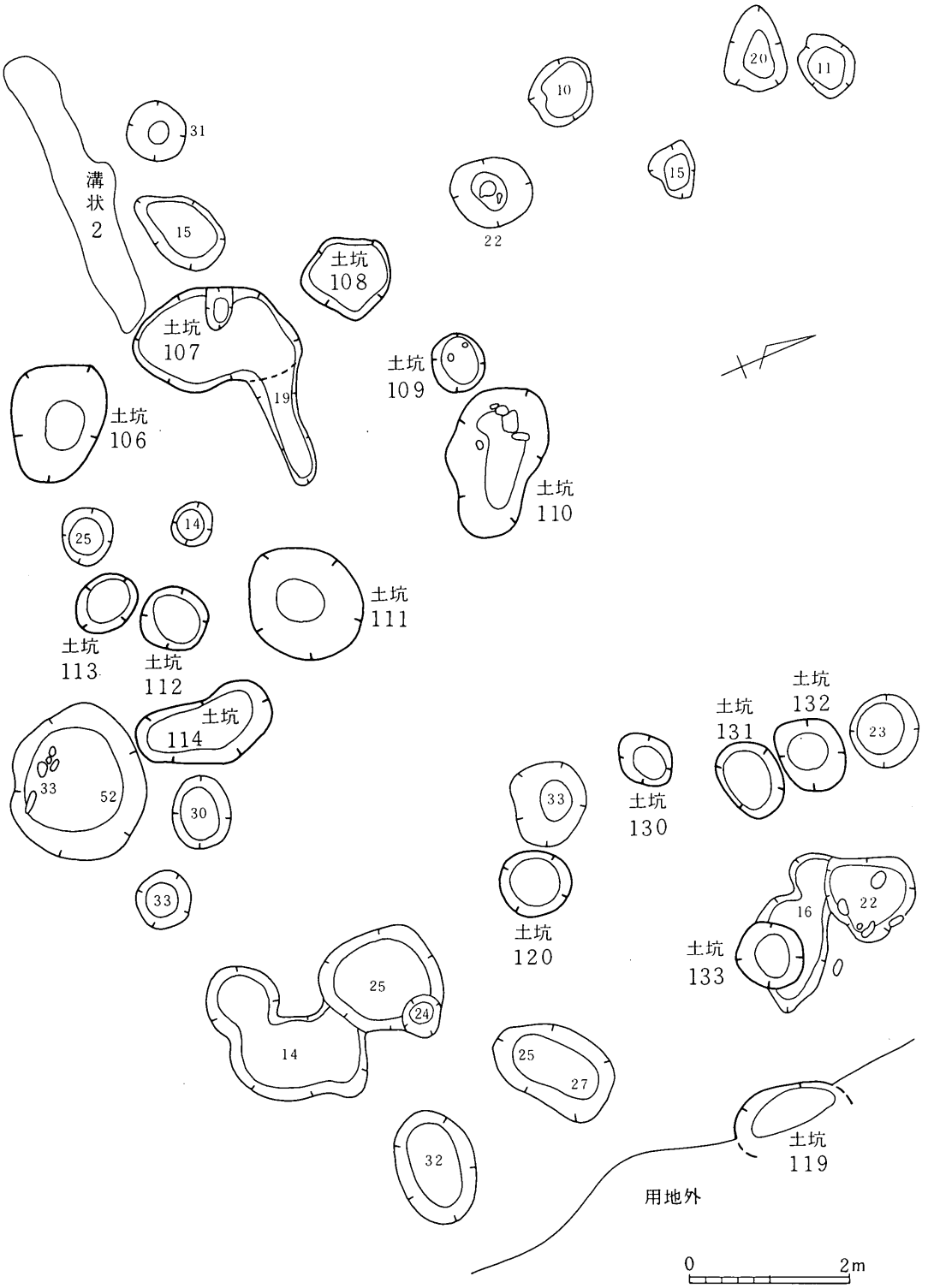
挿図45　土坑・周辺柱穴平面図（６）



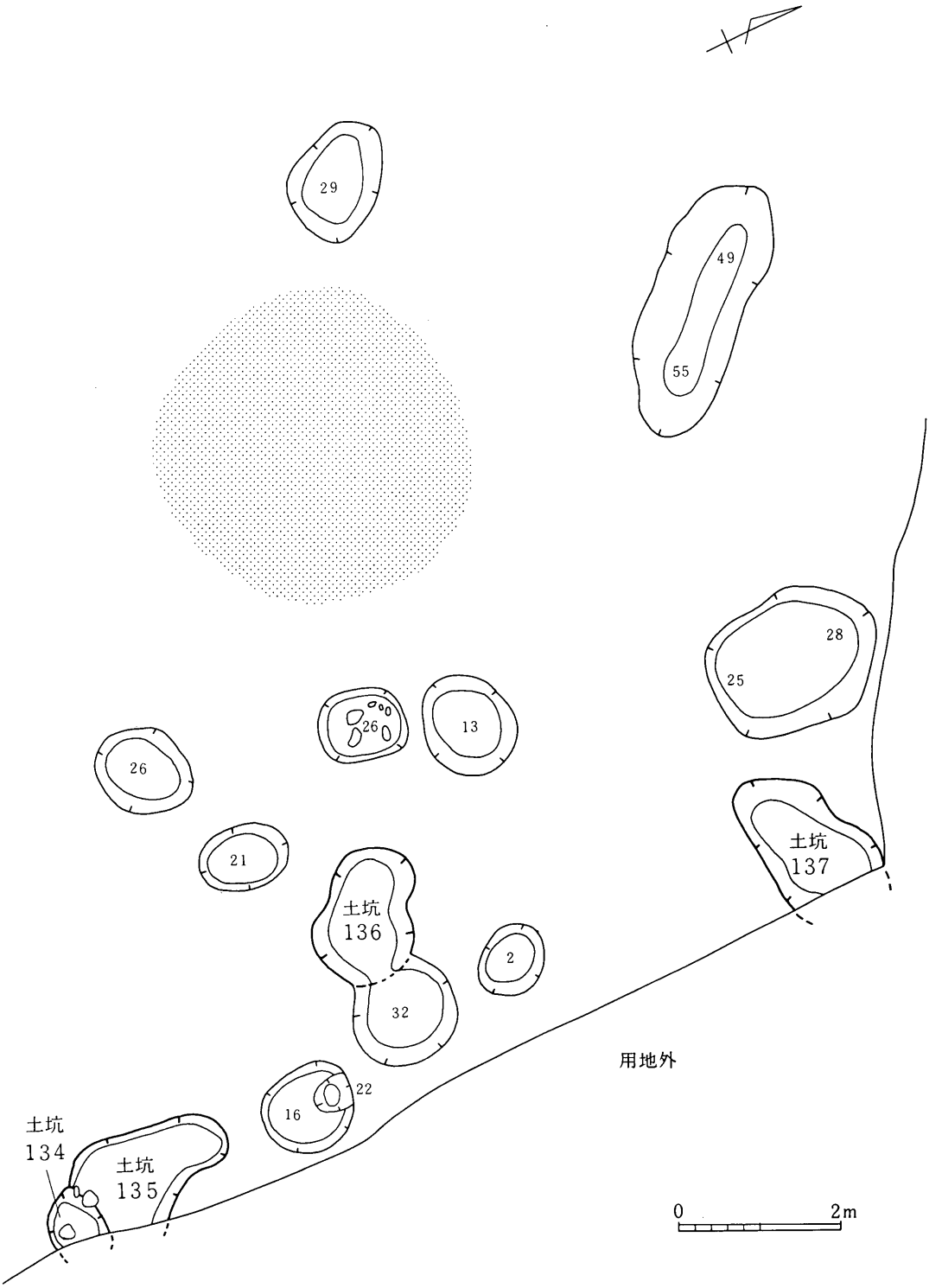
挿図46　土坑・周辺柱穴平面図（７）



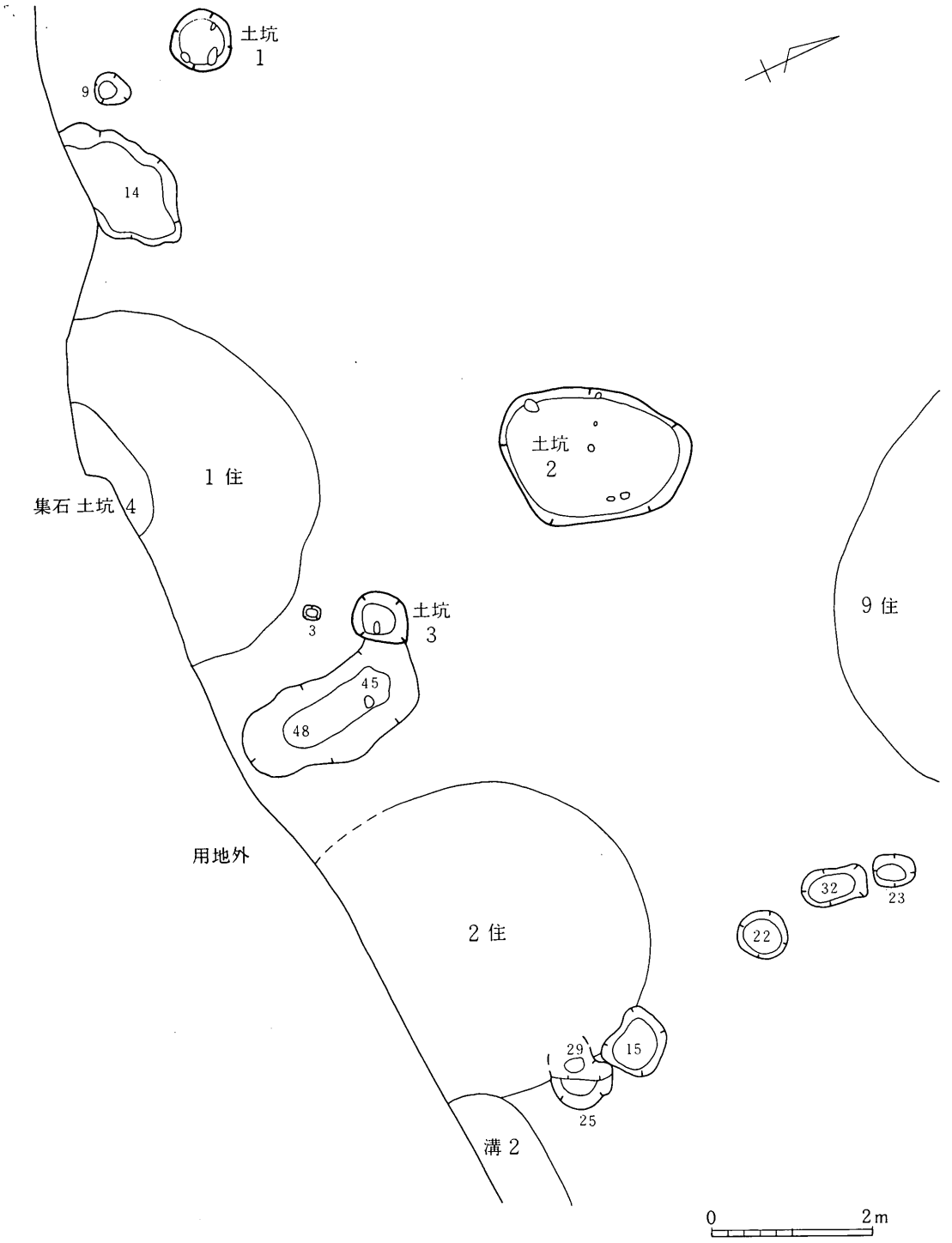
挿図47　土坑・周辺柱穴平面図（８）



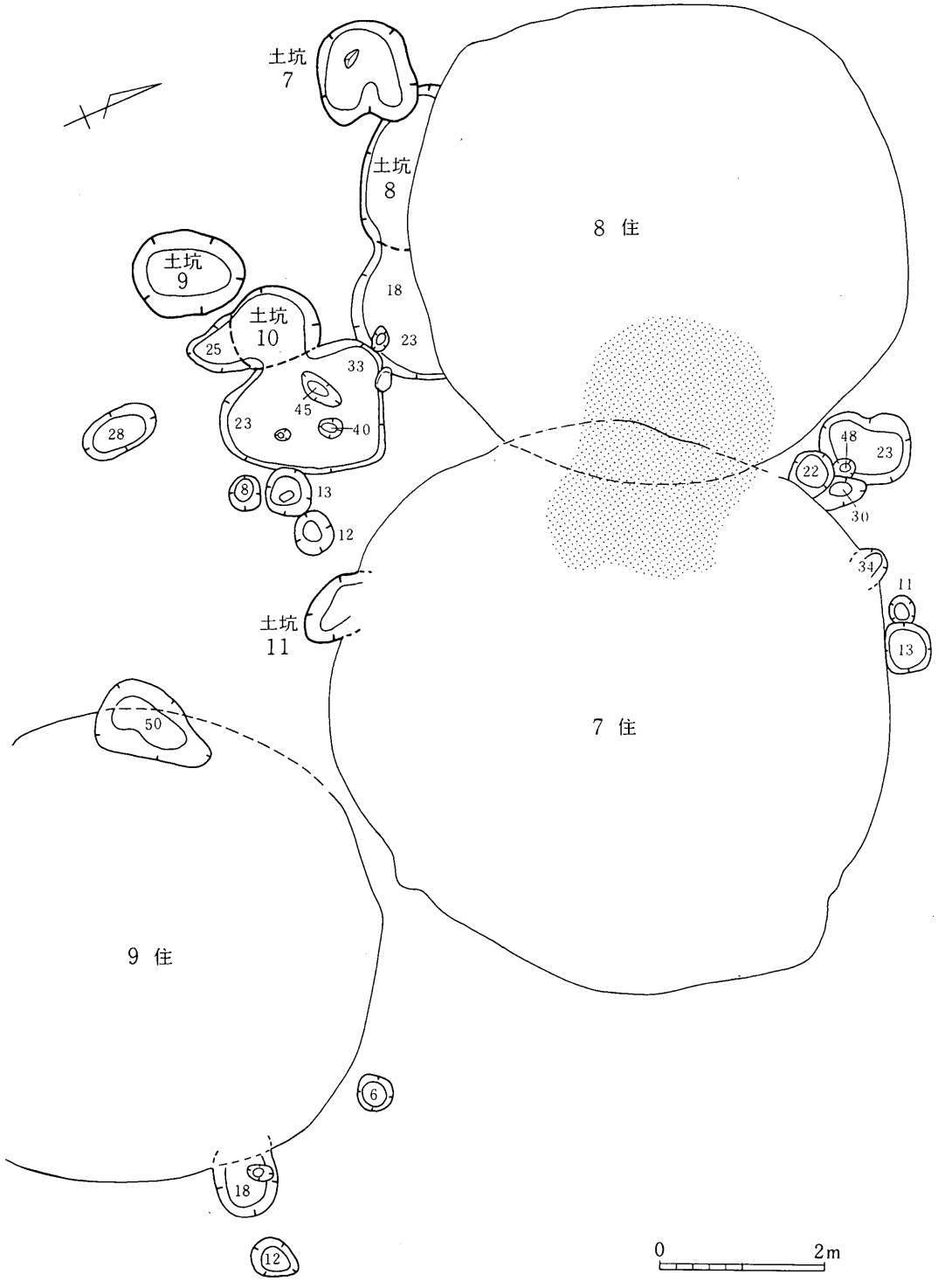
挿図48　土坑・周辺柱穴平面図（９）



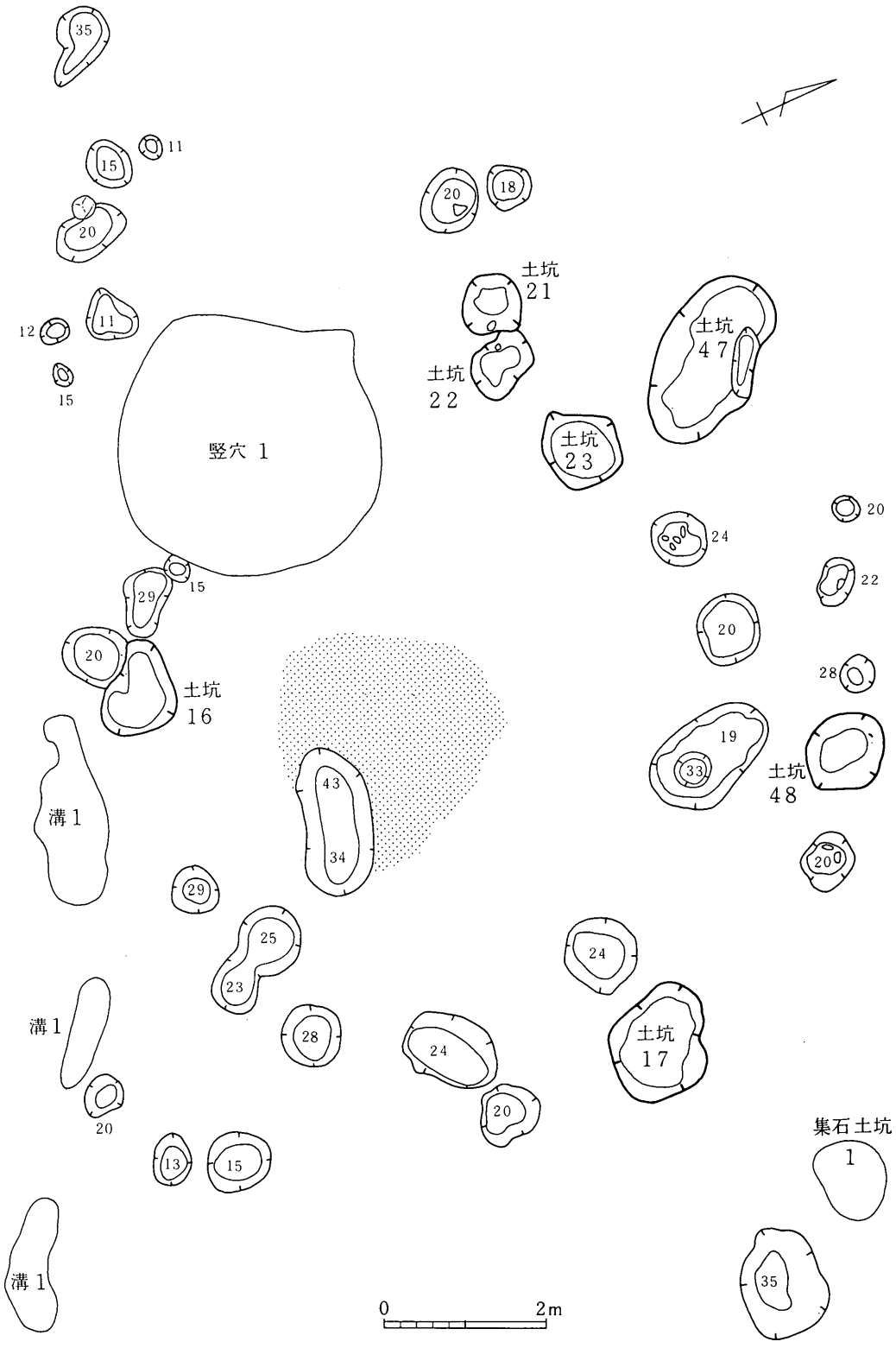
挿図49　土坑・周辺柱穴平面図（10）



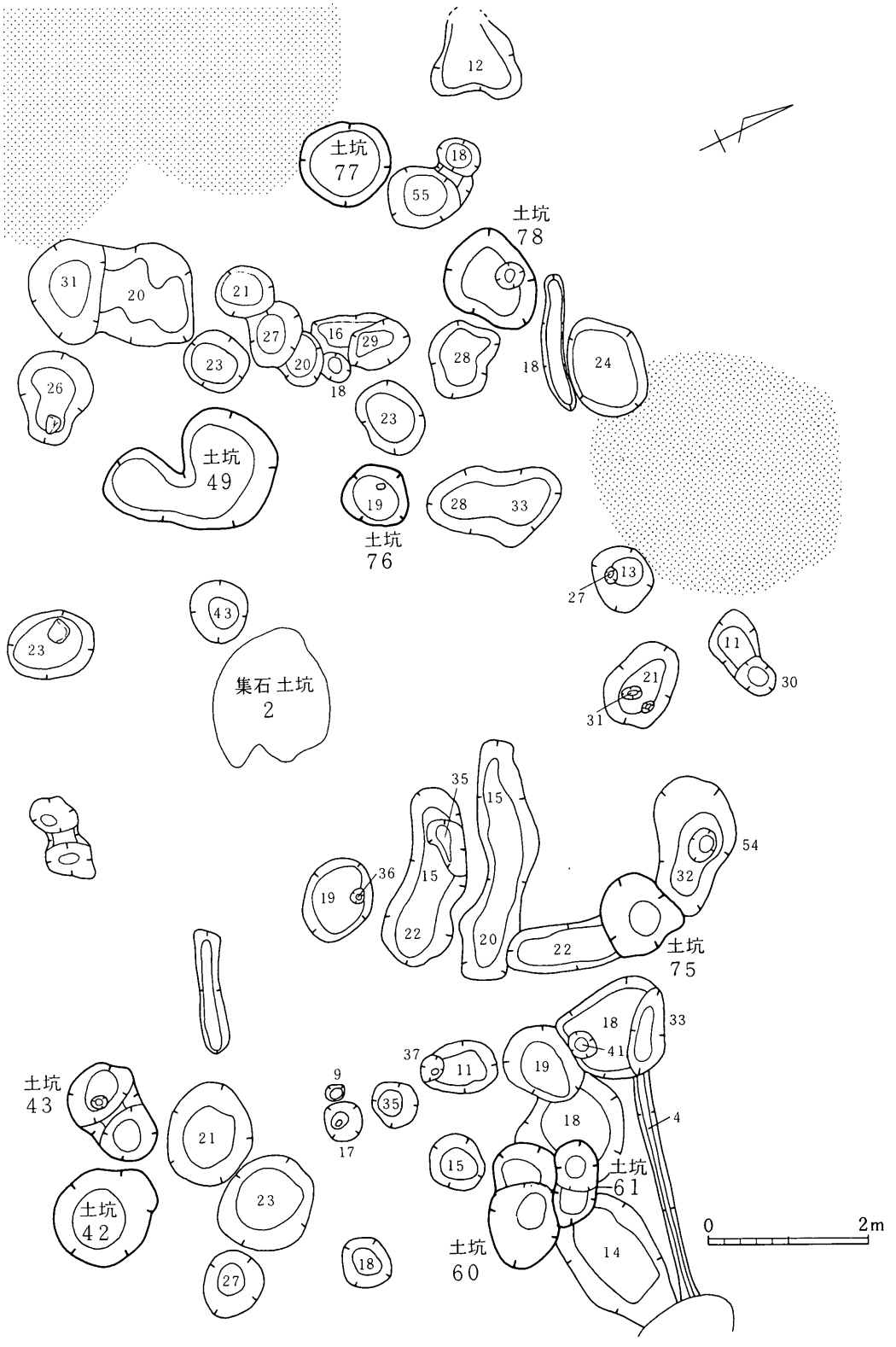
挿図50　土坑・周辺柱穴平面図（11）



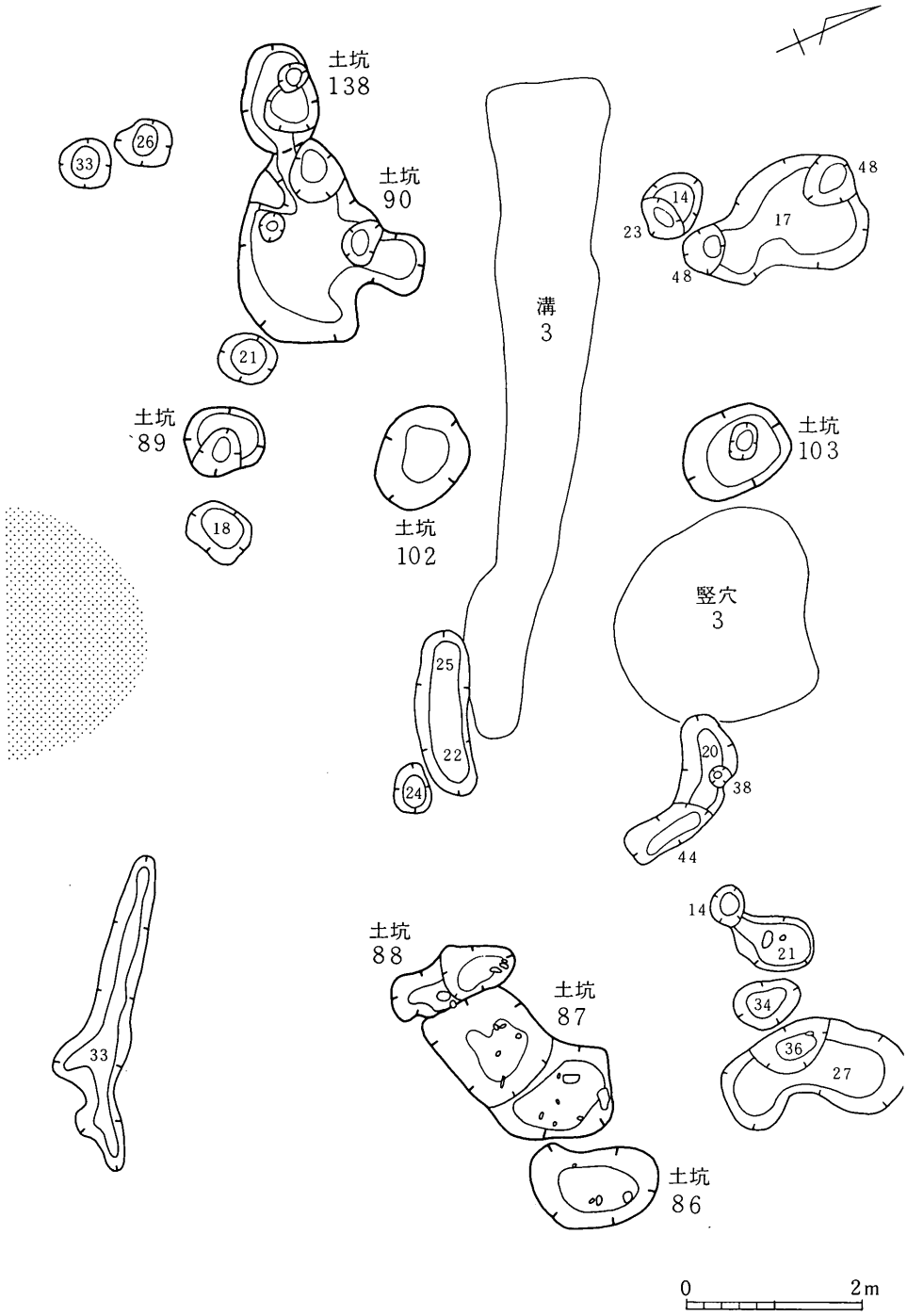
挿図51　土坑・周辺柱穴平面図（12）



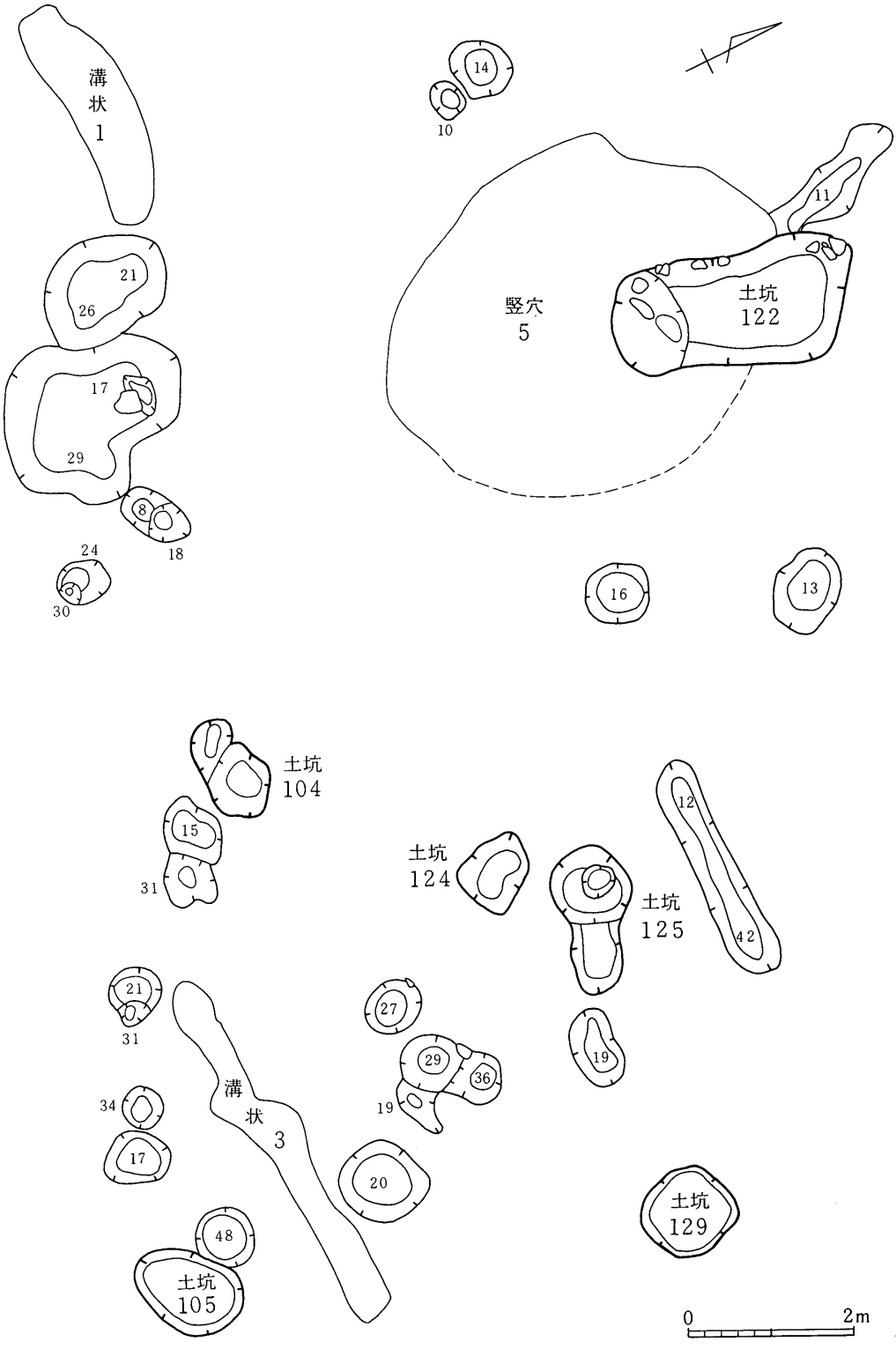
挿図52　土坑・周辺柱穴平面図（13）



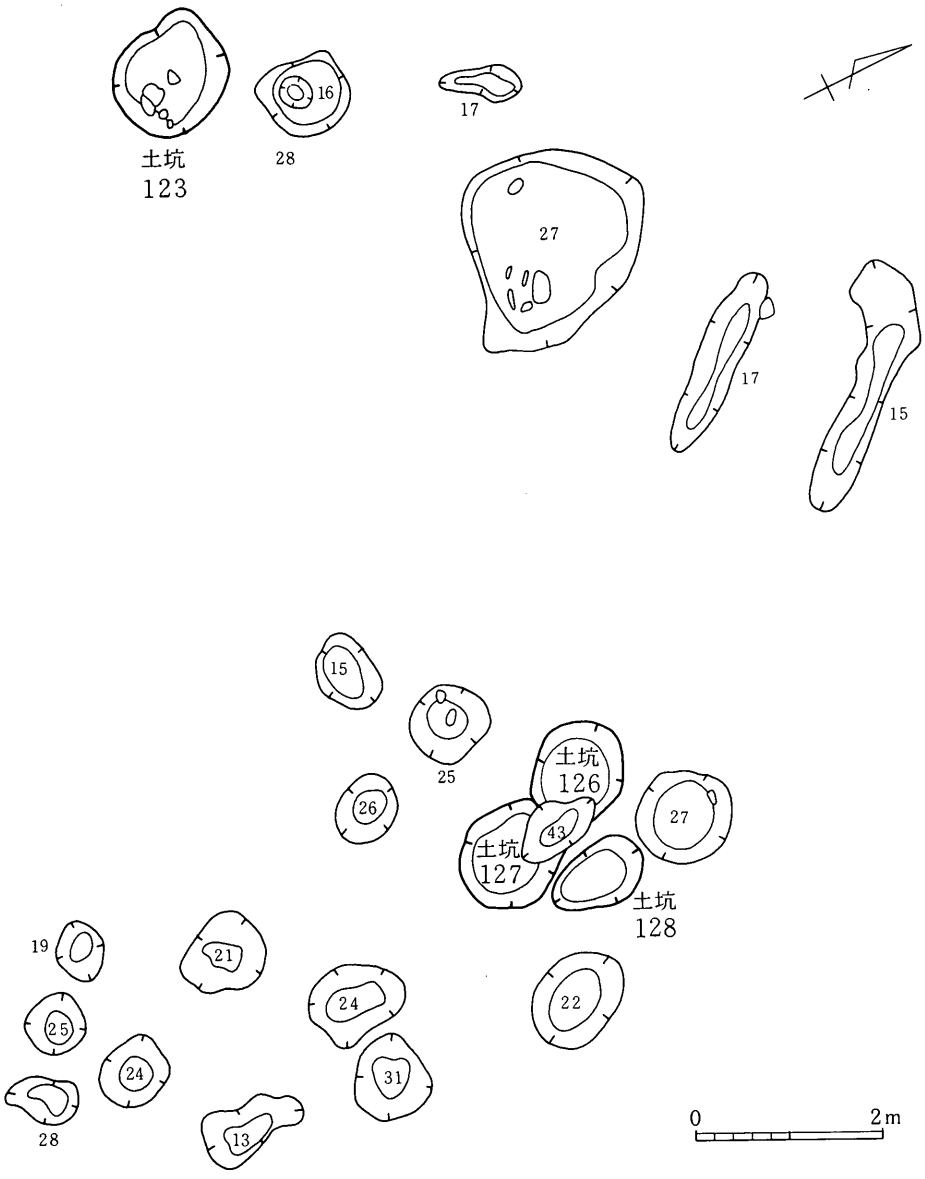
挿図53　土坑・周辺柱穴平面図（14）



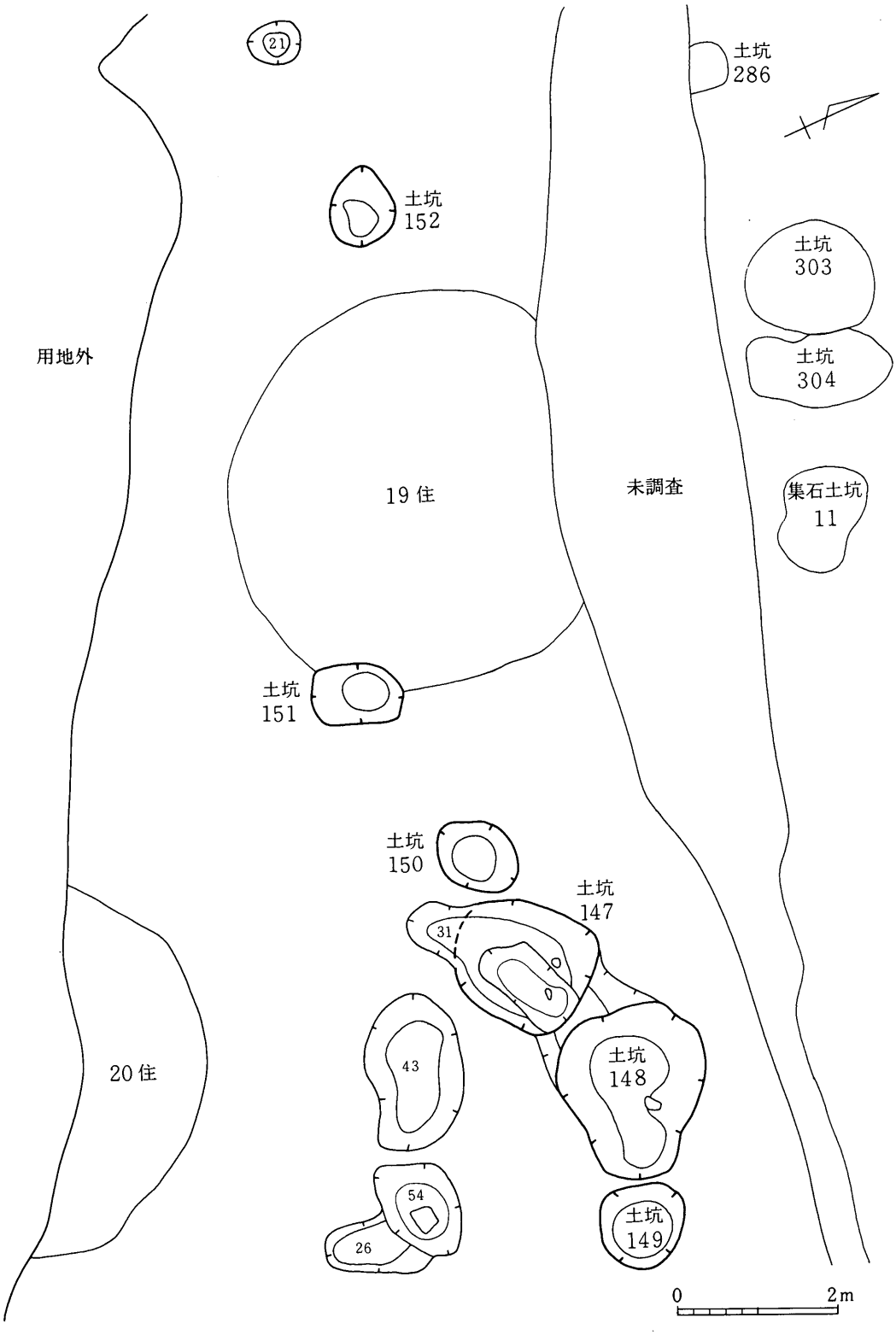
挿図54　土坑・周辺柱穴平面図（15）



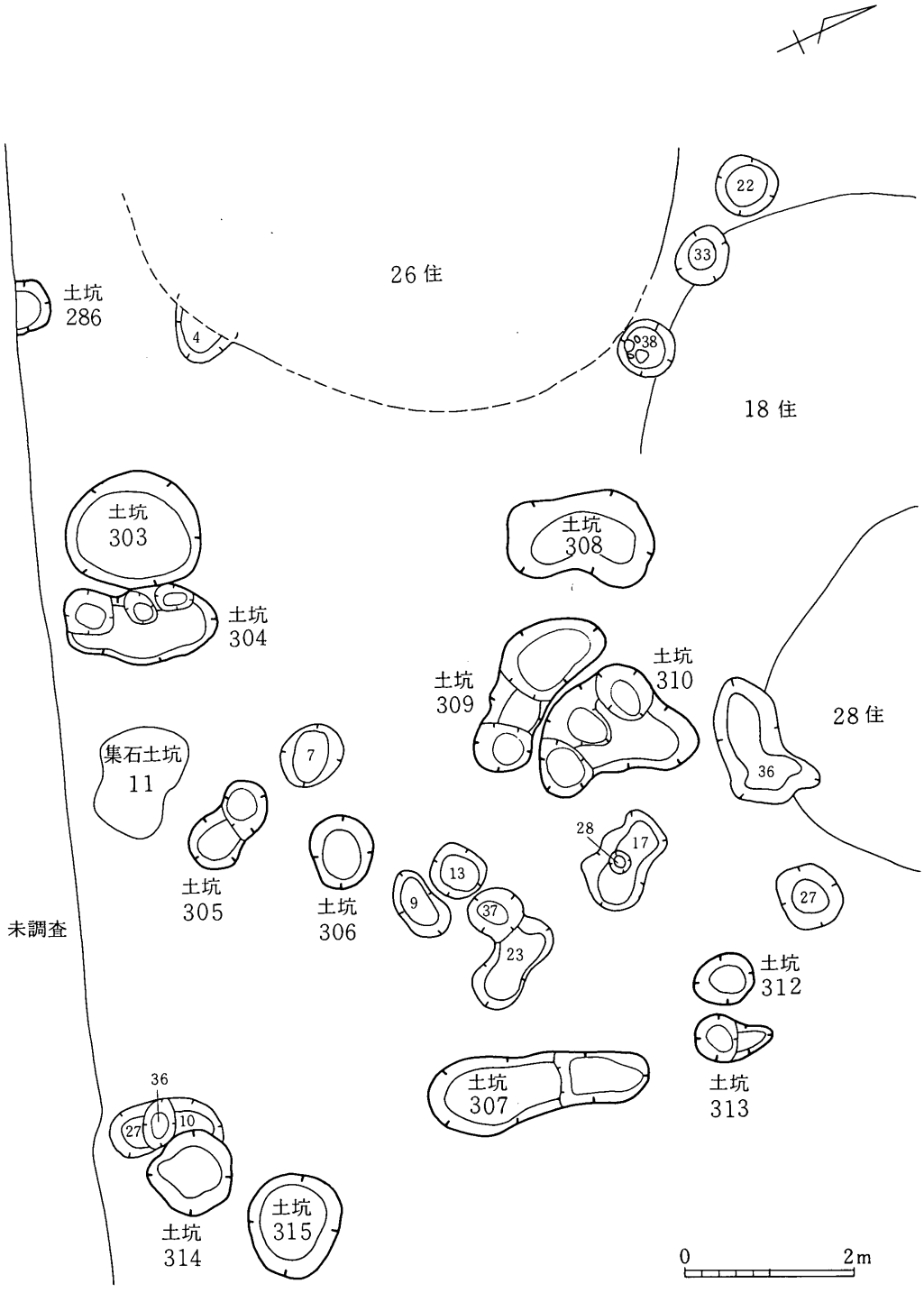
挿図55　土坑・周辺柱穴平面図（16）



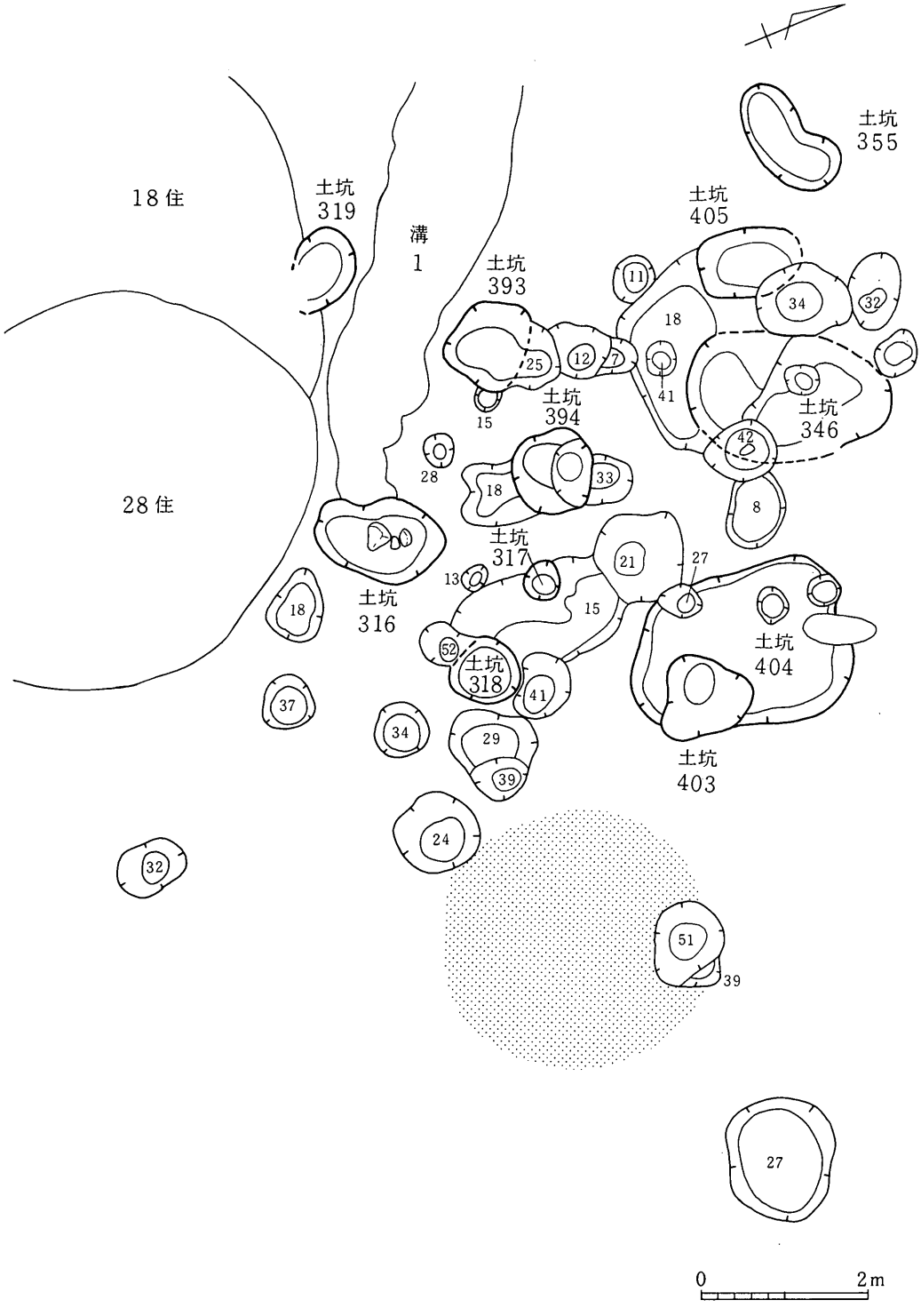
挿図56　土坑・周辺柱穴平面図（17）



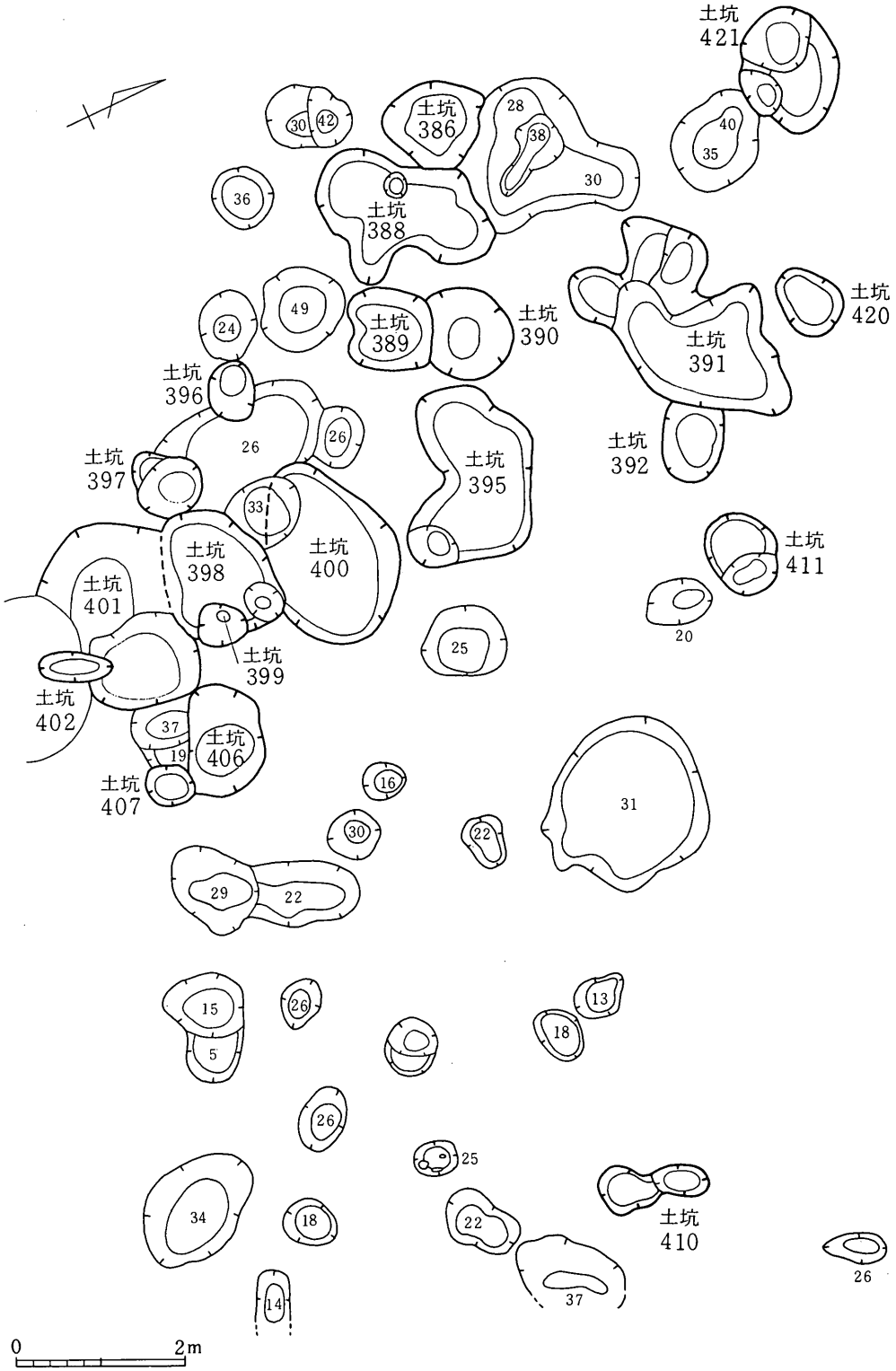
挿図57　土坑・周辺柱穴平面図（18）



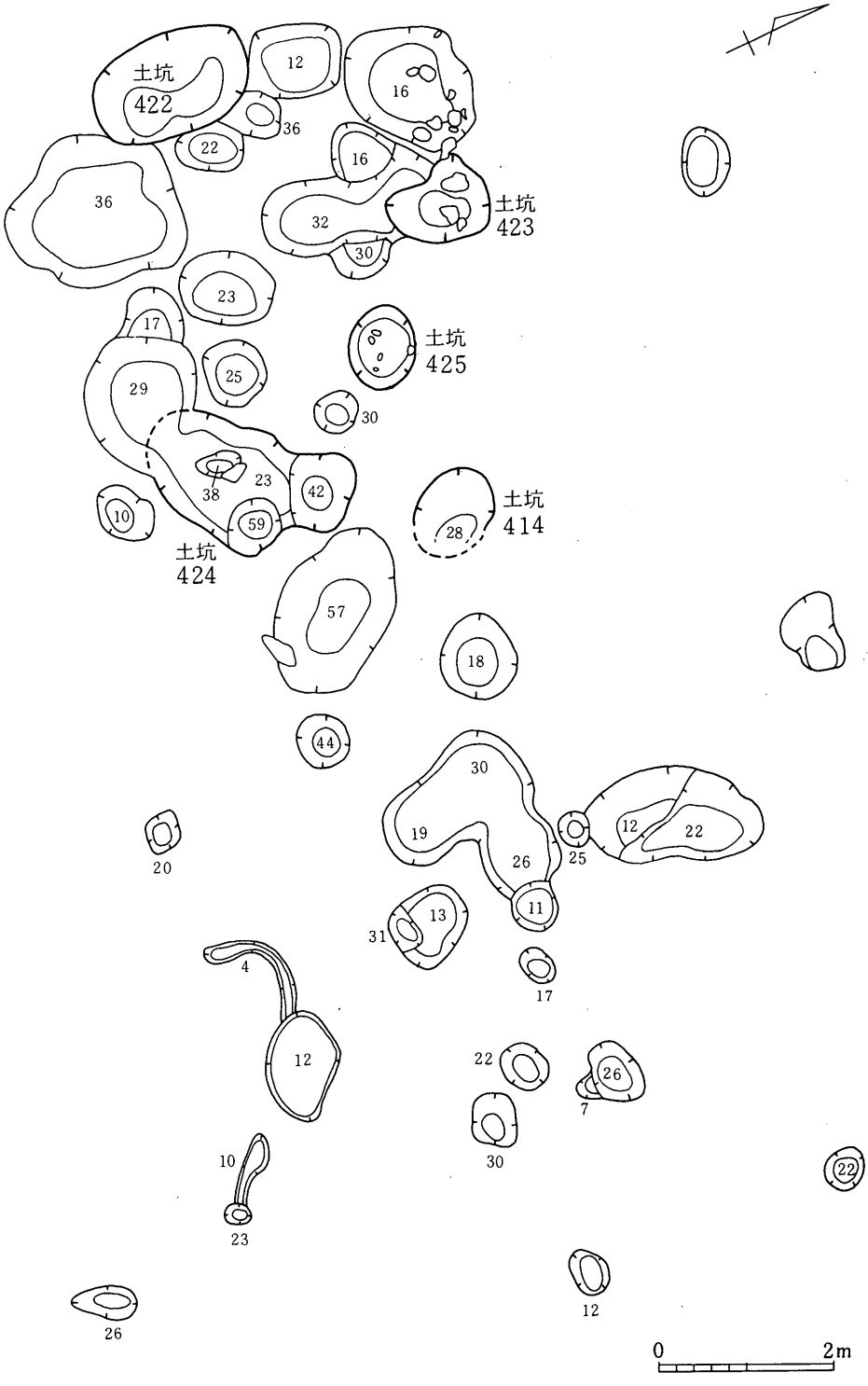
挿図58　土坑・周辺柱穴平面図（19）



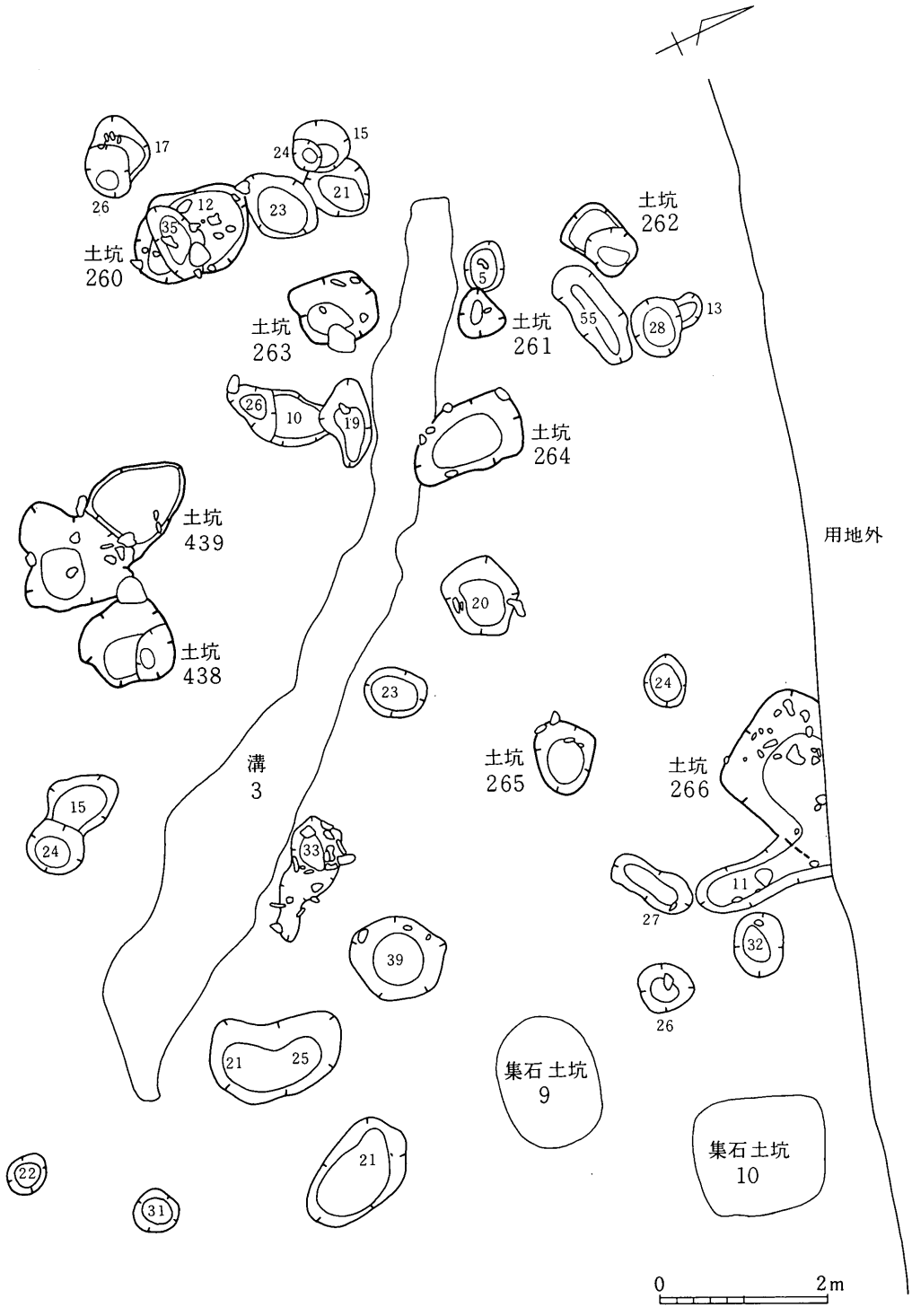
挿図59　土坑・周辺柱穴平面図（20）



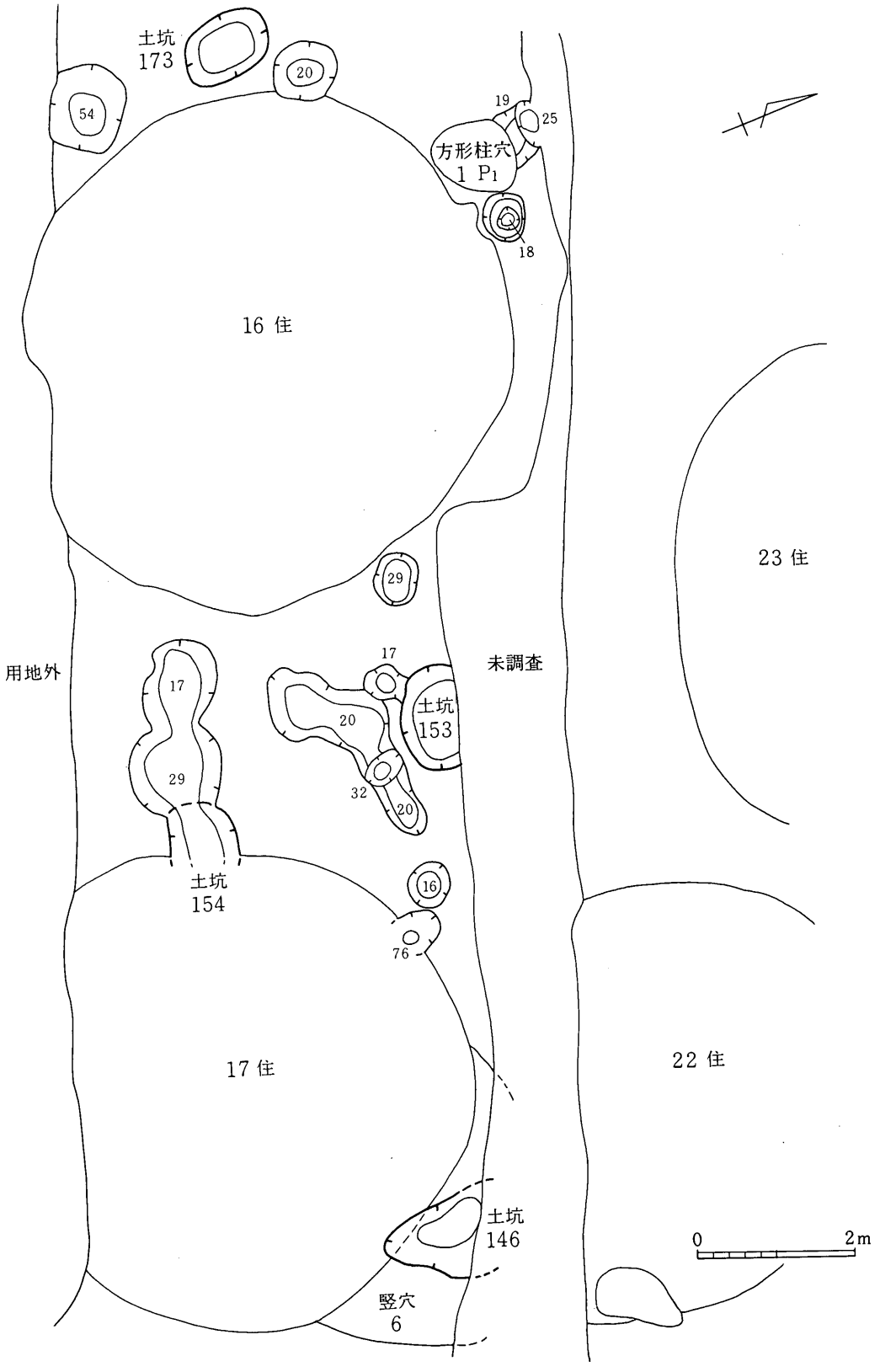
挿図60　土坑・周辺柱穴平面図（21）



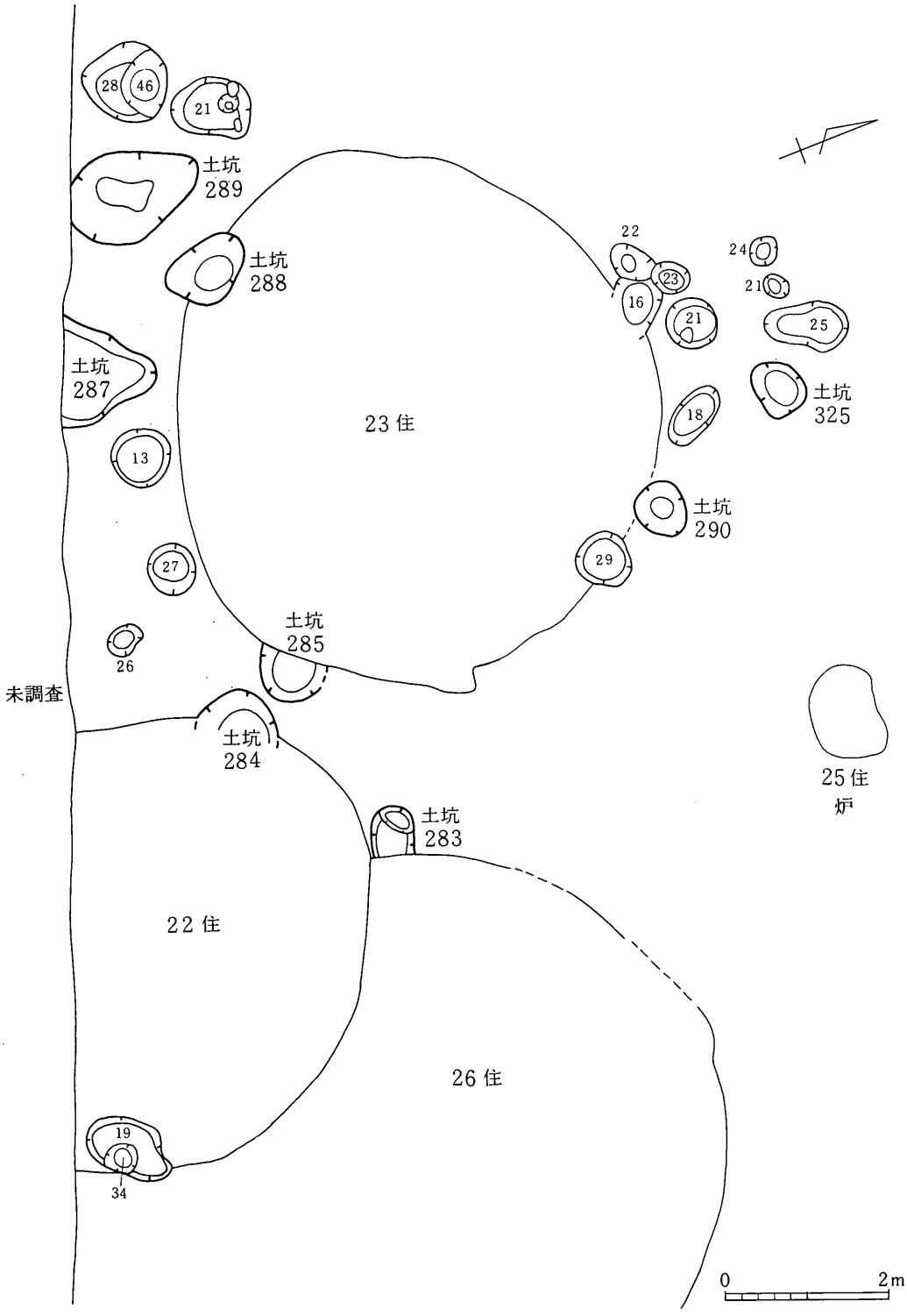
挿図61　土坑・周辺柱穴平面図（22）



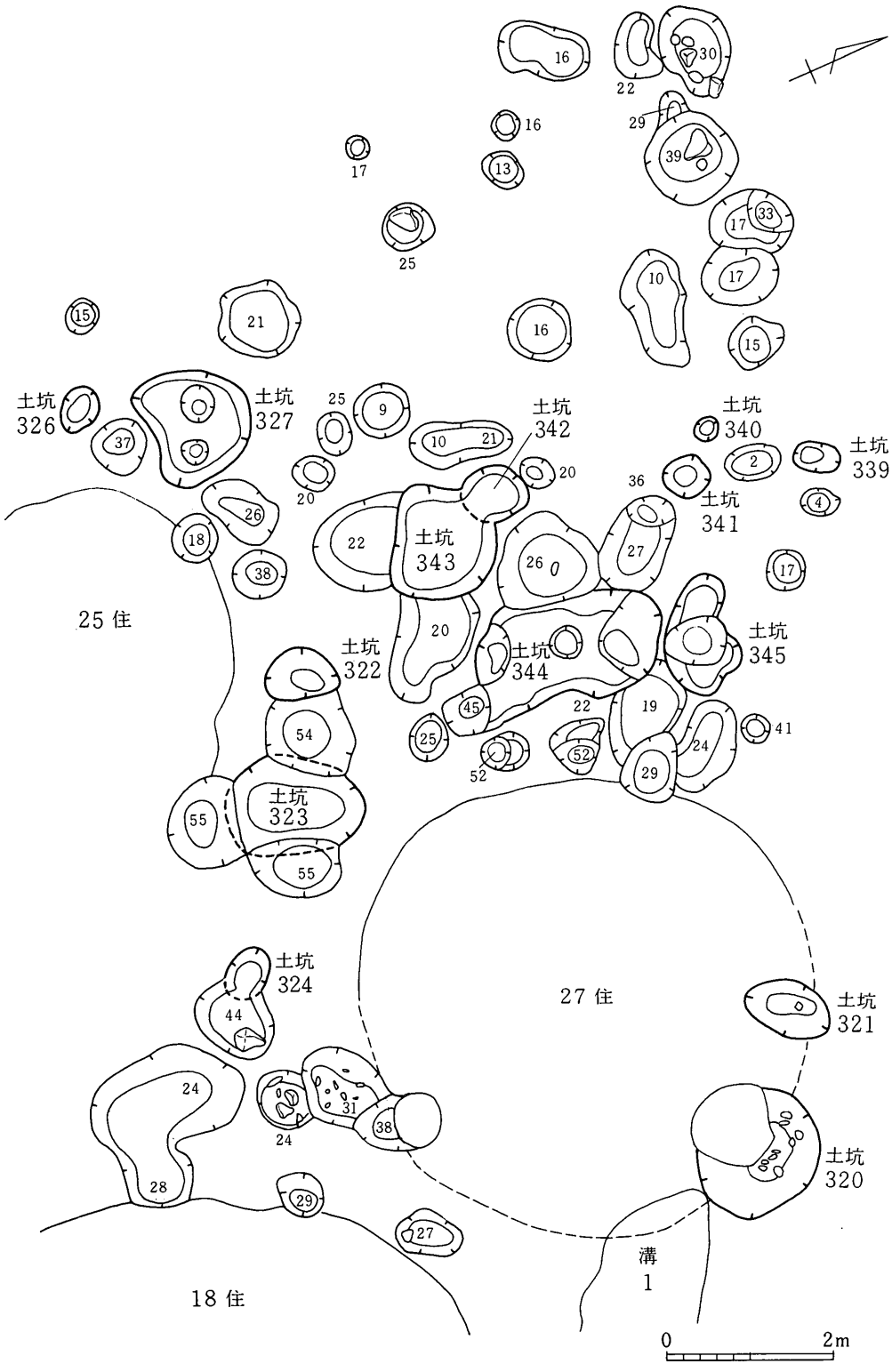
挿図62　土坑・周辺柱穴平面図（23）



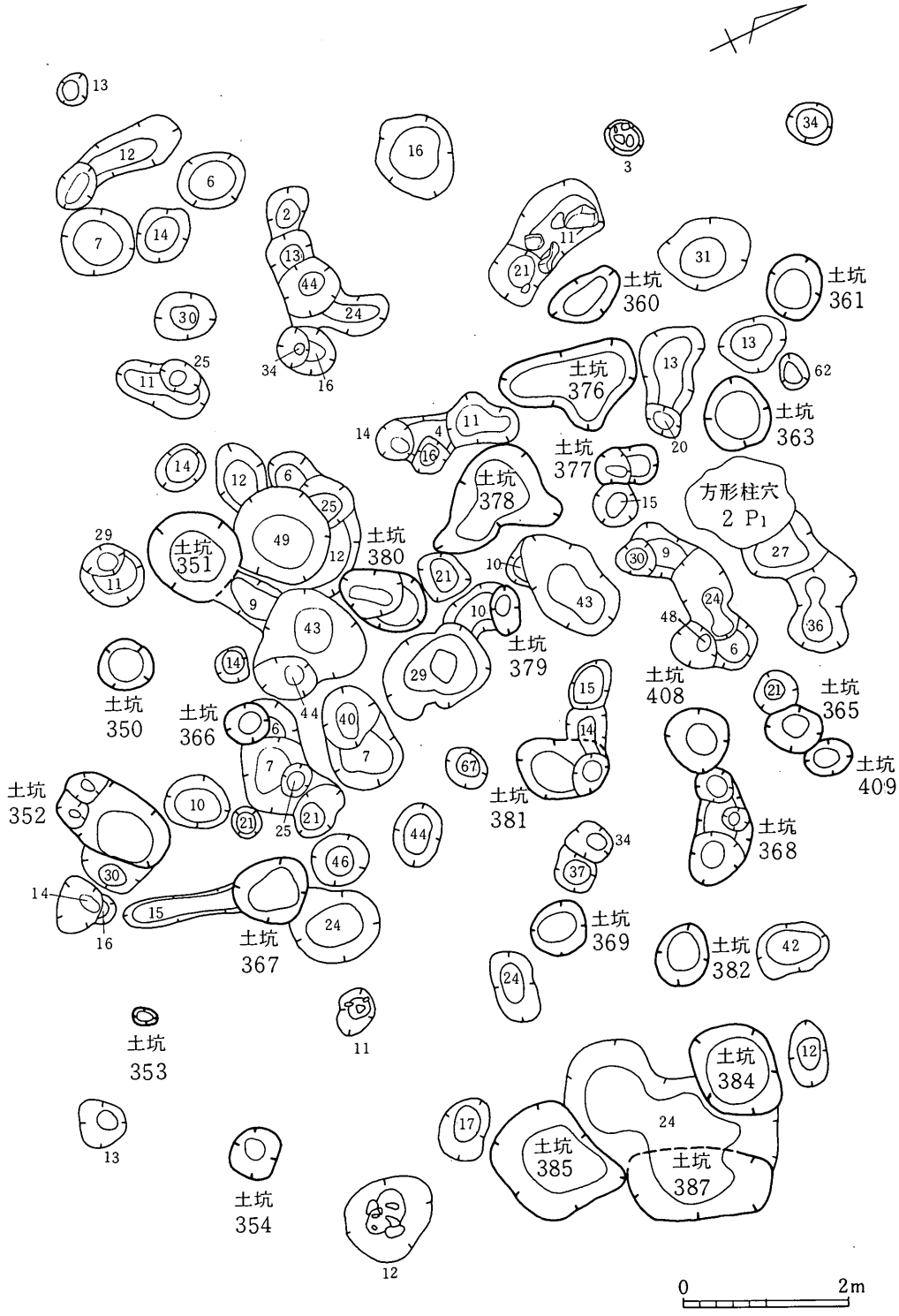
挿図63　土坑・周辺柱穴平面図（24）



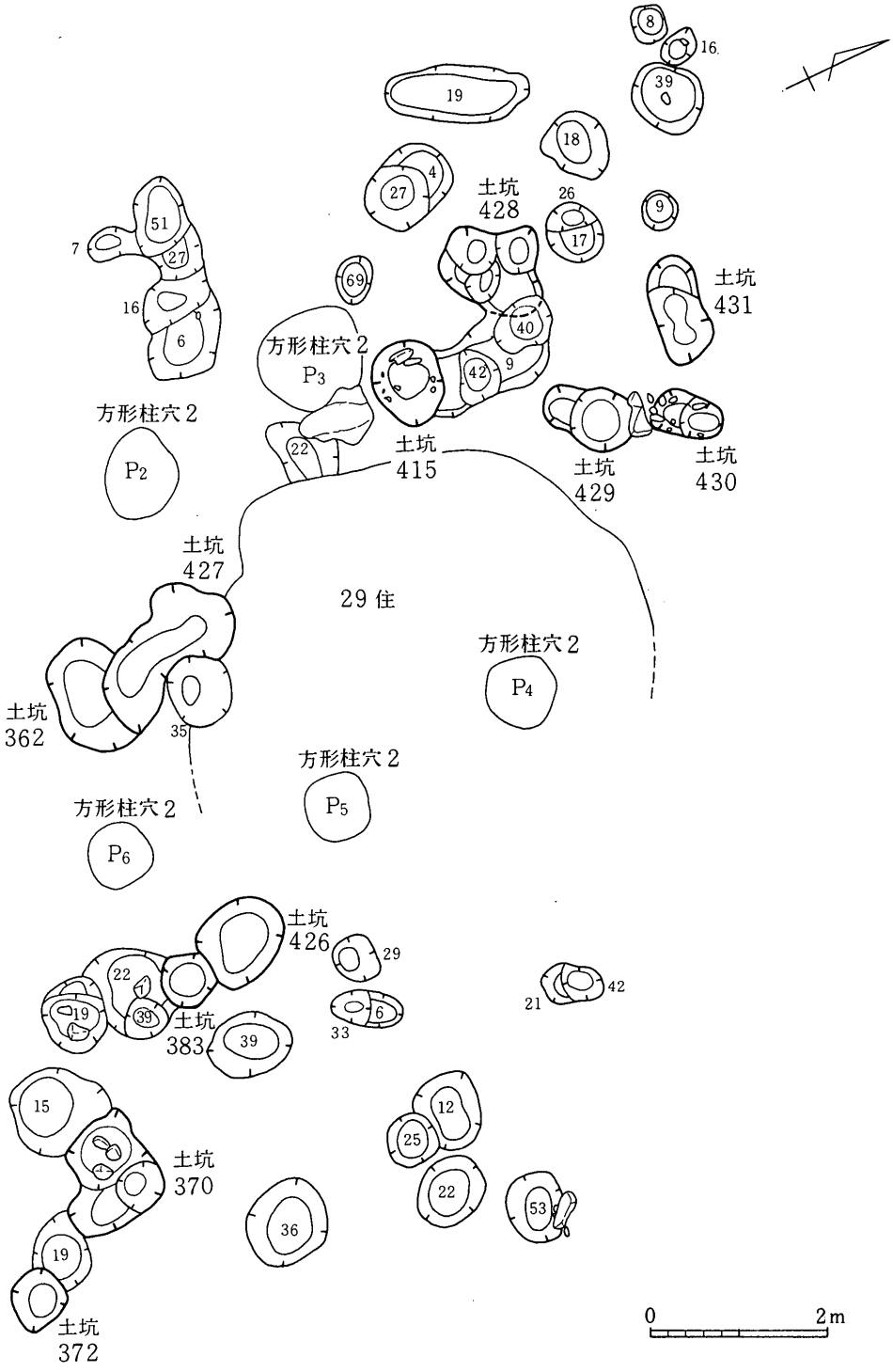
挿図64　土坑・周辺柱穴平面図（25）



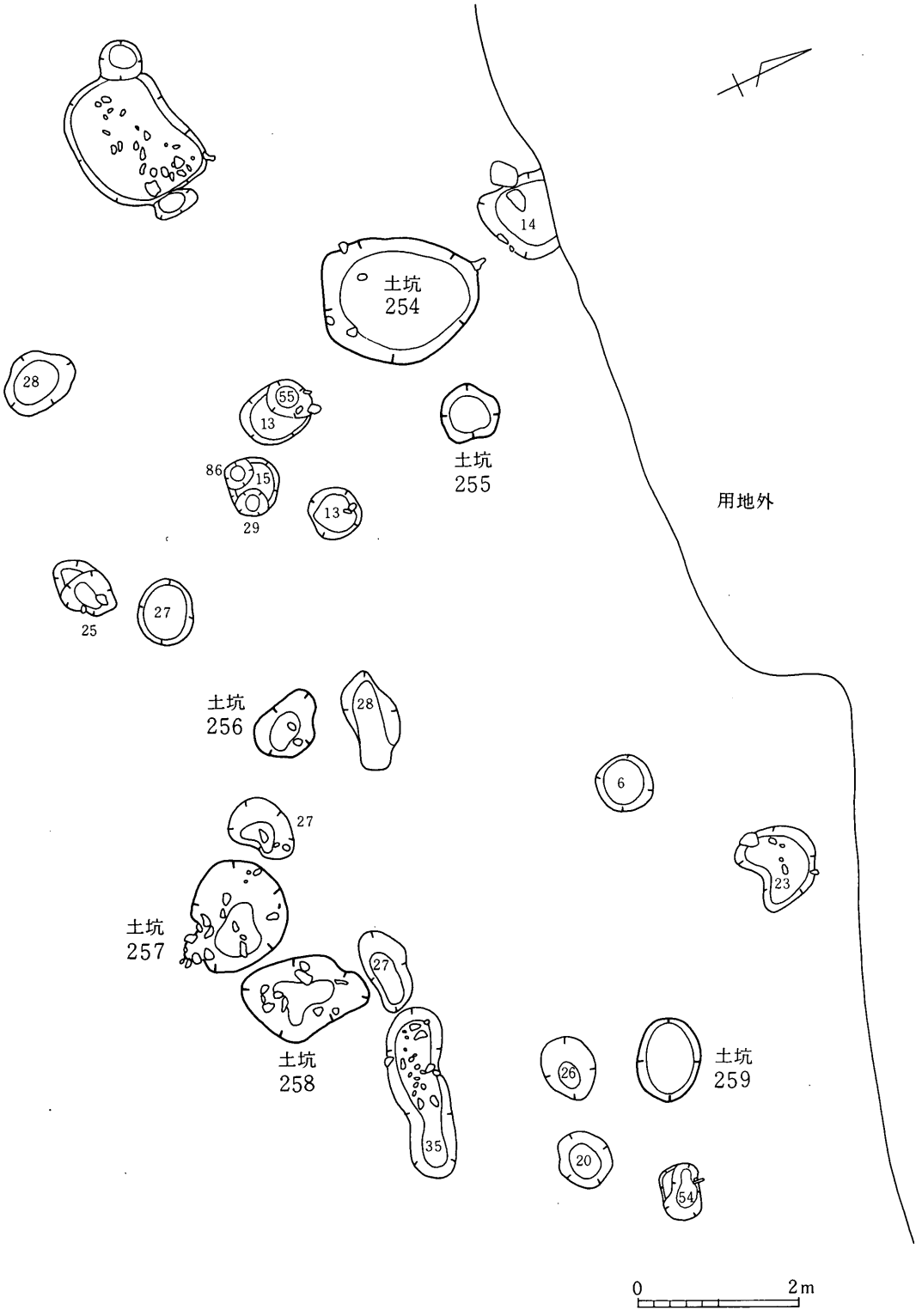
挿図65　土坑・周辺柱穴平面図（26）



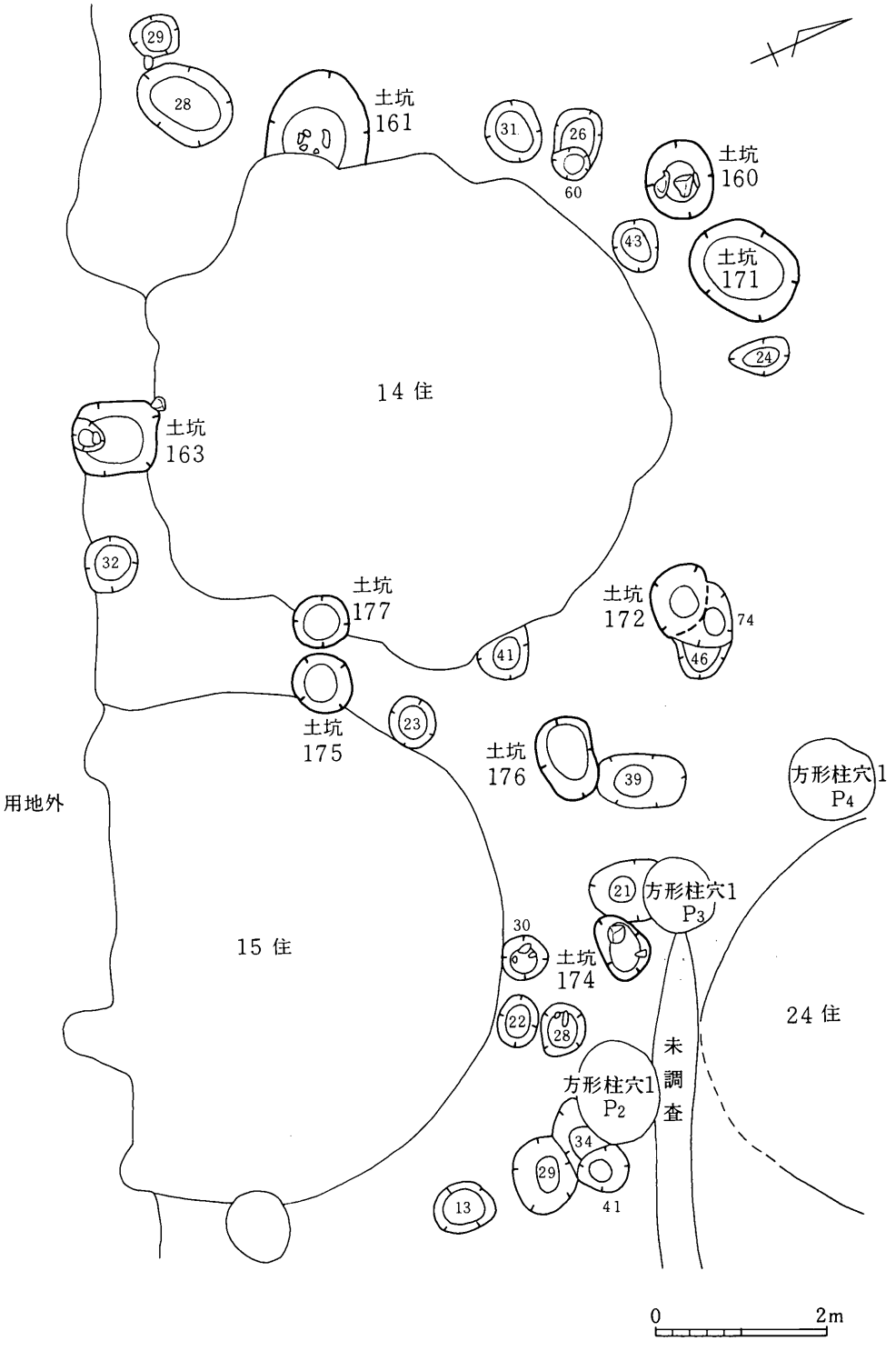
挿図66　土坑・周辺柱穴平面図（27）



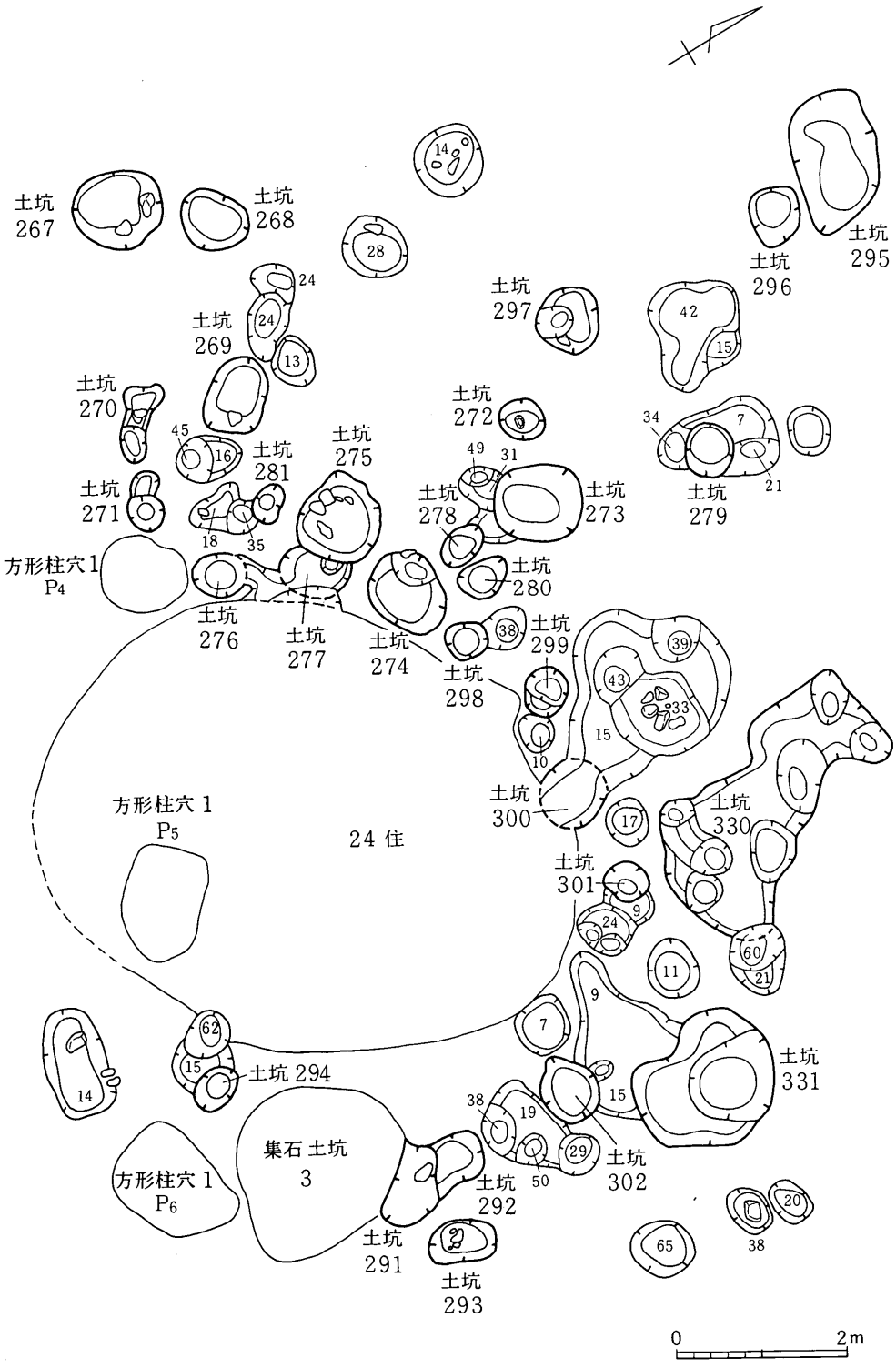
挿図67　土坑・周辺柱穴平面図（28）



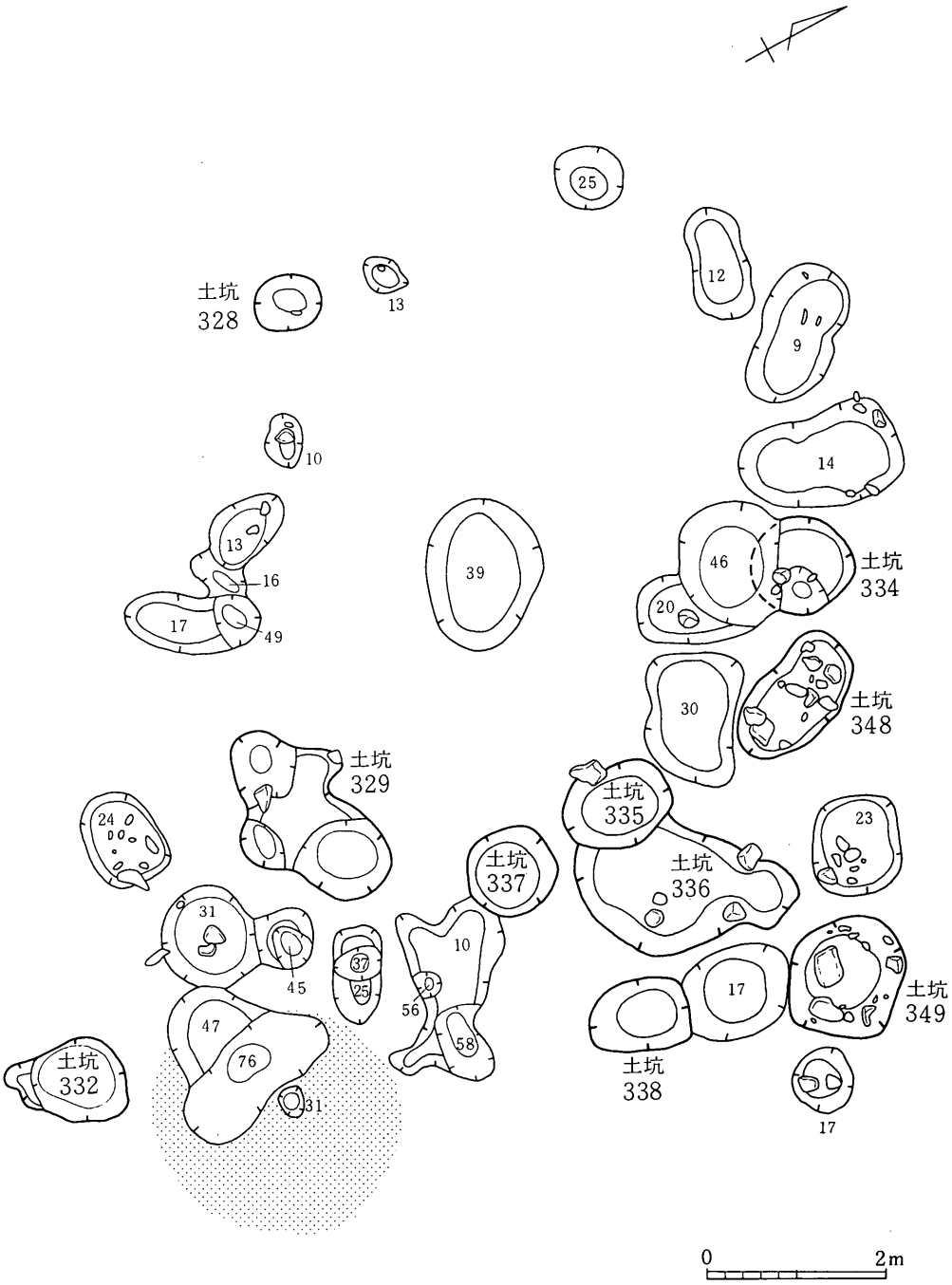
挿図68　土坑・周辺柱穴平面図（29）



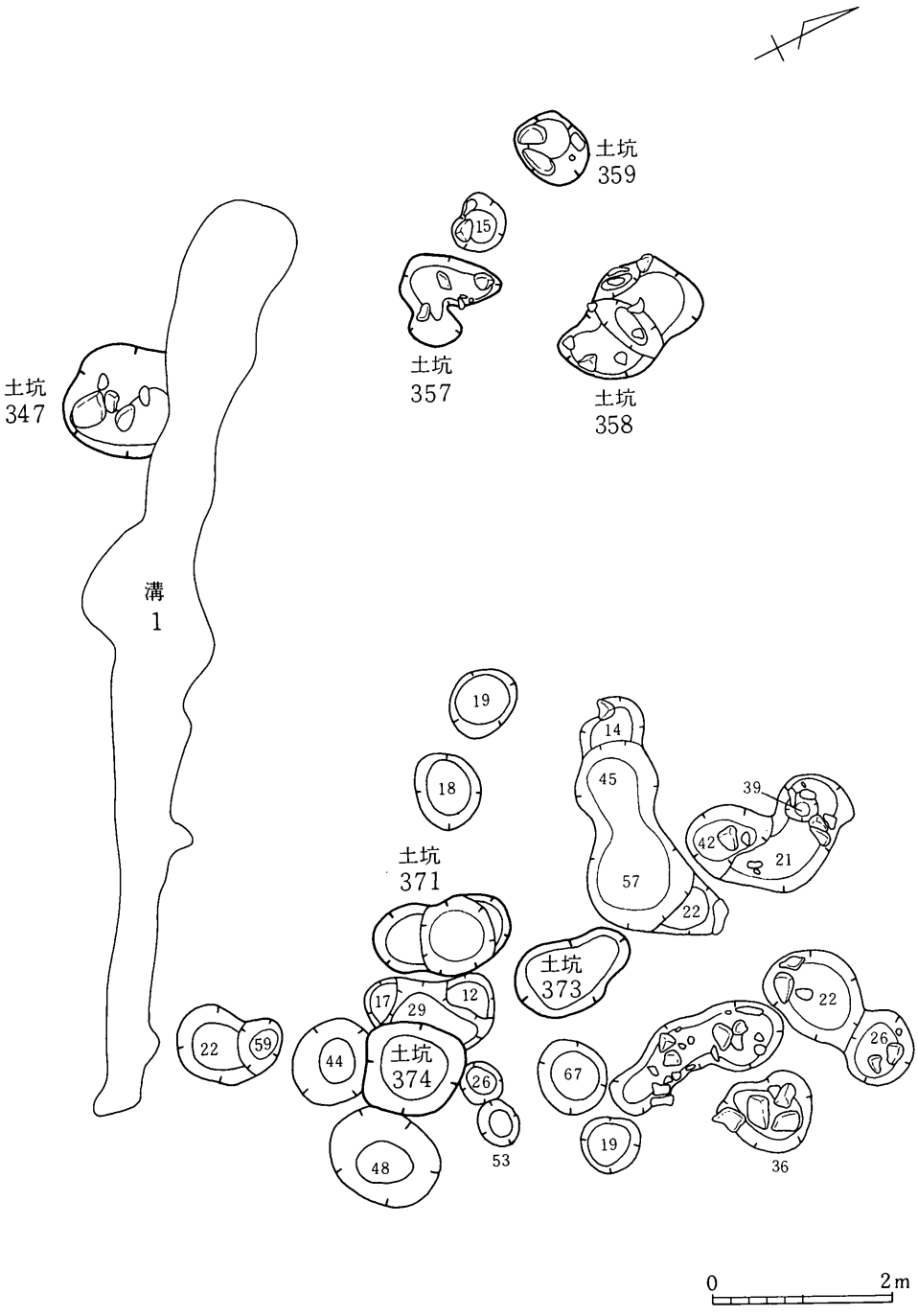
挿図69　土坑・周辺柱穴平面図（30）



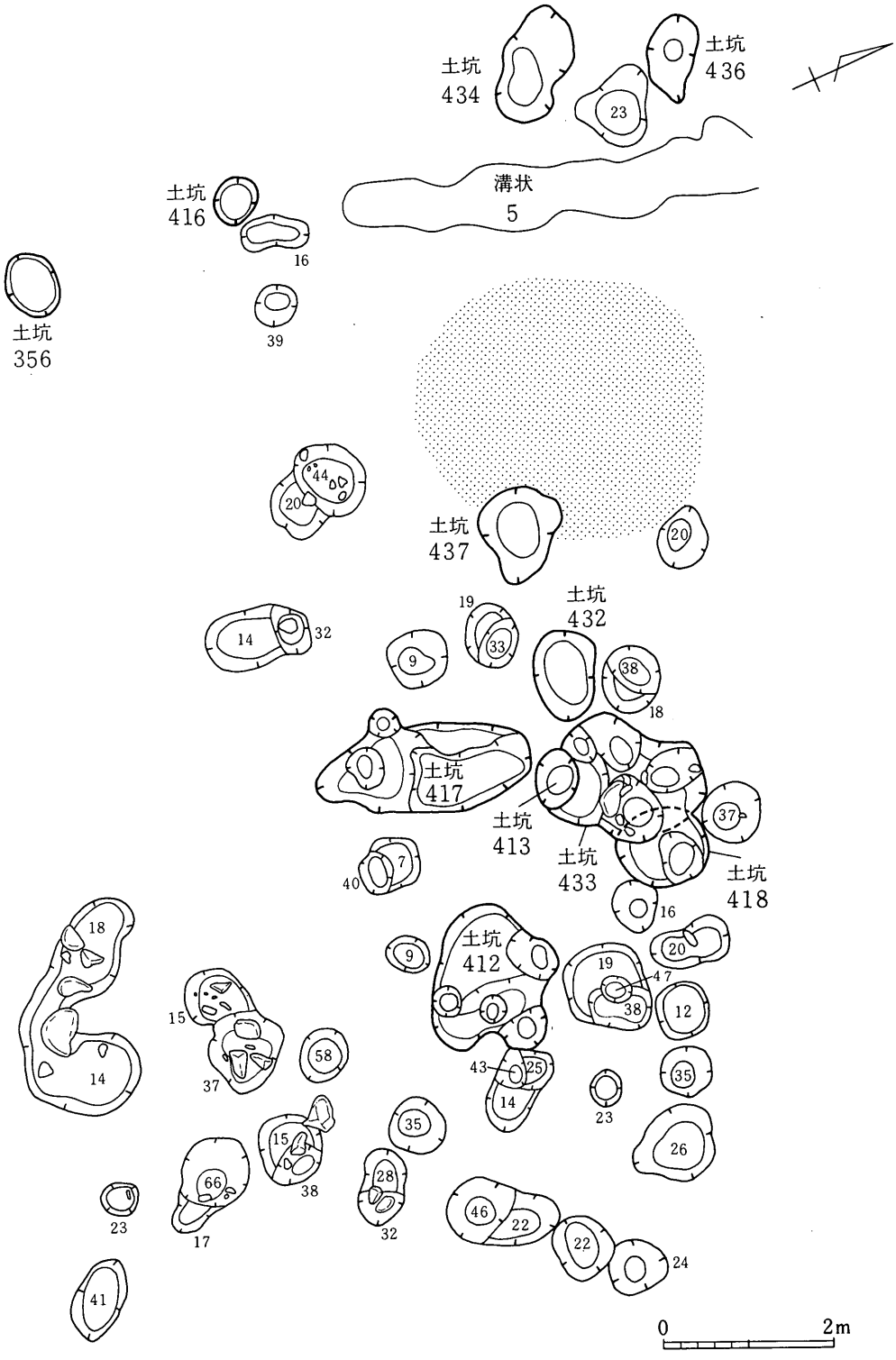
挿図70　土坑・周辺柱穴平面図（31）



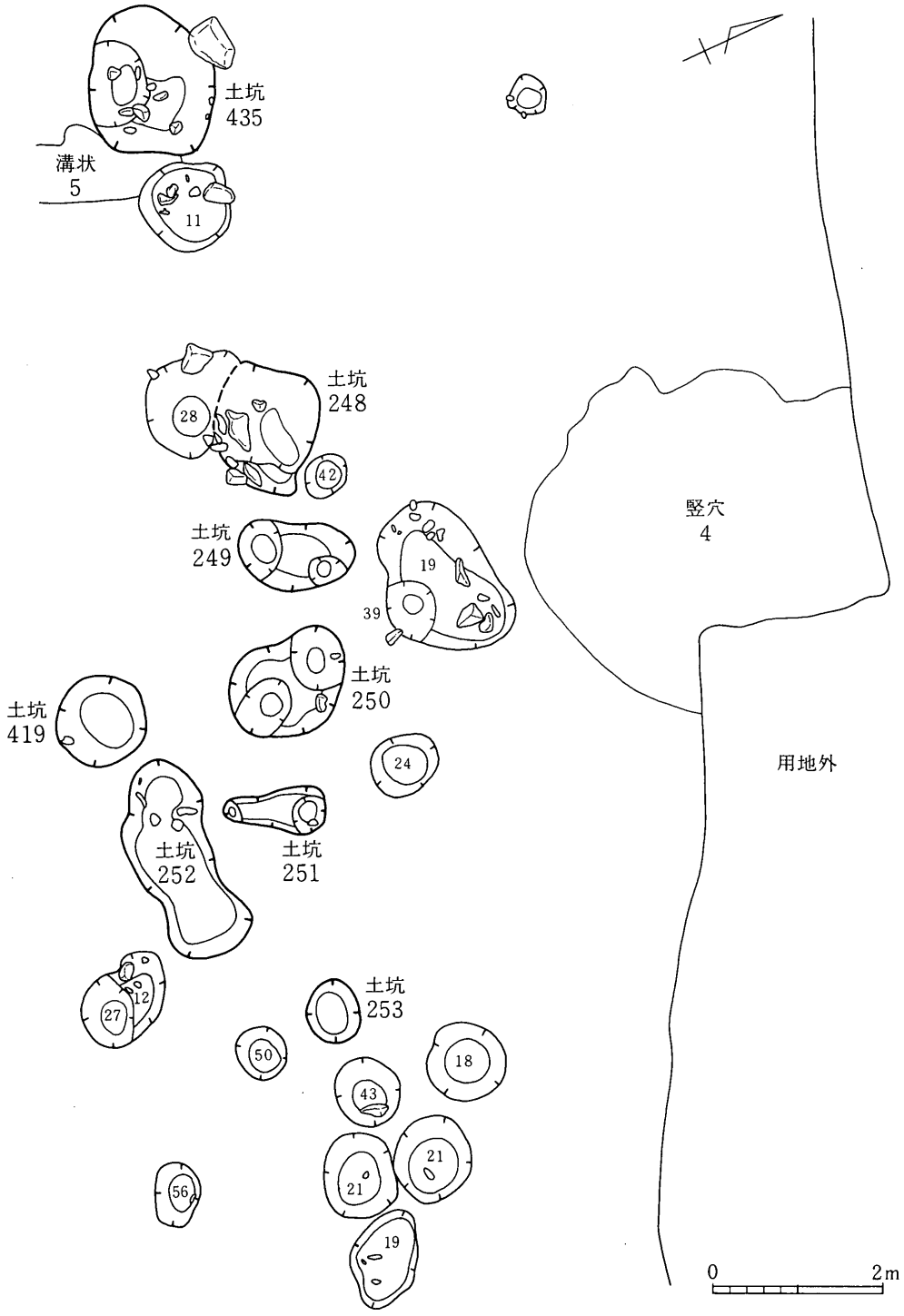
挿図71　土坑・周辺柱穴平面図（32）



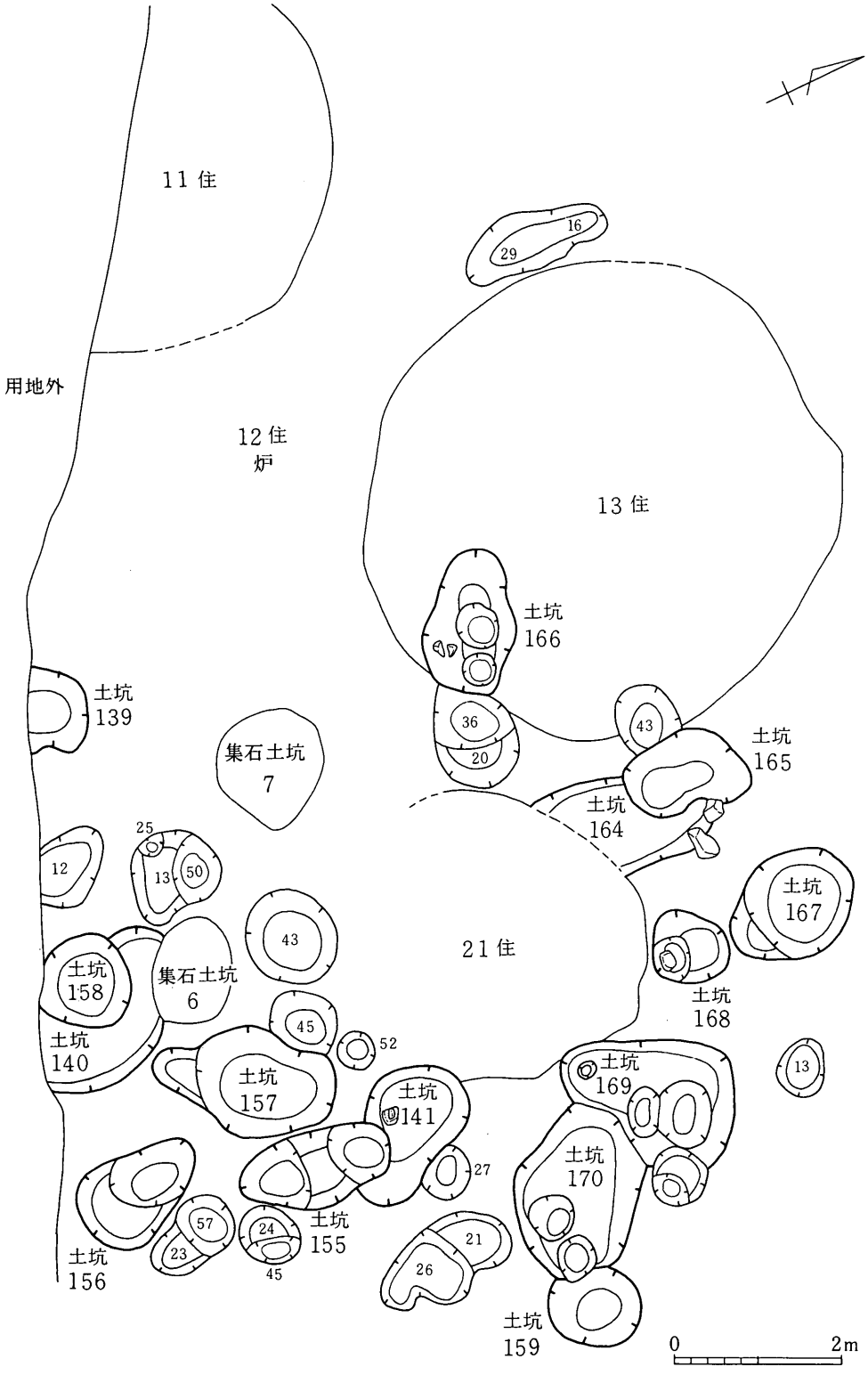
挿図72　土坑・周辺柱穴平面図（33）



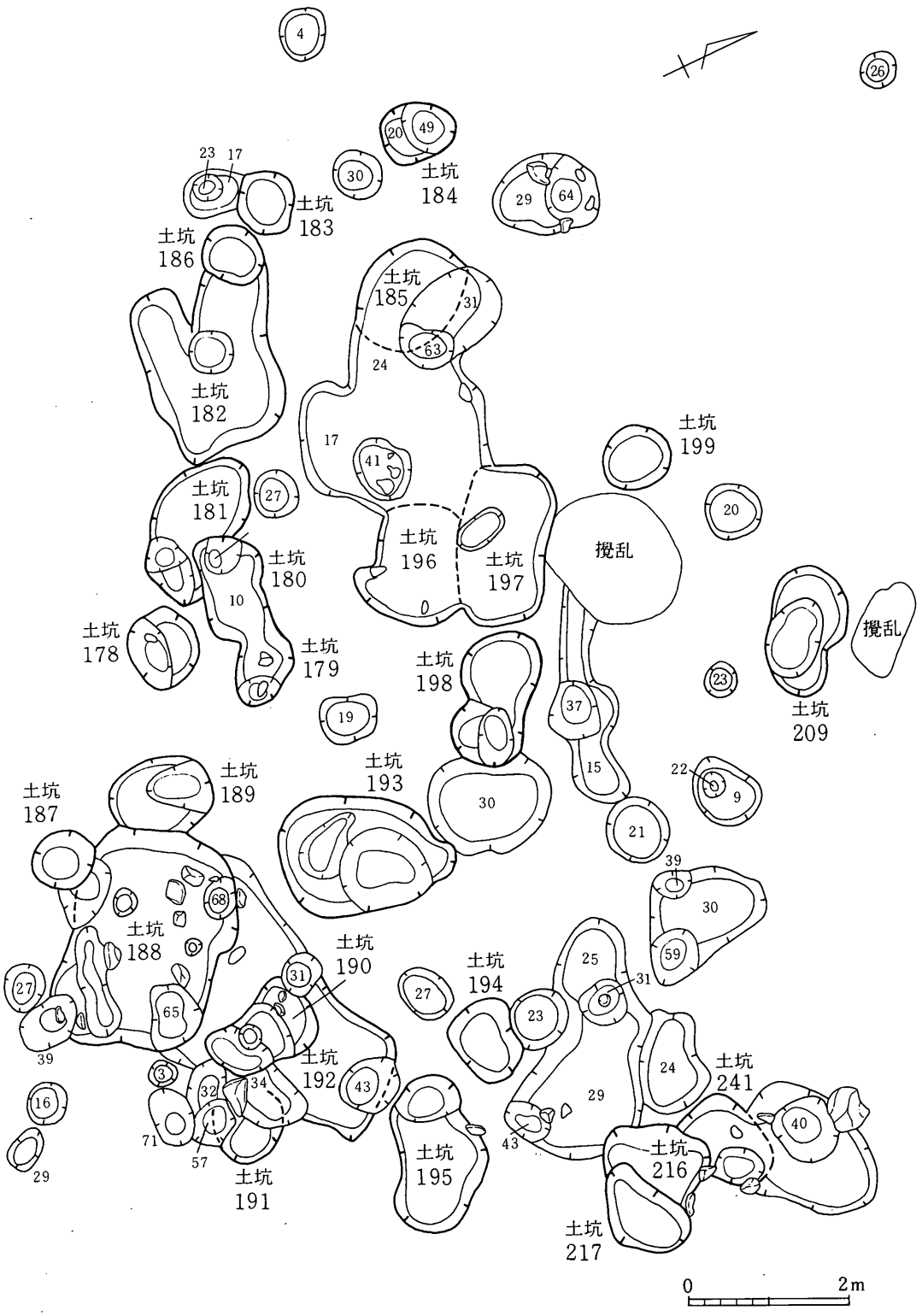
挿図73　土坑・周辺柱穴平面図（34）



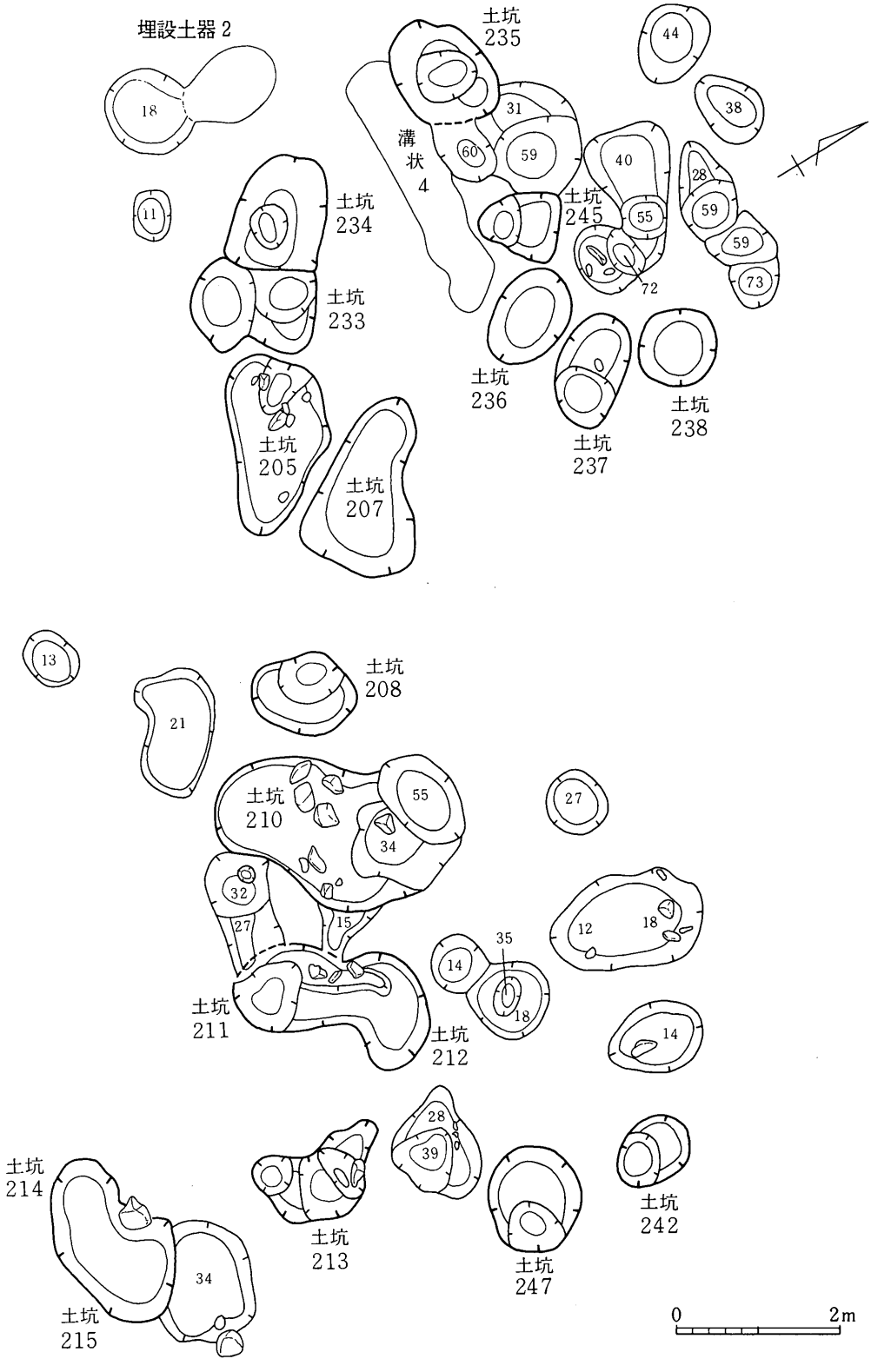
挿図74　土坑・周辺柱穴平面図（35）



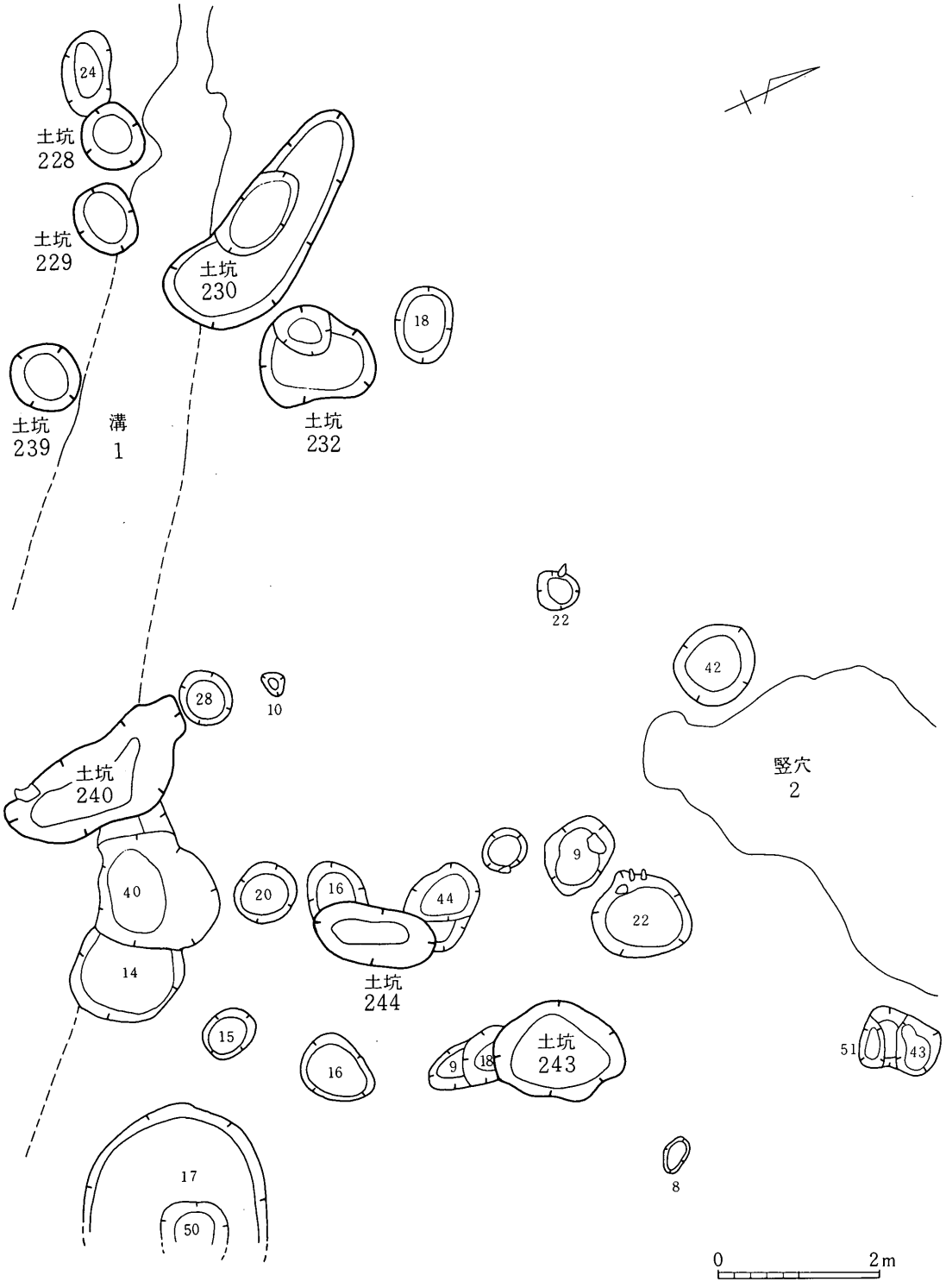
挿図75　土坑・周辺柱穴平面図（36）



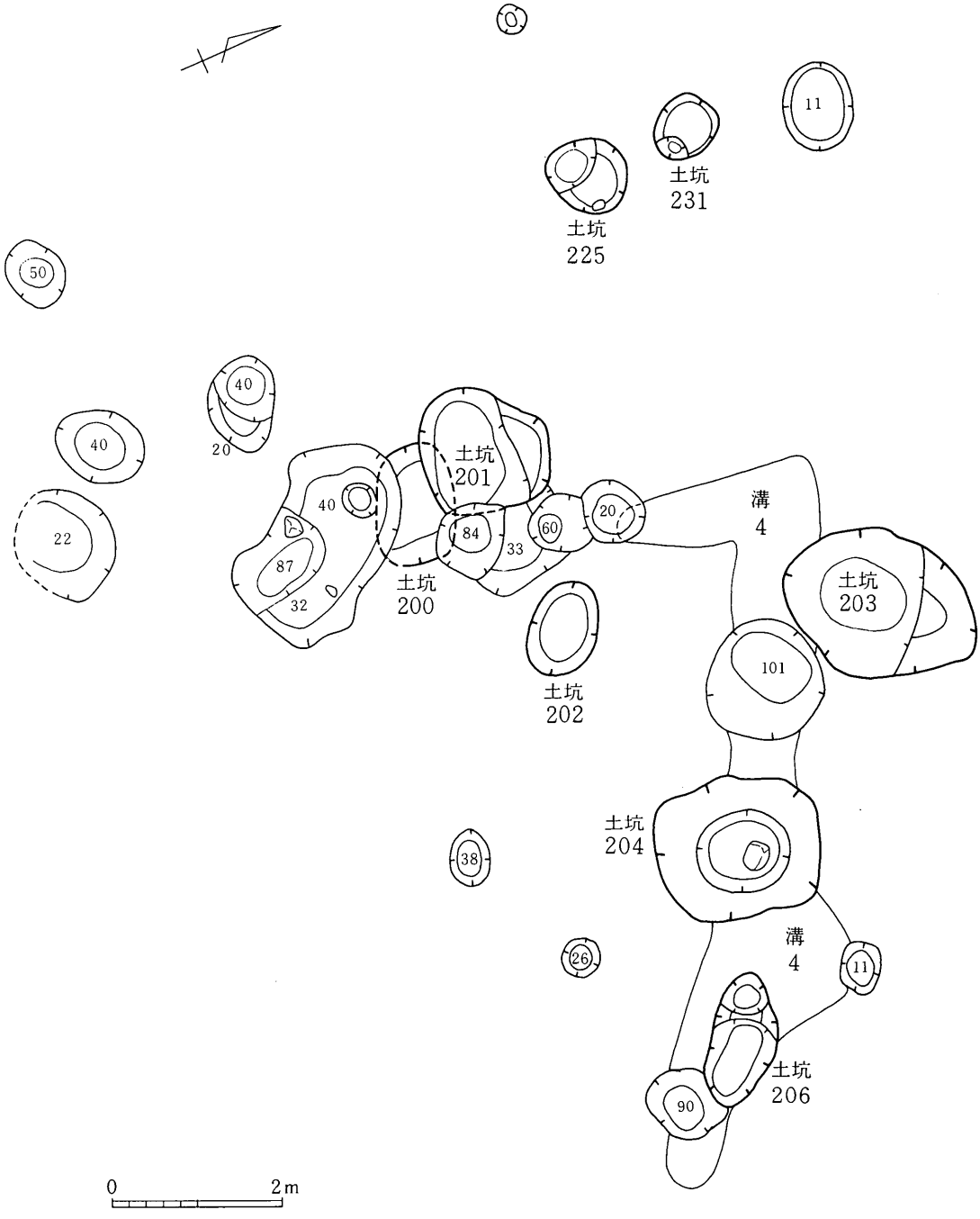
挿図76　土坑・周辺柱穴平面図（37）



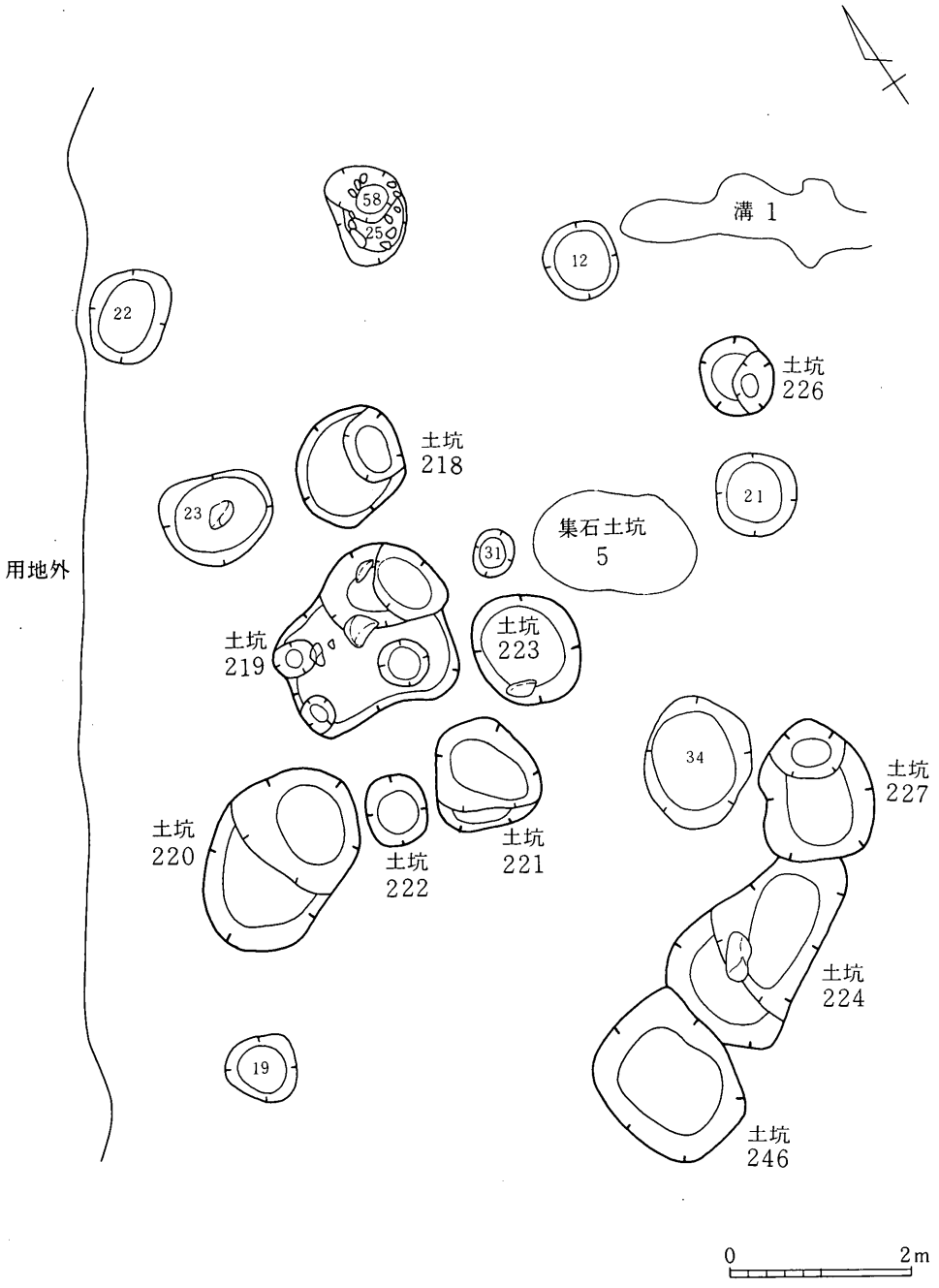
挿図77　土坑・周辺柱穴平面図（38）



挿図78　土坑・周辺柱穴平面図（39）



挿図79　土坑・周辺柱穴平面図（40）



挿図80　土坑・周辺柱穴平面図（41）

遺構名	図版No.	検出位置	規模（長／短／深cm）	形　態	覆　土	時　代	重複遺構	備　　考
土坑1	挿51	ＢＳ21	76／ 76／ 16	円 形	黒 褐	中後Ⅰ	－	
2	挿51	ＢＱ19	240／168／ 15	不整楕円	褐	－	－	
3	挿51	ＢＲ18	68／ 60／ 16	正方形	褐	－	有	複数遺構の重複
4	挿44	ＢＰ14	192／188／ 19（74）	不整円形	黒褐	中後Ⅰ	有	複数遺構の重複
5	挿44	ＢＰ13	108／ 84／ 33（59）	楕円形	－	中後	ミ2	一段低く掘り込む
6	挿44	ＢＰ13	112／ 68／ 35	楕円形	暗褐	－	有	
7	挿52	ＢＬ23	128／116／ 30	不整正方	黒褐	中後？	ド8	複数遺構の重複
8	挿52	ＢＬ23	－／ －／ 10	－	暗褐	中後？	8住・ド7	
9	挿52	ＢＮ22	136／104／ 43	楕円形	褐	－	－	
10	挿52	ＢＭ21	－／ －／ 18	－	褐	中後？	有	複数遺構の重複
11	挿52	ＢＭ20	－／ 80／ 24	－	黒褐	－	7住	
12	挿45	ＢＬ15	96／ 84／ 10	楕円形	暗褐	－	－	
13	挿45	ＢＬ13	168／120／ 22	不整楕円	黒	後中	－	
14	挿45	ＢＫ13	116／ －／ 28	不整形	黒褐	中	ド15	
15	挿45	ＢＫ12	118／ －／ 30	不整形	黒褐	中後	ド14	
16	挿53	ＢＨ19	116／ 92／ －	不整形	黒褐	中	有	複数遺構の重複
17	挿53	ＢＥ17	148／124／ 31	不整楕円	黒褐	－	－	
18	挿46	ＢＨ12	180／ 88／ 34	楕円形	暗褐	－	－	複数遺構の重複
19	挿46	ＢＨ10	184／164／ 30	不整円形	暗褐	中	有	複数遺構の重複
20	挿46	ＢＨ9	－／ 68／ 21（26）	不整楕円	暗褐	－	有	複数遺構の重複
21	挿53	ＢＦ22	72／ 72／ 33	円形	暗褐	－	ド22	
22	挿53	ＢＦ21	80／ 64／ 29	長方形	黒褐	－	ド21	
23	挿53	ＢＦ21	96／ 88／ 36	不整円形	黒褐	－	－	
24	挿42	ＢＡ7	140／ 92／ 59	楕円形	暗褐	中後Ⅱ	－	
25	挿47	ＢＡ8	124／ 84／ 26	不整楕円	暗褐	中後Ⅰ	－	底部片上り
26	挿47	ＢＡ8	92／ 56／ 22（36）	楕円形	暗褐	－	－	複数遺構の重複
27	挿47	ＢＢ9	110／ 80／124	楕円形	暗褐	－	－	
28	挿47	ＢＤ11	80／ 74／ 22	不整円形	暗褐	－	－	
29	挿47	ＢＣ11	104／ 92／ 27	不整円形	暗褐	早後	－	
30	挿47	ＢＡ11	96／ 52／ 53（79）	瓢箪形	暗褐	－	有	複数遺構の重複
31	挿47	ＢＡ12	128／ 96／ 29	不整楕円	暗褐	中後Ⅰ	ド33	複数遺構の重複
32	挿47	ＢＡ11	136／136／ 39	不整方形	暗褐	中	ド33	複数遺構の重複
33	挿47	ＢＡ12	－／ －／ 25	不整楕円	黄混暗褐	－	ド31.32	複数遺構の重複

表30　遺構観察表（1）

遺構名	図版No.	検出位置	規模（長／短／深cm）	形　態	覆　土	時　代	重複遺構	備　　考
土坑34	挿47	ＢＡ13	84／ 72／ 56	円形	暗褐	中後Ⅰ	－	
35	挿47	ＢＡ13	64／ 60／ 32	円形	暗褐	中後Ⅰ	－	
36	挿47	ＢＢ13	92／ 68／ 39	不整円形	黒褐	－	有	複数遺構の重複
37	挿47	ＢＢ14	68／ 64／ 42	円形	－	中後Ⅰ	－	
38	挿47	ＢＢ14	96／ 88／ 44	円形	黒	－	有	複数遺構の重複
39	挿47	ＢＣ13	92／ 66／ 49	楕円形黄	混黒褐	中後	有	
40	挿47	ＢＤ13	112／108／ 35	円形	暗褐	－	－	
41	挿46	ＢＤ15	120／ 76／ 19	楕円形	暗褐	－	有	
42	挿54	ＢＤ15	132／112／ 27	不整円形	暗褐	－	－	
43	挿54	ＢＣ16	128／ 92／ 27（38）	瓢箪形	暗褐	？	－	複数遺構の重複
44	挿46	ＢＥ13	108／ 72／ 27	楕円形	暗褐	－	－	
45	挿42	ＢＢ３	86／ 80／ 17	円形	暗褐	－	－	
46	挿42	ＢＤ４	152／ 56／ 25（34）	瓢箪形	暗褐	－	有	
47	挿53	ＢＥ21	216／124／ 31（35）	楕円形	暗褐	－	－	複数遺構の重複
48	挿53	ＢＤ18	100／ 96／ 29	円形	黒	－	－	
49	挿54	ＢＣ19	220／148／ 31	不整形	暗褐	－	－	複数遺構の重複
50	挿47	ＢＡ13	72／ 66／ 44	円形	暗褐	－	ド73	複数遺構の重複
51	挿43	ＡＷ６	112／ 92／ 26	楕円形	黒褐	中後	－	
52	挿48	ＡＷ９	120／ 84／ 16	不整楕円	暗褐	中後	－	複数遺構の重複
53	挿42	ＡＸ４	104／ －／ 27	不整楕円	暗褐	中後	－	一部未調査
54	挿42	ＡＸ４	88／ 68／ 24	楕円形	暗褐	中中	－	
55	挿42	ＡＹ４	92／ 64／ 17	楕円形	暗褐	中後	－	
56	挿43	ＡＸ４	－／244／ 36（49）	不整長方	暗褐	中	有	複数遺構の重複
57	挿48	ＡＸ４	160／112／ 23	瓢箪形	黄混暗褐	中後	－	
58	挿48	ＡＹ４	132／128／ 41	楕円形	黒褐	中後？	－	
59	挿47	ＡＸ８	120／ －／ 24	円形	暗褐	－	有	複数遺構の重複
60	挿54	ＢＡ15	152／ 92／ 53	不整楕円	黒褐	－	ド61他	複数遺構の重複
61	挿54	ＢＡ15	108／ 52／ 42	楕円形	黒褐	－	ド60他	複数遺構の重複
62	挿47	ＡＹ８	152／120／ 42	瓢箪形	暗褐	中後Ⅰ	－	複数遺構の重複
63	挿43	ＡＷ７	－／ －／ 18	－	褐	中後	ド64・ミ３	複数遺構の重複
64	挿43	ＡＷ７	－／136／ 33	－	暗褐	－	ド63・ミ３	複数遺構の重複
65	挿48	ＡＷ10	324／148／ 22	不整形	黄混暗褐	中後？	－	複数遺構の重複
66	挿48	ＡＷ11	140／ 96／ 20（51）	不整楕円	暗褐	－	－	複数遺構の重複

表31　遺構観察表（２）

遺構名	図版No.	検出位置	規模（長／短／深cm）	形　態	覆　土	時　代	重複遺構	備　　考
土坑67	挿48	ＡＸ11	252／212／ 19（57）	不整長方	黄混暗褐	中後	有	複数遺構の重複
68	挿47	ＡＹ11	96／ 96／ 31	円形	暗褐	－	－	
69	挿47	ＡＹ12	88／ －／ 20	－	黄混暗褐	－	有	複数遺構の重複
70	挿47	ＡＹ11	－／160／ 22	－	黒混暗褐	－	ド71他	複数遺構の重複
71	挿47	ＢＡ11	132／ 88／ 35（97）	不整楕円	黒褐	中後	ド70	複数遺構の重複
72	挿47	ＡＹ10	308／240／ 40（41）	不整形	黄混黒褐	中後Ⅰ	有	複数遺構の重複
73	挿47	ＡＹ13	240／124／ 24（35）	不整楕円	黄混黒褐	中後Ⅰ	ド50他	複数遺構の重複
74	挿47	ＡＹ14	216／116／ 49	楕円形	黒褐	中後Ⅰ	有	複数遺構の重複
75	挿54	ＡＹ17	100／ 92／ 72	不整円形	暗褐	－	有	複数遺構の重複
76	挿54	ＢＢ19	80／ 80／ 19	円形	暗褐	－	－	
77	挿54	ＢＢ21	112／104／ 21	円形	暗褐	－	－	
78	挿54	ＢＡ21	128／104／ 26（39）	不整楕円	暗褐	－	－	複数遺構の重複
79	挿48	ＡＵ10	204／112／ 26（49）	不整形	暗褐	中後	有	複数遺構の重複
80	挿48	ＡＵ10	104／ 80／ 22（35）	不整楕円	暗褐	－	－	複数遺構の重複
81	挿48	ＡＴ12	300／284／ 37（60）	不整形	黒褐	中後Ⅰ	有	複数遺構の重複
82	挿48	ＡＵ13	212／144	瓢箪形	黄混黒褐	中後？	－	複数遺構の重複
83	挿48	ＡＴ14	100／ 94／ 19	円形	黄混黒褐	中後？	－	
84	挿48	ＡＶ13	136／104／ 31	楕円形	黒褐	中	－	複数遺構の重複
85	挿48	ＡＷ15	116／108／ 32（46）	不整円形	黒	中後	－	
86	挿55	ＡＵ16	144／ 84／ 28	不整楕円	暗褐	－	－	
87	挿55	ＡＶ17	212／144／ 35（50）	不整長方	黒褐	－	ド88	複数遺構の重複
88	挿55	ＡＶ17	148／ 60／ 17（35）	不整楕円	暗褐	中後	ド87	複数遺構の重複
89	挿55	ＡＷ20	92／ 76／ 24（37）	不整円形	暗褐	－	－	複数遺構の重複
90	挿55	ＡＷ22	220／208／ 42（56）	不整形	暗褐	中後Ⅰ	ド138	複数遺構の重複
91	挿43	ＡＵ８	128／100／ 39	不整円形	－	中後	ド92他	複数遺構の重複
92	挿43	ＡＵ９	140／128／ 47	不整円形	黄混暗褐	中中	ド91.93	複数遺構の重複
93	挿43	ＡＵ９	－／ 72／ 35	不整円形	暗褐	－	ド92	複数遺構の重複
94	挿43	ＡＵ８	120／ －／ 17	不整楕円	－	－	ド95	複数遺構の重複
95	挿43	ＡＵ８	160／ －／ 24	不整楕円	暗褐	中後	ド94	複数遺構の重複
96	挿43	ＡＶ７	112／ 96／ 23	不整円形	黄色混黒	中後	－	
97	挿43	ＡＵ７	104／ －／ 34	不整楕円	暗褐	中後？	ド98他	複数遺構の重複
98	挿43	ＡＵ７	132／ －／ 17	不整楕円	－	中後	ド97他	複数遺構の重複
99	挿43	ＡＴ６	96／ 90／ 26	円形	黄混黒褐	中	有	複数遺構の重複

表32　遺構観察表（３）

遺構名	図版No.	検出位置	規模（長／短／深cm）	形　態	覆　土	時　代	重複遺構	備　　考
土坑100	挿43	ＡＳ７	164／138／ 34	楕円形	暗褐	－	有	
101	挿43	ＡＴ９	116／ 80／ 23	不整楕円	暗褐	－	－	
102	挿55	ＡＶ20	120／ 96／ 41	楕円形	暗褐	－	－	
103	挿55	ＡＵ20	120／ 92／ 24（56）	楕円形	暗褐	－	－	複数遺構の重複
104	挿56	ＡＳ18	128／ 76	不整楕円	黒褐	－	－	複数遺構の重複
105	挿56	ＡＳ15	136／ 96／ 35	不整楕円	暗褐	－	有	
106	挿49	ＡＳ12	144／120／ 56	不整円形	暗褐	－	－	
107	挿49	ＡＲ13	212／128／ 19（35）	不整楕円	暗褐	中後	有	複数遺構の重複
108	挿49	ＡＱ13	112／100／ 14	不整円形	黄混暗褐	－	－	
109	挿49	ＡＰ13	72／ 68／ 18	円形	黄混黒褐	中後Ⅰ	－	
110	挿49	ＡＰ12	190／128／ 38	不整楕円	黄混黒褐	－	－	礫あり
111	挿49	ＡＱ11	156／136／ 54	円形	黄混暗褐	－	－	
112	挿49	ＡＲ11	80／ 80／ 15	円形	黄混暗褐	－	－	
113	挿49	ＡＲ11	84／ 68／ 24	楕円形	黄混黒褐	中後	－	
114	挿49	ＡＲ10	172／ 84／ 36	不整楕円	暗褐	中後Ⅱ	－	
115	挿43	ＡＳ９	236／168／ 50	不整長方	黒褐	－	－	
116	挿43	ＡＲ８	104／ 96／ 31	不整楕円	暗褐	－	－	
117	挿43	ＡＲ８	88／ 80／ 29	円形	暗褐	中後	有	複数遺構の重複
118	挿43	ＡＱ７	100／ －／ 21	不整円形	黄混暗褐	－	有	複数遺構の重複
119	挿49	ＡＮ８	－／ －／ 39	－	漆黒	－	－	一部未調査
120	挿49	ＡＰ９	88／ 84／ 21	円形	黄混暗褐	－	－	
121	挿46	ＢＤ10	108／ 88／ 43	楕円形	暗褐	－	－	
122	挿56	ＡＯ21	288／152／ 34（55）	長方形	黒	中	竪穴５	複数遺構の重複
123	挿57	ＡＮ21	120／112／ 16	正方形	暗褐	－	－	
124	挿56	ＡＱ17	94／ 76／ 26	不整長方	暗褐	中後Ⅰ	－	
125	挿56	ＡＱ17	180／100／ 18（44）	瓢箪形	暗褐	中後	－	複数遺構の重複
126	挿57	ＡＬ17	92／ －／ 17	円形	暗褐	－	ド127 他	複数遺構の重複
127	挿57	ＡＬ17	－／104／ 25	楕円形	暗褐	－	ド126 他	複数遺構の重複
128	挿57	ＡＬ16	106／ 68／ 26	楕円形	暗褐	－	－	
129	挿56	ＡＰ15	104／100／ 7	方形	暗褐	－	－	
130	挿49	ＡＯ10	80／ 64／ 33	楕円形	暗褐	－	－	
131	挿49	ＡＮ10	100／ 76／ 35	楕円形	暗褐	－	－	
132	挿49	ＡＮ10	88／ 84／ 53	正方形	暗褐	－	－	

表33　遺構観察表（４）

遺構名	図版No.	検出位置	規模（長／短／深cm）	形　態	覆　土	時　代	重複遺構	備　　考
土坑133	挿49	ＡＮ９	84／ 76／ 62	円形	暗褐	－	有	複数遺構の重複
134	挿50	ＡＭ９	－／ 68／ 30	暗褐	－		ド135	一部未調査
135	挿50	ＡＭ９	200／ －／ 20	不整形	暗褐	－	ド134	一部未調査
136	挿50	ＡＫ11	172／124／ 26	不整楕円	暗褐	－	有	複数遺構の重複
137	挿50	ＡＩ11	128／ －／ 31	不整形	黒	－	－	一部未調査
138	挿55	ＡＷ22	120／ 88／ 27（63）	不整楕円		中後	ド90	複数遺構の重複
139	挿76	ＢＴ48	100／ －／ 33	円形	暗褐	－	－	一部未調査
140	挿76	ＢＴ46	－／ －／ 11	不整形	暗褐	－	ド158	複数遺構の重複
141	挿76	ＢＲ45	180／116／ 27	不整楕円	暗褐	－	ド155	複数遺構の重複
142				暗褐	中			14住p14
143				暗褐	－			14住p10
144				暗褐	中			14住p11
145				黒褐	中			14住ｐ９
146	挿64	ＢＱ30	－／104／ 56	不整楕円	－	－	17住・竪６	一部未調査
147	挿58	ＢＱ23	－／148／ 34（59）	不整形	黒褐	中後Ｉ	有	複数遺構の重複
148	挿58	ＢＰ23	216／188／ 55	不整楕円	黒褐	－	有	複数遺構の重複
149	挿58	ＢＰ22	104／104／ 27	円形	黒褐	－	－	
150	挿58	ＢＱ24	108／ 84／ 44	楕円形	褐	－	－	
151	挿58	ＢＲ25	112／ 76／ 47	長方形	褐	－	19住	
152	挿58	ＢＲ28	100／ 84／ 77	不整円形	褐	中後Ｉ	－	
153	挿64	ＢＱ33	132／ －／ 36	円形	黒褐	－	有	一部未調査
154	挿64	ＢＲ33	－／ 84／ 23	－	褐	－	17住	
155	挿76	ＢＲ45	188／ 92／ 44（55）	楕円形	暗褐	－	ド141	
156	挿76	ＢＳ45	156／108／ 27（35）	不整楕円	暗褐	－	－	
157	挿76	ＢＳ46	220／132／ 32（56）	不整楕円	暗褐	－	有	底部片上り
158	挿76	ＢＴ46	112／112／ 60	円形	漆黒	－	ド140.集６	複数遺構の重複
159	挿76	ＢＱ44	112／ 96／ 40	円形	暗褐	中後	ド170	
160	挿70	ＢＱ44	88／ 80／ 37	円形	暗褐	中	－	
161	挿70	ＢＳ44	116／ －／ 64	楕円形	暗褐	中後	14住	
162				－	暗褐	－		14住p3
163	挿70	ＢＴ42	100／ 84／ 14（43）	方形	暗褐	－	14住	
164	挿76	ＢＱ47	－／116／ 25	－		－	21住ド165	
165	挿76	ＢＰ47	136／104／ 47	不整長方	暗褐	中後	ド164 他	複数遺構の重複

表34　遺構観察表（5）

遺構名	図版No.	検出位置	規模（長／短／深cm）	形態	覆土	時代	重複遺構	備考
土坑166	挿76	ＢＲ48	168／108／ 22（51）	楕円形	暗褐	－	13住他	複数遺構の重複
167	挿76	ＢＯ47	160／124／ 15（35）	楕円形	暗褐	－	－	複数遺構の重複
168	挿76	ＢＰ46	92／ 92／ 19（45）	不整円形	暗褐	－	有	複数遺構の重複
169	挿76	ＢＰ49	204／148／ 23（69）	不整形	黒褐	－	ド170 他	複数遺構の重複
170	挿76	ＢＱ45	208／152／ 39（69）	不整楕円	暗褐	中後	ド159.169	複数遺構の重複
171	挿70	ＢＰ43	128／ 96／ 30	楕円形	褐	－	－	
172	挿70	ＢＰ41	84／ －／ 50	円形	暗褐	－	有	複数遺構の重複
173	挿64	ＢＲ37	108／ 80／ 20	長方形	暗褐	－	－	
174	挿70	ＢＱ39	80／ 56／ 22	楕円形	暗褐	中後	有	
175	挿70	ＢＲ41	72／ 64／ 58	円形	－	－	15住	
176	挿70	ＢＱ40	96／ 64／ 68	楕円形	暗褐	－	有	
177	挿70	ＢＲ41	64／ 60／ 43	円形	暗褐		14住	
178	挿77	ＢＯ46	92／ 88／ 15	円形	暗褐	中後	－	複数遺構の重複
179	挿77	ＢＮ46	－／ 72／ 10（23）	－	暗褐	－	ド180	
180	挿77	ＢＮ47	－／ 84／ 10（27）	－	暗褐	－	ド179.181	
181	挿77	ＢＮ47	188／104／ 2（19）	不整楕円	暗褐	－	ド180	
182	挿77	ＢＮ48	212／176／ 24（43）	不整形	暗褐	－	ド186	複数遺構の重複
183	挿77	ＢＮ49	80／ 68／ 15	不整円形	暗褐	－	有	複数遺構の重複
184	挿77	ＢＭ50	96／ 76／ 20（49）	楕円形	暗褐	－	－	複数遺構の重複
185	挿77	ＢＭ49	－／ －／ 21	－	暗褐	－	有	複数遺構の重複
186	挿77	ＢＮ49	80／ 68／ 36	不整円形	褐	中後	ド182	複数遺構の重複
187	挿77	ＢＯ45	80／ 72／ 67	円形	暗褐	中後	ド188 他	複数遺構の重複
188	挿77	ＢＯ45	272／188／ 31（50）	長方形	暗褐	中後？	ド187 他	複数遺構の重複
189	挿77	ＢＯ45	128／100／ 19（36）	不整楕円	暗褐	－	ド188	複数遺構の重複
190	挿77	ＢＮ44	136／ 92／ 46（59）	不整長方	暗褐	－	ド192 他	複数遺構の重複
191	挿77	ＢＮ43	－／ －／ 25	－	暗褐		有	複数遺構の重複
192	挿77	ＢＮ44	140／ －／ 12	－	暗褐	－	ド190 他	複数遺構の重複
193	挿77	ＢＮ45	220／148／ 18（71）	不整楕円	暗褐	－	－	
194	挿77	ＢＭ44	100／ 84／ 30	長方形	暗褐	－	有	
195	挿77	ＢＭ43	192／108／ 39（63）	不整楕円	黒褐	－	－	複数遺構の重複
196	挿77	ＢＭ47	－／ －／ 25	不整形	暗褐	－	ド197 他	複数遺構の重複
197	挿77	ＢＭ47	－／ －／ 21	長方形	暗褐	－	ド196 他	複数遺構の重複
198	挿77	ＢＭ46	168／ 96／ 36（62）	瓢箪形	暗褐	中後	有	

表35　遺構観察表（６）

遺構名	図版No.	検出位置	規模（長／短／深cm）	形態	覆土	時代	重複遺構	備考
土坑199	挿77	ＢＬ48	88／ 76／ 14	円形	暗褐	－	－	
200	挿80	ＢＫ52	136／ －／ 30	楕円形	褐	－	ド201 他	複数遺構の重複
201	挿80	ＢＫ53	152／152／ 64	不整方形	褐	－	ド200 他	複数遺構の重複
202	挿80	ＢＪ52	116／ 80／ 29	楕円形	暗褐	－	－	
203	挿80	ＢＩ52	240／172／ 72	楕円形	暗褐	中？	ミ4	複数遺構の重複
204	挿80	ＢＩ51	196／168／117	方形	暗褐	－	ミ4	複数遺構の重複
205	挿78	ＢＨ48	212／120／ 25（37）	不整楕円	暗褐	中後Ⅲ	－	複数遺構の重複
206	挿80	ＢＩ49	160／ 80／	楕円形	暗褐	中後	ミ4他	複数遺構の重複
207	挿78	ＢＨ48	216／140／ 63	不整楕円	黒褐	－	－	複数遺構の重複
208	挿78	ＢＨ47	128／100／ 15（27）	不整楕円	暗褐	－	－	複数遺構の重複
209	挿77	ＢＫ47	160／ 96／ 22（38）	不整楕円	暗褐	－	－	複数遺構の重複
210	挿78	ＢＨ46	－／164／ 12	不整楕円	－	－	有	複数遺構の重複
211	挿78	ＢＩ45	－／112／ 24（40）	－	暗褐	－	ド212 他	複数遺構の重複
212	挿78	ＢＨ45	148／ －／ 24（30）	－	暗褐	－	ド211 他	複数遺構の重複
213	挿78	ＢＨ44	160／ 84／ 27（74）	不整形	暗褐	－	－	複数遺構の重複
214	挿78	ＢＪ44	－／ 84／ 59	－	暗褐	－	ド215	複数遺構の重複
215	挿78	ＢＪ43	132／ －／ 78	－	暗褐	－	ド214 他	複数遺構の重複
216	挿77	ＢＬ43	132／ －／ 40	不整方形	暗褐	中後	ド217.241	複数遺構の重複
217	挿77	ＢＬ43	124／ ／ 85	不整楕円	暗褐	中後Ⅱ	ド216	複数遺構の重複
218	挿81	ＢＥ54	132／112／ 18（59）	楕円形	－	－	－	複数遺構の重複
219	挿81	ＢＦ54	208／184／ 17（66）	不整方形	－	－	－	複数遺構の重複
220	挿81	ＢＧ54	216／148／ 8（59）	楕円形	－	前？	－	複数遺構の重複
221	挿81	ＢＦ54	128／128／ 41	不整円形	－	－	－	複数遺構の重複
222	挿81	ＢＦ54	76／ 68／ 65	円形	－	－	－	
223	挿81	ＢＦ53	120／120／ 45	円形	－	中？	－	
224	挿81	ＢＨ52	240／152／ 39（44）	不整楕円	暗褐	中後	ド227.246	複数遺構の重複
225	挿80	ＢＪ54	100／ 88／ 26（53）	円形	褐色	砂質前末	－	複数遺構の重複
226	挿81	ＢＤ52	88／ 84／ 13（48）	円形	暗褐	－	－	複数遺構の重複
227	挿81	ＢＧ52	152／120／ 36（62）	不整方形	暗褐	－	ド224	複数遺構の重複
228	挿79	ＢＤ50	80／ 76／ 28	円形	暗褐	－	有	複数遺構の重複
229	挿79	ＢＤ50	84／ 72／ 21	楕円形	暗褐	－	ミ1	複数遺構の重複
230	挿79	ＢＣ50	292／116／ 25（39）	不整楕円	暗褐	－	ミ1	複数遺構の重複
231	挿80	ＢＩ55	80／ 68／ 15（42）	円形	褐色砂質	前後	－	複数遺構の重複

表36　遺構観察表（７）

遺構名	図版No.	検出位置	規模（長／短／深cm）	形　態	覆　土	時　代	重複遺構	備　　考
土坑232	挿79	ＢＣ49	140／128／ 33（46）	不整円形	暗褐	－	－	複数遺構の重複
233	挿78	ＢＨ49	152／100／	不整長方	－	前中	ド234	複数遺構の重複
234	挿78	ＢＨ50	144／112／　（37）	不整長方	－	－	ド233	複数遺構の重複
235	挿78	ＢＧ50	144／108／ 62（94）	不整楕円	暗褐	中？	ミ状4他	複数遺構の重複
236	挿78	ＢＦ49	124／ 88／ 50	楕円形	暗褐	中後	－	
237	挿78	ＢＦ49	136／ 84／ 23（39）	楕円形	暗褐	－	－	複数遺構の重複
238	挿78	ＢＦ49	96／ 92／ 38	円形	暗褐	－	－	
239	挿79	ＢＥ49	96／ 84／ 36	円形	暗褐	中後	－	
240	挿79	ＢＥ46	252／104／ 34	不整楕円	暗褐	－	ミ1他	複数遺構の重複
241	挿77	ＢＫ44	－／ －／　（31）	不整形	暗褐	－	ド216 他	複数遺構の重複
242	挿78	ＢＦ44	100／ 76／ 36（42）	楕円形	暗褐	中後？	－	複数遺構の重複
243	挿79	ＢＢ45	160／120／ 35	楕円形	暗褐	－	有	複数遺構の重複
244	挿79	ＢＣ45	152／ 68／ 33	楕円形	暗褐	－	有	複数遺構の重複
245	挿78	ＢＦ50	100／ 84／ 15（59）	不整方形	暗褐	－	有	複数遺構の重複
246	挿81	ＢＨ53	172／140／ 44	長方形	暗褐	－	ド224	複数遺構の重複
247	挿78	ＢＧ44	124／112／ 19（42）	円形	暗褐	－	－	複数遺構の重複
248	挿75	ＡＶ41	136／120／ 26	不整方形	－	中後Ⅱ	有	複数遺構の重複
249	挿75	ＡＶ41	136／ 80／ 21（36）	楕円形	－	－	－	複数遺構の重複
250	挿75	ＡＶ40	152／120／ 22（51）	不整円形	－	中後	－	複数遺構の重複
251	挿75	ＡＶ39	120／ 56／ 4（32）	不整楕円	－	－	－	複数遺構の重複
252	挿65	ＡＷ39	236／104／ 37	不整長方	－	後前	－	
253	挿65	ＡＶ38	72／ 64／ 18	円形	－	－	－	
254	挿69	ＡＵ35	192／156／ 34	楕円形	－	後？	－	
255	挿69	ＡＴ34	74／ 68／ 21	円形	－	－	－	
256	挿69	ＡＵ33	92／ 68／ 43	楕円形	－	－	－	
257	挿69	ＡＶ31	144／132／ 47	不整円形	－	－	－	
258	挿69	ＡＵ31	160／104／ 41	楕円形	－	－	－	
259	挿69	ＡＳ30	100／ 80／ 22	楕円形	－	－	－	
260	挿63	ＡＵ29	148／100／ 15（35）	不整楕円	－	中	有	複数遺構の重複
261	挿63	ＡＳ28	60／ 56／ 35	不整円形	－	－	有	
262	挿63	ＡＲ29	86／ 64／ 7（33）	長方形	－	中	－	複数遺構の重複
263	挿63	ＡＴ28	96／ 80／ 16	方形	－	－	－	
264	挿63	ＡＳ28	140／ 80／ 22	不整楕円	－	－	ミ3	

表37　遺構観察表（８）

遺構名	図版No.	検出位置	規模（長／短／深cm）	形態	覆土	時代	重複遺構	備考
土坑265	挿63	ＡＲ26	88／ 72／ 28	楕円形	－	－	－	
266	挿63	ＡＱ26	－／148／ 41	長方形	－	中後Ⅰ	有	一部未調査
267	挿71	ＢＰ42	104／ 88／ 43	楕円形	－	中？	－	
268	挿71	ＢＯ42	84／ 68／ 23	楕円形	－	－	－	
269	挿71	ＢＯ41	88／ 68／ 29	不整楕円	－	－	有	
270	挿71	ＢＰ41	88／ 48／ 3（7）	不整楕円	－	後前	－	一部未調査
271	挿71	ＢＯ41	68／ 44／ 12（33）	瓢箪形	－	中後	－	一部未調査
272	挿71	ＢＭ41	56／ 48／ 28（41）	円形形	－	中後	－	一部未調査
273	挿71	ＢＭ41	100／ 92／ 49	方形	－	中後	有	一部未調査
273	挿71	ＢＭ40	100／ 88／ 42（61）	不整楕円	－	中後	－	一部未調査
275	挿71	ＢＮ40	100／ 94／ 45	不整円形	－	中後Ⅱ	ド277	一部未調査
276	挿71	ＢＯ40	－／ 52／ 40	円形	－	中後	有	一部未調査
277	挿71	ＢＮ40	－／ 80／ 23（36）	楕円形	－	－	ド275	一部未調査
278	挿71	ＢＮ40	56／ 40／ 35	楕円形	－	－	有	一部未調査
279	挿71	ＢＬ41	60／ 56／ 50	円形	－	中後Ⅲ	有	一部未調査
280	挿71	ＢＭ40	60／ 48／ 45	不整楕円	－	中後Ⅲ	－	
281	挿71	ＢＯ41	48／ 32／ 48	楕円形	－	－	有	複数遺構の重複
282								方形柱穴列1 p4
283	挿65	ＢＮ32	52／ －／ 25（32）	楕円形	－	中後Ⅰ	26住	
284	挿65	ＢＯ32	96／ －／ 16	－	－	中後	22住	
285	挿65	ＢＮ33	84／ －／ 15	－	－	－	23住	
286	挿59	ＢＯ29	60／ －／ 15	－	－	中後Ⅰ	－	一部未調査
287	挿65	ＢＰ34	132／ －／ 8	－	－	中	－	一部未調査
288	挿65	ＢＯ35	104／ 72／ 19	不整楕円	－	中後	23住	
289	挿65	ＢＰ35	128／112／ 53	不整楕円	－	－	－	
290	挿65	ＢＬ34	68／ 64／ 50	円形	－	中後	23住	
291	挿71	ＢＮ37	96／ 60／ 68	不整楕円	－	中	集3ド292	一部未調査
292	挿71	ＢＮ37	－／ 56／ 41	－	－	中後	ド291	一部未調査
293	挿71	ＢＮ36	80／ 48／ 34	楕円形	－	－	－	
294	挿71	ＢＯ37	60／ 40／ 26	楕円形	－	－	有	一部未調査
295	挿71	ＢＫ42	148／100／ 45	不整長方	－	中後	－	
296	挿71	ＢＬ42	64／ 60／ 27	不整方形	－	中後	－	
297	挿71	ＢＭ42	76／ 76／ 11（38）	円形	－	中後	－	一部未調査

表38　遺構観察表（９）

遺構名	図版No.	検出位置	規模（長／短／深cm）	形　態	覆　土	時　代	重複遺構	備　　考
土坑298	挿71	ＢＮ40	48／ 44／ 37	円形	－	－	有	一部未調査
299	挿71	ＢＭ40	56／ 48／ 4（38）	楕円形	－	－	有	一部未調査
300	挿71	ＢＭ39	76／ －／ 16	－	－	－	24住他	一部未調査
301	挿71	ＢＭ38	48／ 44／ 38	方形	－	中	有	複数遺構の重複
302	挿71	ＢＭ37	80／ 64／ 36	不整円形	－	－	有	複数遺構の重複
303	挿59	ＢＯ28	160／140／ 28	楕円形	－	－	－	
304	挿59	ＢＯ27	180／ 88／ 24（33）	不整楕円	－	中	－	複数遺構の重複
305	挿59	ＢＮ26	156／ 64／ 19（22）	瓢箪形	－	－	－	複数遺構の重複
306	挿59	ＢＮ26	84／ 76／ 8	楕円形	－	－	－	
307	挿59	ＢＭ24	260／ 92／ 27（75）	楕円形	－	中後Ⅳ	－	複数遺構の重複
308	挿59	ＢＬ28	172／112／ 27	不整楕円	－	中	－	複数遺構の重複
309	挿59	ＢＬ27	212／ 84／	不整楕円	－	中後	－	複数遺構の重複
310	挿59	ＢＬ27	176／172／	不整形	－	－	－	複数遺構の重複
311								埋設土器３
312	挿59	ＢＫ25	72／ 60／ 43	不整円形	－	中	－	
313	挿59	ＢＫ25	92／ 56／ 27（43）	不整楕円	－	－	－	複数遺構の重複
314	挿59	ＢＮ24	100／100／ 39	円形	－	中	有	複数遺構の重複
315	挿59	ＢＮ24	116／108／ 51	不整円形	－	中後Ⅰ	－	
316	挿60	ＢＨ27	156／100／ －	不整楕円	－	－	ミ1	溝1を切る
317	挿60	ＢＧ26	48／ 44／ 23	円形	－	中後	有	複数遺構の重複
318	挿60	ＢＧ26	88／ 80／ 50	円形	－	中後	有	複数遺構の重複
319	挿60	ＢＩ28	－／ 80／ 27	不整楕円	－	－	18住	
320	挿66	ＢＧ30	160／ －／ 44	円形	－	－	27住	複数遺構の重複
321	挿66	ＢＧ31	104／ 68／	楕円形	－	－	27住	
322	挿66	ＢＪ33	88／ 64／ 38	楕円形	－	－	有	複数遺構の重複
323	挿66	ＢＪ32	160／ －／ 34	楕円形	－	－	有	複数遺構の重複
324	挿66	ＢＪ31	－／ 48／ 43	楕円形	－	－	有	複数遺構の重複
325	挿65	ＢＬ35	72／ 50／ 20	楕円形	－	－	－	
326	挿66	ＢＫ34	60／ 44／ 22	楕円形	－	－	－	
327	挿66	ＢＪ34	148／140／ 22（30）	不整円形	－	－	－	複数遺構の重複
328	挿72	ＢＪ41	76／ 64／ 35	楕円形	－	－	－	
329	挿72	ＢＪ38	224／148／	不整形	－	－	－	複数遺構の重複
330	挿71	ＢＬ39	312／160／ 13	不整長方	－	－	有	複数遺構の重複

表39　遺構観察表（10）

遺構名	図版No.	検出位置	規模（長／短／深cm）	形態	覆土	時代	重複遺構	備考
土坑331	挿71	ＢＬ37	168／160／ 48（73）	不整円形	－	－	有	複数遺構の重複
332	挿72	ＢＫ37	136／ 96／ 21（35）	不整楕円	－	－	－	複数遺構の重複
333								
334	挿72	ＢＧ40	－／108／ 10（25）	円形	－	－	有	複数遺構の重複
335	挿72	ＢＨ38	120／ 92／ 24	楕円形	－	－	ド336	複数遺構の重複
336	挿72	ＢＨ38	248／152／ 12	不整形	－	－	ド335	複数遺構の重複
337	挿72	ＢＩ38	100／100／ 32	円形	－	－	有	複数遺構の重複
338	挿72	ＢＨ37	112／ 80／ 22	楕円形	－	－	有	複数遺構の重複
339	挿66	ＢＧ34	56／ 36／ 22	楕円形	－	－	－	
340	挿66	ＢＧ34	32／ 28／ 24	円形	－	中後Ⅰ	－	
341	挿66	ＢＧ34	36／ 36／ 27	円形	－	－	－	
342	挿66	ＢＩ34	76／ 68／ 29	円形	－	中後Ⅰ	ド343	複数遺構の重複
343	挿66	ＢＩ33	132／120／ 34	不整円形	－	中後？	ド342 他	複数遺構の重複
344	挿66	ＢＨ33	228／120／	不整長方	－	中	有	複数遺構の重複
345	挿66	ＢＧ33	140／ 92／ 19（58）	不整楕円	－	中後？	有	複数遺構の重複
346	挿60	ＢＦ27	244／ －／ 18	不整楕円	－	中後Ⅱ	有	複数遺構の重複
347	挿73	ＢＧ41	－／120／ 35	－	－	－	ミ1	
348	挿72	ＢＧ39	156／ 84／ 11	楕円形	－	－	－	
349	挿72	ＢＧ37	136／124／ 44	不整方形	－	中？	－	
350	挿67	ＢＦ33	68／ 64／ 41	円形	－	中後Ⅰ	－	
351	挿67	ＢＦ33	112／108／ 40	円形	－	中後？	有	複数遺構の重複
352	挿67	ＢＦ32	144／ 84／ 24	楕円形	－	中後Ⅳ	有	複数遺構の重複
353	挿67	ＢＦ31	32／ 20／ 7	楕円形	－	中後	－	
354	挿67	ＢＦ30	60／ 56／ 28	円形	－	中後	－	
355	挿60	ＢＦ29	148／ 80／ 11	不整楕円	－	中後	－	複数遺構の重複
356	挿74	ＢＣ42	80／ 64／ 5	楕円形	－	中世	－	
357	挿73	ＢＥ41	100／108／ 12	不整形	－	前後	－	
358	挿73	ＢＤ41	152／100／ 10（21）	不整長方	－	－	－	複数遺構の重複
359	挿73	ＢＤ42	82／ 68／ 41	楕円形	－	中後？	－	
360	挿67	ＢＤ35	96／ 56／ 19	楕円形	－	－	－	
361	挿67	ＢＢ35	76／ 68／ 10	楕円形	－	前後	－	
362	挿68	ＢＢ33	132／ －／ 15	楕円形	－	中後	ド427	複数遺構の重複
363	挿67	ＢＣ34	88／ 80／ 20	不整円形	－	中後？	－	

表40　遺構観察表（11）

遺構名	図版No.	検出位置	規模（長／短／深cm）	形　態	覆　土	時　代	重複遺構	備　　考
土坑364								方柱2　p1
365	挿67	ＢＢ32	68／ 56／ 21	楕円形	－	中後Ⅱ	ド409他	複数遺構の重複
366	挿67	ＢＦ32	52／ 50／ 33	円形	－	－	有	複数遺構の重複
367	挿67	ＢＦ31	92／ 80／ 49	円形	－	中後	有	複数遺構の重複
368	挿67	ＢＣ32	140／ 68／	不整楕円	－	中後	ド408	複数遺構の重複
369	挿67	ＢＤ31	68／ 64／ 19	円形	－	前後	－	
370	挿68	ＢＢ30	116／116／ 13（29）	不整形	－	中後Ⅱ	有	複数遺構の重複
371	挿73	ＢＥ38	152／ 84／ 19（52）	不整楕円	－	－	－	複数遺構の重複
372	挿68	ＢＢ30	64／ 64／ 40	方形	－	中後	有	複数遺構の重複
373	挿73	ＢＤ37	136／ 84／ 18	楕円形	－	前中	－	
374	挿73	ＢＤ37	108／104／ 37	方形	－	中後	有	複数遺構の重複
375								
376	挿67	ＢＤ34	164／100／ 22	不整楕円	－	中後	－	
377	挿67	ＢＣ34	76／ 48／ 12（34）	楕円形	－	中後Ⅱ	有	複数遺構の重複
378	挿67	ＢＤ34	160／128／ 23	不整形	－	中後	－	
379	挿67	ＢＤ33	60／ 36／ 43	楕円形	－	中後	有	複数遺構の重複
380	挿67	ＢＥ33	108／ 76／ 7（43）	楕円形	－	－	有	複数遺構の重複
381	挿67	ＢＤ32	112／ 72／ 24（39）	楕円形	－	中後	有	複数遺構の重複
382	挿67	ＢＣ31	76／ 64／ 24	楕円形	－	－	－	
383	挿68	ＢＡ31	60／ 60／ 33	円形	－	中中	ド426 他	複数遺構の重複
384	挿67	ＢＣ30	128／108／ 40	方形	－	中？	有	複数遺構の重複
385	挿67	ＢＤ30	140／112／ 27	方形	－	中後	有	複数遺構の重複
386	挿61	ＢＣ29	124／100／ 38	不整円形	－	中後	ド388 他	複数遺構の重複
387	挿67	ＢＣ30	172／ 76／ －	長方形	－	中	有	
388	挿61	ＢＣ29	216／140／ 30（57）	不整形	－	－	ド386 他	複数遺構の重複
389	挿61	ＢＣ28	100／ 96／ 20	不整方形	－	中後	ド390	複数遺構の重複
390	挿61	ＢＣ28	116／104／ 44	不整円形	－	－	ド389	複数遺構の重複
391	挿61	ＢＢ28	296／168／ 26	不整形	－	中後Ⅱ	ド392	複数遺構の重複
392	挿61	ＢＢ27	－／ 72／ 24	不整楕円	－	中後Ⅲ	ド391	複数遺構の重複
393	挿60	ＢＧ28	108／ －／ 44	不整方形	－	－	有	複数遺構の重複
394	挿60	ＢＧ27	108／ －／ 44	円形	－	－	有	複数遺構の重複
395	挿61	ＢＣ27	108／ －／ 44	不整形	－	中後Ⅰ	有	複数遺構の重複
396	挿61	ＢＤ28	108／ －／ 44	楕円形	－	中後Ⅱ	有	複数遺構の重複

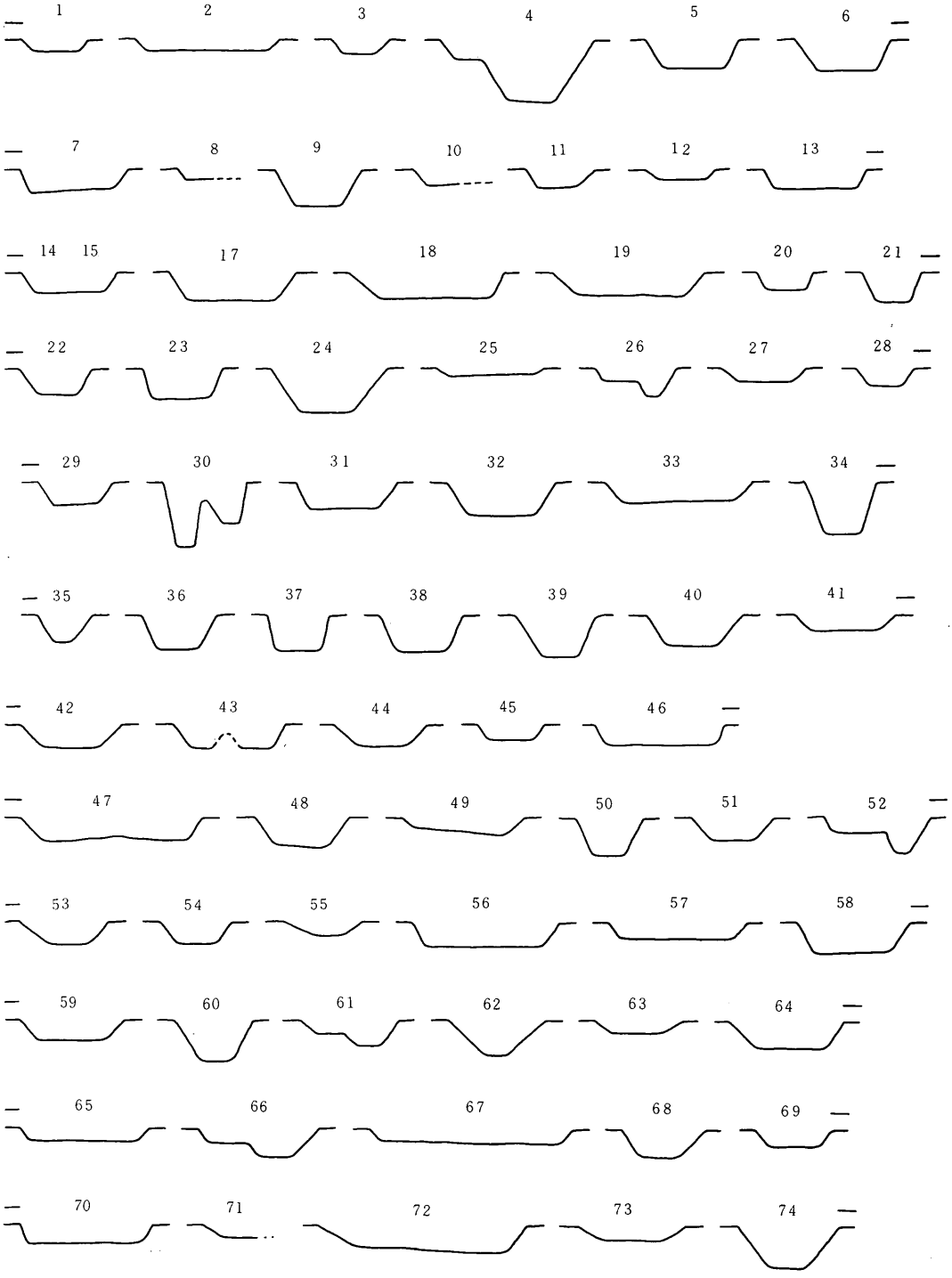
表41　遺構観察表（12）

遺構名	図版No.	検出位置	規模（長／短／深cm）	形態	覆土	時代	重複遺構	備考
土坑397	挿61	ＢＥ27	88／ 80／ 51	不整方形	－	中後Ⅱ	有	複数遺構の重複
398	挿61	ＢＥ27	164／ －／ 10	不整長方	－	－	ド399 他	複数遺構の重複
399	挿61	ＢＥ26	56／ 48／ 27	不整円形	－	中後Ⅱ	ド398	複数遺構の重複
400	挿61	ＢＤ27	224／160／ 11	楕円形	－	後？	ド398	複数遺構の重複
401	挿61	ＢＥ27	240／ －／ 23	－	－	中後	ド398.402	複数遺構の重複
402	挿61	ＢＥ26	88／ 36／ 22	楕円形	－	－	ド401	複数遺構の重複
403	挿60	ＢＦ26	120／100／ 76	不整円形	－	中後Ⅱ	ド404	複数遺構の重複
404	挿60	ＢＦ26	268／192／ 9（17）	不整長方	－	中後Ⅱ	ド403 他	複数遺構の重複
405	挿60	ＢＦ28	－／ 80／ 13	不整長方	－	中後	有	複数遺構の重複
406	挿61	ＢＥ26	132／ 88／ 50	楕円形	－	中後Ⅱ	ド407 他	複数遺構の重複
407	挿61	ＢＥ25	60／ 48／ 38	円形	－	中後Ⅱ	ド406 他	複数遺構の重複
408	挿67	ＢＣ32	76／ 76／ 50	円形	－	－	ド368	
409	挿67	ＢＢ32	60／ 44／ 40	楕円形	－	－	ド365	
410	挿61	ＢＢ23	128／ 56／ 19（38）	瓢箪形	－	－	－	複数遺構の重複
411	挿61	ＢＡ27	100／ 84／ 3（20）	瓢箪形	－	－	－	複数遺構の重複
412	挿74	ＡＹ38	180／168／ 9（49）	不整形	－	－	有	複数遺構の重複
413	挿74	ＡＹ39	68／ 52／ 44	楕円形	－	－	ド433	複数遺構の重複
414	挿62	ＡＸ27	－／ 88／ 28	不整楕円	－	中後Ⅱ	－	
415	挿68	ＡＹ35	92／ 84／ 68	不整円形	－	－	有	複数遺構の重複
416	挿74	ＢＡ43	56／ 54／ 12	円形	－	－	－	
417	挿74	ＡＹ39	252／100／ －	不整楕円	－	中	－	複数遺構の重複
418	挿74	ＡＸ39	108／ －／ －	円形	－	－	ド433	複数遺構の重複
419	挿75	ＡＷ40	104／104／ 52	円形	－	－	－	
420	挿61	ＢＡ28	84／ 68／ 22	不整楕円	－	中後Ⅱ	－	
421	挿61	ＢＡ30	148／120／ 19（53）	不整円形	－	中後	－	複数遺構の重複
422	挿62	ＡＹ29	184／112／ 37	楕円形	－	中後Ⅲ	有	複数遺構の重複
423	挿62	ＡＸ29	120／ 96／ 55	不整形	－	－	有	複数遺構の重複
424	挿62	ＡＹ27	－／180／ 28（59）	不整形	－	中後	有	複数遺構の重複
425	挿62	ＡＸ28	96／ 76／ 21	楕円形	－	－	－	
426	挿68	ＢＡ32	104／100／ 17	不整円形	－	－	ド383	複数遺構の重複
427	挿68	ＢＡ33	180／104／ 53	不整楕円	－	－	ド362	複数遺構の重複
428	挿68	ＡＸ35	116／ －／ 3（27）	不整形	－	－	有	複数遺構の重複
429	挿68	ＡＸ34	108／ 72／ 19（30）	瓢箪形	－	後前	－	複数遺構の重複

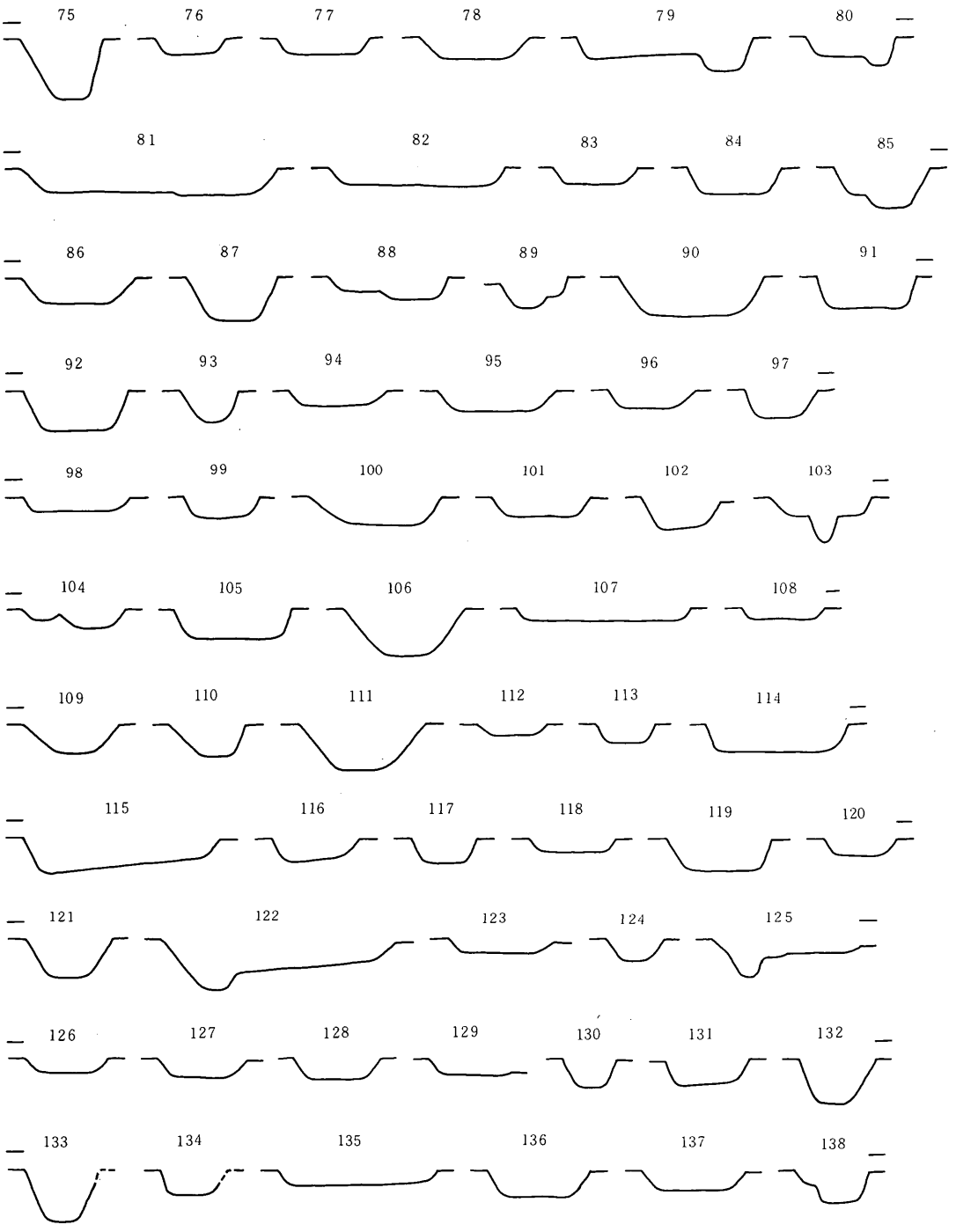
表42　遺構観察表（13）

遺構名	図版No.	検出位置	規模（長／短／深cm）	形態	覆土	時代	重複遺構	備考
土坑430	挿68	AW34	80／ 52／ 16（37）	楕円形	－	中	－	複数遺構の重複
431	挿68	AW35	120／ 60／ 9（36）	楕円形	－	－	－	複数遺構の重複
432	挿74	AX40	104／ 72／ 34	楕円形	－	中後	－	
433	挿74	AX39	176／136／	不整形	－	中後	ド413.418	複数遺構の重複
434	挿74	AY43	140／ 80／ 54	不整楕円	－	中後	－	
435	挿75	AW43	164／148／ 37（57）	不整方形	－	中後	ミ状4	複数遺構の重複
436	挿74	AX43	100／ 60／ 41	不整楕円	－	後初？	－	
437	挿74	AY41	112／ 96／ 56	不整円形	－	－	－	
438	挿63	AU26	112／108／ 24（35）	不整円形	－	－	－	複数遺構の重複
439	挿63	AU27	244／144／ 15（19）	不整形	－	－	有	複数遺構の重複
方柱 1	挿33	BP38	800／400／ 70～85	2×1間	黄混暗褐	後初？	24住	礫多く含む
2	挿34	BA33	620／500／ 80～125	2×1間	漆黒土	中後？	29住切る	P2～4礫含む
集石土1	挿35	BD16	90／ 80／ 20	不整形	暗褐色土	－	－	中央に平坦な礫
2	挿35	BB18	180／145／ 60	不整形	黒褐色土	－	－	複数遺構の重複
3	挿35	BN37	220／160／ 60	不整楕円	暗褐色土	中後	ド291 が新	集石炉・炭多量
4	挿35	BT18	190／ －／ 50	－	黒褐色土	－	1住	北東側に大きめの礫
5	挿36	BE52	175／105／ 40	不整楕円	－	中後	－	
6	挿36	BS46	100／ 85／ 50	楕円形	黒褐色土	－	－	
7	挿36	BS48	115／105／ 45	円形	炭混漆黒	－	－	
8	挿36	BM30	－／120／ －	－	褐	－	26住が新	焼土・集石炉
9	挿37	AS24	175／130／ 45	不整楕円	褐	－	－	
10	挿37	AQ24	165／140／ 50	長方形	褐	－	－	
11	挿37	BO26	120／100／ 20	不整形	－	－	－	片上がり
溝址 1	付図2	BD52他	(9,500)／40;150／0;70	蛇行	漆黒土	－	7住切る	深さ一定せず
2	付図2	BQ14	(400)／－／ －	－	黄混黒	－	1～3住	住居址より新しい
3	付図2	AS29他	(5,100)／60;150／0;40	蛇行	漆黒土	－	ド64を切る	下位に砂礫
4	付図2	BI52	1,000／70；100／30	矩形	褐色土	－	－	
溝状址1	挿38	AS22	280／ 60／ 30	直線状	暗褐色土	－	－	
2	挿38	AS14	360／ 60／ 25	直線状	黄混暗褐	中後	－	

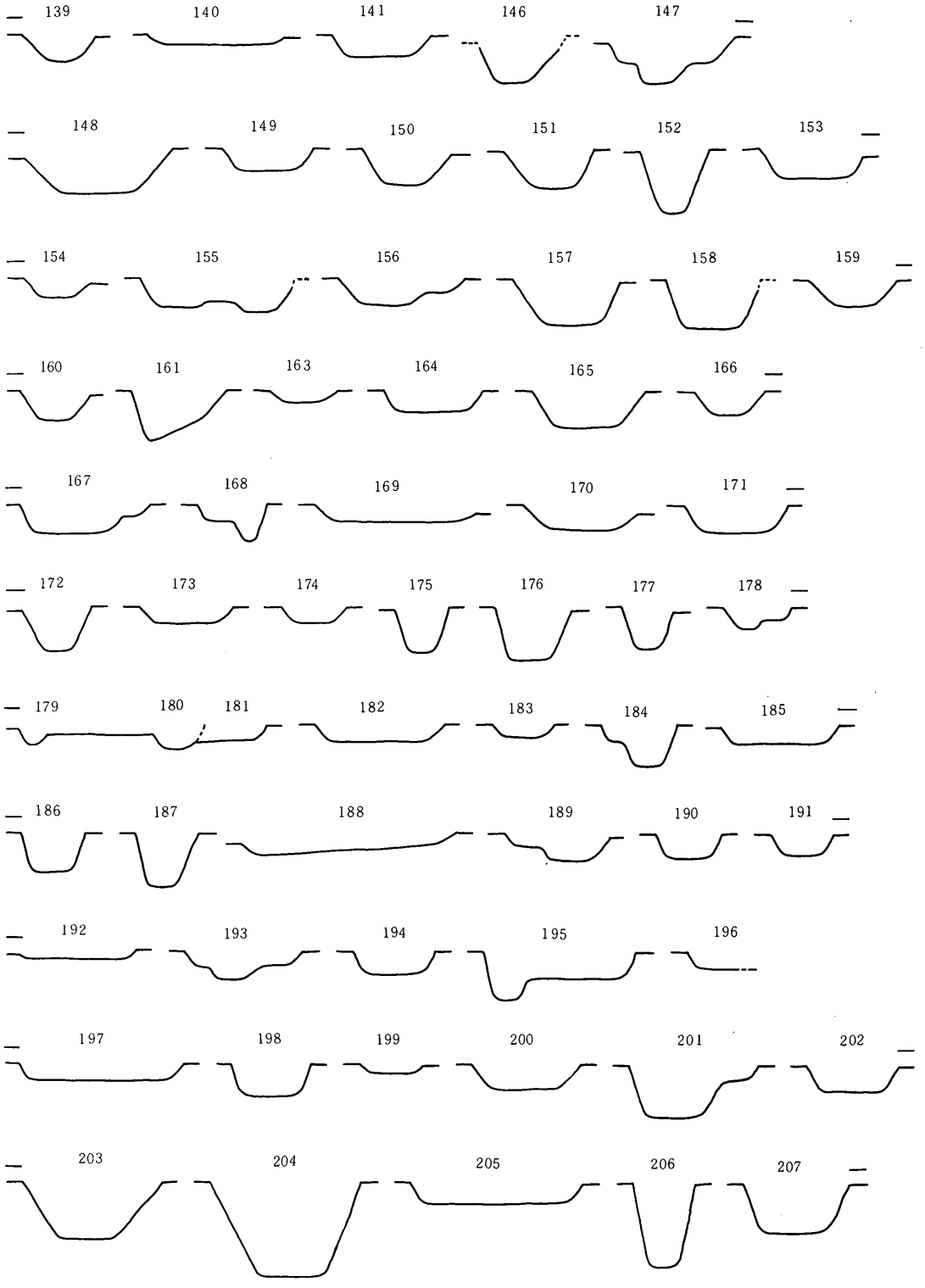
表43　遺構観察表（14）



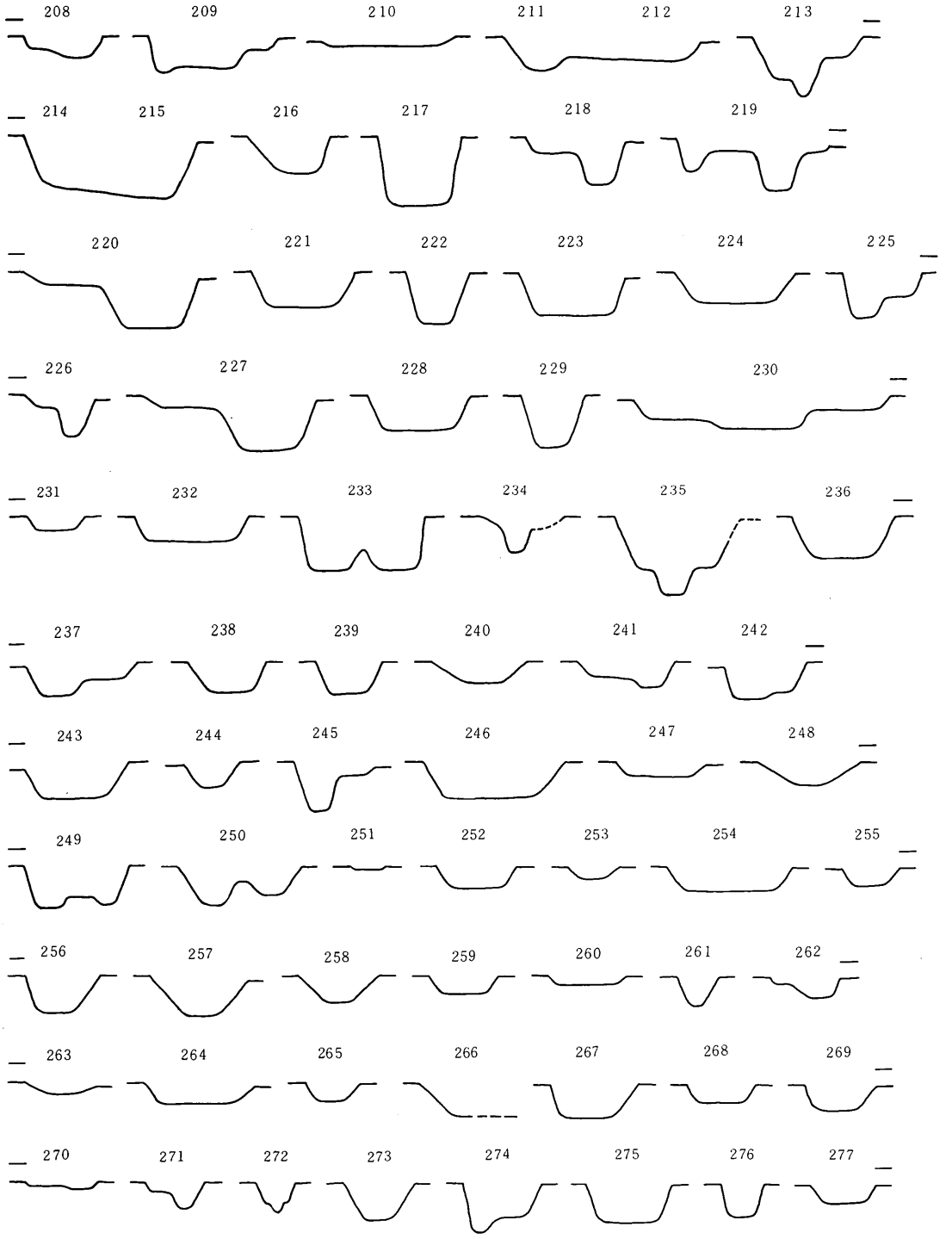
挿図81　土坑エレベーション図（１）



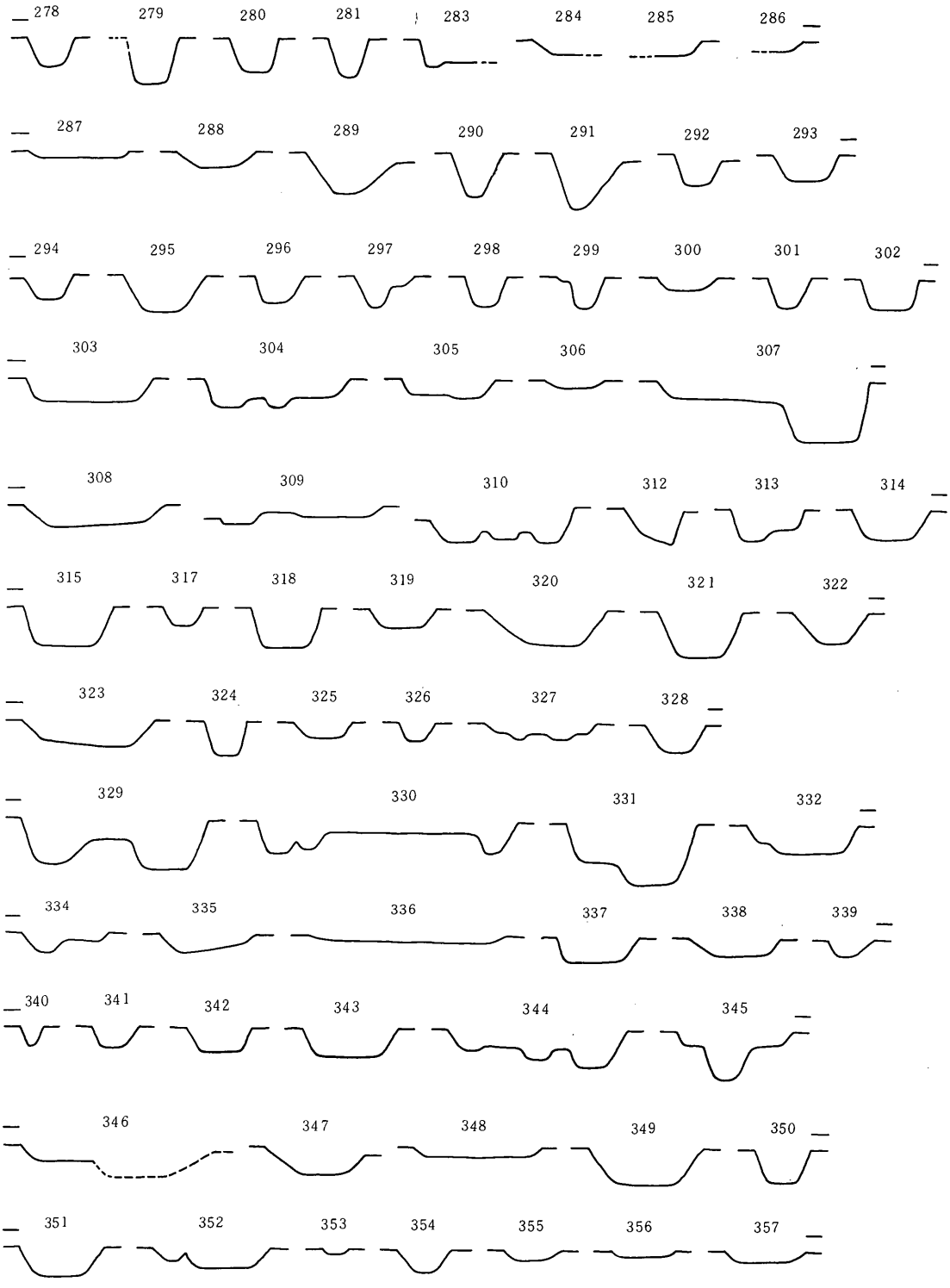
挿図82　土坑エレベーション図（２）



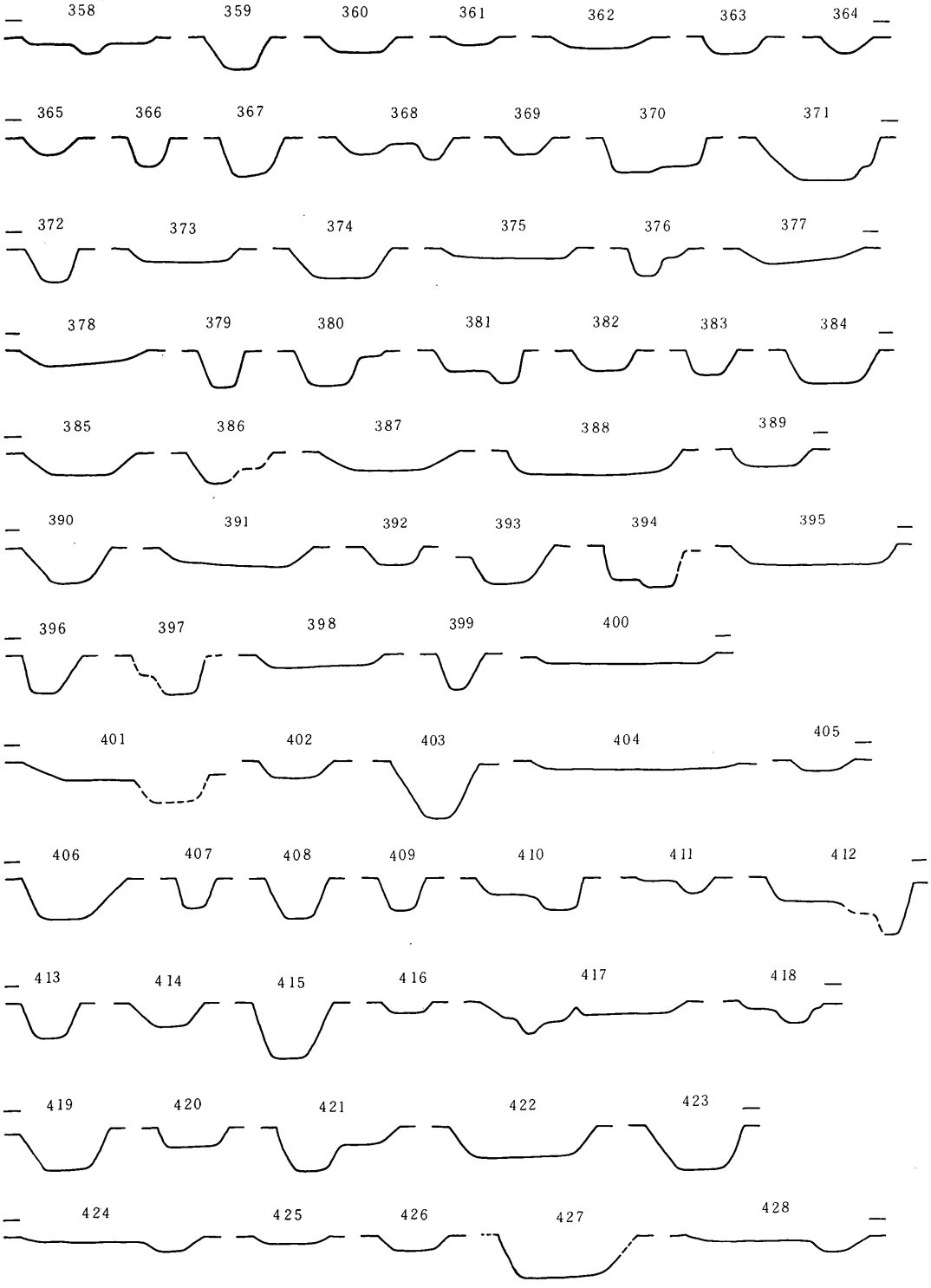
挿図83　土坑エレベーション図（３）



挿図84　土坑エレベーション図（４）



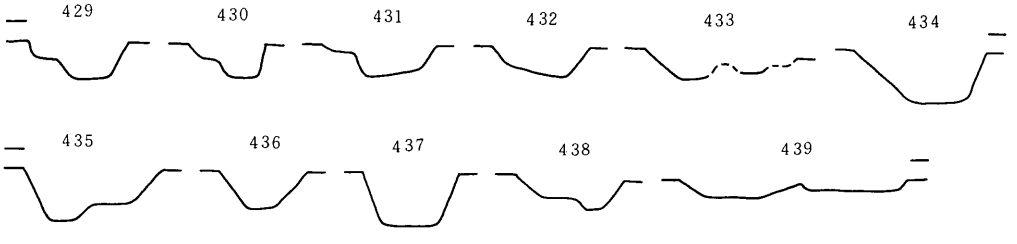
挿図85　土坑エレベーション図（５）



挿図86　土坑エレベーション図（６）

遺構名	図版No.	検出位置	規模（長／短／深cm）	形態	覆土	時代	重複遺構	備考
溝状址3	挿38	ＡＲ15	460／ 50／ 15	直線状	黄混暗褐	中後	－	
4	挿38	ＢＧ50	320／ 70／ 50	直線状	暗褐	中後	ド235	
5	挿38	ＡＸ43	560／ 80／ 10	直線状	暗褐	－	ド435	
竪穴 1	挿39	ＢＨ21	330／300／ 20	不整形	黒褐色土	中後	－	
2	挿39	ＡＹ46	480／280／ 40	不整形	黒褐色土	中後	－	
3	挿39	ＡＵ19	260／240／ 20	不整形	暗褐色土	－	－	
4	挿39	ＡＲ20	－／400／ 20	不整形	－	－	－	
5	挿40	ＡＴ41	505／ －／ 20	不整形	－	－	－	
埋設 1	挿40	ＢＳ38	120／120／ 80	立位	黒褐色土	中後	－	埋甕？
2	挿40	ＢＨ50	60／ 55／ 23	入れ子状	黒褐色土	後前	－	中央に礫・焼土
3	挿40	ＢＧ27	35／ 35／ －	立位	褐色土	中後	－	壁緩やかな立上がり

表44　遺構観察表（15）



挿図87　土坑エレベーション図（７）

	打製石斧	磨製石斧		大形粗製石匙	小形石匙	石錘	敲打器敲石	磨石	凹石	石皿	石棒	横刃型石器	石鏃	石錐	削器掻器	不定形石器	砥石	ピエス	計
		定角	乳棒																
1 住															1				1
2	1								1						3				5
3													1		1				2
4	10											1			3		1		15
5	2						1					1			3				7
6	4											1			4		1		10
7	3																1		4
8	4		1	1											1		1		8
9	1											1			2	2			6
10															2				2
11	1								1				1						3
12	1																		1
13															1				1
14									1			3				2	1		7
15									1						2				3
16	3		1									1			4				9
17	2		1							1		4			3				11
18																			

表45　遺構別石器一覧表（1）

	打製石斧	磨製石斧		大形粗製石匙	小形石匙	石錘	敲打器敲石	磨石	凹石	石皿	石棒	横刃型石器	石鏃	石錐	削器掻器	不定形石器	砥石	ピエス	計
		定角	乳棒																
19 住	8	1				1									8		1		19
20	1														4				5
21															1				1
22	5									1					2	1			9
23	3	1	1									1			11				17
24	2														4				6
25	1						1					1			2				5
26	4						1		2			2			11		1		21
27	1														3		1		5
28																			
29																			
ド 4	1																		1
9															1				1
12																1			1
14	1														1				2
46															1				1
51															1				1

表46　遺構別石器一覧表（２）

	打製石斧	磨製石斧		大形粗製石匙	小形石匙	石錘	敲打器敲石	磨石	凹石	石皿	石棒	横刃型石器	石鏃	石錐	削器掻器	不定形石器	砥石	ピエス	計
		定角	乳棒																
ド 52															1				1
70													1						1
81															2				2
86															1				1
109															4				4
115	2																		2
116	1														3				4
122												1							1
126															1				1
140			1																1
142	2											1							1
144															2				2
146	1																		1
147															1	1			2
158												1			1				2
162	1																		1
188	1														1				2
195	1											1			1	1			4

表47　遺構別石器一覧表（3）

	打製石斧	磨製石斧		大形粗製石匙	小形石匙	石錘	敲打器敲石	磨石	凹石	石皿	石棒	横刃型石器	石鏃	石錐	削器掻器	不定形石器	砥石	ピエス	計
		定角	乳棒																
ド200					1														1
203															1				1
206													1						1
209	1																		1
218	1																		1
220	1														1				2
223	1																		1
231															1				1
234							1		1			1							3
235	1							1											2
242															1				1
263																	1		1
277												1							1
289															1				1
291	1																		1
294												1							1
303												1							1
314	1																		1

表48　遺構別石器一覧表（4）

	打製石斧	磨製石斧		大形粗製石匙	小形石匙	石錘	敲打器敲石	磨石	凹石	石皿	石棒	横刃型石器	石鏃	石錐	削器掻器	不定形石器	砥石	ピエス	計
		定角	乳棒																
ド315						1													1
319	1																		1
331	1																		1
332															1				1
334	1																		1
337																1			1
371	1														1				2
373	1																		1
393															1				1
396															1				1
401												1							1
402															1				1
403		1													1				2
404															1				1
407													1						1
415	1																		1
418															1				1
424															1				1

表49　遺構別石器一覧表（５）

	打製石斧	磨製石斧		大形粗製石匙	小形石匙	石錘	敲打器敲石	磨石	凹石	石皿	石棒	横刃型石器	石鏃	石錐	削器掻器	不定形石器	砥石	ピエス	計
		定角	乳棒																
方柱2									1						1				
ミ 1	4														2				6
2	1														1				2
3	1														1				2
4	1																		1
ミ状1															1				1
タテ1															1				1
2		1																1	2

表50　遺構別石器一覧表（6）

Ⅳ まとめ

1．縄文中期の土器について

今次調査において縄文時代中期中葉末から後葉の土器が比較的多く出土した。よって出土土器群を編年的に位置付けていきたいと思う。なお、編年は『北方北の原遺跡』（飯田市教育委員会1995）に準拠する。

当地方の中期中葉末と後葉の線引きは「細隆線文土器」の把握、言わば細分なくしてあり得ない。八木光則が「細隆線文土器」を中期後葉に位置付けて以来（八木　1976）、多くの編年研究者が右に倣っている。確かに「細隆線文土器」と曽利Ⅰ式土器・「梨久保B式土器」と呼ばれる土器と共伴する報告例が多いことは事実である。しかし、井戸尻Ⅲ式土器と呼ばれる土器と共伴する場合も多い。よって両時期に亘って同じ形式のものが存在していたと考えられなくもないが、細分が今後の重要なポイントである。

当該遺跡に於いて「細隆線文土器」の具体的な様相を観察するに、

A　器形

深鉢形土器を主体にして、口縁部にバリエーションが見られる。胴部はほぼ差異は見られず、頸部で屈曲し、胴部に至って張り出すものである。

- 口縁部が内湾するもの（第5図9等）
- 口縁部が内湾し、4単位もしくは6単位の突起がつくもの（第2図3）
- 口縁部が一度緩やかに内湾し、直に開くもの（第28図12・13）
- 口縁部が緩やかに開くもの（第7図1）

B　文様構成

頸部を境として上下で文様構成が異なる。今次調査で該当する出土土器群は破片が多く、頸部以下の様相がわかるものは極めて少ない。よってここでは頸部以上の文様について分類する。

- 口縁部から頸部直上に横位の隆帯で区画した中に縦位の隆帯を貼付したものが基本になり、格子及び斜格子状に横位隆帯を貼付したもの（第4図15・17他）、同心円状に貼付したもの（第2図3）、蛇行隆帯を施文したもの（第2図11他）、斜状に貼付したもの（第3図17）、等がある。
- 口縁部から頸部直上に横位の隆帯で区画した中に縦位の隆帯を貼付したものが基本になり、その間を沈線にて充填するもの（第7図1他）がある。

これらの特徴を有する土器群の系譜は、形式に注目すれば平出Ⅲ類A式土器を祖形とする下伊那型櫛形文土器とほぼ同形で、胴部以下に施文される櫛形文も両者に共通である。しかし、粘土

紐を貼付する細隆線文は中期中葉末に出現する文様である。中期後葉に至ってもほぼ様相を変化させず存在する。しかし、敢えて細分すると、縦位隆帯間に沈線文を充填する土器群が注目される（第７図１他)。この沈線文は、隆帯が沈線化するという「手抜きの方向性」と考えれば、納得がいく。とすれば第10図18・19、第12図13～18といった土器群も細隆線文土器の系統と考えてもよさそうである。故に沈線を施文するものは編年的に隆帯施文より新しいと考えられ、細分（中葉末と後葉の分離）の糸口となるのではないかと思われる。

中期後葉の土器群については後葉Ⅱ期が主体となるが、所謂「下伊那タイプ」と呼ばれる土器群（第15図１、第19図８）や、東海系（中富式）土器（第15図４～８、第17図３、第19図６等)、加曽利Ｅ系土器（第11図23、第17図２・４等)、東海系と加曽利Ｅ系の折衷である第８図20がある。

他時期で注目される土器としては27号住居址出土土器（第29図13・14）がある。共伴土器より後葉Ⅳｂ期に位置付けられるものであるが、これらの土器群は加曽利ＥⅣ式土器とされるもので、磨消縄文を施す。当地方では結節縄文が主体で、加曽利ＥⅣ式系が出土することは極めて希である。

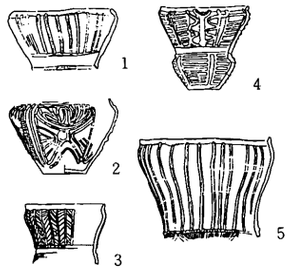
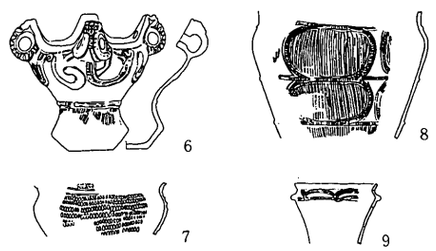
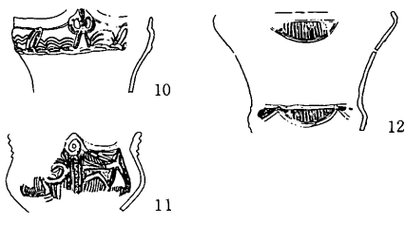
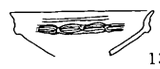
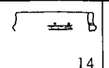
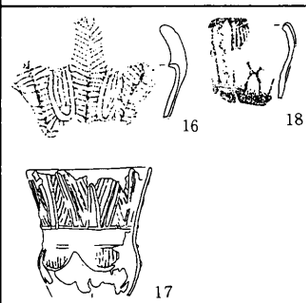
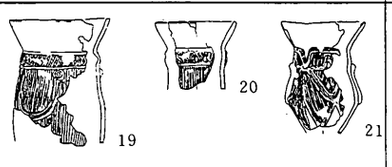
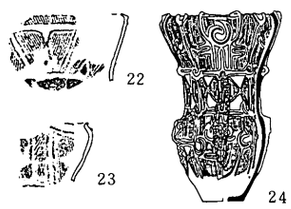
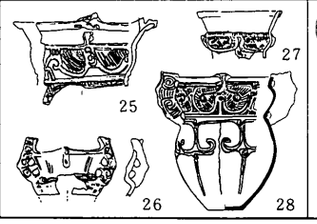
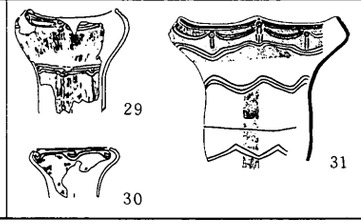
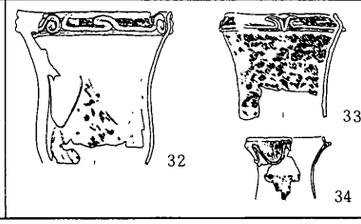
以上概要を述べてきたが、当地方の中期後葉土器群の特徴は、該期の土器群が余りにも他地域の土器の影響が強く、一定の時期のみに存在する土器群が多い。よって、土器群を小林達雄がいう「型式」を設定し、その中で編年・細分等の研究を進めていく必要があると考える。また、報告されている資料に於いて、住居址一括資料とされているものが果たして編年資料として耐え得るものかは大いに疑問が残るものが少なくない。故に今後の調査においては出土状況等十分に注意して行なう必要を痛感するものである。

２．中期後葉の集落について

増泉寺付近遺跡では、縄文時代中期後葉前半期を中心とした集落が広範囲に調査された。事業の計画提示から事業実施までの間が短期間であったため、遺構全体の把握に重点を置いた結果、遺構検出や新旧関係・埋没状況の詳細な検討等々不十分な点が多々あった。中期後葉の土器編年に細部で異論はあるが、主に、時期毎の遺構の変遷を概観して、集落のまとめとしたい（本遺跡出土の中期後葉土器群の位置づけについては、前項で詳細に分析しているが、遺構の所属時期区分については『長野県史』考古資料編　全一巻（四）遺構・遺物に拠る。）

１)竪穴住居址

Ⅰ期に属すと考えられる住居址（１～７・９・10・20・23・24・26号住居址）

<table>
<tr><td></td><td>細隆線文土器</td><td colspan="3">深　　鉢</td><td>深　鉢</td><td>有孔鍔付土器</td><td>釣手土器</td></tr>
<tr><td>中葉末</td><td>  </td><td>  </td><td>  </td><td>  </td><td>  </td><td> </td></tr>
<tr><td></td><td>細隆線文土器</td><td>曽利・梨久保Ｂ式型式</td><td colspan="5"></td></tr>
<tr><td>後葉Ⅰ期</td><td>  </td><td>  </td><td colspan="5"></td></tr>
<tr><td></td><td>細隆線文土器</td><td>「下伊那タイプ」型式</td><td>東海系型式</td><td>加曽利Ｅ型式</td><td>東海系・加曽利Ｅ系折衷</td><td></td></tr>
<tr><td>後葉Ⅱ期</td><td>  </td><td>  </td><td>  </td><td>  </td><td> </td><td></td></tr>
</table>

1～15　飯田市上郷垣外遺跡　30号住居址
16～23・25～27・29・30・32～35　増泉寺付近遺跡
24　飯田市上郷平畑遺跡　1号住居址
28　高森町増野新切遺跡　B9号住居址
31　飯田市前の原遺跡　17号住居址

挿図88　増泉寺付近遺跡他出土の縄文中期中葉末～後葉初頭の土器群

Ⅱ期に属すと考えられる住居址（８・14・15・16・17・19・22・29号住居址）
Ⅳ期に属すと考えられる住居址（27号住居址）
後期初頭に属すと考えられる住居址（21号住居址）

①形態・規模

調査区外にかかるもの、削平を受けたものがあるが、概ね円形ないしは不整円形を呈する住居址が多い。８・15・22号住居址は後述する「辻沢南型住居址」に類似する。

規模は概して中形が多く、７号住居址が大形の部類に属すると考えられる。

神村透は下伊那の中期後半の竪穴住居址について尺度の基準と作図法を指摘し、また、長谷川豊（1994）は主柱穴および炉の割り付けが共通の設計仕様に基づいて行なわれた事例をあげて唐草文土器分布圏では「辻沢南型住居址」と呼びうる類型（主に、奥壁を掘り残し、掘炬燵状石囲炉を持ち、隅丸方形を呈する住居址）が存在するとした。辻沢南遺跡の事例をもとに唐草文土器の消長と「辻沢南型住居址」の事例数の変化には密接な関係があり、また、諏訪地方でも八ケ岳西麓に同類型の分布の集中と唐草文土器の濃密な分布との関連を指摘している。「辻沢南型住居址」の盛行期については、長谷川が米田編年（1980）の第Ⅱ・Ⅲ段階としたように、下伊那および上伊那の駒ケ根市以南で同類型としてあげられた遺構についてみると、いずれも第Ⅱ段階以降に比定される住居址である。また、1992～93年に飯田市が調査した中村中平遺跡第３地点でも19軒の中期後葉の住居址のうち、33・35・37・38・45・48～50号住居址等がこの類型に属すると考えられる。第Ⅰ段階および第Ⅱ段階を主とする本遺跡では、ほとんど「辻沢南型住居址」はなく、15・22号住居址のほか、下原遺跡９号住居址と同様５本主柱穴をもつ８号住居址がこの類型に含められようか。

②主柱穴

重複遺構や未調査部分があり構成の不明なものが少なくないが、判明するものについては規則性は看取できない。８号住居址は掘り込みがしっかりしており、住居構造が定形化する段階に位置づけることができよう。

③炉址

炉石が抜き取られた住居址が多く、残存するのは６・12・17号住居址のみである。炉の形態には石組炉・石囲炉（いわゆる掘炬燵状石囲炉）・地床炉等がある。

石組炉……２～４・６・７・12～14・16・17・21・23・24・26～28号住居址
石囲炉……８・15・22号住居址
地床炉……11号住居址

石組炉には方形（２・７号）・長方形（３・４・17・27号）・円形（６・12・13・16・23・24・25・26・28号）・コ状（14号）がある。石囲炉はⅡ期に属し、辻沢南遺跡同様、炉石が全部ないし一部は抜かれている。また、増改築のなされた16号住居址は炉の一画に接して埋設土器があり、

副炉と考えられる。

④入り口

住居址が占地する位置は、東に下る尾根の南側斜面であり（挿図92）、主に傾斜の下側の南東に入り口が設けられる。また、冬季には、南西の風が卓越する土地であり、これを避けたとも考えられる。

⑤付属施設

Ⅰ期に属する6・9・23号住居址には、入り口から炉に向かって右側にいわゆる袋状の穴がある。

⑥増改築

7・16・23・24号住居址は、重複の著しい主柱穴、あるいは複数の周溝があり、増改築されたと考えられる。増改築に関しては、石井寛は横浜市西ノ谷貝塚6号住居址を例にして、「拡張」住居には埋土の状況から〈構築→居住→廃絶→半埋没→構築〉が繰り返されたとして、そこに移動があるとしている（1977）が、各住居址について、もともとの住居が増改築されるまでに居住期間の空白があるか否かは不明である。

⑦遺物出土

4・7・8・14・17・19・22・23号住居址は出土土器の量が多く、また、4・6・17・19・23・26号住居址は石器の量が多い。このうち、4・19号住居址はいわゆる吹上パターンによる廃棄の状況を示し、19号住居址は特に礫が多く混っている。中期前半～晩期にかけての石器組成は打製石斧・横刃型石器の占める割合が高い（『下伊那史』）とされ、こうした傾向は本遺跡でも窺えるが、神村透（1984）が指摘するような打製石器類を多量に保有する住居址はない。

⑧祭祀的遺物等

22号住居址は、石皿が炉奥壁際周溝上外向き立位に埋められて出土し、その外側に支える石があった。22号住居址をはじめ、4・8・14・19号住居址からは土偶（有脚尻張り立像土偶）が出土している。このうち4・19号住居址は先述のとおりいわゆる吹上パターンを示し、住居に伴わない可能性がある。そうした点から有脚尻張り立像土偶の出現時期はⅡ期以降と考えられる。その他、19号住居址からは小型土器が出土している。

⑨その他

11号住居址では、北東壁際に多量の炭化材が検出されている。棚畑遺跡117・124号住居址覆土中に認められる多量の焼土について、鵜飼幸雄（1990）は住居として廃棄したあとに火を焚く行為があったと想定するが、これに対し、村田文夫（1992）は、各家屋から掻き出された焼土の一括廃棄と考えている。11号住居址の場合も、掘り込み等を伴わないことや、一般的に竪穴住居址壁際に第一次埋没土としてみられる埋没状況と近似して検出されたことから後者の可能性を考えたい。

下伊那地方の中期後葉の様相について、神村透（1984）は、「①下伊那系土器が発達する。②

土器の中で特別な器種として吊手土器が発達する。③土偶が地域的な特色をもって製作される（有脚尻張り立像土偶）。④打製石器の多量化が著しい。⑤住居の柱、炉の配置が規則的で、特に炉が重要な位置をしめ、入口－炉－奥（祭壇）という軸線が明確になる。⑥住居内に石棒・石柱・祭壇・埋甕・伏甕という宗教的なものが持ち込まれ、屋内祭祀の傾向がうかがわれる。」と整理した。本遺跡の場合、こうした様相すべてについて言及する材料はない。ただ、個々の様相の出現に時間差がみられること、中期後葉の始まりをどこに置くか必ずしも見解が一致しないが、『長野県史』や米田編年に照らしてこれら様相の出現しはじめる時期がⅡ期以降であることは指摘できよう。中期の時期区分について、神村透は土器だけでなくこのような文化の変容により大別すべきで、こうした点から「いわゆる井戸尻編年の曽利Ⅰ期の位置づけが、下伊那で見る限り前半終末に位置づけるのがよい」（同前）と主張しているが、肯首しがたい。

2）方形柱穴列

現在では、柱痕が確認された事例があることから、掘立柱建物址と認識されているが、調査時に方形柱穴列としており、そのまま使用する。2棟が検出された方形柱穴列は、24・29号住居址と重複しており、また、柱穴内から後期初頭の土器が出土していることから、竪穴住居址群より時期が新しいと考えられる。内部からの床・焼土の検出および遺物出土はない。さらに方形柱穴列1P1・2・5・6および方形柱穴列2P2～4では、いずれも10～30㎝大の礫が柱穴下部を中心に検出されており、根固めと考えられる。近年、掘立柱建物址について、掘立柱建物址は夏家、竪穴住居址は冬家という季節的な住み替えが議論されている。櫛原功一（1994）は竪穴住居址の「第一次堆積層」や焼失家屋から土葺き屋根の可能性を指摘して季節的住み替えを考えているが、掘立柱建物址と竪穴住居址の数量のアンバランスについて説得力のある説明はない。

14棟の方形柱穴列が調査された茅野市棚畑遺跡では、一部後期と考えられるものがあり、集石遺構や遺物の分布から、主に後期以降に属すると考えられている。しかし、村田文夫（1992）は、①竪穴住居址の主柱穴の配置は方形柱穴列に共通する特徴がある、②第29号住居址と重複する第5号方形柱穴列を除いて、方形柱穴列の構築される位置が居住域と墓域との緩衝帯である点で共通する、③南関東西部の中期集落では、方形柱穴列は竪穴住居遺構や墓壙等と時間的に雁行しあうものと理解されている、の諸点をあげ、その所属時期に疑問を提示している。しかし、諏訪郡原村阿久遺跡や茅野市阿久尻遺跡等の前期にさかのぼる遺跡から晩期の群馬県月夜野町矢瀬遺跡等まで、前期から晩期を通じて縄文時代の主要な遺構のひとつであったことから、中期という時期や居住域・方形柱穴列群・墓域という環状構造に拘泥する必要はないであろう。鵜飼幸雄（1990）は、棚畑遺跡南側に位置する方形柱穴列群について、後期Ⅱ～Ⅴ期の粗製土器の出土量が多いことから、この場所で煮炊きや食事が行なわれたことを指摘しており、また、集石の囲りに分布する焼土址や焼土を伴う土壙の分布から、祭祀的な場へ変要したとしている。後述の埋設土器や集石土坑との関連で注目される。

3)埋設土器

埋設土器1は、土坑173～176とともに同心円上に並んでおり、住居址の埋甕の可能性がある。

祭祀的な要素を示すものとして、埋設土器2がある。三重の入れ子状になった土器の内部に礫(花崗岩)が据えられており、焼土を伴う。土器は少なくとも3個体以上と考えられ、二次焼成の痕跡が顕著である。同様の例は、殿原遺跡(飯田市教委　1987)埋設土器1や下伊那郡松川町前田遺跡・飯田市正永寺原遺跡(未報告)など配石・土坑を伴うことが知られており、祭祀的な性格を有するものと考えられている。

4)集石土坑

集石土坑1・2は形態等から墓壙と考えることができようか。また、被熱破砕礫を伴ういわゆる集石土坑について、勅使河原彰(1992)は、共同調理の場として「集落の全成員の結集力を高めるために、特別な獲物を獲得したときや祭礼の際などに臨時的に使われた施設」であるとしており、本遺跡集石土坑3もこうした共同調理場と考えられる。

5)土坑・小柱穴群

竪穴住居址の分布域の北側には土坑・小柱穴群がある。一見環状を呈するように看取できる部分もあるが、土坑・小柱穴の分布の稀薄な部分は田地の造成により大きく削平を受けていることから、弧状に連続する分布状況が考えられる。すでに八木充則(1976)は伊那谷では小竪穴(土坑)集中区が住居域の内側にあまり距離を隔てず分布する(必ずしも環状ではない)ことを指摘している。全国的には、大規模な環状集落の調査が進むにつれ、中央が広場になるものの他に、人骨の遺存は確認できないものの明確に墓壙と判断される事例が知られるようになってきた。例えば、岩手県西田遺跡では環状集落の中央に求心的に配置された船底状の墓壙が調査されたなど、居住域の内側に墓域が伴う例がある(『中央墓壙型』新津健　1994)。本遺跡の土坑・小柱穴群の場合、形態や規模・主軸方向等から墓壙と考えられる土坑・小柱穴群はないが、先述の集石土坑1・2が墓壙と考えられようか。

6)遺構分布の変遷(挿図89～91)

時期毎の遺構分布について見ると、Ⅰ期でも古いと考えられる住居址は、1～7・20・23・26号住居址の10棟があり、5棟ずつ2群に分かれる。すなわち、南側の弧に位置する1～4・20号住居址および北側の弧に位置する5～7・23・26号住居址である。現在のところ、南北2群は同時併存と考えており、両者の間に比較的疎な遺構分布が認められることから、この部分がムラの中の道にあたる可能性もあろう。つづいて、Ⅰ期の新しい部分として、Ⅰ期古の2群の弧の中間に位置する9・24号住居址が考えられる。さらにⅡ期については、土器編年は細分されていないが、15・16号住居址が近接し、また17・21号住居址が重複することから遺構の面からは時間差が指摘される。Ⅱ期の古い段階として14・16・22号住居址、新しい段階として8・15・17・19号住居址の弧状の分布が考えられ、Ⅱ期(古)からⅡ期(新)への変化として弧が外側に広がることが指摘できる。住居址の空白期であるⅢ期をはさんで、再びⅣ期に集落が営まれるようになり、

後期初頭には21号住居址・方形柱穴列１・２と弧が北西側に移動している。

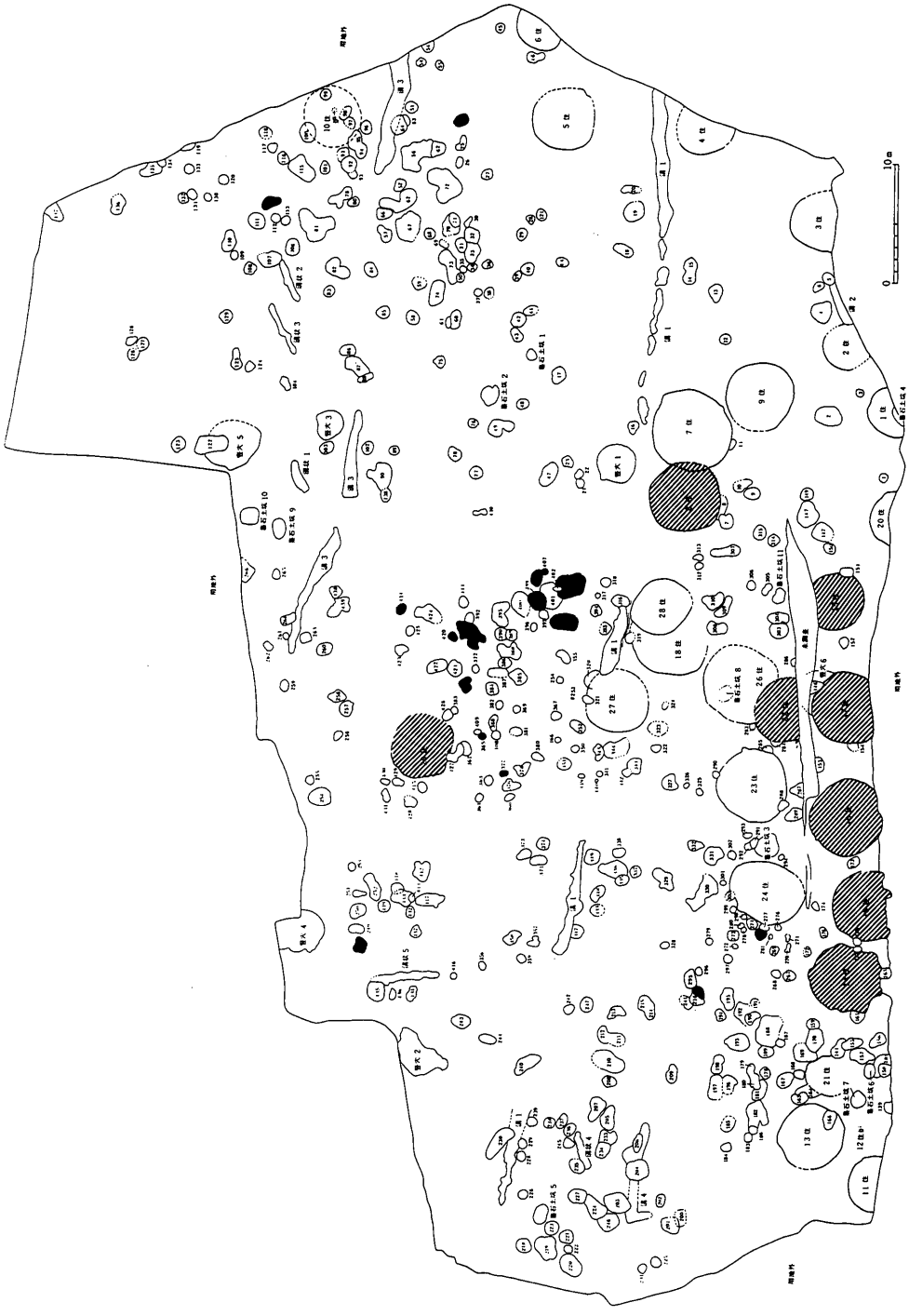
縄文時代観として、「縄文時代社会に入って、『遊動から定住』へと変化を遂げたとする立場は、（中略）『定住』の実態をどう理解するかといった点に見解の相違はあるものの概ね共通するもの」（山本暉久1994）がある。そして典型的な縄文時代集落として、環状あるいは馬蹄形を呈すること（和島誠一　1948他）があげられてきた。すでに、長崎元広（1980）や林謙作（1994～95）が集落研究について整理しているが、集落研究をめぐる現況は、こうした伝統的な縄文集落の『見なおし論』－環状集落はあくまで結果的な姿であって本来は小規模な集落であったものが単に累積した結果にすぎないとする考え方－（林　同前）と、これに対する反論とが錯綜する状況にあるといえる。前者の代表は港北ニュータウンの遺跡群の分析を行なった石井寛であり、「縄紋時代の集落は『定住的』ではなく、土器一型式でしめされる期間のうちにも、何回か移動をくり返していた。いわゆる『大集落』は、いくつもの土器型式にまたがる長い期間、転入・転出をくり返した結果にすぎない。」（林　同前）とする立場である。後者は、集落形成の最初から空間規制が存在しなければ、結果として環状にはならないとするもので、鈴木保彦（1984）や山本暉久（1995）等がある。三内丸山（２）遺跡で、従来縄文時代集落の典型とされた環状集落とは異なる構造の大規模集落があることが明らかにされつつある一方で、茅野市棚畑遺跡・塩尻市俎原遺跡・駒ケ根市辻沢南遺跡といったいわゆる双環状集落の存在や、栃木県寺野東遺跡の環状盛土遺構にみられるその形成当初からの環状構造の意識（山本暉久　1994）からすれば、単なる結果にすぎないとするには疑問を抱かざるを得ない。

本遺跡の住居址分布とよく似た配置をとる諏訪郡富士見町大畑遺跡の３～９号住居址例についての石井寛の分析（1977）は、曽利Ⅱ式期の３号住居址からⅢ式期への４・７・９号住居址の増加に関して、同時存在の住居址の増加でなく、一軒の住居の移動の軌跡と考えている。本遺跡の場合、住居址の埋没過程をはじめ柱穴埋土等の細かな観察、遺物の出土位置・層位の記録、遺構間の遺物接合等の作業は行なっておらず、同時存在か住居一軒の移動の結果かを判断する材料はない。現状では、Ⅰ期に比定される住居址の軒数から、消極的に前者の立場をとる。Ⅰ期の南北２群は、集落の全容が把握されていない現状では、その構成が環状（二重環状）か双環状かはたまた弧状か明らかでなく暴論の謗りを免れないが、２群が対となって二重の弧を形成した可能性もある。そうした点でこれに関連して、集落における対立する二者の存在（『二項対立の原理』）を指摘した小林達雄（1988・1993）の見解は注目される。

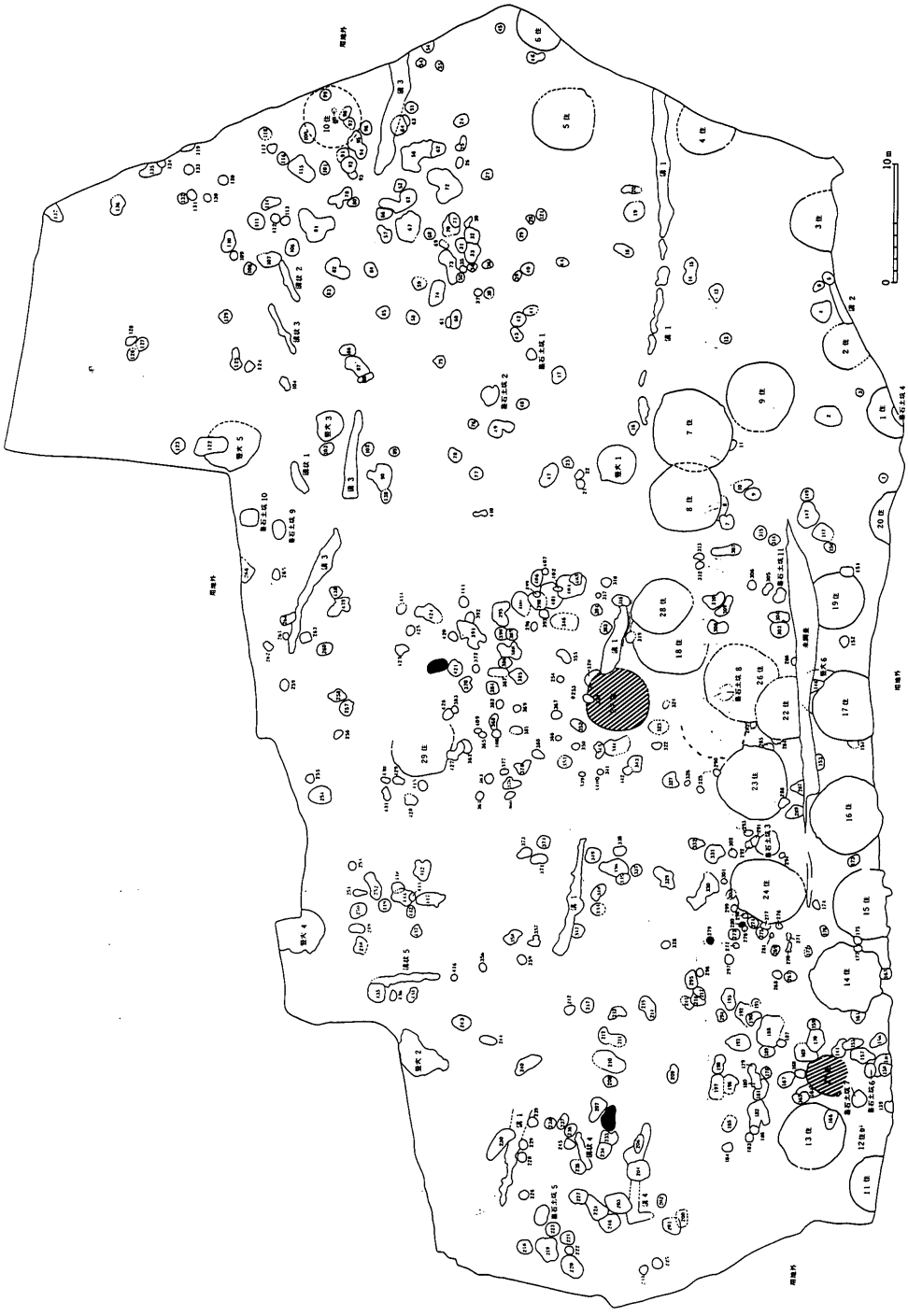
集落の構成が環状でなく二重の弧であるとすれば、そこにはどのような規制が働いたのであろうか。伊那谷の縄文中期の集落の立地について八木充則（1976）は、「中位段丘扇状地の特に長尾根状、舌状となっている部分の先端に限られる。」ことを指摘し、「東西を長軸とする楕円形集落が、伊那谷の中期集落の特徴と考えられる」としている。殊に、小規模な尾根状部に位置する本遺跡の場合、こうした地形的な制約に大きく左右されていると考えられる。

最後に、本遺跡と同一の事業地内に位置する三尋石遺跡の調査結果（飯田市教委　1996）を踏まえて、中期集落について概観したい。三尋石遺跡は、新川を挟んで本遺跡の対岸に位置し、同じく中期後葉Ⅰ・Ⅱ期の住居址が調査されている。調査は本遺跡よりさらに断片的であるが、本遺跡での細分時期と対照した場合、1棟（多くても2～3棟）で構成されており、勅使河原彰（1992）の『前沢類型』に相当する。本遺跡と三尋石遺跡とが同時存在であるかそれとも2遺跡間に移動があったとするか見解の分かれるところであろう。いずれにしても、勅使河原彰が八ケ岳山麓西南麓の遺跡群の分析から、「縄文集落は、一つの集落ですべての生産と消費が完結していたわけではなく、複数の集落が血縁関係だけでなく、地縁関係でも結ばれながら生産と消費関係を組織していたとすれば、定型的な集落形態をとる大規模な拠点集落と小規模な集落が結びついて一つの地域共同体を構成しており、共同の契機によっては大規模な拠点集落がさらに小規模な集落に分れることもあると考える方が、縄文集落は大規模か、小規模かといった二者択一的な理解よりも、より実態に近いものといえる。」（1994）と指摘するような関係が浮かび上がってくるように思われる。おそらくその中には「資源の消費を適正な規模に抑えるために、きわめて有効な手段」としてかなり頻繁な集落の移動（林謙作　1994～95）が行なわれていたと考えられ、縄文集落あるいは『村落』（林　1979）の動態を把握するうえで周辺遺跡の実態解明が不可欠である。本遺跡周辺における文化財保護の本旨に則った不断の努力こそ、本遺跡の姿を正しく理解し、本調査の成果を生かす方途であろう。

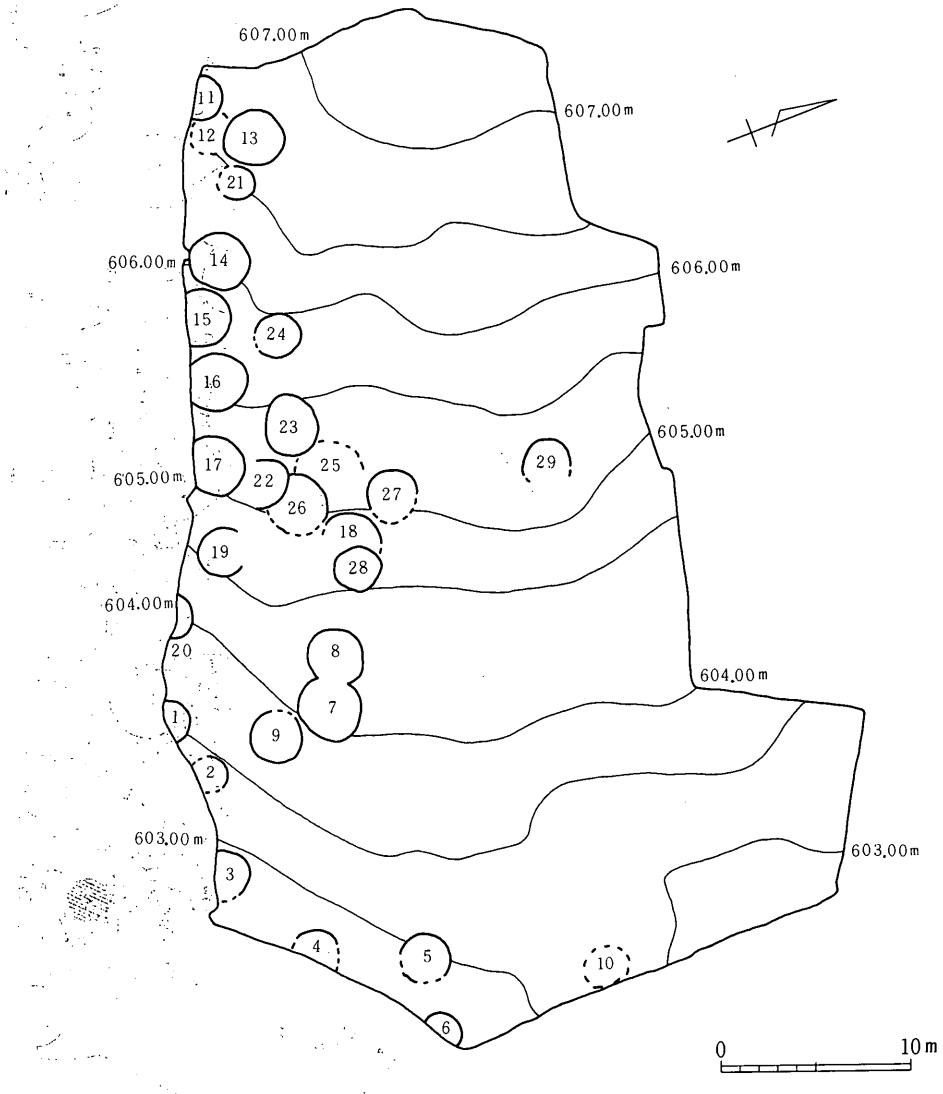
挿図89　遺構変遷図（中期後葉Ⅰ期）



挿図90　遺構変遷図（中期後葉Ⅱ期）



挿図91　遺構変遷図（中期後葉Ⅳ期）



挿図92　竪穴住居址占地位置図

《引用・参考文献》

飯田市教育委員会　1977　『伊賀良中島平』
飯田市教育委員会　1978　『伊賀良宮ノ先』
飯田市教育委員会　1980　『猿小場遺跡』
飯田市教育委員会　1983　『酒屋前遺跡』
飯田市教育委員会　1983　『鳥屋平』
飯田市教育委員会　1987　『飯田垣外・火振原・梅ケ久保遺跡』
飯田市教育委員会　1987　『殿原遺跡』
飯田市教育委員会　1988　『田井座遺跡』
飯田市教育委員会　1988　『小垣外・八幡面遺跡』
飯田市教育委員会　1989　『下原遺跡』
飯田市教育委員会　1989　『高野遺跡』
飯田市教育委員会　1990　『細田北遺跡』
飯田市教育委員会　1991　『田井座遺跡・一色遺跡・名古熊下遺跡』
飯田市教育委員会　1991　『田井座遺跡』
飯田市教育委員会　1991　『大原遺跡』
飯田市教育委員会　1991　『公文所前遺跡』
飯田市教育委員会　1991　『直刀原遺跡』
飯田市教育委員会　1991　『樋明古墳』
飯田市教育委員会　1992　『殿原遺跡』
飯田市教育委員会　1994　『中村中平遺跡』
駒ケ根市教育委員会　1988　『辻沢南遺跡』
下伊那史編纂委員会　1955　『下伊那史　第２巻』
下伊那史編纂委員会　1955　『下伊那史　第３巻』
下伊那史編纂委員会　1967　『下伊那史　第５巻』
下伊那史編纂委員会　1991　『下伊那史　第１巻』
下伊那教育会編　1985　『親と子の下伊那史』
中央道遺跡調査会　1972　『中央道調査報告　－飯□地区その２－』
中央道遺跡調査会　1973　『中央道調査報告　－飯田地区－　昭和45年度』
長野県史刊行会　1983　『長野県史　考古資料編　主要遺跡（中・南信）』
長野県史刊行会　1986　『長野県史　通史編　第２巻　中世１』
長野県史刊行会　1987　『長野県史　通史編　第３巻　中世２』
長野県史刊行会　1988　『長野県史　考古資料編　遺構・遺物』

長野県史刊行会　1989　『長野県史　通史編　第１巻　原始・古代』
石井　寛　1977　「縄文社会における集団移動と地域組織」『港北ニュータウン埋蔵文化財調査団調査研究集録第２冊』
鵜飼幸雄　1990　『棚畑－八ケ岳西山麓における縄文時代中期の集落遺跡－』
神村　透　1968・69　「立野式土器の編年的位置について(１)～(７)」『信濃』20巻10号～21巻７号
神村　透　1982　「立野式土器の編年的位置について（完）」『信濃』34巻２号
神村　透　1984　「下伊那性を示す有脚尻張り立像土偶」『中部高地の考古学Ⅲ』
櫛原功一　1994　「縄文中期の環状集落と居住形態」『山梨考古学論集Ⅲ』
小林達雄　1986　「原始集落」『岩波講座・日本考古学』４
小林達雄　1988　「二項対立の世界観」『古代史復元３　縄文人の道具』
小林達雄　1993　「縄文集団における二者の対立と合一性」『論苑考古学』
鈴木保彦　1984　「集落の構成」『季刊考古学』７
筒井泰蔵　1973　『伊賀良村史』
勅使河原彰　1992　「縄文時代の社会構成（上)・(下）」『考古学雑誌』第78巻第１・２号
勅使河原彰　1994　「集落論」『縄文時代研究事典』
戸沢充則　1988　「２縄文時代の住居と集落」『長野県史』考古資料編　全１巻(４）遺構・遺物
長崎元広　1973　「八ケ岳西南麓の縄文中期集落における共同祭式のあり方とその意義」『信濃』25-４・５
長崎元広　1976　「石棒祭祀と集団構成」『季刊どるめん』８
長崎元広　1980　「縄文集落研究の系譜と展望」『駿台史学』50
新津　健　1994　「縄文集落と道」『山梨考古学論集』Ⅲ
丹羽佑一　1987　「集落」『季刊考古学』21
丹羽佑一　1993a　「縄文集落の住居配置はなぜ円いのか」『論苑考古学』
丹羽佑一　1993b　「集落論」『季刊考古学』44
長谷川豊　1994　「唐草文土器分布圏における竪穴住居址の一類型」『地域と考古学』向坂鋼二先生還暦記念論集
林　謙作　1979　「縄文時代の集落と領域」『日本考古学を学ぶ』(３）原始・古代の社会
林　謙作　1984　「縄文の集落」『季刊考古学』７
林　謙作　1994～95　「縄紋時代史　縄紋人の集落（１）～（７)」『季刊考古学』47～53
伴　信夫・宮沢恒之　1967　「長野県飯田市伊賀良西ノ原遺跡調査報告」『信濃』19巻12号
松島　透　1957　「長野県立野遺跡の捺型文土器」『石器時代』４
水野正好　1969　「縄文時代集落研究への基礎的操作」『古代文化』21-３・４

宮坂光昭　1971　「茅野和田遺跡における縄文中期集落の分析」『長野県考古学会誌』11
村田文夫　1992　「長野県棚畑遺跡縄文ムラの語り－中期集落理解にむけての断想－」
八木充則　1976　「縄文中期集落の素描（１）－信濃伊那谷における集落共同体をめぐって－」『長野県考古学会誌』25
八木充則　1976　「縄文中期集落の素描（２）－信濃伊那谷における集落共同体をめぐって－」『長野県考古学会誌』26
山本暉久　1994　「集落・領域論」『縄文時代』５
山本暉久　1995　「縄文時代集落の諸問題」『日本考古学協会1995年度大会研究発表要旨』
和島誠一　1948　「原始聚落の構成」『日本歴史講座』

V 付　編

長野県飯田市増泉寺付近遺跡出土石匙の使用痕分析

御堂島　正

1．はじめに

長野県飯田市伊賀良に所在する増泉寺付近遺跡土坑200から出土した石匙1点の使用痕分析を行ったところ、以下のような結果を得たので報告する。石匙は、赤色のチャート製で、土坑の覆土から出土した。土坑からは他に出土遺物がなく、確実な時期の推定はできないが、縄文時代中期後半に属すると考えられている。

2．方　法

使用痕分析の方法は、基本的にキーリーに始まる高倍率方（Keeley ,1980）によるもので、筆者が行った約600の使用実験に基礎をおいている（御堂島, 1982・1986・1988・1991）。微小剥離痕・線状痕・使用痕光沢（ポリッシュ）のあり方を中心に、落射照明付金属顕微鏡を用いて100・200倍で観察しその結果をもとに使用に関する推定を行う。

石器はすでにブラシで水洗されていたものである。使用痕分析に際して、観察に支障となる付着物は見られなかったので、エタノールを浸した脱脂綿で手の脂などを除去した以外に試薬を用いた洗浄は行わなかった。

3．観察結果

分析した石器は全面に二次加工が施されているため、使用による微小剥離痕の識別は困難であった。そこで、ここでは線状痕と使用痕光沢を中心に観察を行った。自然現象によると考えられる石器の表面変化は少なく、使用痕観察に支障となるものではなかった。

使用痕光沢は、石器のほぼ全面に形成されており、その発達程度によって「強」、「弱」に区分し、分布図を作成した（図1）。「強」としたのは、Aタイプに分類される、不整形の小ピットや線状痕を伴う、全体に滑らかな光沢面と、Aタイプほど滑らかではないが、凸部を中心に丸みを

もって形成されるBタイプである。「強」は、大部分肉眼でも確認でき、広範囲に分布する。「弱」には、より未発達のHタイプが含まれる。

「強」の使用痕光沢は、石器の体部中央付近に分布していた。特に剥離痕の縁辺やリングなどの凸部に発達し、全体に石器の長軸方向に丸みをもっている。光沢は、凸部から凹部にかけて広がっているが剥離痕の末端部やリング間など窪みの強い部分では未発達であった。

光沢がみられなかったのは、両側からの抉入によってつまみが作り出されている部分で、体部側の凸部に弱い光沢が観察された以外には検出されなかった。強度の光沢面の分布と対比してみると、図1に破線a・bで示したような位置で発達した光沢分布域と未発達域が大まかに区分される。

また、図1にc・dとして▲で示した箇所の刃部の剥離痕には光沢がみられないか、未発達であった。

線状痕は光沢面の表面に形成されているのが観察された。石器の各部分に観察される線状痕の主な方向を図1に矢印で示した。それによれば、方向が異なるものが若干あるが、全体としてほぼ石器の長軸方向（図の天地方向）に向いているということができる。

4．機能の推定

以上の観察から、石器の機能（使用部位・操作法・作業対象物）は次のように推定される。

使用部位は、使用痕の分布から、つまみ部分を除く体部の全体と考えられる。次に述べる操作法からみて、両側のエッジが主要な機能部と考えられるが、使用痕の分布状態（両側縁c・dには使用痕光沢が未発達）と整合的ではない。この点については後述する。

操作法は、線状痕の方向が石器の長軸方向（図の天地方向）を向いていること、使用痕光沢が線状痕とほぼ同じ方向に丸みをもっていることから、石器の長軸方向に動かして対象物を切るという操作に用いられたと推定される。

作業対象物については、Aタイプの使用痕光沢が認められたことから、珪酸分に富んだイネ科植物が含まれていたと推定される。しかし、Bタイプの使用痕光沢も広い範囲に分布している。Bタイプは、Aタイプが発達する前段階にも現れるが、木・竹などの木本類、イネ科など珪酸分に富む植物を除いた草本類でも生じる（御堂島　1986）。木本類植物の使用痕は、刃部の比較的狭い範囲に限定されることが多く、草本類ほど広範囲に分布しない。その点でひとまず対象物から除外することができるが、イネ科植物以外の草本については、対象物であった可能性がある。したがって、ここではイネ科を含む草本植物が主な作業対象物であったと推定しておきたい。ただし、それ以外の物質に対して、まったく使用されなかったということはできない。

ところで、石器をその長軸方向に動かして草本植物を「切る」という作業からみると、石器の

両側縁が主要な機能部と考えられ、発達した使用痕の存在が期待される。ところが、この部分（図１ｃ・ｄ）には使用痕光沢の発達が顕著ではなく、背腹両面とも剥離痕の単位で使用痕がみられないか不明瞭という状態であった。このことは、刃部の再生という点から次のように説明できる。すなわち、刃部の再生によってこの部分の使用痕が除去された結果、剥離痕単位で使用痕が未発達となり、逆に体部中央付近では再生されることがなかったため、使用痕の蓄積が進行して、「強」の使用痕が観察されることになったと考えられる。

また、図１ａ・ｂを大まかな境界として、つまみ部側に使用痕光沢が未発達なのは、この部分が対象物とほとんど、あるいはまったく接触しなかったことを示している。すなわち、着柄あるいは手で握られた部分と考えられる。つまみ部が着柄のためのものか、携帯用にひもなどを巻きつけたものなのかは、今回の観察から俄かに判断することはできない。しかし、仮に着柄されたとすれば、境界ａ・ｂは、石器に対する柄の方向を表していると考えられる。

また、境界ａ・ｂが内弯する縁辺の抉入部近くから体部中央寄りに斜に伸びていることと「切る」という操作からみると、内弯する側が主な機能部であったと推定される。

５．ま と め

縄文時代中期後半と考えられている石匙１点の使用痕分析を行ったところ、主要な使用部位は、内弯する縁辺で、主にイネ科植物を含む草本植物を切るという作業に用いられたと推定された。また、体部は使用痕の発達が顕著なのに対して、刃部に未発達なのは刃部再生の結果と考えられた。同様な分析結果は東北地方の石匙の一部においても得られている。（梶原　1982）。

なお、作業対象物について、イネ科植物以外にはまったく用いられなかったということではないが、イネ科植物が主要な対象物であったことはかなり可能性が高い。しかし、イネ科植物のなかの何かは不明であり、この点についてはプラントオパール分析など別の分析法を併用することによって明らかにできる可能性がある。

（1994年３月15日）

引用文献

梶　原　洋　1982「石匙の使用痕分析－仙台市三神峯遺跡出土資料を使って－東北大学使用痕研究チームによる研究報告№３」考古学雑誌68(２)：43-81.

御堂島　正　1982「エッジ・ダメージの形成に関する実験的研究－変数としての刃角－」中部高地の考古学Ⅱ：66-98.

御堂島　正　1986「黒曜石製石器の使用痕－ポリッシュに関する実験的研究－」神奈川考古22：51-77.

御堂島　正　1988「使用痕と石材－チャート・サヌカイト・凝灰岩に形成されるポリッシュー」考古学雑誌74(２):. 1 -28.

御堂島　正　1991「石鏃と有舌尖頭器の衝撃剥離」古代92 : 79-97.

Keeley,L.H. 1980 Experimental Determination of Stone Tool Uses : A Micro Wear Analysis. The University of Chicago Press.

御堂島　正　　神奈川県立埋蔵文化財センター・㈶かながわ考古学財団

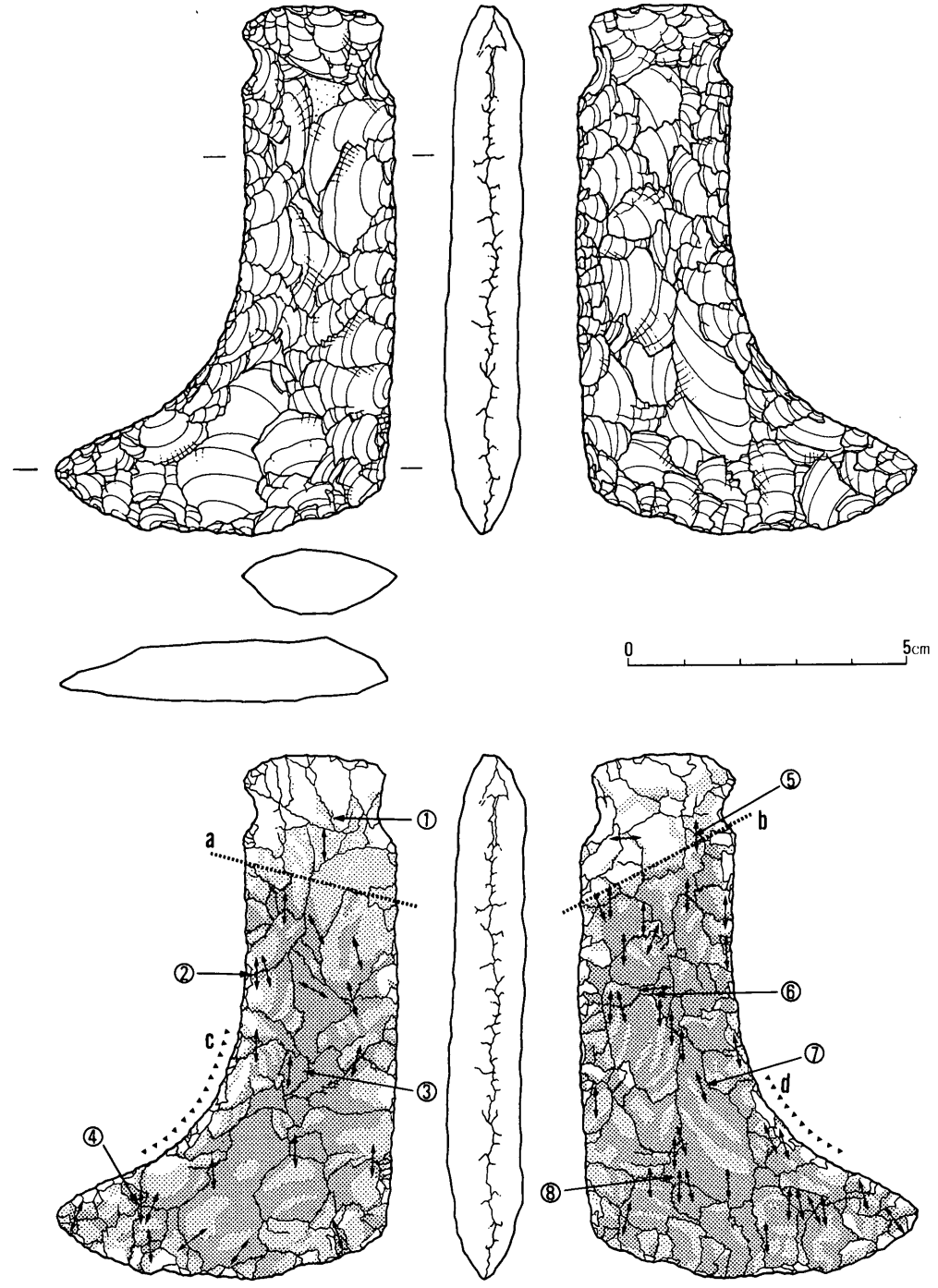
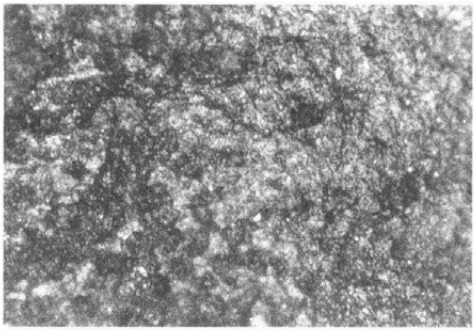
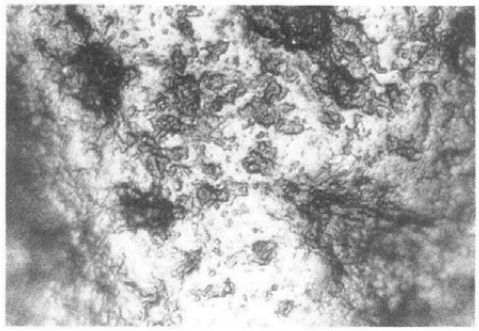


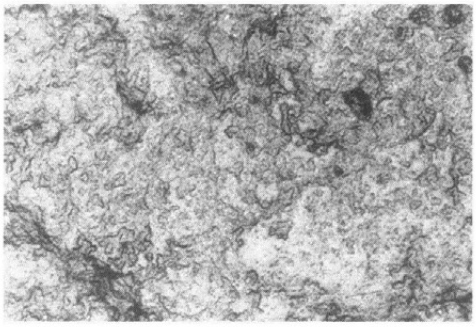
図1　石器と使用痕の分布（①～⑧は掲載写真撮影箇所）



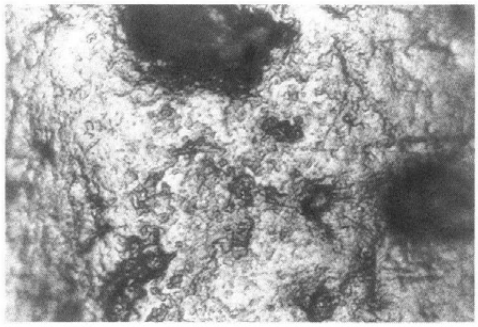
①



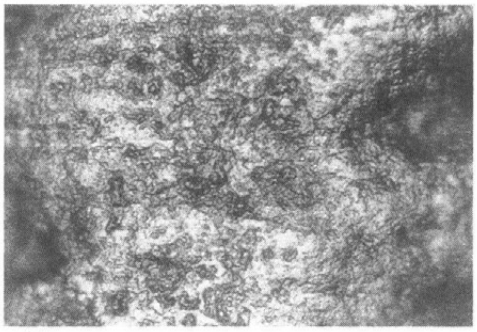
②



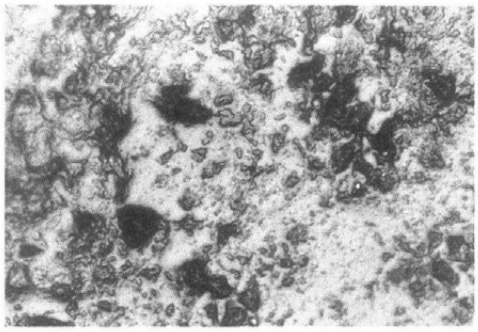
③



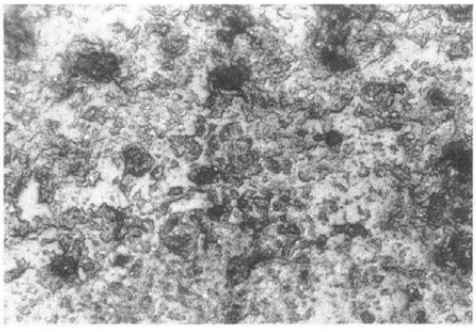
④



⑤



⑥



⑦

⑧

写真１　石器の顕微鏡写真

報告書抄録

ふりがな	ぞうせんじふきんいせき
書名	増泉寺付近遺跡
副書名	土地改良総合整備事業（大瀬木東地区） に先立つ埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	馬場保之・吉川金利
編集機関	長野県飯田市教育委員会
所在地	〒395 長野県飯田市上郷飯沼3145番地　TEL0265-53-4545
発行年月日	西暦1996年3月　日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
ぞうせんじふきん 増泉寺付近	いいだし おおせぎ 飯田市大瀬木 3636他	2053		35° 29′ 30″	137° 47′ 10″	平成3年 10月21日～ 平成4年 2月25日	5,340㎡	圃場整備

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
増泉寺付近	集落址	縄文時代 前期 ～ 後期	竪穴住居址　29軒 方形柱穴列　2棟 土坑　429基 溝址　4条 溝状址　5条 竪穴　5基 集石土坑　12基 埋設土器　3基	縄文時代 土器 石器 土隅	中期後葉を中心とする集落を面的に調査。 また、中期後葉前半の良好な土器群が出土。

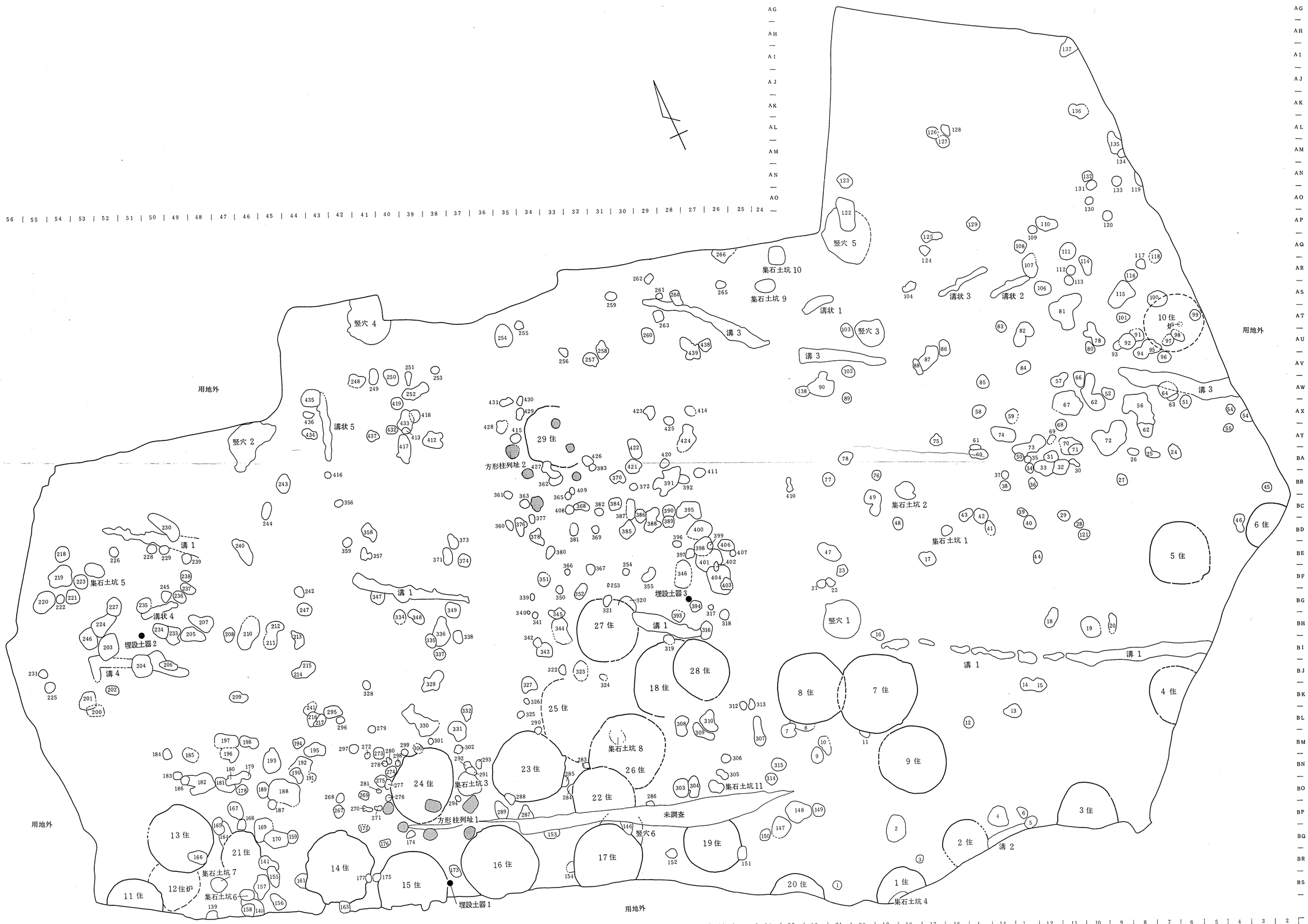
増泉寺付近遺跡

土地改良総合整備事業に先立つ
埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書
－ 本文・遺構編 －

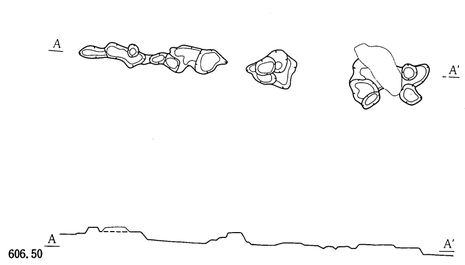
1996年3月　発行

編集・発行　長野県飯田市上郷飯沼3145
長野県飯田市教育委員会

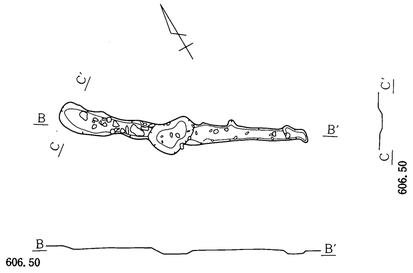
印　　刷　龍共印刷株式会社



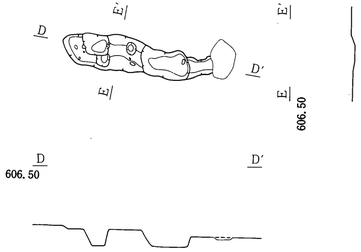
付図1　増泉寺付近遺跡遺構全体図



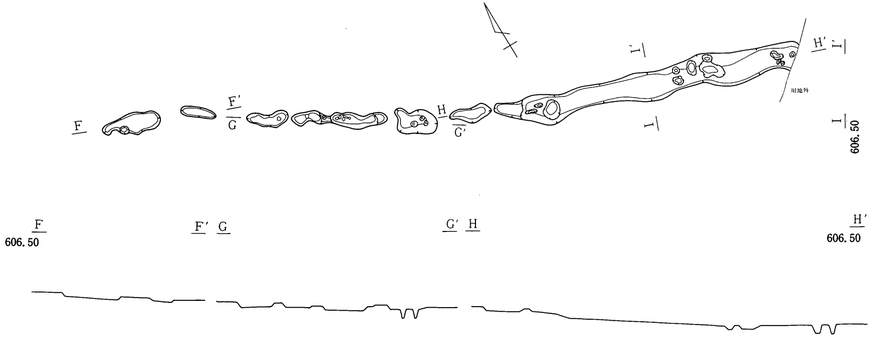
溝址 1



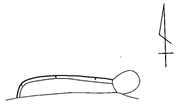
溝址 1



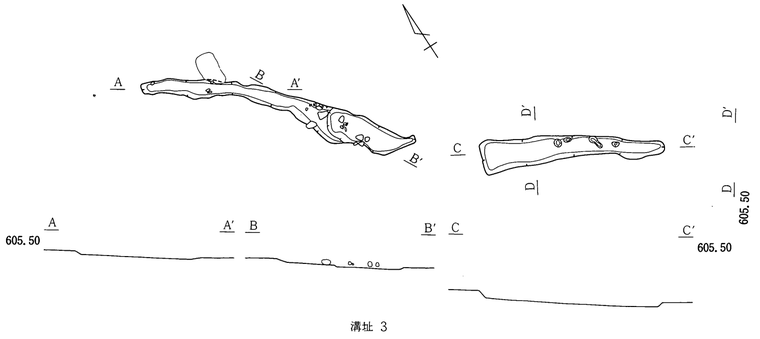
溝址 1



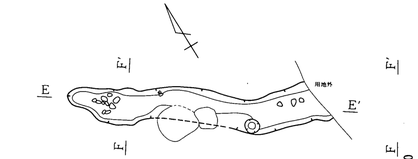
溝址 1



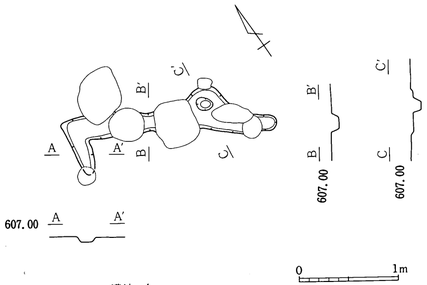
溝址 2



溝址 3



溝址 3



溝址 4

付図2　溝址1～4